右監守盜被告事件ニ明治三十二年十二月十六日東京控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告濤作ヲ輕懲役六年ニ處ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トス押收ノ書類ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲシ爲タリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理　由

上告趣意書第一點ハ被告ハ姓名不詳ノ婦人ヨリ爲替券ヲ受付ケ同人依賴ニ應シ慣例ニ依リ風間サクトノ姓名ヲ代書シ之ヲ局長加藤義盾ニ渡シ局長カ自ラ爲替金ヲ支拂ヒタルモノナルコトヲ主張シ爲替券ノ風間サクナル姓名ハ之ヲ受付後被告カ代筆シタルモノナルヤ又ハ既ニ姓名記入ノ證書ヲ持參シタルモノナルヤハ犯罪行爲ヲ認定スルニ付テ緊要ナル爭點ナリ而シテ此點ニ對シテノ被告ハ受付後持參人ノ依賴ニ依リ代書シタルコトヲ主張シ證人加藤義盾ノ證言ヲ引用シ一面ニハ池田喜三太ノ證言ヲ引用シ被告ノ主張ヲ排斥シナカラ其理由ヲ付セサルハ不法ナリト云ヒ其第二點ハ原判決ハ認定シタル事實ヲ證スル爲ニ便利ナル證言ノミヲ列擧シテ被告人ニ利益ナル證言ニ對シテハ何等ノ說明ヲモナサス之ヲ排斥シタリ抑改正刑事訴訟法第二百三條ノ趣意ハ犯罪ト認ムヘキ證言及被告ノ主張又ハ證言ノ採用スヘカラサル理由ヲモ進ンテ說明スルニアラサレハ所謂證據ニ依リ認メタル理由ヲ明示シタルモノト云フヲ得ス之レ原判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ其擧示シタル諸般ノ證憑ニ依リ犯罪事實ヲ認メタル理由ヲ明示シタル已上ハ被告ノ主張及排斥シタル證據等ニ對シ一々理由ヲ附セサルモ不法ト云フヲ得ス要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ニ對シ之ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由ナシ辯護士追加書ノ第一ハ原院ハ本件ノ事實ヲ監守盜ナリト認メラレタリ然レトモ原判文中ニ揭示セラレタル事實及證據ハ上告人カ本件ノ郵便爲替證書ヲ監守スルノ職責アリタル事ヲ認ムルニ足ラス假リニ本件ノ爲替證書ハ上告人カ窃取シタルモノトスルモ上告人カ特ニ監守スルノ職責アリタル事ヲ明カニセサレハ監守盜ヲ以テ擬スヘカラス而シテ原判決中證據ノ部ニ於テ原院ノ說明スル處ハ上告人カ之ヲ取扱ヒタリト云ヒ又宇都宮郵便局長青木千尋ノ回答書ニ上告人ハ伊勢崎郵便電信局通信事務員ニシテ普通官衙ノ雇員ハ資格上異ナルコトナシ云々ト云フニ過キス之ヲ以テ上告人カ特ニ本件ノ爲替證書ヲ監守スルノ責任アリタルコトヲ認ムルニ足ラス故ニ該判決ハ理由明示ノ點ニ於テ缺欠アルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ證據說明ノ部ニ於テ示ス所ノ被告豫審調書ニ記載シタル其陳述及ヒ宇都宮郵便局長青木千尋ノ回答書ノ趣旨ニ依リ被告ハ本件ニ付監守ノ職責ヲ有スルモノト認メタルモノニシテ畢竟本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ解釋ヲ異ニシテ之ヲ論爭スルニ過キサレハ上告ノ理由ナキモノトス

第二ハ郵便爲替證書ハ郵便局ニ於テ作製スルモノニ付官文書ナルコト明カナリ然ルニ原院ハ郵便爲替證書ノ僞造ヲ私文書僞造ト認メ刑法第二百十條第一項ヲ適用シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリ又事實證據指示ノ部ニ於テ私文書ナルコトヲ說明セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○郵便爲替證書ノ官文書ナルコトハ論旨ノ如クナリト雖モ原判決ハ監守盜罪ト私文書僞造行使罪トノ二罪ヲ認メ其重キ監守盜罪ニ從ヒ輕懲役六年ニ處斷シタルモノナレハ今之レヲ官文書僞造行使罪ニ問擬センカ刑法第二百三條第二百五條ニ依リ重懲役ニ該當スルヲ以テ結局被告ノ不利益ニ歸着スルモノナレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又其判文ニ於テ郵便爲替證書ト題目ヲ揭示シタルニ不拘ラス犯罪ノ用ニ供シタル禁制品ナルヲ以テ其僞造ニ係ル部分ハ沒收ノ判決ヲ爲スヘキ筈ナルニ之ヲ爲ササルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ沒收ノ言渡ヲ爲ササル物件ニ對シ尙之ヲ沒收スヘキモノナリトノ論旨ハ乃チ被告ノ不利益ニ歸スルモノナルヲ以テ上告ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却スル

明治三十三年二月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○窃盗及官文書僞造行使ノ件（大審院 明治三十三年（れ）第九五一號 明治三十三年九月二十八日宣告棄却）

【被告人】吉成縫藏（辯護人）井出勝巳

【第一審】徳島地方裁判所 【第二審】大阪控訴院

舊刑法第二百三條

○判決要旨

一郵便爲替券ヲ竊取シタル上其金圓ヲ收受スルニ當リ之ヲ變換シテ行使シタル所爲ハ窃盗罪竝ニ官文書變造行使罪ヲ構成ス

【參照】官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ（刑法第二〇三條）

○事實

右窃盗及官文書僞造行使被告事件ニ付明治三十三年六月三十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ辯護人井出勝巳ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ハ本案ハ第一審裁判所ニ於テ輕罪ナリト處斷シタルヲ檢事ハ之ヲ重罪ナリトシテ控訴シ原院ハ其控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ更ニ重罪ニ問擬シタルモノナリ斯ル場合ニハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ニ依ルヘキハ明晰タルニモ係ハラス原院ノ處置玆ニ出テサリシハ同法ヲ適用セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右第二百六十四條ハ第一審ニ於テ輕罪事件トシテ審判シタル場合ニ適用スヘキ規定ナリトス而シテ本件ハ第一審ニ於テ輕罪ナリト判決シタルモ其事件ハ重罪トシテ審理シタルモノナルヲ以テ原院ニ於テ刑事訴訟法第二百三十七條ノ手續ヲ盡セハ足ルモノニシテ同第二百六十四條ヲ當行セサリシハ當然ナリ故ニ原判決ハ不法ニアラス

上告趣意擴張書第一點ハ原院ニ於テ窃盗罪ノ外尚官文書ノ變換行使罪ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリトス何トナレハ他人ノ名義ヲ以テ郵便局ヨリ金員ヲ受取ラシメタルハ假令如何ナル手段方法ヲ用ヒタルニモセヨ畢竟小爲替券在中ノ郵便信書ヲ窃取シタル結果ニ過キサレハナリ故ニ別ニ他ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラストト云フニ在レトモ○本件小爲替券ノ金圓ヲ收受スルニ付之ヲ變換行使シタル上ハ小爲替券窃取罪ノ外尚ホ他ニ犯罪ヲ構成スヘキコトハ勿論ナレハ原院カ之ヲ二罪トシテ處罰シタルハ相當ナリトス第二審本案ノ事實ハ果シテ小爲替券其モノノ要部ヲ變換シタルモノナリト云フヘキヤ抑モ小爲替ハ其條例ノ定ムル所ニ依リ政府カ一私人ヨリ金員ヲ一時預リ之ヲ或ル指定人ニ拂渡スヘキ義務ヲ負フニ過キスシテ其支拂局ノ如キハ同シク義務者タル政府ノ一部ノ事務ヲ取扱ヘキ一ノ支局ナリ果シテ然ラハ東京トアルヲ大阪順慶町ト變換スルモ權義ノ創設若クハ消滅ニ關スルモノニアラサレハ決シテ要部ト云フヘカラス況ンヤ自己カ自由ニ記載シ得ヘキ受取人ノ指定ニ於テヲヤ然ルニ原院ニ於テ右事實ヲ官文書變換罪ナリトシテ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト確信スト云フニ在レトモ○原判旨ニ依レハ被告ハ窃取シタル小爲替中ニ記入シアル東京ノ字ヲ大阪順慶町ト變換シ受取人無指定ナリシヲ大阪用達合資會社ト記入シ其文書ノ眞實ヲ詐リ之ヲ行使シタルモノナレハ官文書變造行使罪ヲ構成スヘキハ言ヲ俟タサルナリ故ニ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○郵便條例違反詐欺取財ノ件（大審院明治三十三年(れ)第一六四二號　明治三十四年一月二十二日宣告棄却）

郵便條例第二百三十四條
舊刑法第二百十條
第三百六十六條

【被告人】佐藤元八

【第一審】福島地方裁判所　松支部　【第二審】宮城控訴院

○判決要旨

（判旨第二點）郵便爲替證書ヲ窃取シテ其金員ヲ收受シタル所爲ハ該金員ヲ收受スルニ付キ擅ニ該證書ニ受取人ノ氏名ヲ僞造シテ之ヲ行使シタル以上ハ郵便爲替證書窃取罪ト文書僞造行使罪トノ二罪ヲ構成ス

（參照）賣買貸借贈遣交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス（刑法第二百十條第一項）

人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス（刑法第三百六十六條）

（判旨第四點）證人ハ互ニ言語ヲ接スヘカラス又供述前辯論ニ立會フヘカラス云々ノ法則（刑事訴訟法第百九十三條）ハ一ノ訓示法ナルヲ以テ同條ノ規定ニ違背スルモ其證人ノ陳述ハ無效トスヘキモノニ非ス

【參照】證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラス又供述前辯論ニ立會フ可カラス既ニ供述ヲ爲シタル後ハ公廷ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退去ノ允許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス（刑事訴訟法第百九十三條）

○事實

右郵便條例違反詐欺取財被告事件ニ付明治三十三年十一月二十日宮城控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮四月罰金五圓監視六月ニ處シ押收書類中郵便爲替證書ノ僞造ノ部分ヲ沒收シ其餘ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ其全部ヲ被告ノ負擔トスト言渡タル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意ハ上告人ハ本件ノ罪ヲ犯シタルコトナク其證憑一モ之レナキニ有罪ノ判決ヲ受ケタルハ不服ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ原判決ニ擧示シタル各證據ニ依リ之カ事實ヲ認メタルモノニシテ證據ニ依ラスシテ漫ニ認メタルモノニアラス要スルニ本論旨ハ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ

辯護士擴張書第一ハ原院ハ本件ニ對シ窃盜及文書僞造行使ノ二罪ヲ以テ處斷セラレタリ然レトモ右文書僞造行使ノ所爲ハ前段窃盜罪ノ結果ニシテ郵便爲替金拾圓ヲ橫領スルノ手段タルニ過キサレハ別罪トシテ之ヲ論ス可キニアラサルナリ即二罪ヲ以テ處斷セラレタル原判決ハ失當ヲ免レスト信ス（二十五年一一八七號同年十一月二十四日判決私書僞造事件當院判例援用）ト云フニ在レトモ○郵便爲替證書ヲ窃取シテ其金員ヲ收受スルカ如キハ窃盜罪ノ結果タルヘキモ其金員ヲ收受スルニ付擅ニ該證書ニ受取人ノ氏名等ヲ僞造シテ之ヲ行使シタル已上ハ郵便爲替證書窃取罪ノ外尙ホ文書僞造行使罪ヲ構成スヘキコトハ勿論ナルヲ以テ原院カ之ヲ二罪トシテ處斷シタルハ相當ナリトス但シ明治二十五年一一八七號ノ判例ハ其後變更セラレタルニ依リ此旨了知スヘシ』其二ハ原判決ノ認定事實ニ從ヘハ本件ニハ郵便條例第二百三十四條ヲモ適用處斷ス可キモノナルニ之ヲ適用セラレサルハ法律上ノ理由ヲ備ヘサル失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○郵便條例二百

三十四條ノ規定ハ窃取スルノ意思ナクシテ之ヲ開封シ又ハ毀損私用等ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ本件ノ如キ窃取ノ意思ヲ以テ封中ノ爲替證書ヲ窃取シタル場合ニ於テハ該法條ヲ適用スル限リニアラサルヲ以テ原判決ハ相當ナリトス」其三ハ原判決ハ第一審證人鈴木賛雄及船木金藏ノ供述ヲ斷證ニ供セラレタルモ右鈴木賛雄ハ廷内證人控席ニ於テ船木金藏ノ供述ヲ聞キタル上證人トシテ再ヒ訊問セラレ供述シタル次第ニシテ即チ後ニ訊問ス可キ證人ノ目前ニ於テ訊問シタル違法ノ手續ナルニ兩證人ノ供述ヲ採用處刑セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第百九十三條ノ規定ハ一ノ訓示法ナルヲ以テ縱シヤ所論ノ如キ事實アリトスルモ之カ爲メ證人ノ陳述カ無効ニ歸スヘキ謂レナキヲ以テ原院カ右證人ノ供述ヲ罪證ニ採用シタルハ不法ト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年一月二十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○官文書僞造行使官私印盜用ノ件（大審院明治三十四年(れ)第八七六號明治三十四年六月十四日宣告棄却）

【被告人】村本通太郎

【第一審】京都地方裁判所【第二審】大阪控訴院

○判決要旨

一數個ノ犯罪行爲カ意思繼續ノ爲メ一罪ト爲ルハ變例ニ屬ス從テ意思繼續ノ事實ヲ認メサルトキハ特ニ判文ニ於テ之ヲ說明スルノ要ナシ

○事實

右官文書僞造行使官私印盜用被告事件ニ付明治三十四年五月十三日大阪控訴院ニ於テ被告ヲ重禁錮二年ニ處シ六月ノ監視ニ付シ前發刑拘留三日ヲ通算ス押收ノ僞造小爲替證書ハ總テ之ヲ沒收スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

上告趣意書第一點ノ要旨ハ僞造文書ノ行使トハ僞造ニ係ル文書ヲ其文書ノ種類ニ應シテ虛構シタル事實ノ證據ニ供スル爲メ他人ニ提示シテ其確信ヲ誤マラシムルヲ云ヒ又印影盜用トハ印影ヲ盜捺シタルモノヲ以テ他人ヲ欺クノ用ニ供スルヲ云フモノニシテ單ニ自己ノ代人ニ示シ若クハ交附スルカ如キハ未タ以テ僞造文書ノ行使又ハ印影盜用ト云フヘカラス而シテ本件被告カ杉本ハナニ小爲替證書ヲ交附シタルハ爲替金ノ取付ヲ依賴シタルモノニシテ自己ノ代人タルニ過キサレハ犯罪ヲ構成セスト云フニ在レトモ○文書僞造行使ノ罪ハ僞造ノ文書ヲ以テ眞正ノ文書ヲ行使スルニ因リ成ルモノニシテ必スシモ其文書ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ行使スルヲ要スルモノニアラス又縱令ヒ自己ノ代人ニ對スルトキト雖モ苟モ僞造ノ文書及ヒ盜捺ノ印影ヲ以テ眞正ノモノナリトシテ之ヲ交付シタルトキハ文書僞造行使及ヒ印影盜用罪ヲ構成ス可キヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第二點ノ要旨ハ假リニ被告ノ犯罪成立スルモノトスルモ原判決ハ被告カ僞造ノ爲替證書ヲ杉本ハナニ交附シタル場所ヲ明示セサル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ「被告通太郎ハ云々京都市ニ至リ下京區三條通大橋東二丁目旅人宿杉本ハナ方ニ投宿シ翌六日午前九時頃右二通ノ僞造小爲替證書ヲ宿主ハナニ交付シ云々」トアルヲ以テ右僞造ノ爲替證書ヲ行使シタル場所ハ杉本ハナ方ナルコト判文上自ラ明カナリトス

同擴張書ノ要旨ハ原判決ニ依レハ本案二通ノ小爲替證書ノ僞造及ヒ行使ハ共ニ同時ノ所爲ニ係ルカ故ニ其僞造行使共ニ同一ノ意思ニヨリテ成リタルモノト認メラレタルヤ疑ヲ容レス而シテ凡ソ一罪ト數罪トハ其犯罪ノ一所爲ナルヤ否ヤニヨリテ之ヲ區別スヘク又所爲ハ意思ト結果トノ關係ヲ云フモノナルヲ以テ犯意一貫シテ同一ノ目的ニ出テ別ニ意思ヲ新ニシタルモノニアラサル時ハ假令其結果多キモ之ヲ一罪トシテ論セサルヘカラス然ルニ原院カ被告ノ所爲ヲ以テ數罪ナリトシタルハ不法ナリ若シ原判決ハ被告ニ於テ二個ノ僞造及行使ヲ同時ニ爲シタルモ其意思ハ各別個ノモノシリト認メタルモノトセハ判文上宜ク二個ノ意思アリシ事實ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判決ニ之ヲ明示セサルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ二通ノ官文書ヲ僞造シ其僞造文書ニ各官私印ヲ盜捺シテ之ヲ行使シタル事實ナレハ數個ノ犯罪行爲アルヤ辯ヲ俟タス而シテ數個ノ犯罪行爲アルトキハ數罪ヲ爲スハ固ヨリ通例ノコトニシテ意思繼續ノ爲メ一罪ヲ爲スカ如キハ變例ニ屬スルヲ以テ原院ニ於テ意思ノ繼續ヲ認ムルトキハ之カ說明ヲ要スヘシト雖モ其之ヲ認メサル場合ハ特ニ之ヲ說明スルノ要ナキヲ以テ本論旨亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十四年六月十四日於大審院第二刑事部公廷檢事奧宮正治立會宣告ス

○私書僞造行使詐欺取財ノ件（大審院明治三十五年(れ)第九六〇號明治三十五年六月十二日宣告棄却）

【被告人】齋藤平吉　【辯護人】龜山○要

【第一審】宇都宮地方裁判所栃木支部　【第二審】東京控訴院

○判決要旨

一自己ノ振出シタル郵便爲替金ト雖モ詐欺ノ所爲ヲ以テ之ヲ騙取シタルトキハ郵便局ニ被害ナシト云フヲ得ス

【參照】人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪トシ十年以下一月以上ノ懲役ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」因テ官私ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變更シタル者ハ僞造ノ各本條ニ照シ重キニ從ヒテ處斷ス（刑法第三百九十條）

○事實

右私書僞造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年五月五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ヲ要スルニ第一ハ詐欺取財ニハ他人ノ財產權ヲ侵害スルノ事實アルヲ要シ刑法第三百九十條ハ財物ハ他人所有ノ財物ヲ指稱スルモノト解セサルヘカラス然ルニ被告カ石橋郵便局ニ於テ受領シタル金員ハ被告ノ所有ニシテ郵便局又ハ內田五郎ノ所有ニアラス明治三十三年法律第五十五號郵便爲替規則等ニ依ルニ爲替金ハ振出後拂渡前ニ於テハ郵便局又ハ受取人ノ所有ニ歸スルモノニアラス要スルニ郵便局ハ爲替金ヲ保管シ送金ノ手續ヲ爲スニ過キス是ヲ以テ若シ保管中不

可抗力ノ爲メ滅失毀損シタルトキハ其損失ハ振出人ニ歸シ郵便局ニ其責メナシ然ラハ本件ハ原院ノ認ムル如クスルモ被告ハ被告所有ノ金員ヲ騙取シタルモノナレハ詐欺取財ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ〇郵便爲替ノ場合ニ於テハ郵便局ハ特定物ノ郵送ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ爲替資金トシテ拂込ヲ爲シタル以上ハ其金額ヲ指シテ拂込人ノ所有ナリト云フヲ得サレハ本論旨ハ理由ナシ」第二前段ハ前說述スル如ク爲替金ハ被告ノ所有ナルヲ以テ被害者ノ存スル理ナシ殊ニ原院ノ認定スル所ニ依レハ石橋郵便局長ハ成規ノ手續ニ依リ爲替金ヲ交付シタレハ爲替金ノ所有カ被告ニ存スルト郵便局ニ存スルトヲ問ハス郵便爲替法第十四條ニ依リ郵便局ハ被害者ニアラス然ルニ原判決ハ石橋郵便局ヲ被害者トシ該局ヨリ金圓ヲ騙取シタルモノト判斷セシハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ〇本件ニ付石橋郵便局ハ內田五郎ニ對シテ拂渡スノ義務アルニ被告カ詐欺ノ手段ヲ行フタルニ因リ錯誤ニ陷リ被告ニ拂渡スニ至リタルモノニシテ郵便爲替法第十四條ニ依リ最早正當ノ受取人タル內田五郎ヨリ拂渡ヲ要求セラルヽコトナシト雖モ個ハ受取人ヨリ拂渡ニ付異議ヲ唱ルモ其責ニ任セサルマテニシテ若シ郵便局ニ於テ正當ノ受取人ニ渡サント欲セハ被告ヨリ取戻シ更ニ五郎ニ拂渡スコトヲ得ヘキ筋合ナレハ一旦被告ニ拂渡シタルハ被告ノ犯法行爲ニ基因シタル損害ニシテ郵便局ニ被害ナシト云フヲ得ス」其後段ハ假リニ原判決ハ郵便局ヲ被害者ト認定シタルモノニアラストセンカ被害者ノ何人タルコトヲ說示セサルノ不法アリテ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇原判決ニ「郵便局長ヲ欺キ爲替金十圓ヲ拂渡サシメ以テ之ヲ騙取シタリ」トアレハ被害者ハ郵便局ナルコト明白ニシテ論旨ハ理由ナシ

第三ハ前顯ノ如キ本件ニ被害者ナシトスレハ爲替證書ニ內田五郎ノ名義ヲ記入シ之ヲ行使シタリトシテ自己ノ所有ニ係ル爲替金ヲ受取リタルマテニシテ何人ニ對シテモ害惡ヲ生スルコトナケレハ僞造罪ヲ成スモノニアラス然ルニ原院カ私書僞造罪ニ問擬シタルハ不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇第二點ノ前段ニ對シ說明シタル如ク郵便局ニ損害ヲ生スヘキ詐欺ノ手段トシテ文書ヲ僞造行使シタルモノナレハ僞造行使罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ原判決ハ相當ナリトス

辯護人龜山要ノ擴張書第一ハ原院ニ於テハ本件斷罪ノ料トシテ內田五郎竝ニ被告ノ聽取書ヲ採用セラレタリ然レトモ此聽取書ハ何レモ栃木縣壬生警察分署ニ於テ警部代理巡査藤野寬ノ作成シタルモノナルコトハ該聽取書自體ニ依リテ明白ナル事實ニシテ司法警察官ノ作成シタル書類ニアラス抑警部ハ司法警察官タルノ資格ニ於テハ犯罪搜査ノ權能ヲ有スレトモ單純ニ行政官吏タル警部ノ資格ニ於テハ犯罪搜査ノ權能ヲ有セサルヲ以テ犯人若クハ關係人ニ對シ出署ヲ求メ犯罪事實ヲ聽取スルノ職權ナシ故ニ此職權ナキ警部ノ作成シタル聽取書ハ不法ニシテ無效ナルコト言ヲ俟タサルヘシ況ヤ警部ヲ代表セル巡査某ノ作成シタル書類ニ於テヤ然ルニ原判決ハ之ヲ斷罪ノ料ニ供シタルハ不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇警部ハ刑事訴訟法第四十七條ニ依リ司法警察官ノ職務ヲ行フモノナレハ特ニ裁判所構成法第八十四條第二項ニ因リ指定セラレタルコトヲ見ルヘキモノナシトテ之ヲ以テ直チニ司法警察官ニ非スト云フヲ得ス從テ其警部ヲ代理スル巡査モ亦司法警察官ノ職務ヲ行フコトヲ得ルヤ勿論ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第二ハ原院ニ於テハ本件斷罪ノ料タル僞造爲替證書ヲ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ差出人ニ還付スル旨宣告セラレタリ然レトモ僞造證書ハ法律上ノ禁制物件ナレハ刑法第四十三條同第四十四條ニ依リ沒收スヘキモノナリ然ルニ刑訴第二百二條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ判決ニシテ而シテ被告ノ此點ニ對スル不服ハ被告自身ノ不利益ヲ申立ツルモノニアラス何トナレハ苟クモ該爲替證書ニシテ僞造書ナリト判定セラルル以上ハ被告ハ該證書ノ存在ヲ以テ寧ロ甚シク苦痛ヲ感スルモノニシテ而シテ被告ノ此苦痛ヲ排除スルコトハ卽チ被告ノ利益ナレハ也抑民法ノ規定ヨリ論スルモ對手ノ不法行爲ニ基ケル心意ノ苦痛ハ損害賠償ノ原因タルヘキコト言ヲ俟タス左レハ民法ノ實施セラレタル今日ニ於テハ被告カ此心意ノ苦痛ヲ排除セシメン爲正當ナル法律ノ適用ヲ求メ得ヘキハ蓋シ條理上疑ナキ所ナリト云フニ在レトモ〇沒收ハ一ノ附加刑ニシテ原院カ此刑ヲ被告人ニ科セサルニ被告自カラ其刑ヲ科セラレンコトヲ請求スルハ被告ノ上訴トシテハ相容レサルモノナレハ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

第三證據物件ハ被告ニ示シ之カ辯解ヲ求ムヘキハ刑事訴訟法ノ規定スル處ナリ然ルニ原院ニ於テハ本件唯一ノ證據タル五圓紙幣二枚（賍金）ヲ被告ニ示サス又辯解ヲ求メスシテ判決ヲ與ヘタル所ナレ

ハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ所論ノ紙幣ヲ本件ノ證據トシタルモノニアラス然ラハ右紙幣ニ付辯解セシメタルト否ハ原判決ニ關係ナキヲ以テ論旨ノ如ク之ヲ示シテ辯解セシメサリシモノトスルモ違法ノ措置ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月十二日於大審院第二刑事部公廷檢事奥宮正治立會宣告ス

○監守盜及詐欺取財ノ件（大審院明治三十五年(れ)第一六一六號明治三十五年十一月十日宣告棄却）

【被告人】　米本正兵衞

【第一審】　仙臺地方裁判所【第二審】　宮城控訴院

○判決要旨

一船車營業係ヲ擔當セル町役場書記カ船稅納付ノ爲メ送付シ來リタル郵便爲替證書ヲ保管中之ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

○事實

右監守盜及詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年七月十七日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理　由

被告ノ上告趣意書ハ要スルニ被告ハ鈴木市十郎ヨリ差出シタル書留郵便物ノ町長ノ机上ニ在ルヲ見テ其書面ヲ閲シ在中ノ郵便爲替券ヲ騙取シタルハ事實ナルモ金錢上ノ取扱ハ收入役ノ職務ニシテ被告ノ關スル所ニ非サレハ右爲替券ノ如キ物件ハ之ヲ監守スルノ職權ナキモノナリ然ルニ原院カ被告ヲ以テ監守盜ノ所爲アリトシテ處罰シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ牡鹿郡石卷町役場書記トシテ船車營業係ヲ擔當シ明治三十三年度上半期分船稅金二十二圓五十七錢五厘納付ノ爲メ同金額ノ郵便爲替證書ヲ封入セル福島縣隻棄郡請戸村鈴木市十郎ヨリ同役場宛ノ書留郵便書狀一通ヲ同役場宿直員ヨリ受取リ保管中之ヲ竊取シタルモノニシテ被告カ窃取シタル物ハ則チ己レカ船車營業係書記トシテ當然保管スヘキ船稅ニ關スル郵便物ニシテ收入役ノ保管スヘキ稅金ニ非サルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年十一月十日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

舊刑法第二百八十九條

○官文書僞造行使私書僞造行使及監守盜等ノ件

（大審院明治三十六年(れ)第四八號明治三十六年三月十日宣告破毀）

【被告人】奥平敬太郎外一名　【辯護人】飯田宏作　花井卓藏

【第一審】札幌地方裁判所　【第二審】函館控訴院

○判決要旨

一郵便局長ヲシテ其監守スル爲替金ヲ取出サシメタルモ自ラ其金員ノ取出ニ關與セサルトキハ犯罪ノ實行ニ關與セサルモノナルヲ以テ監守盜ノ教唆者トシテ責任ヲ負ハシムヘク共犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス（判旨第五點）

一刑法第二百八十九條ハ監守ノ職責ニ違背シテ金品ヲ窃取又ハ費消シタル官吏ヲ嚴罰スルモノニ外ナラスシテ法律カ犯人ノ身分ニ因リ特ニ刑ヲ加重シタル場合ノ一ニ屬スルモノトス從テ監守ノ責アル官吏ヲ教唆シテ監守盜罪ヲ犯サシメタル通常人ニ對シテハ同條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス（判旨第六點）

【參照】官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ窃取シタル者ハ輕徵役ニ處ス」因テ官ノ文書簿册ヲ增減變換シ又ハ毀棄シタル事ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス（刑法第二百八十九條）

○事實

右官文書僞造行使私書僞造行使及監守盜並ニ窃盜被告事件ニ付明治三十五年十二月九日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

被告奥平敬太郎辯護人飯田宏作ノ上告趣意擴張書ハ重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事カ書記ノ立會ヲ得テ

被告人ヲ訊問シテ其調書ヲ作ルヘキコトハ刑事訴訟法第二百三十七條ノ裁判所ニ命スル所ナリ然ルニ本件ノ記錄中原院ニ於テ此取調ニ關スル調書アルコトナシ即チ原院ハ此取調ヲ爲ササルモノニシテ原判決ハ法律ノ命令ニ違背シテ開廷シタル公判ニ於テ審理シテ言渡シタル不法ノ判決ナリト云フニアリ○依テ一件記錄ヲ閱スルニ被告奥平敬太郎ハ官文書僞造行使及ヒ監守盜ノ所爲アリトシテ起訴セラレ第一審ニ於テ被告ヲ有罪ナリト判決シ其判決ニ對シテ被告ヨリ控訴ニ及ヒタルモノナルコトハ豫審終結決定書第一審ノ判文及ヒ被告ノ控訴申立書ニ徵シテ明カナリ而シテ官文書僞造行使及ヒ監守盜ハ何レモ重罪ナルヲ以テ被告敬太郎ニ對スル本件ノ被告事件ハ重罪事件トシテ原審ニ係屬シタルモノナルコトハ誠ニ明瞭ナリ左スレハ原院ハ本件ノ審問ヲ開始スル前豫メ刑事訴訟法第二百三十七條ノ手續ヲ履踐シ一應其下調ヲ爲シ且此事實ヲ明確ナラシムル爲メ特ニ下調書ヲ作成セサルヘカラス然ルニ原院ノ記錄中ニ下調調書ナルモノ存在セサルヲ以テ原院ハ右ノ手續ヲ踐行セサリシモノト認メサルヲ得ス而シテ刑事訴訟法第二百三十七條ハ重罪事件ノ審理ヲ鄭重ナラシムルカ爲メニ特ニ設ケラレタルモノナレハ同條ニ規定スル下調ノ手續ハ重要ナル訴訟手續ニ屬シ之ヲ省略スルコト能ハサルモノナリ果シテ然ラハ此手續ヲ缺キタル原院ノ審理ハ重要ナル手續ニ違背シタルモノニシテ其公判手續ノ無効ナルハ勿論無効ノ公判ニ基キ言渡シタル原判決モ亦タ從テ無効タルヲ免カレス故ニ上告論旨ハ理由アリ原判決ハ全部破毀セラルヘキモノトス既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキモノトナス以上ハ被告敬太郎並ニ其辯護人ノ他ノ上告論旨ニ對シテハ特ニ說明ヲ爲スノ要ナシ

被告山吹由松上告趣意書ノ第一ハ原審ハ公訴不受理ノ申立ニ對シ「告訴狀ニハ被告由松カ右川村留藏ニ向ケ送付シ來タリタル電信爲替ノ金圓ヲ不法ニ奪取シタル事實ノ記載アリ」ト說示シ告訴狀ノ內容カ監守盜ノ事實ヲ包含スト雖モ電信爲替金圓ノ不法ノ奪取ナル事實ハ窃盜ナル事實ヲ認メ得ヘキモ官吏カ其監守スル全員ヲ消費或ハ奪取シタル事實ト認メ得ヘキモノニアラス然ルニ原審カ告訴狀ノ內容カ監守盜ノ事實ノ記載アリトシ公訴不受理ノ申立ヲ排斥セラレタルハ不法ナリト云フニアリ○依テ一件記錄ヲ查スルニ明治三十五年五月二十九日付本件ノ豫審請求書ニ「私書僞造

行使及窃盜、山吹由松、山吹トメ、右頭書ノ事件ハ川村留造告訴狀記載ノ事實ナリト思料スルニ付キ云々」トアリ又川村留藏告訴狀ニ「翌六日電信爲替原告ニ來リ侯ヲ被告ニ於テ受取リ原告ノ要求ニ應シテ右電信爲替ヲ渡サス原告名前ヲ以テ鹽谷電信局ヨリ右爲替金ヲ受取リ尙原告ニ對シ一厘ヲモ支給セス云々」トアリ此記載ト右請求書ノ窃盜ナル罪名トヲ參照スルトキハ檢事ハ山吹由松、山吹トメ兩名ニ於テ被害者留造ニ送付シ來リタル電信爲替ノ金圓ヲ窃取シタルモノトシテ豫審ヲ求メタルモノナルコトヲ知リ得ヘク檢事カ本件ノ犯罪事實ニ付キ下シタル判斷ノ當否ハ暫ラク置キ檢事ハ被告等カ鹽谷郵便局ヨリ留藏宛ノ爲替金ヲ取出シタル所爲ヲ指シテ窃盜ナリトシ起訴ニ及ヒタルコトハ毫モ疑ヲ容レス而シテ明治三十五年六月十六日付奥平敬太郎ニ對スル豫審請求書ヲ見ルニ「窃盜及私書僞造行使奥平敬太郎右頭書ノ事件ハ當廳三五（ヘ）第八一五號山吹由松、山吹トメニ對スル窃盜及ヒ私書僞造行使事件ノ共犯者ト認メ云々トアリ檢事ハ被告敬太郎モ亦タ郵便局ヨリ爲替金ヲ取出シタル所爲ニ關與シタルモノト認メ山吹由松等ノ窃盜ノ共犯者トシテ起訴シタルモノナルコト明カナリ而シテ郵便局ヨリ爲替金ヲ取出シタルノ所爲ハ普通人ニアリテハ單純ノ窃盜タルニ過キサルモ郵便局ノ爲替資金ヲ保管スル被告敬太郎ニ在テハ監守盜トナルヘキ筋合ナレハ豫審請求書ノ窃盜ナル罪名ト山吹由松等ノ窃盜共犯ナリトノ事實關係ノ下ニ被告敬太郎ニ對スル監守盜罪ノ起訴アリタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ原院カ被告等ノ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

其第二ハ原判決ハ其法律適用ノ部ニ於テ被告ニ對シ刑法第三百六十九條ヲ適用シ二人共犯トシ三百六十六條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ處斷セラレタルモ刑法第三百六十九條ノ二人共犯ハ二人以上共ニ窃盜罪ヲ犯シタル場合ナラサルヘカラス然ルニ原判決ノ認メタル事實ハ被告ハ窃盜ニ敬太郎ハ監守盜ノ所爲アリト云フニアリテ二者其犯罪ノ性質ヲ異ニシ決シテ窃盜ノ共犯ニアラサルニ刑法第三百六十九條ヲ適用シタルハ擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ナリト云フニアリテ○本論旨ハ其理由アリ之ニ對スル說明ハ辯護人花井卓藏ノ上告趣意擴張書ニ對スル說明ニ讓リタルヲ以テ該說明ニ付キ理由ヲ了知スヘシ其第三ハ原判決ハ被告カ敬太郎ニ對シ若シ該爲替金來ラハ留藏ニ渡サスシテ直チニ自分ニ渡シ吳レト謀リタルニ敬太郎ハ之レニ同意シタリトノ事實ヲ認メ之ヲ以テ監守盜又ハ窃盜ノ共犯ナリト判定シ而シテ之ヲ認メタル證據トシテ被告ノ豫審調書中「是迄數度漁夫ニ前貸シテ逃ケラレタ爲メ損シタニテ云々留藏ニ爲替カ來タナラ直ク知ラシテ貰ヒタイト賴ミ置キタル處云々ノ陳述ヲ證據ノ說明ニ供シタル右ノ記載ハ爲替金ノ差押ノ意思ナリシコト明瞭ニシテ他人ノ財物ヲ窃取セントスルノ事實ニアラス然ルニ此事實ヲ以テ窃盜罪ノ共謀ノ證據ニ供セラレタルハ認定セル事實ト證據ノ說明ト相一致セサル頗ル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○右ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

被告由松辯護人花井卓藏上告趣意ノ第一ハ原判決ニ「被告由松ハ云々曩ニ留藏ニ前貸シタル給金二十七圓ノ損害ヲ免カレンカ爲メ該爲替金ヲ窃取センコトヲ企テ其拂渡局タル鹽谷郵便局長タル被告敬太郎ハ平素懇意ノ間柄ナルヲ奇貨トシ窃ニ同人ニ事情ヲ打明ケ若シ該爲替金來ラハ留藏ニ渡サスシテ直ニ自分ニ渡シ吳レト謀リタルニ被告敬太郎ハ之ニ同意シ云々之ヲ被告由松ニ交付シタリ」ト判旨セリ卽チ原判決ノ事實認定ニ依レハ被告由松ハ爲替金ノ渡方ヲ相被告敬太郎ニ依賴シタルノミニシテ他ニ何等ノ行爲ヲモ爲シタルモノニ非ス左レハ本件被告ノ行爲ハ窃盜ヲ構成スヘキニノニ非サルニ原判決カ刑法第三百六十六條ヲ適用處斷シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト信スト云ヒ」其第二ハ被告ハ爲替金ノ渡方ヲ相被告敬太郎ニ依賴シタルノ外何等ノ行爲ヲモ爲シタルモノニ非スト第一ニ於テ說述スル所ノ如シ從テ被告ハ爲替金圓窃取ノ行爲ニ毫モ加勢スル所ナシ左レハ被告ノ所爲ハ本件犯罪ニ何等ノ關係ナキモノニナルニ原判決カ被告ノ所爲ニ法律ヲ適用スルニ當リ共犯ナリトシ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニアリ○依テ按スルニ刑法第四條ニ依レハ一ノ犯罪ニ付キ共犯アリトスルニハ二人以上ノ人カ現ニ其犯罪ヲ實行シタルコトヲ要シ犯罪ノ實行ニ干與セサル者ハ共犯ヲ以テ論スルヲ得サルモノトス而シテ刑法第二百八十九條ニ所謂「窃取」ナル語ハ刑法第三百六十六條ニ謂フ所ノ「窃取」ト其意義ヲ異ニシ金穀物件ノ純然タル窃取ノ外之ヲ費消スルノ所爲ヲモ包含スルヲ以テ監守盜罪ハ官吏カ其監守スル金穀物件ヲ窃取シ又ハ之ヲ費消スルニ因リテ成立スルモノニシテ其實質ニ於テハ窃

盜又ハ委託物費消ノ所爲ナレハ官吏ト共ニ官吏ノ監守スル金穀物件ノ窃取又ハ費消ノ實行ニ干與シタルモノハ監守盜ノ共犯トシテ刑法ニ定ムル刑罰ニ服從セサルヘカラサルモ官吏ト共ニ犯罪實行ノ所爲ニ干與セスシテ唯タ事前ノ所爲ヲ以テ其官吏ノ犯罪ニ關與シタルニ過キサルトキハ監守盜ノ教唆又ハ從犯トシテ責ヲ負フコトアルヘキモ共犯トシテ責ヲ負フコトナカルヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ而シテ原判文ニ揭クル所ノ事實ニ依レハ被告由松ハ本件ノ被害者タル川村留藏カ金子萬藏ナル者ヨリ受取ルヘキ電信爲替金二十八圓窃取センコトヲ企テ其拂渡局タル鹽谷郵便電信局長タル被告敬太郎ハ平素懇意ノ間柄ナルヲ奇貨トシ窃ニ同人ニ事情ヲ打明ケ若シ該爲替金來ラハ留藏ニ渡サスニシテ直チニ自分ニ渡シ呉レト謀リタルニ被告敬太郎ハ之ニ同意シタル處該爲替電報三戸郵便電信局ヨリ鹽谷郵便電信局ニ到達シタルヲ以テ被告敬太郎ハ自己ノ監守スル同局ノ金員ノ内ヨリ金二十八圓ヲ取出シ躬ラ之ヲ携帶シテ被告由松方ニ至リ同人妻トメノ手ヲ經テ之ヲ被告由松ニ交付シタルモノナリトス故ニ右原院ノ認メタル事實ニ依レハ鹽谷郵便電信局ニ於テ現ニ二十八圓ノ金員ヲ取出シタル者ハ監守者タル被告敬太郎ニシテ被告由松ハ毫末モ金員取出シノ所爲ニ關與セス又右電信爲替金二十八圓ヲ横領スルコトハ被告由松ノ發意ニ出テ由松ハ其意志ヲ實行スル爲メ被告敬太郎ニ對シテ爲替金ノ取出ヲ教唆シ敬太郎ハ其教唆ニ應シ自己ノ監守スル郵便局ノ金員ヨリ金二十八圓ヲ取出シテ犯罪ヲ實行シタルモノナルヲ以テ被告由松ハ監守盜ノ教唆者トシテ責任ヲ負フヘキモ正犯トシテ刑罰ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサルヤ明カナリ然ルニ原院カ被告由松ヲ以テ直チニ窃盜ノ正犯ナリトシテ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用シ尚ホ二人共犯トシテ同法第三百六十九條ヲ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤アル違法ノ裁判ニシテ上告論旨ハ理由アリ原到決ハ全部破毀ヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決中被告敬太郎ニ關スル部分ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ宮城控訴院ニ移送シ原判決中被告由松ニ關スル部分モ亦タ同條ニ則トリ之ヲ破毀シ同法第二百八十七條ニ依リ當院ニ於テ判決スル左ノ如シ

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ鹽谷郵便電信局長タル奥平敬太郎ヲ教唆シ敬太郎ノ監守スル同局ノ金員ヲ取出サシメタルモノナレハ刑法百五條第二百八十九條ヲ適用處斷スヘキ處監守盜罪ハ其實質ニシテハ金穀物件ノ窃盜又ハ委託ニ係ル金品費消ノ所爲ニシテ之ヲ犯シタル者カ通常人ニアラスシテ監守ノ職責アル官吏タルニヨリ法律ハ特ニ刑法第二百八十九條ノ規定ヲ設ケ通常ノ窃盜及ヒ委託物費消ノ場合ヨリモ重キ制裁ヲ付シ監守ノ職責ニ違背シテ金品ヲ窃取又ハ取消シタル官吏ヲ嚴罰スルモノニ外ナラス法律カ犯人ノ身分ニ因リ特ニ刑ヲ加重シタル場合ノ一ニ屬スルモノナリ而シテ刑法第百六條ニ依レハ正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ時ハ刑ノ正犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得サルヲ以テ監守ノ責アル官吏ヲ教唆シテ監守盜罪ヲ犯サシメタル通常人ニ對シテ他人カ官吏ニシテ而カモ監守者タルノ身分ヲ有スルニ因リ特ニ刑ヲ加重シタル第二百八十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス是等ノ身分ヲ有セサル者ニ適用スヘキ刑法第三百六十六條又ハ同第三百九十五條ヲ適用シ窃盜及委託物費消ニ對スル通常ノ刑ニ擬スヘキモノトス依テ本件監守盜ノ教唆者タル被告由松ニ對シテハ刑法第三百九十五條ヲ適用シ其範圍内ニ於テ由松ヲ重禁錮一年ニ處シ公訴裁判費用ハ刑法第四十五條ニ依リ被告ノ負擔トス

明治三十六年三月十日於大審院第二刑事部公廷檢事岩野新平立會宣告ス

○保證債務履行請求ノ件（大審院明治三十八年（オ）第五百六十七號明治三十九年二月十三日第一民事部棄却）

【上告人】 魚住エヒ 訴訟代理人 南館文一郎

【被上告人】 國立仁三郎外一名

【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

右當時者間ノ保證債務履行請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十八年十月十一日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

○判決要旨

一 債務ノ免除ハ獨リ明示ノ意思表示ヲ以テスルコトヲ得ルノミナラス又默示ノ意思表示ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得而シテ默示ノ意思表示ハ表意者ノ積極若クハ消極ノ行爲ヨリ之ヲ推定シ得ルモノトス（判旨第一點）

一 當事者カ郵便爲替券ノ送付ヲ以テ金員辨濟ノ方法ト爲シタル場合ニハ債務者ニ於テ現實ニ爲替券ヲ債權者ニ送附シ債權者之ヲ受領セル以上ハ債務者ハ正シク辨濟ノ提供ヲ爲シタルモノトス（判旨第四點）

○判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

上告理由第一點ハ原判決ハ民法第五百十九條ニ違反シタル不法ノ裁判ナリ」同條ノ明文ニ債務ノ免除ハ權利者ノ明確ナル意思表示ヲ要スヘクシテ暗默ノ放棄ハ裁判上推定シ得ヘカラサルコトモ亦明白ナリ而シテ此意思表示ノ方法ハ明示ト暗默トノ制限ナキコトモ亦民法第五百十九條ノ法意ナル故ニ原判決ハ少クモ上告人ニ於テ暗默ノ意思表示アリト明確ニ認定セラルルニ於テハ法律上最早非難スヘキ餘地ナキモ原判決ハ此法規ヲ忘却シタル爲メ單ニ第一回年賦金支拂遲怠後明治三十四年六月十二月同三十五年六月ノ三回分ニ相當スル年賦金カ當事者間ニ授受アリシトノ一點ヲ以テ既ニ發生シタル上告人ノ一時請求ノ權利ヲ拋棄シタリト推定シ即チ上告人ハ被上告人カ全部一時支拂ノ債務ヲ暗默ニ免除シタリト認定シタルノミニシテ免除ニ付上告人カ其意思ヲ表示シタリトノ說明ハ理由中一モ見ルヘキモノナシ」原判決中前記三回分年賦金授受ノ一事（此事實ヨリ推究セハ前債權者伊三郎ハ勿論控訴人ニ於テモ云々暗默ニ免除シタルモノナリト認定ス云々）ヲ以テ上告人ハ債務免除ニ對シ暗默ナル意思ヲ表示シタリト說明シタルカ如ク見ユルモ此事實ヨリ推究セハ云々トアル故ニ凡ソ意思表示ナルモノハ必スヤ其表意者ノ自動的行爲ヲ要スヘキナリ何トナレハ意思ノ未タ外觀ニ顯レサル限リハ法律上何等ノ效果ナク而シテ意思カ外觀ニ表示セラルルニ付テハ其方法ノ如何ニ係ラス必スヤ表示者ノ任意且ツ自動的行爲ヲ要スヘキナリ然ルニ本件ノ如キ既ニ遲怠發生後表爲者外ノ行爲即チ被上告人カ全金ノ內幾多ノ拂込ヲ爲シ來リシニ依リテ上告人ハ之ヲ甘受シタリトノ一事ヲ以テ全部支拂ノ義務ヲ免除スヘキ意思表示ナリト推定スヘキモノニアラス從テ原院判決ニ表示スル前記ノ理由ハ上告人ノ意思表示ナリトノ說明ナリト釋明スルヲ許サス況ンヤ本訴並ニ乙第九號ノ如ク全部請求ノ事實ノ明確ナルヲヤ然ルニ原院判決ハ本訴第一回ノ年賦返濟ヲ遲怠シタル事實ヲ認メ（全金ヲ一時ニ請永スヘキ上告人ノ權利ニシテ被上告人ハ一時全金辨濟ノ債務アルヲ確認シタリ）以テ上告人ハ被上告人カ全金辨濟ノ債務ヲ暗默ニ免除シタルモノナリト認定シタルハ前示民法第五百十九條ニ違反シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

因テ按スルニ債務ノ免除ハ獨リ明示ノ意思表示ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス默示ノ意思表示ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ民法第五百十九條ノ解釋上毫モ疑ヒヲ容レサル所ニシテ此解釋ハ蓋シ上告人モ敢テ論難スルモノニ非サ

ルカ如シ而シテ原判決ハ其判文上明白ナルカ如ク主債務者奥田友次郎カ第一回分ノ支拂金辨濟ヲ遲滯シタル後上告人カ同人ヨリ乙第一號乃至第三號證ノ如ク三回分ノ支拂金ノ辨濟ヲ受ケタル事實ニ基キ上告人ハ主債務友次郎カ第一回分ノ支拂金ノ辨濟ヲ遲滯シタルカ爲メ生シタル責任即元利金額ヲ一時ニ支拂フヘキ義務ヲ暗默ニ免除シタルモノト認定シタルモノニシテ是レ即チ上告人カ甲第一號證第一回分ノ支拂時期經過ノ後ニ至リ三回分ノ支拂金ヲ受領シタル事實ニ基キ第一回分ノ支拂金ノ辨濟ヲ遲滯シタルヨリ生シタル義務ヲ免除スル意思表示ヲ暗默ノ意思表示ハ表意者ノ積極若クハ消極ノ行爲ヨリ推定スルモノナレハ毫モ不法ノ點アルヲ見ス要スルニ本論旨ハ原判文ノ誤解ニ基因スルヲ以テ固ヨリ上告適法ノ理由ト爲スニ足ラス

上告理由第二點ハ原判決ハ當事者ノ申立以外ノ事實ヲ基源トシテ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ナリ原院ニ於テ上告人（控訴人）カ請求ノ原因トシテ主張シタル事實ハ訴外主タル債務者奥田友次郎カ第一回年賦金支拂ヲ遲怠シタルト爾後三回ノ遲怠アリトノ二點ヲ以テ主眼トセリ（控訴狀竝申立書）而シテ被上告人抗辯ノ要旨モ亦此二點ノ事實ニ付一回ノ遲怠ナシ故ニ其請求ニ應シ難シト云フニ在リテ答辯書竝ニ調書特ニ第一回ハ適法ニ供託シタリト云ヒ又他債權ト相殺シタリト云ヒ要スルニ遲怠ノ事實ナシ從ツテ其責任ナシト云フニ在リテ原判決ノ如ク一旦遲怠ノ結果（全部辨濟ノ義務發生）ヲ發生シタルモ爾後上告人ノ免除ニ依リテ再ヒ年賦金ノ權利ヲ回復シタル一點カ當事者間ノ爭點ニシテ遲怠ノ責任ナシ若シクハ遲怠ニ曾テ主張シタルコトナシ從テ單ニ遲怠シタルヤ否ニ制限シタルニ原判決ハ前記當事者間ノ申立ヲ其主張ノ如ク事實被控後ノ免除ニ依リテ前年賦契約ノ效力ヲ保續スルヤ否ニアラス然ルニ原判決ハ訴人ノ申立中ニ十回分ノ支拂ヲ一回モ遲怠シタルコトナキヲ以テ本訴ノ請求ニ應スル義務ナシト陳述シ云々）ヲ表示シナカラ上告人ヲ敗訴ニ歸セシメタル事實ハ遲怠ノ有無ニアラスシテ遲怠ノ責任ノ有無若シクハ遲怠後上告人ノ免除アリタリトノ事實即チ當事者間ノ爭點外ヲ以テ判決ヲナシタルハ不法ナリ要之被上告人ノ抗辯要旨ハ單ニ遲滯ノ事實ナシト云フニ在リテ遲怠ノ責任ナシトノ主張ニアラサレハ原判決ニ於テ既ニ遲怠アリト認定スル以上ハ直ニ其責任ヲ被上告人ニ歸セシム可クシテ進ンテ其遲怠ノ責任ノ有無即チ上告人ニ於テ免除シタルヤ否ノ點ヲ審査スルノ職權ナシ何者原院ニ於テ遲怠後ノ事實カ判決ノ勝敗ニ關ス可キ陳述辯論アレハ上告人ハ原院ニ於テ之ヲ防遏ス可キ充分ナル立證ヲ爲スヘキ權義アリ然ルニ敢テ之ヲ爲ササルハ被上告人ノ抗辯ハ單ニ遲怠ノ事實ナシトノ點ニ制限シアレハナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ノ事實摘示ニ依レハ被上告人ハ「（前略）主債務者友次郎ハ明治三十五年十二月ヨリ本年六月ニ至ル迄十回分ノ支拂ヲ一回モ遲滯シタルコトナキヲ以テ本訴ノ請求ニ應スル義務ナシト陳述シ」云々ト記載シアリテ此文意タル法律上一回モ支拂遲滯ノ責任ナキカ故ニ本訴ノ請求ニ應スル義務ナシト云フニ異ナラサレハ原判決ヲ以テ當事者ノ陳述セルハ事實ニ基ク裁判ナリト謂フコトヲ得ス從テ本論旨ハ其根據ナシ

上告理由第三點ハ原判決ハ虛無ノ事實ヲ認定シ且理由不備ノ不法アリ」原判決ハ乙第四五六號ノ郵便爲替券ヲ上告人カ受領シタリトノ認定中乙第四號（前債權者木村伊三郎受取分明治三十五年十一月二十九日金十四圓十錢分）ハ伊三郎宛ナルモ上告人カ當局ニ對シ拂渡ヲ請求シタル事實ハ證人松岡純二ノ證言ニヨリテ之ヲ認定シ云々ト說明シタリ然ルニ同人證言中ニハ上告人カ拂渡請求ヲ爲シタルハ上告人名義ノ分ノミニシテ伊三郎宛ニアラサルコトハ同證言中上告人訴訟代理人ノ請求ニ應ヘタル供陳ニヨリ明瞭ニシテ伊三郎宛ノ郵券ハ上告人ノ與知セサルモノナリトノ點ニ對シテ原院ハ虛無ノ證言ヲ以テ事實ヲ認定シタリ既ニ虛無ナリトセハ此認定ヲ保確スルニ付キ他ニ說明ヲ求メサルヘカラサルニ原判決ハ此點ニ對シ亦タ理由不備ノ不法アリト云フニ在リ

然レトモ裁判所ハ證據ノ取捨ニ付キ必スシモ其理由ヲ說示セサルヲ得サルモノニ非サルノミナラス同一ノ證人カ數多ノ事項ニ付キ陳述ヲ爲シタル場合ト雖モ其措信スル部分ヲ採リ其措信セサル部分ヲ捨ツルコトヲ得ルモノナリ而シテ原判決ハ證人松岡純二ノ陳述中後段ノ部分ヲ捨テ前段ノ部分ヲ採用シタルハ同證人訊問調書ニ照シテ自ラ明白ナリ故ニ本論旨ハ其理由ナシ

上告理由第四點ハ上告第一乃至第三點ハ假リニ原判決說明適法ナリトスルモ原判決ハ尙ホ左ノ不法アリ」（イ）郵便爲替ノ送付ハ適法ナル提供ノ効力ヲ生スト假ニ上告人カ乙第四五六號證券ヲ受領シタリトスルモ上告人ハ其期間内ニ之ヲ受領スヘキ義務ナシ（原判決ハ上告人ノ過失ナリト云フモ）且ツ其一面ニ於テ提供ノ效果ヲ生スヘキ筋合ナシ何者提供ハ民法第四百九十三條ノ規定ニ依リテ現實ニ之ヲ爲スヲ要ス可キモノニシテ郵便爲替ハ本件ニ付現實ナル返濟ノ提供ニアラサレハナリ（ロ）上告人ハ原院ニ於テ甲第六號證（郵便爲替拂戻規定）ヲ提出シタルモ之レニ對スル認否審査ナシ必竟審理不盡ノ不法アリト云フニ在リ

按スルニ辨濟ノ提供ハ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要スルハ實ニ上告論旨ノ如ク民法第四百九十三條ノ規定スル原則ナリト雖モ本件ニ於テ原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ當事者間ニ於テ本件ノ金員ニ付キテハ郵便爲替券ノ送付ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ例トシ乙第四號乃至第六號證ノ郵便爲替券ノ送付モ此例ニ依リタルコト明白ナリ夫レ此ノ如ク郵便爲替券ヲ送付シテ金員ノ辨濟ヲ爲スノ方法ト爲シタル場合ニ於テハ債務者カ之ヲ受領シタル以上ハ原判決ノ說示スルカ如ク債務者ハ現實ニ辨濟ノ提供ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得ヘケレハ本論旨ノ前段ハ其理由ナシ又上告人カ原審ニ提出シタル甲第六號證ノ立證趣旨ハ債權讓渡ニ關スル事實ヲ證明スル爲メニ外ナラサリシコトハ原審口頭辯論調書ニ同趣旨ノ記載アルニ因リテ明白ナリ然ルニ上告人カ本件債權ノ讓渡ヲ受ケタル事實ハ被上告人ノ認メテ爭ハサル所ナルコトハ原判決ノ事實摘示ニ徵シテ明白ナレハ原審ハ甲第六號證ヲ審査スルノ必要ナキニ至リタルモノナリ故ニ本論旨ノ後段モ亦理由ナシ

以上說示スルカ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ棄却スヘキモノトス

○官文書僞造行使ノ件（大審院明治四十年（れ）第四七七號明治四十年六月四日宣告棄却）

【被告人】加藤直樹【辯護人】音羽耕逸

【第一審】秋田地方裁判所【第二審】宮城控訴院

○判決要旨

一刑事訴訟法第二百十三條ハ檢事ノ職務ニ關スル訓示的規定ニシテ公判審理開始ノ必要條件ヲ定メタルモノニ非ス

【參照】檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求スヘシ（刑事訴訟法第二百十三條第一項）

○事實

右官文書僞造行使事件ニ付明治四十年四月十五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ハ原院ハ自分ニ於テ電信爲替證書中貳圓ノ貳ノ字ヲ削リ更ニ三十ノ二字ヲ記入シ其變造ヲ完成シタル上柴田テツノ手ヲ經テ之ヲ北村ハルニ交付シ以テ行使シタルモノナリトシ其唯一ノ證憑トシテ柴田テツノ聽取書ヲ採用シタリ然ル

ニ柴田テツノ聽取書ニ依レハ原院ノ判決ニヨルモ明カナル如ク同人ハ判然額面モ分ラス又主人北村ハルモ文字ヲ見ルコト能ハストノコトナレハ右ノ變造ノ爲メ害ヲ受ケタル人ナキコトニ歸着スルヲ以テ原判決ハ證憑ナクシテ事實ヲ確定シタル失當アルモノト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ認定事實ハ電信爲替證書變造行使罪ヲ構成スルコト後ニ說明スル所ノ如クニシテ其認定ニ付テハ諸般ノ證據ヲ擧示シアルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

辯護人香羽耕逸上告辯明書一ハ刑事訴訟法第二百三十六條第二百十三條ニ依レハ檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キ事ヲ裁判所ニ請求スヘク裁判所ハ此請求ニ依ツテ始メテ公判ニ着手スルコトヲ得ルモノトス然ルニ今本件記錄ヲ通覽スルニ右公判開始ノ條件タル檢事ノ公判請求書ハ記錄中ニ之レヲ存スルコトナキノミナラス裁判所此請求ニ基クコトナクシテ審理ヲ敢行シタル不法アリ則チ本件ハ公判開始ノ起頭ニ於テ重大ナル訴訟手續ノ違背アリ之レニ基ク原審ノ審理亦不適法ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○本件公訴ハ豫審終結決定ニ因リ秋田地方裁判所ニ於テ適法ニ之ヲ受理シタルモノナレハ別ニ檢事ノ請求ナシト雖モ事件ニ付審理判決ヲ爲スハ素ヨリ同裁判所ノ職權ニ在リ所論刑事訴訟法ノ規定ハ檢事ノ職務ニ關スル訓示的規定ニシテ公判審理開始ノ必要條件ヲ定メタルモノニ非ス故ニ本件ニ於テ檢事カ右規定ニ背キ其職務ヲ怠リタルモノトスルモ第一審裁判所カ公判手續ヲ開始シタルハ其當然ノ職務ヲ執行シタルモノニシテ之ヲ不法ナリト謂フヲ得ス

二ハ凡ソ文書ノ行使アリト云フニハ其文書內容ノ記載ヲ利用スルノ目的ニ出テ且之レカ行使ニ依テ其利益ヲ毀損セラルル處レアル者ヲ以テ其行使ノ對手方ト爲ササルヘカラス原判決ノ確定シタル事實ニヨレハ被告ハ只自己ノ外出ヲ得ンカ爲ノ敵娼ツマノ手ヲ經テ本件爲替證書ヲ樓主ニ交付セシモノニシテ未タ以テ其證書本來ノ利用ニ供シタルモノト認ムルヲ得ス原判決ハ畢竟不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ本件變造電信爲替證書ヲ遊興費支拂ノ擔保トシテ北村ハルニ交付シタルモノニシテ之ヲ眞正ノ電信爲替證書トシテ效用ヲ爲サシメタルモノナルコト明カナレハ其所爲官文書變造行使罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

檢事河村善益關與

明治四十年六月四日大審院第一刑事部

舊刑法第二百六條第二百八十九條

○官文書僞造變造行使官印盜用及監守盜ノ件

（大審院明治四十年（れ）第六五一號明治四十年七月五日宣告棄却）

【被告人】石川爲之　【辯護人】布施辰治

【第一審】東京地方裁判所　【第二審】東京控訴院

○判決要旨

一電信爲替證書ハ增減變換ヲ許サヽル規定アリトスルモ增減變換シタル爲替證書ハ絕對ニ之ヲ行使シ能ハサルモノニ非ス

【參照】官ノ文書ヲ僞造スルニ因テ易印ヲ僞造シ又ハ盜用シタル者ハ僞造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス（刑法第二〇六條）

官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス（刑法第二百八十九條）

○事實

右官文書僞造行使官印盜用及監守盜被告事件ニ付明治四十年六月四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告

ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理　由

上告趣意ヲ要スルニ被告ハ本件ノ電信爲替證書中額面金十圓ハ十九圓ノ誤記ナルコトヲ發見シタルヲ以テ十ト圓トノ間ニ九ノ字ヲ挿入シ其裏面ニ金額ハ十九圓ナルコトヲ證明スル旨ノ文言ヲ記載シ被告ノ保管セル芝郵便局長ノ職印ヲ押捺シテ其誤記ヲ訂正シ之ヲ東京郵便局管理課ニ送付シ未拂金九圓ハ受取人ノ申出ヲ待テ之ヲ交付スル爲メ被告カ保管シ居タルモノナルニ原院ハ其誤記ノ訂正ヲ以テ官文書變造ト爲シ保管ノ職印押捺ヲ以テ官印盜用ト爲シ未拂金ノ保管ヲ以テ監守盜ト爲シタルハ不服ナリト云フニ在レトモ○個ハ全ク原院ノ職權ニ立入リ事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ上告適法ノ理由ト爲ラス

同辯明書ハ原院ノ認メサル事實ヲ縷述シテ上告趣意ヲ敷衍スルニ外ナラス故ニ其理由ナキコトハ上告趣意書ニ對スル說明ニヨリ了解スヘシ

辯護人布施辰治ノ上告趣意擴張書第一點ハ原判決ハ本件犯罪行爲ヲ二罪ナリトシテ其理由ニ「二罪俱發ニ付同法第百條ニ依リ一ノ重キ官文書變造行使官印盜用ノ罪ニ從ヒ云々」ト說示セリ然レトモ本件ニ付原院ノ認メタル事實ニヨルモ被告カ官文書ヲ變造スルニ至リタルハ監守盜ヲ爲スニ因テ官文書ヲ變造シタルモノナレハ原判決ノ認メタル如ク被告各項ノ所爲ニシテ各法條ニ觸レタルモノカ又各項獨立ノ一罪ヲ構成スヘキモノニアラスシテ學說ニ所謂實質上ノ一罪トシテ原判決法律適用前段官文書ヲ變造行使スルニ因テ官印ヲ盜用シタル二箇ノ所爲ハ同法第二百六條ニヨリテ兩者ノ比較上重キニ從ツテ實質上ノ一罪ヲ構成スルカ如ク本件官文書變造行使ト監守盜ノ二所爲モ亦タ同一ナル實質上ノ關係ニ於テ刑法第二百八十九條第二項ニヨリテ兩者比較ノ結果重キ官文書變造行使罪ニ包容サル可キ關係ニ於テ監守盜ノ一罪ヲ獨立スヘキモノニアラスト信ス果シテ然ラハ原判決法條ノ適用トシテ前略各適條ヲ比較シ重キ官文書變造行使ノ點ニ從ヒ處斷スヘク」以下ハ正ニ二罪俱發ニ付同法第百條ヲ適用云々トナル可カラスシテ刑法第二百八十九條第二項ニ因リ尙監守盜ノ罪ヲ犯スニ因テ官文書ヲ變造行使シタルモノナレハ云々トアラサル可カラサルニ事於玆出テサル原判決ハ不法ナリ尙ホ假リニ原判決ノ如ク刑法總則ノ數罪俱發ニヨリ第百條ノ適用ヲ受ク可キモノナリトスルモ原判示ニヨレハ一ノ重キ官文書變造行使官印盜用ノ罪ニ從ヒテ處斷シ云々トアリテ文意夫レ自ラ一ノ重キニ從ヒタルニアラスシテ監守盜ノ一罪ト官文書變造行使及官印盜用ノ二罪トヲ比較シテ監守盜ノ一罪ヨリモ文書變造行使官印盜用ノ二罪ヲ重シトシタル奇怪ナル錯誤ニ到達スヘキ不法アルヲ以テ結局破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○刑法第二百八十九條第二項ハ監守盜ト官文書變造行使ヲ以テ實質上ノ一罪ト爲シタルモノニ非スシテ監守盜ヲ爲ス爲メ官文書ヲ變造シタル行爲ニ適用スヘキ刑ヲ定メタルモノナレハ原院カ之ヲ二罪ト認メ刑法第百條ヲ適用シタルハ相當ナリ又後段所論ノ判文ハ官文書變造行使ト官印盜用ノ二罪ヲ監守盜ト比照シタルニ非スシテ官文書變造行使官印盜用ナル實質上ノ一罪ト監守盜ヲ比照シタルモノナレハ本論旨ハ理由ナシ

第二點ハ原判決ヲ奈閣スルニ「云々表面ノ十圓ノ字ノ間ニ九ノ字ヲ挿入シ更ニ其表面ノ金額ハ十九圓ナルコトヲ證明スル旨ノ文言ヲ記載シ云々」ト說示シテ被告ノ所爲ヲ文書變造罪ニ問擬セリ然レトモ官文書ノ僞造變造ナルモノハ僞造變造行爲ヲ以テ對當セラルルモノヲシテ有效ナルモノノ如クニ誤信セシムルモノタル事ヲ要ス設例檢事ノ名義ヲ以テ判決書ヲ僞造スルカ如キハ對當セラルルモノノ信不信ヲ問フ事ナク所謂絶對的不能犯トシテ犯罪構成ヲ缺如スヘシ」又何人ノ對當者カ官文書ノ僞造タル事ヲ誤信スルモノアラン哉然レハ則チ非不正行爲ナルトキハ强行力ヲ有スルトキニアラサレハ之レヲ以テ官文書ノ僞造（變造）ナリト云フ事ヲ得サルモノナルコトハ敢テ喋々ヲ要セサル所ナリトス果シテ然ラハ本件ニ於ケル郵便爲替取扱ニ關シテハ明治三十三年公達第號郵便爲替取扱規則第十九條第四ニ依リテ變換シ得ヘキモノニアラサルコトハ證人山崎善一郎ノ證言ニ徵スルモ明カナル所ニシテ本件事實ノ官文書ハ變換不能ノ官文書ナリトス而シテ右郵便爲替取扱規則ハ遞信省令內ニ於テハ絕對ノ效力ヲ有スルモノニシテ本件ノ變造文書ヲ以テ對當サル可キ東京郵便局監理課亦之レヲ變造ナリト見ルニ由ナク單ニ一片ノ記載トシテ其效ナキモノト見ルヘキモノトス然レハ該變換ノ結果文書ヲ不明ナラ

○窃盗私文書僞造行使詐欺ノ件

大審院明治四十三年(れ)第六九九号
同年五月九日判決言渡

【被告人】 田邊逸

【辯護人】 勉

【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院 【第三審】 渡花非卓澄也藏

【判決要旨】

一、郵便爲替證書ハ官文書ニ於テ全然該證書ハ官文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

二、郵便爲替證書ハ私文書ニ於テ全然該證書ハ官文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

【理由】

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告上告趣意第一點原判決ニハ被告カ第一審公廷ニ於テ判示事實ヲ自認シタル自白ニ依リ有罪ノ判決ヲ爲シタル違法アリト云フニ在リテ其事實ノ點ハ原判決ノ認メサル所ナリ

有證盜私文書僞造行使詐欺被告事件ニ付明治四十三年二月二十二日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告

ヲ爲シタリ因テ判決スルノ左ノ如シ

○事實及判決

一、郵便爲替證書ハ官文書ニ於テ全然該證書ニ關スル私文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

二、判決要旨

郵便爲替證書ハ官文書ニ於テ全然該證書ニ關スル私文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

○理由

被告上告趣意第一點原判決ニハ被告カ第一審公廷ニ於テ判示事實ヲ自認シタル自白ニ依リ有罪ノ判決ヲ爲シタル違法アリト云フニ在リテ其事實ノ點ハ原判決ノ認メサル所ナリ

シムルトキハ官文書ノ毀棄ニシテ變造ニアラサルコト明白ナリ何ノ選ム所アリテカ之ヲ殺人罪ヲ以テ處斷スルノ理由ヲ探知スルニ苦シム又電信爲替證書ハ增減變換ヲ許ササル規定ノ郵便局監理課ニ送付シタル時ニ於テ始メテ成立スルモノニアラサルコト明白ナリ然ラハ本件ノ犯罪ハ電信爲替證書ニ關スル事

行爲ハ不能行爲ニシテ殺人罪ヲ以テ處斷スルノ理由ナシ

○電信爲替證書ニ關スル事

電信爲替證書ノ毀棄ニシテ變造ニアラサルコト明白ナリ然ラハ本件ノ犯罪ハ不能行爲ニシテ殺人罪ヲ以テ處斷スルノ理由ナシ

○電信爲替證書ニ關スル事

電信爲替證書ノ毀棄ニシテ變造ニアラサルコト明白ナリ然ラハ本件ノ犯罪ハ不能行爲ニシテ殺人罪ヲ以テ處斷スルノ理由ナシ

○電信爲替證書ニ關スル事

電信爲替證書ノ毀棄ニシテ變造ニアラサルコト明白ナリ然ラハ本件ノ犯罪ハ不能行爲ニシテ殺人罪ヲ以テ處斷スルノ理由ナシ

ノ判決ヲ爲ササルヘカラサルニ之ヲ爲サヽルノミナラス在レトモ○電信爲替證書ハ增減變換ヲ許ササル規定ノ郵便局監理課ニ送付シタル時ニ於テ始メテ成立スルモノニアラサルコト現ニ本件爲替證書ノ受取人カ其名義ヲ冒用シテ作成スルモノニ非ス獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

○郵便爲替證書ハ官文書ニ於テ全然該證書ニ關スル私文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

○判決要旨

一、郵便爲替證書ハ官文書ニ於テ全然該證書ニ關スル私文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

二、郵便爲替證書ハ私文書ニ於テ全然該證書ニ關スル私文書ニ於テ分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノニ非ス

【理由】

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告上告趣意第一點原判決ニハ被告カ第一審公廷ニ於テ判示事實ヲ自認シタル自白ニ依リ有罪ノ判決ヲ爲シタル違法アリト云フニ在リテ其事實ノ點ハ原判決ノ認メサル所ナリ

シムルトキハ官文書ノ毀棄ニシテ變造ニアラサルコト明白ナリ然ラハ本件ノ犯罪ハ不能行爲ニシテ殺人罪ヲ以テ處斷スルノ理由ナシ

○電信爲替證書ニ關スル事

事實上ノ主張ニ基キ原審ノ職權ヲ以テ爲シタル證據判斷ヲ攻擊スルモノニシテ適法ノ上告理由トナラス而シテ公判廷ニ顯ハレタル證據調ノ結果ハ之ヲ判文上明示スルコトヲ要スルモノニ非ス又辯護人ノ意見ヲ採用セサル場合ニ於テハ其辯論ニ對シテ反駁ヲ爲スヘキ旨ノ規定存スルコトナケレハ之ヲ爲ササルモ違法非ス故ニ本論旨末段モ亦其理由ナシ

第二點本件ニ於ケル唯一ノ證憑物件タル爲替祭ノ裏面ニ押捺シアル「福岡師範學校令監之印」及「田中」トアル印影ハ原審ニ於ケル證人田中令監ノ供述ニ依レハ該二箇ノ印影ハ田中令監カ自ラ押捺シタルモノニ係リ而シテ右ハ盜難ヲ防ク爲メニ爲替金受取人カ本人ナルコトヲ證明スルノ趣旨ナルコト明白ナリ若シ被告ニシテ有吉虎雄宛ノ爲替祭ヲ窃取シタル者ノ爲ササル所ナリトスレハ平素被告ヲ熟知セル田中令監ニ右爲替祭ヲ示シテ證印ヲ求ムル如キハ殆ント常識ヲ有スル者ノ爲ササル所ナリ被告ノ愚ト雖モ犯罪發覺ヲ豫期シテ無茶ノ擧ヲ爲ス者ナランヤ又前掲證人ノ供述ニ據レハ被告ハ郡長ノ推薦ニ因リテ還

拔ヲ經テ入學シタルモノニシテ學資ハ縣費及郡役所ノ給與スル所ヲ以テ辨スルニ足リ又右款給以上ノ金額ヲ要スヘキ費途ハ當時存在セス蓋シ被告ハ品行方正ノ故ヲ以テ擧左長ニ選任セラレタルモノニシテ決シテ浪費ヲ爲ス者ニアラサルハナリ縱シ金融ノ必要アリトスルモ被告ノ實家及養家ニ相當ノ資産ヲ有スルカ故ニ五圓内外ノ金員ハ他人ノ爲替祭ヲ窃取セサル

モ供給ヲ仰クコト容易ナリ然ラハ被告ハ何ヲ苦シミテ本件ノ犯行ヲ爲サンヤ原審ハ證人訊問ノ結果被告ニ利益ナル反證數多擧リタルニ拘ハラス之レヲ顧ミス被告ニ對シテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云ヒ「第三點原判決ノ說示スル所ニ據レハ被告ハ校内通常郵便物ヲ納レ置クヘキ箱中ニ在リシ爲替祭ヲ窃取シタリト云フニ在レトモ福岡師範學校ニ於テハ郵便物取扱ニ關スル一定ノ規則アリ第一部（有吉虎雄モ其一ナリ）宛ノ通常郵便物ハ令監室ニ備ヘアル箱千蓋附ノ箱中ニ入

レアリテ令監及傳令ノ監視ノ下ニ受取ルモノトス故ニ第二部講習生ニ屬スル被告ノ如キハ決シテ第一部生宛郵便物ヲ窃取スルノ機會ヲ得ヘキニ非ス且證人有吉虎雄ノ供述ニ據レハ當時虎雄ハ爲替祭ノ到來ヲ待チ絕ヘス令監室ノ郵便物ヲ注視シタル際ナレハ窃犯行ノ不能ヲ推測スルニ難カラス又原判決ニハ爲替祭在中ニ係ル封書ノ外面ニ爲替祭在中ト表記シアリタリト判示シアルモ極メテ眞實ニ反スルモノト謂ハサルヘカラス爲替祭ヲ書留ニ依ラス郵送スル場合ニ特ニ爲替祭在中

ト表記スルコトハ盜難ノ虞レアレハ之ヲ爲ササルヲ通例トスルノミナラス有吉虎雄ノ證言ニ據ルモ封書ニ爲替祭在中ノ記載ナカリシコト明確ナリ然ルニ原判決ニ於テ如上ノ判示ヲ爲シタルハ被告カ彈劾セラレテ提出スルニ至リタル始末書ニ表記シアリシ旨ノ記載アリシニ因リテ誤ヲ來シタルモノト謂ハサルヘカラス原審ハ幾多ノ被告ニ有利ナル證據存在スル

ヲ等閑ニ付シテ疑フヘキ始末書ノ如キ書類ニ措信シ事理ニ適合セサル前揭判示ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○

證據ノ許否證據判斷若クハ

證據ノ取捨判斷ノ事實ヲ認定スルハ原審ノ職權ニ屬スルカ故ニ其當否ヲ論爭スル各論旨ハ孰レモ適法ノ第四點爲替祭ノ受取人署名捺印欄ニ記入シアル有吉虎雄ノ四字カ果シテ被告ノ筆跡ナリヤ否ヲ鑑定セシメテ之カ判斷ヲ下スコトハ重要ノ事項ニシテ被告及被告辯護人ハ極力其必要ヲ主張シ鑑定ヲ請求セシ原審ハ何ノ見ル所アリテカ筆跡ノ鑑定ヲ許容セス而カモ該請求ヲ排斥シタル理由ヲ判示セサルハ違法ナリト云ヒ「第五點原判決ニ於テハ被告ノ不實ノ自白ニ重キヲ措キタルニ拘ハラス爲替祭ニ押捺シアル有吉虎雄名下ノ印影ハ被告カ有吉ノ印影ヲ盜捺シタルモノニ非スシテ在合印ヲ押捺シタルモノト判定セリ而シテ其在合印タルヤ有吉ト刻シアリ右ハ被告自ラ彫刻シタルモノニ非サルコトハ被告カ其技能及餘裕ヲ有セサルニ徹シテ明白ナリ又原判決ニ說示スル如ク六月四日ニ爲替祭ヲ窃取シ翌五日之ヲ郵便局ニ差出シ金員ノ交付ヲ得タリトスレハ其二日間ニ外出シテ彫刻ヲ命セサルヘカラス然ルニ右二日間ニハ被告カ外出シタル形跡ナキニ徹スレハ前示有合印ヲ入手スルノ機會ナク到底犯罪ハ遂行スルニ由テキモノト謂ハサルヘカラス故ニ原判決ハ何等根底ナクシテ事實ヲ認定シタルモノニシテ違法アルヲ免レス又被告ハ後之ヲ浪費シ父兄ニ對スル辯解ノ爲メ故ラニ爲替祭紛失ノ旨ヲ訴ヘタルニ非ラサルヤト疑フヘキ事情ナキニシモ非サリシヲ以テ虎雄ノ筆跡及從來使用シ來リタル印章ノ取調ヲ請求シタルモ許容セラレス福岡郵便局詰監視員東野貫太郎ニ對スル檢事ノ聽取書中ノ供述記載ニ據リ被告カ有吉虎雄ノ如ク裝ヒ西新町局ヨリ金五圓五十錢ヲ騙取シタル事實ヲ認定セラレタリ然レトモ東野貫太郎ノ供述ハ同學生等ノ加ヘタル拷責ノ結果被告カ作成シタル始末書ニ根キ妄斷ヲ下シタルモノニ外ナラス原審ハ斯ル價値ナキ證據ニ據リテ被告ノ罪ヲ斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○

孰レモ原審ノ職權ヲ以テ爲シタル證據判斷ノ許否ニ關スル事項ニシテ

事實ノ認定ヲ非難スルモノナレハ適法ノ上告理由トナラス

第七七點原判決ニ於テハ被告カ明治三十八年五月二十九日言渡サレタル軍禁錮ノ刑ノ執行ヲ了リタル後五年内ニ本件ノ犯行アリタルモノトシテ累犯ノ規定ヲ準用シテ處斷シタルモ被告ハ明治三十六年十二月二十九日前示ノ如キ刑ノ言渡ヲ受ケ翌三十七年五月二十九日刑ノ執行ヲ終リタルモノニシテ本件ノ發生ハ右刑ノ執行終了後五年ヲ經過シタルモノナレハ被告ノ所爲ニ付キ累犯ヲ以テ論シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法アルモノトス又原判決ニハ被告カ故ラニ田適厚ト僞名シテ入學シタル旨判示シアルモ被告ハ僞名ノ必要ナケレハ僞名シタルニ非ス本名ノ勉ト厚トハ同訓ナレハ便宜上厚ト稱シタルニ過キス然ルニ原審ハ此等些末ノ點ヲ執ヘテ被告ノ不利ナル事實認定ヲ爲シ且被告ノ前科ヲ以テ唯一ノ材料ト爲シ有力ナル證憑ノ存セサルニ拘ハラス不當ノ認定ヲ下シ被告ヲシテ冤枉ニ泣カシムル原判決ノ違法ヲ訴ヘ公明ノ判斷ヲ煩ハサントスル所以ナリト云フニ在レトモ○其前段ハ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難シ延テ其法律適用ヲ攻擊スルモノナレハ適法ノ上告理由トナラス而シテ原判決ハ諸般ノ證憑ヲ綜合シテ被告ノ犯罪ヲ認定シタルモノニシテ被告ノ僞名及前科ヲ以テ罪證ニ供シタルモノニ非サルコト洵ニ明瞭ナレハ後段ノ論旨亦理由ナシ

辯護人法學博士花井卓藏辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點第一審判決ハ被告ハ五圓五十錢ノ通常爲替證書ノ受取人署名捺印欄内ニ有吉虎雄ト記入シ其名下ニ同人ノ印章ヲ盜捺シタルモノト認定セリ然ルニ原判決ニ有吉虎雄ノ名下ニ押用シタル印影ハ有合印ナル旨ヲ判示シ第一審判決ト其認定ヲ異ニスルニ拘ハラス控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判ニ於テ認定セル被告カ郵便爲替證ノ受取人署名捺印欄内ニ擅ニ有吉虎雄ト記入シ其名下ニ在合印ヲ押捺シテ受領證ヲ僞造シタル所爲ハ實ニ刑法第百五十九條ニ該當ス而シテ同條ノ犯罪ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ署名若クハ印章ヲ使用シ又ハ僞造シタル他人ノ署名若クハ印章ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造スルニ因テ成立スルヲ以テ文書若クハ圖畫ノ僞造ニハ他人ノ印章ノ使用又ハ僞造ニ係ル他人ノ署名ノ使用若クハ他人ノ署名ノ使用ト兩存スルコトヲ必要トセス故ニ控訴審ニ於テ第一審カ僞造シタル他人署名ヲ使用シ且他人ノ印章ヲ使用シテ文書ヲ僞造シタリト判定シタル事實ヲ審理シテ僞造シタル他人ノ署名ヲ使用シ文書ヲ僞造シタル事實ヲ認定スル所ナシトスルモ是レ一箇ノ犯罪ヲ構成スル事實ノ内容ニ付キ判定ヲ異ニシタルニ過キス固ヨリ別箇ノ犯罪事實ヲ認定シタルモノニ非ス然ラハ本件第一審判決及ヒ原判決ニ所論ノ如キ事實認定ノ異同アリトスルモ被告ノ犯罪ヲ斷スヘキ基本タル事實關係ニ毫モ影響ヲ及ホス所ナキヲ以テ原判決ニ於テ第一審判決ヲ取消ササリシハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第二點郵便局ノ振出ニ係ル爲替證書ハ刑法第五十九條ニ該當スヘキ文書ニ非スシテ同法第百六十二條ニ所謂有價證券タリ

然ルニ原判決ハ事實理由ノ部ニ於テハ被告ハ金五圓五十錢ノ通常爲替證書ニ有吉虎雄ト記入シテ僞造ヲ完成シタルコトヲ認メナカラ法律理由ニ至リ刑法第百五十九條第一項ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アリト云フニ在リ○依テ按スルニ郵便官署ノ作成ニ係ル爲替證書ハ刑法第百六十二條ニ所謂官府ノ證券ニ屬シ有價證券タルコトハ所論ノ如シト雖モ原判決ニ於テハ被告カ郵便爲替證書ヲ僞造シタル事實ヲ認定シタルモノニ非スシテ爲替證書ノ受取人署名捺印欄内ニ擅ニ他人ノ署名ヲ記入シテ爲替金受領證ヲ僞造シタル事實ヲ判定シタルモノナリ而シテ右郵便爲替證書ニ於ケル受領證ハ受取人カ其名義ヲ以テ作成シタル權利義務ニ關スル一箇ノ私文書ニシテ郵便爲替證書トハ全然分離シテ獨立ノ存在ヲ有スヘキモノトス從テ受領證カ郵便爲替證書ノ用紙ニ記載セラレタルカ故ニ郵便爲替證書ノ内容ヲ構成スルモノトシテ官府ノ證券ヲ以テ論スルヲ得ス又該受領證ハ單ニ權利行使ノ終局タル受領行爲ニ關スルモノニシテ文書ニ表示セラレタル權利ノ行使ニ付キ其文書ノ占有ヲ必要トスル有價證券ノ性質ヲ有スルモノニ非ス然ラハ原審カ前示原判決ノ認定事實ニ對シテ刑法第百六十二條ヲ適用セスシテ刑法第百五十九條ニ依リテ處斷シタルハ相當ナリ

第三點本件公判請求書ヲ閲スレハ被告ハ通常爲替證書ヲ僞造行使シタルモノトシテ起訴セラレタルコト寔ニ明白ナリトス從テ原院ニ於テハ刑事訴訟法第二百三十七條同第二百四十一條ノ法則ヲ履踐スヘキハ當然ナルニ拘ハラス其處措茲ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件公判請求書ヲ閲スルニ窃盜私文書僞造行使詐欺取財ノ罪名ヲ冠シ有吉虎雄宛爲替

郵便爲替證書ノ受領書ハ獨立存在ヲ有ス

在中ト表記シアル通常第一種郵便物ヲ窃取シ右在中ノ通常爲替證書受取人署名捺印欄内ニ擅ニ有吉虎雄ト記入シ同人名下ニ同人ノ印章ヲ押捺シ之ヲ郵便局ニ提出シ金五圓五十錢ヲ騙取シタル事實ヲ捕記シアリテ爲替證書偽造行使ノ事實ニ付テハ起訴ナク又原審ニ於テ爲替證書偽造行使ノ事實ヲ審理シタル形跡ナキノミナラス縦令所論ノ如ク郵便爲替證書偽造行使ノ所爲ニ付キ起訴アリタルモノトスルモ右所爲ハ刑法第百六十二條第百六十三條第五十四條ニ依リ二月以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノニ該當スルカ故ニ刑法施行法第二十九條ニ規定スル他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト見做スヘキモノニ該ラサルヲ以テ原審ニ於テ所論刑事訴訟法第二百三十七條ニ規定スル重罪事件ニ關スル手續ヲ履踐セサリシハ當然ナリ

第四點原判決ハ第一審判決ノ適用シタル刑法第四十九條第一項ヲ適用セス第一審判決ト其理由ヲ異ニシナカラ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ於テ認定シタル詐盜文書偽造偽造文書ノ行使及詐欺ノ各所爲ハ五ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ最モ重キ詐欺ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキモノト爲シ而シテ偽造文書ハ刑法第十九條ニ依リ處分スヘキモノト判示シタルニ徴スレハ所論刑法第四十九條第一項ヲ適用シタルコトヲ明示セサルモ之ヲ適用シタルコト自ラ明瞭ナレハ第一審判決ノ擬律ト異ナル所アルヲ以テ原判決カ第一審判決ヲ是認シタルハ相當ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂千與
明治四十三年五月九日大審院第二刑事部

條規郵法郵便第條第二爲四爲三替條替

○土地買戻請求ノ件（大審院大正八年（オ）第五百四十四號民事部判決）

【上告人】 訴訟代理人 黒田末吉 衬松山壽 中衬德重郎

【被上告人】 濵谷支太郎

【第一審】 仙臺地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○判決要旨

右當事者間ノ土地買戻請求事件ニ付宮城控訴院カ大正八年四月二十六日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

○理由

上告論旨第一點ハ本件米小作料ハ六石一斗七升六合ニシテ其期間ハ毎年十二月二十五日限リ小麥小作料六石二斗一升ニシテ其納期ハ毎年十一月十五日限リナルコトヲ不約ノ儘何等ノ事情アリトモ支拂ヲ怠リタル時ハ一日タリトモ一回ト雖モ御戻ノ一回ト看做シ前記小作料及小作料納期ヲ指スモノニシテ小作料一回タリトモ不納ノ節ハ

ハ一回ノ不納トナル事明ナリ而シテ右ノ場合ニ於テハ不納ナル文詞ハ延滯ナル文詞ト同意義ナルコト知ルヘシ然ルニ原判決ハ不納ノ文詞ヲ用ヒタルトノ間ニ本訴土地買戻權ノ有無ノ結果ヲ生スト判定シタルハ不當ナリ且原院ハ證人北川丈之進ノ證言ヲ援用シテ上告人ノ其點ニ關スル主張ヲ排斥セラレタルモ同人ノ證言ハ「賣戻期間中囚作ノ爲メニ小作料ヲ支拂ヒ乘タル場合ハ翌年度ニ繰越シテ支拂フ事若又其翌年モ囚作ナル場合ハ其翌年度ニ繰越スモ宜シト云フ譯ナリシモ平年作ノ場合ニ於テハ其賣戻ヲ爲ス時ニ當リ一ケ年分タリトモ小作料ノ滯リアリタル時ハ買戻契約ヲ無效ニスルト云フ約束ナリ云々甲第一號證中「小作料一回タリトモ不納ノ節ハ何等ノ事情アルト雖モ御戻申間敷云々」トアルハ前述ノ趣旨ナリトアリテ即チ「一ケ年分タリトモ小作料ノ滯アリタル時ハ」トハ平年作ノ場合ニ於テハ一回分ノ滯アリタルトキ買戻契約無效ノ約束ニシテ唯囚作ノ場合ハ支拂延期ヲ爲シ得ルト云フニアリ故ニ本件ニ於テ囚作ノ年柄ナキヲ以テ數量及ヒ期日ニ對シ其幾部又ハ一日ノ滯リアリタル時ハ直チニ買戻契約ノ無效ニ歸スル事明ナリ然ルニ原院カ該證言ト甲第一號證ノ約旨ヲ不當ニ解釋シ甲第一號證成立ノ日ヨリ大正八年十二月二十五日ニ至ル迄一回モ契約ノ期日ニ於テ契約ノ小作料ヲ支拂ハサルモ買戻ノ意思表示ヲ爲スニ當リ小作料五ケ年分全部支拂ヲ爲スニ於テハ買戻シヲ爲シ得ヘキ旨判決セラレタルハ乙一號證小作契約證書ノ取極メヲ無視シ且ツ證據ヲ不法ニ解釋シタル失當アリト信スト謂フニ在リ

然レトモ原審カ所論ノ如ク甲第一號證ノ趣旨ヲ解釋シタルハ即チ原審ノ專權タル解釋權ノ行使ニ外ナラサルノミナラス原審カ甲第一號證ニ用ヒタル文字ト證人北川丈之進ノ證言トヲ綜合シテ原判旨ノ如ク解シタルニ何等不法ナケレハ本論旨ハ理由ナシ

上告論旨第二點ハ原院ハ乙第一號證特約事項第二項「前項小作料其モノヲ以テ支拂ヒ致兼候節ハ貴殿御選擇ニ從ヒ代替物又ハ小作料ヲ時價ニ見積リ換算金ニシテ支拂致スヘク候事」ヲ「一方ニ於テ約定種類ノ小作料ニ換ヘ支拂フヘキ代替物ノ種類如何ハ專ラ之ヲ被控訴人ノ選定ニ委ネ他方ニ於テ換價金ヲ以テ辨濟ニ代ル事ハ控訴人ノ自由ニ任シ被控訴人ノ承諾ヲ必要トセサル約旨ナリト解スルヲ相當トス」ト判決セラレタルモ前記條項ハ代替物モ換價金モ共ニ上告人ノ選擇ニ從フヘキモノニシテ代替物ト換價金トノ間ニ何等區別ナキ事明文ノ示ス所ナリ而シテ換價金ニ對シテハ上告人ノ選擇ナキ事原院ノ認ムル所ナルヲ以テ被上告人カ自由ニ換價金ヲ以テ辨濟ニ代ヘタリトノ事實ヲ以テ本件買戻ノ效果ヲ生セシメタリトスル原院ノ認定ハ不法タルヲ免レス且原院ハ證人小野寺新治郎ノ證言並ニ甲第六號證甲第五號證ニヨリ小麥小作料ニ對シ玄米ヲ以テ支拂ヒタルハ上告人及上告人ノ婿黑田昇ニ於テ選擇シタルニ因ルト說明セラレタルモ甲第九號證ハ其但書ニ於テ明カニ大正六年度田地ノ小作料ト記載シアリ小麥ノ小作料ニ代替セシメサル事ヲ知ルヘシ況ンヤ黑田昇ハ玄米ヲ小麥ニ選擇スヘキ權能ヲ有シ居ラサルニ於テオヤ而シテ甲第六號證ニコレハ小麥二石未納分ニ對シ玄米一斗九升一合五勺ヲ代替シタルハ之ヲ見ルヘシト雖モ原院ハ右ノ內一合ヲ勝手ニ甲第五號證大正五年度分小作料一合ノ不足分ニ差引タルハ當事者ノ主張セサル事實ヲ自ラ提出シタル不法アルモノナリ而シテ右證人小野寺新治郎ハ目ニ一丁字ナク甲第六號證ニ之ハ讀得サルヲ以テ知ラスト答ヘ居リタルモノナレハ同證言ニヨリ同證ノ成立ヲ認メ得ヘキニ非ス從テ上告人ノ否認シタル同證ヲ右證言ニヨリ成立ヲ認メ上告人ノ主張ヲ排斥シタルハ失當ニシテ代替物辨濟ノ點モ亦之ヲ認ムルニ由ナキモノナリト謂フニ在リ

然レトモ原審ノ專權タル乙第一號證小作契約證書ノ第二項ニ對スル所論ノ解釋ニハ何等條理ニ反スル所ナケレハ之ニ對スル非難ハ上告適法ノ理由ト爲ラサルヲ以テ上告人カ換價金ニ付キ選擇ヲ爲ササリシトスルモ小作料ノ辨濟トシテ爲シタル提供ハ相當ナルノミナラス甲第九號證ハ如上原審ノ解釋ヲ爲スニ當リ採用セサリシ所ナルヲ以テ同號證ノ記載ヲ云爲シテ原審ノ認定ヲ非難スルハ當ラス又訴外黑田昇ニ受領權限ノ存シタルコトハ論旨第五點ニ對スル說明ニ依リ明ナリ而シテ原審カ被上告人ノ主張ニ反シ五年度小作小麥未納二石中ニ充當シタル六年度ノ小作玄米超過分一斗九升一合五勺ヨリ一合ヲ控除シ五年度分小作玄米不足分一合ニ充當シタルコトハ洵ニ所論ノ如ク且ツ右ノ認定カ甲第六號證ノ記載ニ符號セルコト明ナリト雖モ原審ハ被上告人ノ六年度迄ノ小作料完濟ニ關スル主張ノ當否ヲ審案センカ爲メニ甲第五、六號證ノ對照ニ基キ如上ノ判斷ヲ爲シ進ンテ小作料ノ完濟ヲ認定シタルモノナレハ右ハ結局被上告人ノ主張事實ニ包含セラレタルモノト解

シ得ヘク又文盲ナル證人ト雖モ其供述ニ依リ誇書ノ成立ヲ認ムルニ何等妨ケナキヲ以テ本論旨ハ總テ之ヲ採用セス

上告論旨第三點ハ原院ハ其判決末尾ニ於テ「本件買戻權ノ實行ニ就テハ大正七年度小作料ノ支拂ヲ要セサル事論ヲ竣タス・從テ同年度小作料カ完全ニ支拂ハレタルヤ否ヤハ本件買戻ノ當否ニ付判斷ノ要ナキモノト認ム」ト說明セラレタルモ被上告人ハ本件買戻意思表示ノ日即チ大正七年五月七日ニ至ル迄ノ小作料ノ支拂ヲ以テ甲第一號證約旨ニ副フモノト爲シ大正七年十二月十五日大豆二石四合大正七年十二月二十四日玄米二石一斗四升九合大正七年一月一日ヨリ同五月七日迄百二十七日ニ對スル日割計算トシテ支拂ヒタリ即チ上告人被上告人共ニ買戻ノ意思示表ノ日迄小作料支拂ハ買戻權行使上必要ト認メタルモノナリ然ルニ原院ハ當事者ノ意思ニ反シ判斷ノ必要ナシトシテ排斥セラレタルハ不法ナリ且ツ上告人ハ大正七年五月七日ヲ以テ買戻ノ意思表示アル事ヲ認メサルノミナラス假リニ同日ヲ以テ意思表示セラレタリトスルモ右意思表示ト同時ニ右數量ノ小作米ヲ提供セス却ツテ前記ノ如ク後日ニ於テ支拂ヲ爲シタルハ買戻權ヲ完全ニ行使シタルモノニアラス又訴狀提起ハ同年五月九日ナルヲ以テ同日迄ノ小作料トシテハ不足ナル事勿論ニシテ且ツ大正七年五月七日意思表示ヲ爲シタリトスルモ小麥ノ小作料ニ於テ二合ノ不足アル事ハ上告人ノ爭ヒタル點ナレハ之亦完全ニ買戻權行使ヲ爲シタルモノト云フヘカラス原判決ハ買戻權ノ有效ヲ不法ニ認メタル違法アリト謂フニ在リ

然レトモ原審ハ本訴當事者間ニ於テ買戻ノ意思表示ヲ爲スニ當リテハ既ニ支拂期日ノ到來シタル小作料全部ノ不拂ナキニ於テハ有效ニ買戻ヲ爲シ得ル約定ナリシコトヲ認定シタルモノナルヲ以テ係爭買戻ノ意思表示當時未タ支拂期日ノ到來セサル七年度ノ小作料ノ提供ヲ必要トセサルコト勿論ナレハ此點ニ付キ原審カ判斷ノ必當ナシト判示シタルハ相當ナリ被上告人ノ此點ニ關スル主張モ亦同趣旨ナルコトハ其支拂期日ノ到來後買戻ノ意思表示當時マテノ小作料ヲ支拂ヒタル旨ノ主張ニ徵シ明ナルヲ以テ原判示ハ相當ナリ從テ之カ提供ノ必要ヲ前提トセル他ノ部分ノ論旨ハ何レモ理由ナキモノトス

上告論旨第四點ハ原判決ハ大正五年小麥小作料ノ不足二石アルコトヲ認メ次ニ小作料ハ時價ニ依ル換算金又ハ代替物ヲ以テ代物辨濟ヲ爲シ得ル特約アルコトヲ認メ次ニ代替物ニ依ル代物辯濟ノ殘ハ小麥一石五斗三升五勺ナルコトヲ認メ次ニ右小麥時價ハ金二十九圓七錢九厘五毛ナル處被上告人ハ其辯濟トシテ金三十圓ヲ大正七年四月十八日上告人ニ提供シタリト認メラレタリ然レトモ原判決ハ單ニ提供シタリト判定シタルノミニシテ如何ナル提供ヲ爲シ而シテ其提供カ適法ナルヤ否ヤヲ判斷スル所ナキヲ以テ原院ハ其如何ナル提供事實ヲ判定スルニ在ルヤハ勢被上告人ノ主張事實ヲ顧ミサル可ラス而シテ被上告人ノ主張スル所ヲ見レハ「大正七年四月十八日ニ小爲替ヲ以テ金三十圓ヲ送附シタル關係ニシテ云々」(原判決摘示)ト云フニ在リテ現金ヲ債權者タル上告人ノ住所ニ持參シタリト云フニ非サルヤ明ナリ上告人ハ先ツ之ニ對シ「其殘二石ノ小麥小作料ハ本日尙支拂ヲ受ケス」ト抗爭(原判決摘示)セルヲ以テ上告人ノ抗爭ヲ排斥セントセハ其支拂アリタル事實若クハ支拂ト同一ノ效果アル提供及供託ノ事實ヲ判定セラレサル可ラス而シテ提供並ニ供託ハ適法ニ非ナレハ辯濟ノ效力ヲ發生セサルコト勿論ナレハ其適法ナル提供並供託ノ存スル事實ノ認定ヲ爲シ且其理由ハ原院ニ於テ之ヲ說明スルノ責任アリ而シテ若シ原院ノ「金三十圓ヲ大正七年四月十八日被控訴人ニ提供シ」トハ前記小爲替ニ依ル送金事實ヲ以テ適法ナル提供ト解シタルニ在リトスレハ原判決ハ不法ニ提供ノ事實ヲ認定シタルモノナリ何トナレハ本件ノ小麥小作ハ原院ノ解スル所ニ依レハ現金ヲ以テ支拂フコトヲ得ト云フニ在ルヲ以テ被上告人ハ上告人ニ對シ現金支拂ハ債務ヲ負擔スルモノナリ而シテ現金ノ支拂ハ現金ヲ以テセサル可ラサルハ勿論ニシテ小爲替ヲ以テ之ニ代フルヲ得サルコト是亦當然ナリ故ニ小爲替ヲ以テ現金ニ代フルコトヲ得ルノ特約存セサル限リ小爲替ヲ以テ當然現金ト同一ナリト認定スル能ハサルハ明カナリ蓋シ現金支拂ノ債務ニ在リテハ債務者ハ現金ヲ債權者ノ住所ニ持參シテ之ヲ支拂フコトヲ要スルニ小爲替ノ場合ニ在リテハ上告人カ現金ヲ受領スル爲メニハ郵便局ニ行キ小爲替ヲ提示シテ其支拂ヲ求メサル可カラス自己ノ住所ニ於テ直接現金ノ受領ヲ請求シ得ヘキ債權者カ郵便局ニ出張シ之ヲ受領セサル可カラサル債務ハ之ヲ負擔スヘキ理由ナシ本件ニ於テハ上告人カ小爲替ニ依ル辯濟ヲ受領スヘキ債務アルコト及ヒ其小爲替ノ提供ヲ受ケナカラ之ヲ拒絕シタル事實ヲ認定シタルニアラサレハ提供並ニ受領拒絕ノ事實ヲ肯定スル能ハサルモノトス上告人ハ特ニ小爲替ノ送附ハ適法ノ提供トナルヤ否

ヤハ之ヲ抗爭セサリシモ根本的ニ辯濟事實ノ否認ヲ爲シタルヲ以テ原院カ其否認ヲ排斥スルカ爲メ提供並ニ供託ノ事實ノ存在ヲ認定シタル次第ナレハ特ニ箇々ニ提供供託アルヲ以テ上告人ノ辯濟否認ヲ採用セスト判定スル原院ニ在リテハ其適法ナルヤ否ヤヲ當然之ヲ說明認定スルノ職責アリト信ス之ヲ要スルニ原判決ハ提供ニ關スル法則ヲ誤解シ其結果提供ノ事實ノ認定ニ理由ヲ付セサル不法アリト思量スト云フニ在リ

然レトモ郵便小爲替券カ現金ニアラサルコトハ所論ノ如シトスルモ支拂ノ爲メニスル郵便小爲替ハ取引上現金ト同一ノ作用ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ原審カ郵便小爲替券ヲ上告人ノ住所ニ送付スルコトニ依リ爲シタル提供ヲ以テ適法ノ提供ナリト判示シタルハ相當ナレハ本論旨ハ理由ナシ

上告論旨第五點ハ原判決ハ約定種類ノ小作料ニ代ヘ支拂フヘキ代替物ノ種類如何ハ專ラ之ヲ被控訴人（上告人）ノ選定ニ委ネ他方ニ於テ換價金ヲ以テ辯濟ニ代フルコトハ控訴人ノ自由ニ一任シ被控訴人ノ承認ヲ必要トセサル約旨」ナルコトヲ認定セラレ次ニ小麥小作料不足分二石ノ代物辯濟トシテ玄米四斗入十六俵ノ內大正六年度玄米小作料ヲ控除シタル餘分ヲ上告人ノ婿黑田昇ニ於テ選定受領シタル事實ヲ認定セラレタリ然レトモ上告人ハ原院ニ於テ「右ハ被控訴人カ大學附屬病院ニ入院中養子カ小作關係ヲ知ラス控訴人ノ持參シタル儘受領シタルモノナリ前示小麥ノ滯リ二石ニ對シ過拂分ノ玄米及大豆並金員ヲ以テ支拂ニ充テリトノ控訴人ノ主張ハ總テ認メス」（原判決摘示）ト陳述シ黑田昇ニ代物辯濟選定權ナキコトヲ主張シタリ斯ノ如ク選定權ヲ爭フ以上ハ原院ハ宜シク特ニ黑田昇ノ爲シタル選定ニ基ク代物辯濟ヲ有效トシ從テ被上告人ニ小作料ノ延滯ナキヲ以テ買戻權ヲ喪失セスト認定スル能ハサルモノナリ元來辯濟ノ受領ハ管理權ノ範圍內ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ヘシトスルモ代物辯濟ハ債務ノ內容ヲ變更スルモノナレハ處分ノ範圍ニ屬ス此處分權ハ單ニ親屬若クハ家族ナルカ爲メ之ヲ有スルモノニ非サルハ勿論ナリ然ルニ原判決ハ上告人ノ此抗辯アルニ拘ハラス之ニ對スル判斷ヲ遺脫シ黑田昇ノ爲シタル選定ヲ以テ上告人自身ノ爲シタル選定ノ如ク速斷シ黑田昇ノ選定カ上告人ニ對シ效力ヲ生スル所以ノ明說ヲ缺キタルハ爭點遺脫ノ不法ヲ免レスト信スト云フニ在リ

然レトモ原審ハ證人小野寺新治郎ノ證言ニ依リ訴外黑田昇ハ上告人ニ代リ小作料受領ニ關スル一切ノ權限ヲ有シタルコトヲ認定シタルモノナルコト原判旨ニ徵シ明ナリ然ラハ原審カ特ニ此點ニ付キ說明スル所ナシトスルモ毫モ不法ナケレハ本論旨ハ理由ナシ

以上說明スル如ク本件上告ハ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

郵便貯金

舊刑法第二百三條第一項

○官文書僞造詐欺取財及郵便條例違反抗告ノ件（大審院　明治三十年抗告第三號　明治三十年四月十九日決定回付）

【抗告人】原田長次郎

【原　審】長崎控訴院

○決定要旨

一郵便貯金預簿郵便爲替貯金出納簿郵便貯金通帳ハ官文書ナリ

【參　照】官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス（刑法第二百三條第一項）

○事　實

右官文書僞造詐欺取財及郵便條例違反被告事件ニ付熊本地方裁判所天草支部豫審判事カ與ヘタル免訴ノ決定ニ對スル同廳檢事森田廣矩ノ抗告ニ對シ明治三十年二月十八日長崎控訴院ニ於テ原決定ヲ取消シ本案重輕罪被告事件ヲ熊本地方裁判所ノ重輕罪公判ニ付スト言渡シタル決定ヲ不當トシ被告ヨリ抗告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百九十七條ニ則リ檢事ノ意見ヲ聽キ一件記錄ヲ調査シ審理ヲ遂クル處

○理　由

被告長次郎ハ熊本縣天草郡山口郵便局ノ雇員トシテ同局ノ郵便爲替貯金事務取扱中同局長渡邊剛策カ己レヲ信任スルノ深キヲ奇貨トシ同人ヲ欺罔シ金圓ヲ騙取センコトヲ企圖シ明治二十六年七月十九日安島イキ安島ユキ安島ワカ安島タイノ四名ヨリ各金五十圓ヲ郵便貯金トシテ同局ニ預ケ入レタル如キ事實ヲ虛構シ同局備付ノ郵便貯金預簿及郵便爲替貯金出納簿ヘ金二百圓ノ郵便貯金ヲ預リタル旨虛僞ノ記入ヲ爲シ同時ニ安島イキ安島ユキ安島タイ宛ノ郵便貯金通帳三冊ヲ僞造シ之ニ各金五十圓ヲ預リタル旨ヲ記入シ又安島ワカ宛ノ郵便貯金通帳中前同樣金五十圓ヲ預リタル旨虛僞ノ記入ヲ爲シ孰レモ剛策ノ官印ヲ盜捺シ翌八月十五日ニ至リ剛策ニ對シ決算上金二百圓不足スル旨ヲ詐稱シ補足ヲ求メタルニ剛策ハ被告ヲ信

スルノ餘リ不足ノ原因ヲモ取糺サスシテ金二百圓ヲ被告ニ交付シ被告ハ即チ之ヲ騙取シテ安島イキ外三名カ預ケ入レタルモノノ如クニ裝ヒ保管金ノ內ニ混入シ而シテ翌九月一日ニ至リ赤間郵便局貯金管理支所ニ對シ前記ノ通帳ヲ以テ貯金拂戻請求ノ手續ヲ爲シ二月七日十一日ノ二回同局ヨリ元利金二百圓五十二錢五厘ノ交付ヲ受ケタルモノニシテ其事實ノ證憑十分ナリトス之ヲ法律ニ照スニ郵便貯金預簿郵便爲替貯金出納簿僞造行使及ヒ郵便通帳僞造變造行使ノ所爲ハ各刑法第二百三條第一項第二百五條第一項ニ官印盜用ノ所爲ハ各同法第百九十七條第一項第百九十五條ニ金圓騙取ノ所爲ハ同法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該當シ尙ホ同法第二百六條第三百九十條第二項第百條ヲ適用處斷ス可キ重罪輕罪ト思料スルヲ以テ刑事訴訟法第百六十八條第百六十七條第一項末段ニ則リ公判ニ付ス可キモノトス故ニ原院カ本件ヲ熊本地方裁判所ノ重輕罪公判ニ付スト言渡シタルハ相當ナルモ事實ノ認定法律ノ適用ハ失當ノ點アリ抗告ハ結局其ノ理由アルヲ以テ刑事訴訟法第百條前段ニ則リ原決定ヲ取消シ本院ニ於テ更ニ裁決ヲ爲スコト左ノ如シ

豫審判事ノ決定ヲ取消シ本案重輕罪被告事件ヲ熊本地方裁判所ノ重輕罪公判ニ付ス

明治三十一年九月十九日大審院第一刑事部ニ於テ

舊刑法第二〇三條

○私書僞造行使ノ件（大審院　明治三十一年第九三一號　明治三十一年十一月一日宣告　破毀）

【被告人】　大槻長七

【第一審】　仙臺地方裁判所　【第二審】　宮城控訴院

○判決要旨

一故意ヲ以テ文書ヲ僞造行使スレハ文書僞造罪ヲ構成ス而シテ他人ヲ侵害スルノ惡意アルト否トハ固ヨリ問フ所ニ非ス

【參照】　官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス（刑法第二百三條第一項）

○事實

右長七カ私書僞造行使被告事件ニ付明治三十一年九月一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル公訴ノ判決ニ對シ原院檢事ヨリ上告ヲ爲シタリ

○理由

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ本案被告事件ニ付原院カ認メタル事實ハ被告ノ惡意ヲ以テ宮城縣伊具郡丸森郵便局ニ貯金シ置キシ處同年十月中妻キミカ右貯金通帳並ニ之レニ押用セシ印形ヲ携帶シテ家出シ所在不明トナリ該金ノ拂戻ヲ受クルニ差支ヲ生シタル爲メ明治三十年十一月五日キミノ名義ヲ以テ貯金通帳並ニ印形共盜難ニ罹リタル旨ノ屆書及ヒ貯金通帳引換請求書各一通ヲ作リ何レモキミ名下ニハ有合印ヲ押捺シテ同日之レヲ丸森郵便局ニ提出シ明治三十一年一月四日同郵便局ヨリ貯金通帳ノ下付ヲ受ケ同月十二日キミ名義ヲ以テ貯金拂戻請求書ヲ造リ其ノ名下ニ前同樣有合印ヲ押捺シテ同日之レヲ同郵便局ニ又同十九日貯金拂戻證書ノ裏面ニキミ名義ヲ以テ表書金員受取方ヲ大槻長七ニ委任シタル旨ノ委任文ヲ記載シ其名下ニ前同樣有合印ヲ押捺シテ同日之ヲ同郵便局ニ提出シタリトアルニ依リ被告長七カ故意ヲ以テキミノ名義ヲ僞ハリ右數通ノ文書ヲ作成シ之ヲ行使シタル事實明瞭ナリ旣ニ故意ヲ以テ文書ヲ僞造シ之レヲ行使シタル以上ハ文書僞造ノ罪成立スルコト勿論ナルニ原院ニ於テ他人ヲ侵害スルノ惡意ナキモノナルニ付其ノ

所爲罪トナラストシ無罪ヲ言渡シタルハ失當ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ文書僞造ノ罪ハ故意ヲ以テ之ヲ僞造シ之レヲ行使スレハ犯罪成立スルモノニシテ他人ヲ侵害スルノ惡意アルヲ必要トセス今原判決文ヲ見ルニ原院カ認定シタル事實ハ檢事ノ上告趣旨ニ於テ詳述シタル所ニ異ナラス果シテ此ノ事實ナレハ被告長七カ故意ヲ以テ妻キミ名義ノ文書ヲ僞造行使シタルコト分明ニシテ文書僞造罪ニ問擬セサル可カラス然ルニ原院ニ於テ其ノ所爲罪トナラストシ無罪ヲ言渡シタルハ擬律ニ錯誤アル判決ナリ而シテ原判決文ニ證據ノ明示ナキニ付本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヲ得サルヲ以テ原判決ヲ破毀シ他ノ控訴院ニ本件ヲ移送シ更ニ判決ヲ爲サシムル可キモノトス

依テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ函館控訴院ニ移ス

明治三十一年十一月一日於大審院第一刑事部公廷檢事藤堂融立會宣告ス

舊刑法第二百八十九條

○監守盜官文書變造ノ件（大審院明治三十二年(れ)第一五五〇號　明治三十三年二月二十日宣告棄却）

【被告人】大谷常次郎　【辯護人】花井卓藏

【第一審】和歌山地方裁判所第二審　大阪控訴院

○判決要旨

一官署ノ雇ニシテ官吏ノ事務取扱中其監守スル金員ヲ窃取シタルトキハ監守盜

罪ヲ構成ス

【參照】官吏自ラ監守スル金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス（刑法第二百五條）

因テ官ノ文書簿冊ヲ增減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス（刑法第二百八十九條）

官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ（刑法第二百五條第一項）

官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス（刑法第二百三條第一項）

○事實

右監守盜官文書變造被告事件明治三十二年九月二十六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意ハ明治三十年八月勅令第二百六十九號郵便及電信局官制ニ依ルトキハ郵便局ノ所員ニシテ官吏タルヘキモノヲ列擧シ所謂通信事務員ノ如キハ之ヲ一ノ官吏ト云フヲ得サルヲ以テ依據シ右通信事務員ヲ以テ官吏ト誤解シ判定セラレタルハ是レ法律ニ違背シタル不法ノ裁判タルヲ免レサルモノナリト云ヒ辯護人花井卓藏擴張書ノ第一ハ原判決ニハ證人寺中公男ノ豫審調書ニ郵便局長即チ寺中公男ヨリ雇入採用ノ上申ヲ爲シ監督廳タル大阪郵便電信局長ヨリ通信事務員ニ任スル辭令書來リタリトノ記載アレハ即チ官吏タル資格アルモノト認ムルニ足レリト判示スレトモ明治三十年八月勅令第二百六十九號中通信事務員ナル名稱ノ官吏ナキヲ見レハ本件被告ハ單純ナル雇人ニシテ官吏ト云フコトヲ得ス左スレハ被告カ偶々郵便貯金等ノ事務ヲ取扱ヒタルハ原來職權外ニ屬シ從テ被告カ取扱ヒタル金錢ハ職權ヲ有スル官吏カ其職務上監守シタルモノト云フ能ハサルヲ以テ刑法第二百八十九條ニ問擬セラル

ヘキモノニ非ス然ルニ原判決茲ニ出テサルハ擬律錯誤並ニ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○被告ハ官吏ノ事務タル郵便貯金等ノ取扱ヒヲ爲シ爲メニ監守スル處ノ金員ヲ窃取セシモノナレハ監守盜ノ犯罪ヲ構成スヘキハ言ヲ俟タサルナリ然即被告ハ執務上ノ位地ヨリ論セハ刑法第二百八十九條ニ所謂官吏中ニ包含セシモノト云ハサルヲ得ス故ニ原院カ被告ヲ官吏タルノ資格アリト認ムト說示シ同條ヲ適用シタルハ結局不當ノ判決ト云フヲ得ス」其第二ハ原判決ニ援用シタル山本「マサノ」ノ豫審調書ヲ見ルニ同人ハ無筆ナルヲ以テ代書ノ記載ナシ是レ違法ノモノナルヲ以テ從テ其證言ハ無效ナリト云ハサルヲ得ス然ルニ原院カ採テ以テ斷罪ノ證料ニ供セシハ不法ナリト云フニアレトモ○該宣誓書ヲ閱ミスルニ山本「マサノ」トノミ記載アリテ何等ノ附記アラサレハ右氏名ハ同人ノ自署ト認ムルノ外ナケハ本論旨ハ相立タス」其第三點ハ原判決事實第四後段ニハ帳簿ヲ增減變換シテ行使シタル事實ヲ認メナカラ刑ノ適用ヲ爲スニ當リ第四ノ官文書僞造行使ノ二所爲云ハヾト判示シ僞造ノ罪ニ問ヒタルハ事實認定ノ理由ト法律適用ノ理由トニ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱ミスルニ被告ハ爲替拂渡帳竝ニ爲替貯金取扱局出納簿ニ山本兵助ナル者ノ爲替金六十圓ヲ拂渡シタルモノノ如ク爲僞ノ記入ヲ爲シタルモノニシテ六十圓拂渡ノ事項ニ付テハ全ク眞實ニ背キタル事實ノ記入ニ係レハ此點ニ於ケル虛僞ノ記載ハ文書ノ變造ニ非スシテ僞造ト論斷セサルヲ得ス故ニ原判決ハ不法ニアラス」其第四ハ原院ハ貯金預簿ノ記入ヲ塗抹シタルノ所爲ハ官文書ノ增減變換ナルニ官文書毀棄ノ罪ニ擬シタルハ事實認定ト法律ノ適用トノ理由ニ齟齬アルノミナラス此所爲ハ原院認定ノ如ク犯蹟ヲ蔽ハンカ爲メニシテ被告カ監守スル所ノ金錢ヲ竊取スルノ手段ト爲シタルモノニアラサルニ原判決カ刑法第二百八十九條二項ヲ適用シタルハ法律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○前段ノ論旨ニ基キ原判文ヲ閱ミスルニ被告ハ貯金預簿中畑志場佐二郎ヨリ預ケ入レタル郵便貯金三圓十錢ノ記入アル部分ヲ塗抹シ其部分ヲシテ全ク減却ニ至ラシメタルモノニシテ其一部ヲ塗抹シ金額ニ增減ヲ生セシメタル場合ハ其事實ヲ異ニセハ右事實ニ對シテ文書ノ毀棄ヲ以テ論セサルヲ得ス故ニ原院カ之ヲ官文書毀棄罪トシテ處斷シタルハ相當ナリトス其後段ノ論旨ニ基キ按スルニ刑法第二百八十九條第二項ハ第一項竊盜ノ所爲ニ相關聯シテ離ルヘカラサル所爲ナル上ハ其窃盜ノ手段タルト否トヲ問ハス第二項ニ問擬スヘキモノナレハ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年二月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官文書變造行使詐欺取財ノ件（大審院明治三十五年（れ）第一五六九號　明治三十五年十一月二十四日宣告棄却）

舊刑法第三百九十條

【被告人】杉山直政

【第一審】東京地方裁判所　【第二審】東京控訴院

○判決要旨

一郵便貯金通帳ハ郵便局ナル官廳ニ於テ官吏カ職務上作成スヘキ文書ナリトス

從テ其記載事項ハ一私人ノ貯金證明ニ過キスト雖モ官ノ文書ニ外ナラス（判旨第一點）

一詐欺取財ヲ爲サンカ爲メ官私ノ文書ヲ僞造シ若クハ變造シタル者ハ其行爲ハ數個ナルモ合シテ一罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ刑法第三百九

十條第二項ニ依リ重キ行爲ニ從テ處斷スヘキモノニシテ刑法第百條ヲ適用スヘキモノニ非ス（判旨第二點）

【參照】人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪トシ爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」因テ官私ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シタル者ハ僞造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス（刑法第三百九十條）

○事實

右官文書變造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年七月十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

上告趣意書ノ第一點ハ原判決ハ擬律ノ錯誤アル不法ノ判決ナリ郵便貯金通帳ハ一私人カ貯金ヲ爲シ其貯金ヲ證明スルモノナレハ私文書ナルコト明瞭ナルニ原裁判所ハ之ヲ官文書トシテ被告ヲ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○郵便貯金通帳ハ郵便局ナル官廳ニ於テ官吏カ職務上作製スヘキ文書ナレハ其記載事項ハ一私人ノ貯金證明ニ過キスト雖モ官ノ文書ナリト云ハサルヘカラス故ニ原院判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ相立タス

第二點ハ原判決ハ法則ヲ適用セサル不法アリ刑法第三百九十條第一項ニ曰ク「人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタルモノ」ハ云々第二項ニ於テハ「因テ官私ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シタルモノハ僞造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス」云々トアリ故ニ詐欺取財ヲ爲スニ私文書ノミヲ僞造變造シタルトキハ數罪俱發ノ例ヲ用ユヘキモノニ非ラサルヤ明カナリト雖モ詐欺取財ヲ爲スニ該リ官文書私文書ヲ共ニ變造シタルトキハ第三百九十條二項ノ外第百條ヲ引用セサルヘカラスト信ス何トナレハ第三百九十條第二項ハ詐欺取財ヲ爲スニ官文書又ハ私文書ノミヲ僞造變造シタルトキハ實

質上ノ一罪トシテ重キ文書僞造罪ヲ以テ處罰スト云フニ在リテ詐欺取財ヲ爲スニ當リ官文書ト私文書トヲ僞造シタルトキハ官文書ニ依リテ罰スヘシトノ法意ナリト解スルコトヲ得サレハナリ左レハ本件被告事件ノ知キ詐欺取財ヲ爲スニ官文書ト私文書トヲ變造シタルトキハ宣シク第三百九十條第二項ノ外第百條ヲ適用セサルヘカラス勿論官文書ト私文書トハ官文書ヲ以テ重シト爲ササルヘカラスト雖モ去リ迚第三百九十條第二項ノミニ依リテ當然官文書ト私文書トアルトキハ官文書ヲ重キモノト爲スコトヲ得ス故ニ其輕重ヲ定メンニハ第百條ヲ適用セサルヘカラサルニ原院カ事玆ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百九十條第二項ニハ「因テ官私ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シタル者ハ其行爲ハ數個ナルモ合シテ一罪ヲ以テ處斷ス」トアリテ詐欺取財ヲ爲サンカ爲メ官私ノ文書ヲ僞造シ若クハ變造シタル者ハ其行爲ハ數個ナルモ合シテ一罪ヲ構成シ數罪ヲ構成スルモノニ非サルヲ以テ同條ニ依リ重キ行爲ニ從テ處斷スヘキモノニシテ數罪俱發ノ場合ニ適用スヘキ刑法第百條ヲ適用シヘキモノニ非ス故ニ原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

同擴張書ノ要旨ハ第一審判決ハ貯金拂戻證書ヲ指シテ金券ト稱シタルヲ第二審ニ於テ貯金拂戻證書ト更正シナカラ第一審判決ヲ取消サスシテ控訴ヲ棄却シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ金券ト記載シタルハ即チ貯金拂戻證書ナルコト明白ナレハ原院カ之ヲ貯金拂戻證書ト改メタルモ事實ニ於テ異ナル所ナケレハ原院カ第一審判決ヲ相當ナリトシテ之ヲ取消ササリシハ毫モ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年十一月二十四日於大審院第二刑事部公廷檢事奥宮正治立會宣告ス

刑法第二百三條第一項

○官文書變造行使詐欺取財ノ件（大審院明治三十六年（れ）第一三四四號明治三十六年七月三日宣告棄却）

【被告人】佐藤與吉

【第一審】札幌地方裁判所　【第二審】函館控訴院

○判決要旨

一刑法第二百三條第一項ニハ單ニ「官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ云々」トアリテ公法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルト私法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルトヲ區別スルコトナシ從テ苟モ官吏カ其職務上作製スヘキ文書ナルト以上ハ總テ官ノ文書ナリトス

【參照】官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス（刑法第二百三條第一項）

○事實

右官文書變造行使詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十六年五月二十六日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ハ原判決ハ其理由ニ於テ「同年同月十二日該通帳ヲ擔保トシテ石澤善作ニ差入レ金二十五圓ヲ借入ルルノ契約ヲ爲シ以テ該金圓ヲ同人ヨリ騙取シタルモノナリ」云々ト判示シ依テ以テ刑法第三百九十條第一項ニ問擬セリ然レトモ被告カ同條ノ所爲アリトスルニ付テハ其構成條件トシテ人ヲ欺罔シタルコトヲ要スルハ一點ノ疑ナシ是故ニ同第三百九十條ヲ律スルニ付テハ必スヤ先ツ被告人カ人ヲ欺罔シタルコトノ理由ヲ明示スヘキ筋合ナルニ拘ハラス前段欺罔ト性質上相容レサル金員借入ノ契約ヲ爲シ云々判示シ後段直チニ騙取ノ所爲ナリト判斷シタルハ啻ニ理由不備ナルノミナラス正ニ理由齟齬ノ瑕瑾アルモノナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ被告ハ金圓騙取ノ目的ヲ以テ其郵便貯金通帳中明治三十五年十一月二十日金十一圓同年十二月十三日金五圓ノ即時拂ヲ受ケ當別郵便電信局カ其摘要欄内ニ朱書ヲ以テ「即時拂」ト記入シタルヲ拭削シ更ニ墨書ニテ「預リ」ト記入シ該金圓ヲ預ケ入レタルカ如ク變造シ該通帳ヲ擔保トシテ石澤善作ニ差入レ金三十五圓ヲ借入ルル契約ヲ爲シ以テ該金圓ヲ同人ヨリ騙取シタルモノナル旨ヲ記載シアリテ被告ハ金十一圓ト金五圓ノ預ケ金ナキニ拘ハラス恰モ其預ケ金アルモノヽ如ク郵便貯金通帳ヲ變造シ之ヲ擔保トシテ石澤善作ニ差入レ即チ眞實預ケ金アルモノヽ如ク善作ヲ欺罔シ金圓ヲ騙取シタルモノナルコトハ判文上自カラ明カナルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

上告趣意擴張辯明書ハ原院ハ被告カ郵便貯金通帳ノ摘要欄内ニ記載シタル即時拂ノ文字ヲ變更シタルハ官文書變造行使ナリトシ刑法第二百三條第一項ニ問擬セラレタリ然リト雖モ郵便貯金通帳ハ果シテ官文書ナルヤ又ハ刑法第二百四條第一項ニ規定セル公證文書ナルヤ若クハ私文書ナルヤハ正ニ研究ヲ要スヘキ問題ナルヘシ御院判決例ヲ按スルニ郵便貯金通帳ハ刑法第二百三條ニ規定セル官文書ナリトセリ蓋官文書トハ官吏カ其職務上作製シタル一切ノ文書ヲ指稱スルモノトセンカ御院如上ノ判決ハ其正鵠ヲ得タルモノト謂フヘシ然レトモ我刑法ハ御院判例ノ認ムル如ク文書僞造罪ニ付テハ彼ノ所謂形式主義ヲ採用セスシテ所謂實質的主義ヲ採用シ卽チ文書ノ內容ニ包含セラルヽ事實ノ眞想ヲ僞リ因リテ以テ文書ノ證明セントスル重要ノ事項ヲ僞ルニ非サレハ犯罪ヲ組成セサルモノナルコトハ一點ノ疑ナキ所ナリ果シテ然ラハ論理當然ノ結果トシテ一ノ文書カ官文書ナルヤ私文書ナルヤ將タ又公證文書タルヤノ問題ニ付テモ亦一ニ文書ニ包含セラルヽ事項卽チ其證明ニ依リテ區別セサルヘカラサルナリ刑法ノ成文ヲ按スルニ第二百三條ニハ官文書ノ變造及毀棄ノ罪ヲ規定シ第二百四條第一項ニハ公證文書ノ僞造變造罪ノミヲ規定セリ是レ前者ハ純然タル私權ノ證明文書ナルモ其文書ニハ公證力ヲ隨伴スルカ故ニ特ニ之カ罪ヲ重刑セントスルニ過キス此法條ノ規定ヨリ推論スレハ假令官吏カ職務上作製シタル文書ト雖モ單ニ私權關係ヲ證明セシカ爲ニ作製シタル文書ハ正ニ第二百三條及第二百四條第一項ノ規定ニ包含セラレサルヤ明ケシ是ヲ以テ刑法ノ成文上官文書トハ正ニ官吏カ國家爲政ノ機關トシテ而モ公

法上ノ事項ヲ目的トシテ作製シタル文書ヲ指示スルモノト解釋セサルヘカラサルナリ若シ夫レ官吏カ其職務上作製シタル文書ハ總テ第二百三條ニ所謂官文書ナリトセンカ國家カ一私人ノ資格ヲ以テ爲ス所ノ彼ノ請負契約ニ關スル書面ノ如キモ亦官文書ナリト謂ハサルヘカラサルノミナラス刑法カ特ニ第二百四條第一項ノ規定ヲ設クルノ必要ナキニ至ルヘシ而シテ本件郵便貯金通帳ハ國家ト私人トノ間ニ於ケル金錢寄託ノ關係ヲ證明スルカ爲メニ私人ニ交付スルニ過キサルモノニシテ其性質ハ正ニ純然タル私文書ナリトス或曰ハン郵便貯金通帳ハ郵便ト云フ行政事務ノ爲メニ作製シタルモノナルカ故ニ官文書ナリト曰ク然ラス郵便貯金通帳ノ作製ニ付郵便行政事務ノ行ハルヽハ內部行政ニ過キス換言スレハ國家カ郵便貯金事務ノ爲メニ特ニ官廳ヲ設ケ官吏ヲ任用シ其事務ヲ擔任セシムルモ畢竟此關係ハ全ク行政內部ノ作用ニ止マリ其外部ニ對シ官吏カ貯金テフ働キヲ爲シ之カ通帳ヲ作製スルカ如キハ全ク公法上ノ作用ヲ爲スモノナリ一言之ヲ蔽ヘハ郵便貯金通帳ハ公法上ノ事項ヲ目的トスルモノニ非サルト同時ニ其作製ノ行政事務タルハ內部關係ナリトス或ハ曰ハン郵便貯金通帳ハ第二百四條第一項ノ公證文書ナリト曰ク然ラス蓋公證文書トハ國家ノ證明スル事實ノ確實ナルコトヲ認ムルノ義務ヲ生セシムル行政行爲ヲ伴フ所ノ文書ヲ謂フ郵便貯金通帳ハ果シテ私人ニ對シ此義務ヲ負ハシムルカ法文上之カ規定ナキノミナラス貯金通帳ハ相續ニ依ルノ外讓渡スルコトヲ得サルモノニシテ其關係ハ單ニ國家ト私人トノ寄託契約ヲ證明スルニ過キス唯官署ノ之ヲ作製スルモノナルヨリシテ所謂確定日附アル私文書ト爲リ單純ノ私文書ヨリ其證明力ノ大ナルノミナリトス若シ夫レ郵便貯金條例中幾多ノ規程ヲ設ケ貯金關係ハ恰モ行政法上ノ働キナルカ如キ觀アルモ是唯私權關係ノ制限若クハ寄託ノ條件タルニ過キサルモノナリトス更ニ進ンテ郵便貯金通帳ハ私文書ニ非スシテ官文書（刑法第二百三條）ナリトセンカ第二百四條第一項ノ公證文書ハ僞造變造ノミヲ重刑シ毀棄ノ罪ハ卽チ刑法第四百二十四條ニ問擬セラルヽニ拘ハラス本來私文書タルノ點ヲ同フシ而カモ證明力ノ輕微ナル通帳ハ獨リ第二百三條ニ依リ毀棄罪ヲモ律セラルヽノ結果ト爲ルヘシ要スルニ郵便貯金通帳ハ純然タル私文書ニシテ被告カ之ヲ變造シタル所爲ハ他ノ法條ニ依リテ之ヲ律スルハ格別原院カ之ニ對シ第二百三條ヲ適用シタルハ所謂擬律ノ錯誤アルモノナリトスト云フニ在レトモ○文書ノ僞造及變造罪ノ場合ニ於ケル官ノ文書トハ官吏カ其職務上作製スル所ノ文書ヲ云フモノニシテ公法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルト私法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルトハ之ヲ區別スルノ要ナキモノト云ハサルヘカラス何トナレハ刑法第二百三條第一項ニハ單ニ「官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ云々」トアルノミニシテ公法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルト私法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルトヲ區別スルノ文詞ナキニ依リ苟モ官吏カ其職務上作成スヘキ文書ナル以上ハ其公法上ノ關係ニ於ケルモノトナルト私法上ノ關係ニ於ケルモノトナルトヲ問ハス總テ官ノ文書ナリト云ハサルヘカサルヲ以テナリ然リ而シテ郵便貯金通帳ハ郵便局ナル官廳ニ於テ官吏カ其職務上作製スヘキ文書ナレハ其記載事項ハ私法上ノ關係ニ於ケル權利義務ノ證明ニ過キサルモ刑法第二百三條第一項ニ所謂官ノ文書ナルコトハ毫モ疑ヲ容ルヘキ所ニアラス故ニ原院カ被告ノ郵便貯金通帳ヲ變造行使シタル所爲ニ對シ同條項ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十六年七月三日於大審院第二刑事部公廷檢事岩野新平立會宣告ス

○官文書僞造行使官印盜用及窃盜ノ件（大審院明治三十六年（れ）第一七六三號棄却）

權利義務ニ關スル證書ノ僞造、郵便取扱所ト取扱人ノ事務

明治三十六年十月九日宣告

【被告人】大野義廣
【第一審】廣島地方裁判所　【第二審】廣島控訴院

刑法第百九十五條

○判決要旨

一荷モ權利ナクシテ他人名義ノ文書ヲ作成行使スルトキハ私文書僞造行使罪ハ完全ニ成立シ其文書ノ趣旨カ名義人ノ權利義務ニ關スルトキハ權利義務ニ關スル證書ヲ僞造行使シタルモノニ該當スル而シテ其僞造文書カ實證上名義人ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシトス（判旨第六點）

一郵便取扱所ハ官衙ニ非ス且郵便物取扱人ハ私人ニシテ官吏ニ非サルモ郵便取扱所ニ於テ取扱人ノ擔任司掌スル所ノ郵便事務ハ官廳ノ事務ナリトス從テ取扱人名義ノ貯金拂戻證書ヲ僞造シ之ニ取扱人ノ職印ヲ盜用シタルハ官文書僞造行使及官印盜用罪ヲ構成ス（判旨第七點）

【參照】各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ重徵役ニ處ス（刑法第百九十五條）

○事實

右官文書僞造行使官印盜用窃盜被告事件ニ付明治三十六年七月十日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

上告趣意書ノ第一ハ原判決ハ第二拂戻請求書僞造行使ノ所爲ヲ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ拂戻證書僞造並ニ取扱人ノ印面ヲ盜用シタルモノニ付同法第百九十七條第一項第百九十五條同法二百一條ヲ適用ストアルモ右ハ全ク拂戻請求書僞造行使ノ所爲ヲ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ拂戻證書僞造並ニ取扱人ノ印面ヲ盜用シタルモノニ付同法第百九十七條第一項第百九十五條同法二百一條ヲ適用スヘキ理由ナク又之ヲ押捺シタリトスルモ其拂戻證書ハ何等ノ效力ヲモ有セサルヲ以テ盜用罪ヲ構成セサルノミナラス被告ハ制規ノ手續ニ依リ拂戻ヲ爲シタル事實ヲ證明スル爲メ良幹ニ示シタルニアラスシテ唯タ其一已ノ取計ヒヲ以テ假リニ拂戻ヲ爲シタル旨申述シ之ヲ示シタルニ過キスシテ良幹モ亦タ此ノ事實ヲ承認シタル次第ニシテ被告カ該拂戻證ヲ以テ制規拂戻ヲ爲シタルノ證トシテ良幹ニ示スモ拂戻ノ手續ヲ知レル良幹ニ於テ斯カル不完全ナル證書ニ信ヲ置クヘキ理ナシ故ニ被告ニ拂戻證書僞造ノ所爲アリト認メタル原判決ハ失當ナリト云フニ在レトモ○苟クモ官文書ノ形式ヲ具フル文書ヲ作成シ之ニ官ノ印章ヲ押用シ之ヲ事實證明ノ用ニ供スルニ於テハ官文書僞造官印盜用罪ヲ構成スヘク犯人カ官文書ヲ作成シ其拂戻ノ手續ヲ成サス從テ官印盜用ヲ爲シタルモノニアラスト云フニ在レトモ○本論旨ニ對スル說明ハ辯明書第一及ヒ第三論旨ニ對スル說明ニ讓リタルヲ以テ該說明ニ依リ其理由ナキ事ヲ了知スヘシ

其第二ハ證書ヲ僞造シ行使トアルモ近藤良幹ニ示スヲ以テ行使ノ目的ヲ達シタルモノニ非スト云フニ在レトモ○僞造文書ノ行使アリトスルニハ僞造文書ヲ眞正ナル文書ナリトシテ他人ニ示シ事實證明ノ用ニ供シタルノ事實アルノミヲ以テ足レリトシ僞造文書ノ提示ヲ受ケタル相手方ノ何人タルヤハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ何トナレハ何レノ場合ニ於テモ證書ノ提示ヲ受ケタル相手方カ僞造文書ヲ以テ眞正ノ文書ナリト誤信シ不測ノ損害ヲ被ムルノ恐レアリテ文書ノ信用ヲ毀損シ取引ノ安全ヲ阻害スルノ危險ヲ生スヘケレハナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ

第三ハ第一ノ費消金ノ犯跡ヲ蔽フ爲メト有ルモ是等ハ總テ事實ト相違有之決シテ犯跡ヲ蔽フ如キ記載ハ一切セシモノ無之ニ依リ原判決ヲ取消シ更ニ相當ナル判決ヲ求ムト云フニアレトモ○本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同辯明書ヲ要スルニ其第一ハ凡ソ拂戻證書ハ制規ノ手續ヲ履ミタル上取扱人ノ職印ヲ押捺作成スルモノナリ然ルニ本件被告ノ僞造シタリト云フ拂戻證書ニ付キテハ未タ右拂戻ノ手續ヲ履行セサリシモノナレハ取扱人タル近藤良幹ノ職印ヲ盜用スヘキ理由ナク又之ヲ押捺シタリトスルモ其拂戻證書ハ何等ノ效力ヲモ有セサルヲ以テ盜用罪ヲ構成セサルノミナラス被告ハ制規ノ手續ニ依リ拂戻ヲ爲シタル事實ヲ證明スル爲メ良幹ニ示シタルニアラスシテ唯タ其一已ノ取計ヒヲ以テ假リニ拂戻ヲ爲シタル旨申述シ之ヲ示シタルニ過キスシテ良幹モ亦タ此ノ事實ヲ承認シタル次第ニシテ被告カ該拂戻證ヲ以テ制規拂戻ヲ爲シタルノ證トシテ良幹ニ示スモ拂戻ノ手續ヲ知レル良幹ニ於テ斯カル不完全ナル證書ニ信ヲ置クヘキ理ナシ故ニ被告ニ拂戻證書僞造ノ所爲アリト認メタル原判決ハ失當ナリト云フニ在レトモ○苟クモ官文書ノ形式ヲ具フル文書ヲ作成シ之ニ官ノ印章ヲ押用シ之ヲ事實證明ノ用ニ供スルニ於テハ官文書僞造官印盜用罪ヲ構成スヘク犯人カ官文書ヲ作成シ

官印ヲ押用スルニ付キ先ツ以テ踐行スヘキ制規ノ手續ヲ履ミタルヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ何トナレハ苟クモ官文書ノ形式ヲ有スル文書ヲ作成シ不正ニ官印ヲ押捺シテ之ヲ使用セルニ於テハ官文書僞造官印盜用罪ハ完全ニ成立スヘク其官文書ノ效力如何ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサヽルヲ以テナリ故ニ上告前段ノ論旨ハ理由ナク其後段ノ論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ是又上告適法ノ理由トナラサルモノトス其第二ハ被告ハ金員費消ノ點ニ付キテハ良幹ニ首服シタルモノナレハ滅等ノ恩典ニ浴スヘキモノナルニ原院カ何等ノ減等ヲ爲サヽルハ失當ナリト云フニ在レトモ○被告人カ自首ヲ爲シタルヤ否ヤハ原院カ其事實認定ノ職權內ニ於テ確定スヘキ事實問題ナルヲ以テ此點ニ關スル當否ハ上告ノ理由トナラサルモノトス而シテ本件ニ在テハ被告カ良幹ニ對シ金員費消ノ點ニ付首服シタリトノ事實ハ原院ノ認メサル所ナレハ原院カ減等ヲ爲サヽリシハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナキモノトス

其第三ハ請求書僞造行使ノ點ニ付テハ被告ノ作成シタル日高常市名義ノ請求書ハ同人ノ通帳ニ拂戻ノ記載ナキヲ以テ何等效力ナク隨テ同人ノ權利義務ニ毫モ影響ヲ及ホサヽルヲ以テ刑法第二百十條ヲ適用スヘキ限リニアラスト云フニ在レトモ○本件ノ拂戻請求書ハ拂戻人タル日高常市ニ於テ其貯金ノ返還ヲ請求スル旨ヲ記載シタル書面ナレハ刑法第二百十條第一項ニ所謂權利義務ニ關スル書面ナルコトハ誠ニ明瞭ナリ故ニ擅ニ該書面ヲ作成シタル被告ノ所爲ハ右第二百十條第一項ニ該當シ同條ノ刑ニ問擬セラルヘキモノトス被告ニ於テハ常市ノ通帳ニ拂戻ノ記載ナク隨テ右請求書ハ無效ナルヲ以テ同人ノ權利義務ニ何等ノ影響ヲ及ホサヽル旨主張スルモ苟モ權利ナクシテ他人名義ノ文書ヲ作成行使スルトキハ私文書僞造行使罪ハ完全ニ成立シ其文書ノ旨趣カ名義人ノ權利義務ニ關スルトキハ犯人ノ所爲ハ即チ權利義務ニ關スル證書ヲ僞造行使シタルモノニ該當スヘク其僞造文書カ實體ニ於テ名義人ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤハ犯罪ノ成立ト何等ノ關係ヲ有セサルモノナリ何トナレハ法律カ文書僞造罪ヲ罰スルハ僞造文書カ名義人ニ對シテ完全ナル效力ヲ生スルカ爲メニアラスシテ犯人カ僞造文書ヲ利用シ他人ヲ欺キテ不測ノ損害ヲ被ラシメ其結果文書ノ信用ヲ毀損シ取引ノ安全ヲ害スルノ危險ヲ防止スルカ爲メニ外ナラサルヲ以テナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ

其第四ハ郵便取扱人ハ官吏ニアラス私人ヨリ保證ヲ立テ一等郵便局ニ願出テ郵便局ハ私人ヲ信用シ郵便事務ノ取扱方ヲ許可スルモノニ外ナラス左レハ取扱所ニ於テ作成スル文書ハ官文書ニアラス取扱所ニ於テ使用スル印ハ官印ニアラス一ハ私文書ニシテ一ハ私印ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ郵便取扱所ノ官衙ニアラサルコト及ヒ郵便取扱人ハ私人ニシテ官吏ニアラサルコトハ論ヲ俟タサル所ナリト雖モ是レカ爲メ郵便取扱所ニ於テ取扱人ノ擔任司掌スル所ノ郵便事務ハ官廳ノ事務タルコトヲ妨ケサルモノトス蓋シ我國ニ於テハ郵便事務ハ常ニ必ラス官廳ノ事務タルコトヲ要シ私人カ其一個ノ業務トシテ郵便事務ヲ取扱フコトヲ許サス隨テ一私人タル郵便取扱人カ郵便事務ヲ取扱フ場合ト雖モ取扱人ハ自己ノ義務トシテ自己ノ名義ヲ以テ郵便事務ヲ取扱フニハアラスシテ官廳ノ名義ヲ以テ官廳ノ事務ヲ取扱フモノニ外ナラス換言スレハ郵便事務ハ官廳行政事務ノ一部ニシテ官廳カ郵便事務本來ノ性質ニ從ヒ其所屬官吏ヲシテ之ヲ管掌セシムルト若クハ便宜官吏ニアラサル郵便取扱人ニ命シテ之ヲ取扱ハシムルトハ官廳ノ行政事務タル郵便事務ノ性質ニ毫モ影響ヲ及ホサヽルモノトス郵便事務ニシテ既ニ此クノ如キ性質ヲ有スル以上ハ此事務ヲ處理スル上ニ於テ作成スル書面並ニ之レニ押用スヘキ印章モ亦タ郵便事務員其モノト等シク官廳ノ書類官廳ノ印章タルノ性質ヲ帶フルヤ當然ノ筋合ニシテ之ヲ目スルニ私文書私印ヲ以テスルコト能ハサルヤ明カナリ而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ吳和床町郵便電信受取所取扱人近藤良幹名義ノ貯金拂戻證書ヲ僞造シ之ニ同人ノ職印ヲ押捺シ良幹ニ提示シテ之ヲ行使シタルモノニシテ貯金拂戻證書ハ郵便事務ノ取扱上ニ於テ作成スル書面ニシテ郵便取扱人ノ職印モ亦タ郵便事務ニ關スル書面ニ押用スヘキ印章ナレハ被告ノ僞造シタル文書ノ官文書ニシテ其盜用シタル印章ノ官印ナルコトハ明確ナリトス故ニ原院カ被告ニ官文書僞造官印盜用ノ所爲アリトシテ刑ヲ言渡シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

同追申書ハ上告辯明書ノ主旨ヲ反覆辯明スルニ過キサルヲ以テ重ネテ說明ヲ爲スノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十六年十月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○郵便法違犯官私文書僞造行使監守盜ノ件（大審院明治四十年(れ)第六四七號明治四十年七月五日宣告棄却）

舊刑法第三百九十五條

【被告人】小笠原治助 【辯護人】花井卓藏 音羽耕逸 秋山朗

【第一審】盛岡地方裁判所 【第二審】函館控訴院

○判決要旨

一豫審調書ニ所屬官署印ノ押捺ナク且其印ヲ用ユルコト能ハサル旨ノ記載ナキモ其冒頭ニ於テ出張先ニ係ルコトヲ明記シタル以上ハ特ニ出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺シ能ハサルコトヲ記載セサルモ違法ニ非ス

【參照】受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス（刑法第三百九十五條）

○事實

右郵便法違犯官私文書僞造行使監守盜被告事件ニ付明治四十年五月十七日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書第一ハ自分ハ受寄ノ財物又ハ委託ヲ受ケタル金額ヲ費消シ又ハ官金ヲ竊盜シタル覺ナキモノナルニ原院ハ判決上事實トシテ第一乃至第十三ニ於ケル金額ヲ費消窃盜シ以テ官私文書ヲ僞造シタルモノト事實ヲ不當ニ認メラレタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニ外ナラサレハ上告ノ理由タラス

第二ハ假リニ自分ニ於テ前項ノ如キ犯罪行爲アリトスルモ其預リ貯金ヲ費消シタル所爲ニ對シ原院カ刑法第三百九十五條後段ヲ適用ハ騙取其他詐僞ノ所爲アリタル場合ニ始メテ適用スヘキ條文ニシテ本件ノ如キハ唯タ貯金トシテ預リ金額ヲ費消シタルニ止マリ別ニ進テ詐僞若クハ騙取シタル等ノ所爲アルニ非ラサレハナリト云フニ在リ○然レトモ原判決第四事實後段ノ所爲ハ上告人ハ受託ニ係ル金圓ヲ費消スル爲メ或ハ貯金拂戻請求書ヲ僞造シ或ハ郵便局ノ印又ハ其局長ノ職印等ヲ盜捺シ以テ貯金即時拂戻證書ヲ僞造シ或ハ貯金拂渡簿並ニ貯金通帳ニ貯金ヲ拂渡シタル旨ノ虚僞ノ記入ヲ爲シタルモノナルヲ以テ其所爲カ刑法第三百九十五條後段ニ該當スヘキハ勿論ナリ而シテ原院ハ右ノ所爲ニ對シ同條後段ヲ適用シタルモノナルニ付本趣意ハ理由ナシ

第三ハ砂子孫七外十七名ヨリ貯金トシテ預ケ入レタリトスルモ其金額合計二百三十九圓ナルコトハ原判決第四事實ノ記載ニシテ而シテ松右衞門ノ貯金ノ内四圓九十錢ハ三十九年一月十一日ニ同人自ラ之カ即時拂ヲ請求シテ受取濟ナル事ハ同人ノ申立ニ係リ豫審調書上明ナル事實タリ故ニ同第四事實ノ部中特ニ（砂子松右衞門ヲ除ク）云々ト記載セラレシ所以ナルヘシ然ラハ即チ假ニ被告カ該全部貯金金額ナル二百三十九圓中百五十圓六十錢ノ外ハ之カ費消ヲ爲シタルモノナリトスルモ砂子松右衞門カ即時拂戻トシテ自身直接受取リタル四圓九十錢ハ被告カ費消セシニアラサル事ハ自明ノ理ナレハ原判決ハ其金額ヲ控除セサルヘカラス然ルニ事茲ニ出テス二百三十九圓中百五十圓六十錢ノ外即チ八十八圓四十錢ヲ被告カ全部費消シタリトノ判決ハ事實理由ノ齟齬シタル不法ノ判決タルヲ免レスト云フニ在リ○然レトモ原院ハ其判決第四事實ノ部ニ

於テハ上告人ハ砂子孫七外十七名（其中砂子孫右衛門ヲ包含ス）カ甲子郵便局ニ預ケ入レタル金二百十九圓ノ内八十八圓四十錢ヲ費消シタル事實ヲ認メ其内四圓九十錢ヲ費消シタル事實ヲ認メタルモノニアラサルヲ以テ本趣意ハ結局原院カ其職權ヲ以テ爲シタル事實ノ認定ト證據ノ取捨判斷トヲ非難スルニ外ナラス依テ適法ノ上告理由タラス

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書第一點ハ官吏公吏ノ作ルヘキ書類ニハ其所屬官署公署ノ印ヲ押捺スヘク若シ之ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スヘキコト刑事訴訟法第二十條第一項ノ明定スル所ナリトス原判決カ斷罪ノ證據（第四事實）ニ採用シタル藤井馬之助ノ豫審調書ニハ裁判所ノ印ヲ用ヒス又之ヲ用ユル能ハサル事由ヲ記載セサルカ故ニ全部無效ニ歸スヘキコト明白ナルニ拘ハラス輒ク採テ以テ罪證ニ供シタルハ法則ニ違背スル不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ藤井馬之助ノ豫審調書ヲ閱スルニ其作成者所屬官署ノ印ヲ押捺シアラサルコト並ニ其印ヲ用ユル能ハサル事由ヲ記載シアラサルコトハ上告所論ノ如シト雖同調書冒頭ニハ於岩手郡上閉伊郡甲子村四番地大橋九右衛門方云々トアリテ其作成カ出張先ニ係ルコト明カナレハ所屬官署ノ印ヲ押捺シ能ハサルコト勿論ナリ而シテ出張先キニ係ル旨ノ冒頭ノ記載ハ所屬官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハサル事由ノ記載ト同一ニシテ特ニ出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハサル旨ヲ記載シアラサルモ爲メニ其調書ハ刑事訴訟法第二十條第一項ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス依テ本趣意ハ理由ナシ

第二點ハ原判決ハ其第五事實ニ於テ「甲子村德田八重カ明治三十九年二月十六日大橋郵便局ニ預ケ入レタル貯金五圓ヲ被告ニ於テ受取リ保管中其頃擅ニ之ヲ居村ニ於テ費消シタリ」ト判示シ此事實ヲ以テ刑法第三百九十五條前段ニ問擬セリ然ルニ德田八重カ大橋郵便局ニ預ケ入レタル貯金五圓ヲ被告ニ於テ受取リタルハ單純ナル委託關係ニ因ルモノナルヤ將タ郵便貯金トシテ預ケ入レタル金圓ヲ職務上受取リタルモノナルヤ明カナラサルニ拘ハラス漫然委託金費消罪ニ問擬シタル原判決ハ擬律錯誤若クハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ原判決第五ノ事實ハ德田八重カ明治三十九年二月十六日郵便貯金トシテ大橋郵便局ニ預ケ入レタル貯金五圓ヲ上告人ニ於テ職務上受取リ保管中擅ニ之ヲ費消シタリト云フニ在ルコト其判文上自カラ明カナリ而シテ上告人ハ郵便局ノ雇員タル通信事務員ニシテ官吏ニアラサルヲ以テ（明治三十六年三月遞信省公達第二百九十二號通信官署及郵便爲替貯金管理用雇採用規定）其職務上受領シタル金圓ヲ擅ニ自己ノ用途ニ費消シタル所爲ハ委託金費消罪ヲ構成スルモノニシテ監守盜罪ヲ構成スルモノニアラサレハ原院カ右所爲ニ對シテ刑法第三百九十五條ノ前段ヲ適用シタルハ相當ニシテ本趣意ハ理由ナシ

辯護人晉羽耕逸　秋山朗上告辯明書一ハ第一審ニ於テ沒收ノ言渡ヲ爲シタル豫第一號證ノ十五、砂子松右衛門貯金通帳僞造ノ部分ハ第二審宮城控訴院ニ於テ差出人ニ還付ノ言渡ヲ爲シ此點ニ對シテハ上訴期間內上訴ナクシテ確定シタルモノニ係レリ（參照記錄第五百四十四丁、同第六百十六丁）然ルニ原審函館控訴院ニ於テ此確定トナリタル判決ノ部分ニマテ立入リ裁判ヲ下シ再ヒ該通帳ハ之ヲ差出人ニ還付スル旨言渡シタルハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在リ○依テ宮城控訴院ノ判決ニ對スル上告申立書ヲ閱スルニ右ハ官私文書僞造行使等被告事件ニ付明治三十九年十一月十四日宮城控訴院ニ於テ一審ノ判決ヲ取消シ更ニ輕懲役六年ノ言渡ヲ爲シタルモ右判決服從難致此段上告申立候也トアリテ其上告ノ申立ハ主刑ニ對スルモノナリト雖モ主刑ニ對スル上訴ハ其事件ニ關スル刑事上ノ總テノ裁判ニ對シテモ亦其效力ヲ生スルモノナルヲ以テ當院ハ其上告ニ基キ囊キニ宮城控訴院ノ判決全部ヲ破毀シ事件ヲ原院ニ移送シタルモノナリ故ニ其移送ニ基キ原院ニ於テ宮城控訴院ノ判決ハ全部破毀セラレタルモノトシ更ニ豫第一號證ノ十五砂子松右衛門貯金通帳ハ之ヲ差出人ニ還付スル旨言渡シタルハ毫モ違法ニアラス

二ハ原院下調書（記錄第六百八十四丁）ヲ查スルニ其冒頭ニ明治三十年二月二十五日被告人ヲ訊問シタル旨記載アリ然レトモ事件カ原院ニ繫屬スルニ至リタルハ明治四十年二月中ナル事檢事總長松室致ノ記錄送付書及函館控訴院檢事今井時太郎ノ記錄提出書ニ徵シ疑ヲ容レス果シテ然ラハ原院ニ於テハ未タ事件ノ繫屬前先ツ重罪事件ノ下調ヲ爲シタルニ歸シ斯ル違法ノ調書ハ法律上之ヲ存セサルニ等シク畢竟原審ハ適法ナル重罪事件ノ下調ヲ爲スコトナクシテ直チニ公判手續ヲ開始シタル不法アリ因テ得タル原判決ハ全部破毀ヲ免レヘカラスト思料スト云フニ在リ○然レトモ原院下調調書ヲ閱スルニ其

冒頭ニハ明治四十年二月二十五日被告人ヲ訊問シ云々トアリテ所論ノ如キ記載ナキヲ以テ本趣意モ亦理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
檢事河村善益干與明治四十年七月五日大審院第一刑事部

○監守盜官印官文書僞造行使官文書毀棄等ノ件（大審院明治四十一年(れ)第二三〇號明治四十一年四月九日宣告破棄）

【被告人】金野金治【辯護人】飯田宏作
【第一審】仙臺地方裁判所【第二審】宮城控訴院

○判決要旨

一郵便貯金通帳ニ利子ノ記入ヲ爲ス事ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ職務權限ニ屬スルモノニシテ郵便局ノ職務權限內ニ在ラス故ニ郵便局長カ自己ノ名ヲ以テ貯金通帳ニ利子ヲ記入スルモ其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シタルモノト謂フヲ得ス（判旨第一點）

一併合審理ノ場合ト雖豫審判事カ甲罪ニ付キ旣ニ證人資格ヲ調査シ宣誓ノ上訊問シタル證人ヲ爾後新ニ訴追セラレタル乙罪ニ付キ再ヒ訊問スルニ當リテハ更ニ其資格ヲ問査シ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラス（判旨第二點）

○事實

右監守盜官印官文書僞造行使官文書毀棄等被告事件ニ付明治四十一年二月八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

辯護人飯田宏作上告理由擴張辯明書第一點原判決ハ第二ノ犯罪トシテ郵便貯金通帳ニ利子金一圓四十錢四厘ト記入シ被告ノ官氏名即チ荻ノ濱郵便局長金野金治ト署シ同局長ノ印ヲ押捺シタリトノ事實ヲ認メ官文書僞造官印盜用ノ犯罪ナリトシテ處斷セラレタリ然レトモ此ノ利子記入ハ三等郵便局長ノ職權ナリトセンカ一圓四十錢四厘ノ利子ヲ生シタル事實ナルカ故ニ元ヨリ文書ノ僞造罪ヲ構成セス若シ此ノ記入ハ三等郵便局ノ職權ニ非ラストスレハ署名シタル官吏ノ作ルヘキモノニ非ラサレハ官ノ文書ト云フコトヲ得ス即チ原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第二百五條第二項ハ官吏カ職務上作成ノ權限アル文書ヲ僞造スルモノナレハ被告カ貯金通帳ニ利子金一圓四十錢四厘ト記入シタル所爲ハ其職務上作成ノ權限ナキ文書ヲ作成シタルモノニシテ前條項ニ該當セサルモノトス何トナレハ明治三十八年五月遞信省令第三十六號郵便貯金規則第二十五條ニ貯金預ケ人ハ通帳ニ元加利子ノ記入ヲ受クル爲毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其受領證ヲ受取ルヘシトアリ又其第二十六條ニ前條ノ通帳ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ元加利子ノ記入ヲ爲シ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ストアリ左スレハ利子記入ノ事ハ郵便爲替管理所又ハ同支所ノ職務權限ニ屬スルモノニシテ郵便局長タル被告ノ職務權限內ニアラサルコト明ナレハ被告カ自己ノ名ヲ以テ貯金通帳ニ利子ヲ記入セシハ官文書ノ形式ヲ有セサル文書ヲ作成シタルモノニシテ之ヲ其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シタルモノト謂フヲ得サレハナリ故ニ被告ノ所爲ハ刑法第二百五條第一項ニ該當スルモノニ非サルニ原院カ同條ニ問擬シテ處罰ヲ爲シタルハ失當ナリトス

第二點原判決ハ第一事實中（ハ）ノ證據ニ證人小倉むめ第二調書ヲ援用サレタリ然ルニ小倉むめハ明治四十年八月五日第一回取調ノ際宣誓ヲ爲シ（ハ）ノ犯罪事項ハ同年九月二十三日ニ至リテ檢事ノ訴追スル所ニ係ル故ニ此事項ノ證人トシテ訊問サルニ當リテハ更ニ證人ノ資格少クトモ民事原告人タラサルヤ否ヤニ關シ調査ヲ爲シタル後ニ非サレハ證人トシテ訊問スルコトヲ得サルニ此等ノ手續ヲ爲サス第一回ノ證人調ノ引繼トシテ此事項ニ關スル訊問ヲ爲シタルハ不法ナリ從テ此不法ノ調書ヲ採用シテ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決モ又不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ併合審理ノ場合ト雖豫審判事カ甲罪ニ付既ニ證人資格ヲ問査シ宣誓ノ上訊問ヲ爲シタル證人ヲ其後新ニ訴追セラレタル乙罪ニ付再ヒ訊問スルニ當リテハ更ニ證人ノ資格ヲ問査シ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラス然ルニ本件ニ於テハ豫審判事カ證人小倉むめニ對シ第一回ノ訊問後新ニ訴追セラレタル（ハ）ノ事件ニ付第二回ノ訊問ヲ爲スニ當リ證人ノ資格ヲ問査セサリシハ矢當ニシテ其訊問調ヲハ無效ナリトス而ルニ原院カ之ヲ採リテ罪證ニ供シタルハ違法ニシテ論旨ハ理由アリ既ニ此點ニ付原判決ヲ破毀移送スル以上ハ上告趣意書ニ付キテハ更ニ辯明ヲ爲スノ要ナシ

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムルタメ本件ヲ東京控訴院ニ移送ス

檢事鈴木宗言干與明治四十一年四月九日大審院第二刑事部

○官印盜用官文書僞造行使ノ件（大審院明治四十一年（れ）第五四〇號明治四十一年六月二十九日宣告棄却）

舊刑法第二百五條

【被告人】原　　【辯護人】渡邊輝之助

【第一審】熊本地方裁判所　【第二審】長崎控訴院

○判決要旨

一郵便局長ハ郵便貯金預ケ人ノ眞僞ヲ調査スヘキ職責ヲ有ス故ニ虛構ノ預ケ人名義ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲サントスル者アル場合ニ郵便局長ニ於テ其虛構ナルコトヲ知ルトキハ預入ヲ拒ムヘキモノトス（判旨第一點）

一郵便局長カ數多ノ貯金預ケ人名義ヲ虛構シテ郵便切手ニ依ル貯金預入ノ事實ヲ自己ノ管掌文書ニ記載シ之ヲ眞正ナル官文書トシテ行使シタル所爲ハ刑法第二百五條ノ犯罪ヲ構成スト雖シテ其貯金預入カ制限額ヲ超過セサル爲メ有效ナリトスルモ此事實ハ罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及サス（同上）

【參照】官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ（刑法第二百五條第一項）

○事實

右官印盜用官文書僞造行使被告事件ニ付明治四十一年五月十六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書第一點ハ熊本縣菊地郡陳內村郵便局長トシテ職務取扱中該執務成績ノ良好ナルコトヲ示サントノ虛榮心ニ驅

ラレ自ラ出資ヲ爲スニ拘ハラス虛無ノ名義ニテ郵便貯金ヲ爲サシト欲シ明治四十年二月二十四日ヨリ同年十月二十六日迄ノ間同郵便局ニ於テ原正外二百六十一名ノ虛構名義ヲ用ヒ二百六十二通ノ郵便通帳ヲ作リ一通ニ付一回乃至九回總計六百二十五回毎回郵便切手ニテ金一圓ノ預入手續ヲ爲シ其都度自ラ管掌スル郵便局ノ貯金預簿ニ右虛構名義ニ因ル貯金預事項ヲ記載シテ以テ其部分ヲ僞造シ之ヲ同局ニ備ヘ置キ同時ニ自己ノ管掌ニ係ル貯金預入報告書ニ同事項ヲ記載シテ之ヲ下關郵便爲替貯金管理支所ニ遞送行使シタルモノナリト判示シ之ニ對シ被告ハ以上ノ事實ハ實害ヲ生セサル行爲ナルヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノニアラスト主張シタルニ單ニ此ノ事實ハ實害ヲ伴フコトモ亦明ナリト云フニ止マリ實害ノ生スル事實關係ヲ說明セサルハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ〇刑ノ言渡ヲ爲ス判決ニ裁判所カ認メタル犯罪構成ノ事實及ヒ之ヲ認メタル證據ヲ明示シテ法律ノ適用ヲ爲シタル以上ハ法律ノ要求スル判決ノ理由ハ具備スルヲ以テ被告ノ抗辯ヲ排斥スル理由ノ如キハ之ヲ說明スルノ要ナシ原判決ハ被告カ官文書ヲ僞造シ官印ヲ盜用シタル犯罪事實ヲ認メ其證據及法律上ノ理由ヲ明示シタルヲ以テ法律ノ要求スル判決ノ理由ニ於テ缺クル所ナシ故ニ所論ノ如キ被告ノ抗辯ニ對シテハ固ヨリ之ヲ判文ニ表示シテ說明ヲ與フルノ要ナキヲ以テ原院カ被告ノ抗辯ニ對シ此事實（原判決ニ認示シタル犯罪事實）ハ實害ノ伴フコトモ亦明ナリト附記シ實害ノ生ス可キ事實理由ヲ詳說セサルモ原判決ハ理由不備ニアラス本論旨ハ理由ナシ

辯護人渡邊輝之助上告趣意辯明書ハ第一點第一審判決原本ヲ見ルニ「同時ニ自己ノ管掌ニ係ル貯金預入報告書ニ同事項ヲ記載シテ之ヲ僞造シ之ニ自己ノ監守スル同局日附印ヲ盜捺シ遂次之ヲ下關郵便爲替貯金管理支所ニ遞送行使シタルモノナリ」トアルモ遂一ナル文字ハ全部ト解スルノ外ナケレハ右報告書ハ何時ニ於テ行使シタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ卽チ犯罪成立ノ時期不明ナルヲ以テ控訴審ハ之ヲ取消シ更正ス可キニ控訴棄却ヲ宣シタルハ刑事訴訟法第二百六十一條ノ適用ヲ誤レリト云フニ在ルヲ以テ〇第一審判決ヲ閱スルニ遂一ナル文字ヲ用ヒ原判決ノ如ク遂次ナル文字ヲ用ヒスト雖モ犯時ノ明治四十年二月二十四日ヨリ同年十月二十六日マテノ間ナルコトハ第一審判決ニ明示スル所ナルヲ以テ犯罪成立ノ時期不明ニアラス從テ本論旨ハ理由ナシ

第二點官印トハ官署ヲ表示スル印ナリ日附印ナルモノハ讀ンデ字ノ如ク或物件ノ上ニ限リ押捺スル性質ニシテ官署其物ヲ表示スルニアラス或ハ刑法第百九十六條ノ記號印章ニ準スヘキハ格別同第百九十五條ニ問擬セルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノリナト云フニ在レトモ〇郵便局ノ日附印ハ產物商品又ハ書籍什物等ニ押用スルモノニアラスシテ郵便局ヲ表示シ法規ニ基キ事實證明ノ爲メ郵便局ノ使用スルモノナルヲ以テ刑法第百九十五條ニ所謂官署ノ印ナリ從テ本論旨ハ理由ナシ

第三點第一審ニ於ケル明治四十一年一月二十日受命判事ノ訊問調書ヲ查スルニ前段「共ニ左ニ署名捺印ス」トアルモ後段ハ之ニ反シ「被告人ハ印形持參セス捺印不能」トアリ前後相容レサル記載ナリ豫備訊問調書ニハ被告人ノ署名捺印ヲ要セサルトスルモ既ニ之ヲ必要トスルノ解釋ニ依リ斯ノ如キ形式ニ基キ訊問セシ上ハ被告人ノ署名ト捺印トハ最モ大切ノモノナレハ前後一致セサル謂レナシ然ルニ前上ノ記載不明ニ歸由ナシ卽チ調書ノ效テク豫備訊問ヲ爲サスシテ重罪公判ヲ開キタル不當タルヲ免カレサルモノトス控訴審ノ第一審判決ヲ取消ササルハ第一點同樣ノ失點ナリト云フニ在ルヲ以テ〇第一審ニ於ケル受命判事ノ豫備訊問調書ヲ閱スルニ右讀聞ケタル處相違ナキ旨申立ツルニ付共ニ左ニ署名捺印ス被告人原融トアリテ被告ノ氏名ノ左側ニ印所持セス捺印不能ト附記シアルコトハ相違ナキモ既ニ捺印不能ノ附記アルノミナラス現ニ被告ノ氏名ノ下ニ捺印ナキヲ以テ見レハ左ニ署名捺印ストアル記載中捺印ノ二字ハ立會書記ニ於テ當然削除スヘキヲ誤テ削除セサリシモノナルコト自ラ明白ナリ而シテ重罪事件ニ於ケル受命判事ノ豫備訊問調書ハ被告人ノ署名捺印ヲ要スル規定ナキカ故ニ被告人ノ署名捺印ナキモ違法ニ非サルヲ以テ所論ノ豫備訊問調書ハ之ヲ無效ト謂フヲ得ス從テ本論旨ハ理由ナシ

第四點公判始末書ハ省略ニ失スルノ甚シキ殆ント始末書ノ體ヲ爲サス裁判長曰ク「官印盜用官文書僞造行使ノ點ヲ除キ此樣ナル手續ヲ爲シタル事ハ相違ナイカ」被告ノ答フル所亦一トシテ官印盜用官文書僞造ニ及ハス卽チ裁判長ハ此ニ所爲ニ就テハ訊問ヲ爲サス從テ被告モ亦答辯ヲ爲ササルヲ以テ官印盜用、官文書僞造ニ限リ審理ヲ缺キタルコト分明ナリ右ハ公

判ノ手續ニ背戻スルノ大ナルモノト云フヘシト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ニ裁判長ハ第一審判決ニ於ケル公訴事實ヲ申聞ケタル上問官印盜用官文書僞造ノ點ヲ除キ此樣ナル手續ヲ爲シタル事ハ相違ナキカトアルハ要スルニ本件ハ事實上ノ爭ナキヲ以テ法律上官印盜用官文書僞造行使ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤハ曾ク措キ先ツ事實上第一審判決ニ記載スル如キ行爲ヲ爲シタルコトハ眞實ナリヤ否ヤト訊問ヲ爲シタルモノナルコト明白ナレハ原院ハ公判ニ於テ被告事件ノ事實ニ付キ審理ヲ爲ササリシ不法アルコトナシ故ニ本論旨ハ理由ナシ

第五點公訴事實ノ如クセハ貯金預簿ヲ僞造スルニハ必ス貯金預入報告書ヲ僞造シ報告書ヲ僞造スルニハ日附印ヲ盜用セサレハ其效全カラス故ニ日附印ヲ盜用スルコト當然ナレハ斯ル場合ニ於テハ日附印ハ二種ノ官文書僞造ニ因テ盜用セラレタル筋合ナレハ刑法第二百六條ハ右兩文書ニ亘リ輕重ノ比較ヲ決ス可キニ單ニ報告書僞造ノミ比照セシハ同條ノ當擬ヲ失シタルモノトスト云フニ在レトモ○貯金預簿ト貯金預入報告書トハ各別異ノ文書ナレハ原院カ貯金預入報告書ヲ僞造シテ之レニノミ日附印ヲ盜用シタル事實ヲ認メ從テ刑法第二百六條ニ依リ日附印盜用ノ所爲ヲ以テ報告書僞造行使ノ所爲ト比照セサリシハ正當ニシテ擬律錯誤ニ非ス本論旨ハ理由ナシ

第六點判決ヲ閱スルニ「自ラ管掌スル」ト云ヒ「自己ノ管掌ニ係ル」ト云フモ僅ニ法律文字ヲ揭ケタルニ止マリ事實ヲ敘シタリト稱スルヲ得ス所謂ル管掌トハ管理主掌ノ義ナリ故ニ判文ノ示ス所ハ文書作成ノ職責アル者トノ義乎將タ文書ヲ保管スルノ意乎法律的漢字ヲ用ヒタルノ弊自ラ理由不備ニ陷リタル瑕瑾アリトスト云フニ在レトモ○刑法第二百五條ニ所謂官吏ノ管掌ニ係ル文書トハ官吏カ職務上作成ノ權限ヲ有シ又ハ保管ノ職責ヲ有スル文書ヲ總稱ス而シテ貯金預簿ハ貯金ノ預入ヲ受ケタル郵便局長カ職務上作成シテ保管スヘキモノ又貯金預入報告書ハ同局長カ職務上作成スヘキモノナルコトハ其執務規定ニ基ク明白ナル事實ナレハ原判決ニ單ニ管掌ノ文字ヲ用ヒタルモ其意義自ラ明白ナルヲ以テ理由不備ニ非ス本論旨ハ理由ナシ

第七點上告人ノ陣內郵便局長タルノ一事ハ犯罪構成ニ心要ナル自分ナレハ證據ニヨリテ認メタル事由ヲ示スヘキニ判決ハ何等ノ證據ニ依ラス漫然其身分ヲ斷定シ管掌ニ關スル法條ヲ適用シタルハ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ背戻スルモノトスト云フニ在レトモ○原判決ノ證據說明中以上ノ事實ニ對シ被告ハ當公廷ニ於テ實害ヲ釀ササルヲ理由トシテ云々辯解スルノ外其外觀的事實ハ全然判示ノ通リ相違ナキ旨自陳スルノミナラスト記載シアリテ即チ被告カ犯罪ノ當時陣內郵便局長タリシ事實ニ付原判決ハ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シアルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第八點凡ソ文書僞造罪ハ假令意思カ繼續スルモ一通毎ニ一罪ヲ組成スルコト御院判例ノ示ス所ナリ故ニ僞造文書ノ數ノ如キ必スヤ明白ニ之ヲ認示セサルヘカラス今判決ヲ查スルニ「同時ニ自己ノ保管ニ係ル貯金預入報告書ニ同事項ヲ記載シテ之ヲ僞造シ」云々トアリ恰モ一通ノ僞造タル如キモ轉シテ擬律ノ部ヲ見ルニ同法第二百六條ニ依リ何レモ官文書僞造行使ヲ重シトアリ「何レモ」ノ文字複數ヲ示スニ依リ數通ノ報告書僞造セラレタル如シ果シテ然ラハ其數ヲ明示スヘキニ判文ヲ精讀スルモ之ヲ知ルニ由ナシ理由齟齬ニシテ且理由不備タルヤ明ケシト云フニ在レトモ○原判決事實ノ部ニ總計六百二十五回云々トアリテ貯金預入報告書六百二十五通僞造シタル事實ヲ認メタルコト判文上自ラ明白ナルヲ以テ本論旨ハ理ナシ

被告上告趣意書第二點原審判示ノ執務成績ノ良好ナルコトヲ示スノ虛榮心ヨリ自己ノ金錢ヲ虛無ノ名義ニテ郵便切手ニ依リ貯金ヲ爲シタリトノ一事ハ何等ノ實害ヲ生スルニ非ス抑モ郵便切手貯金ハ法令ノ認許シタル適法ノ行爲ニシテ唯自己ノ名義ヲ以テ爲スヘキヲ誤リテ虛構ノ人名ヲ以テ爲シタリト云フニ過キス之ニ依リテ何等ノ實害ヲ與フヘキモノニ非ス省令郵便貯金規則第五條ニ民間ノ零碎ノ資本ヲ吸集シ且ツ下層人民ノ貯蓄心ヲ奬勵セルノ主旨ヨリシテ切手貯金ハ一人一日一圓ニ限ラレタルニ被告ハ數多ノ虛構名義ニヨリ多數ノ切手貯金ヲナシタルヲ以テ同規則ノ一日一圓ノ制限ヲ超過シタル點アルモ被告ノ切手貯金ノ總額ハ六百三十三圓ニシテ郵便貯金法ノ一人ノ切手貯金額一千圓ノ範圍內ニ係ルヲ以テ例令一人一日一圓ノ制限ヲ超過スルコトアリト雖モ結局政府ニ對シ何等ノ實害ヲ與フルモノニ非ス或ハ郵便局長カ切手ノ拂下ヲ爲

スヤ百圓ニ對シ五圓ノ手數料アルヲ以テ九十五圓ニテ百圓ノ切手ヲ拂下ケ之ヲ百圓ノ貯金ニ充當スルヲ以テ結局政府ニ對シ百ニ對シ五圓ノ損害ヲ與フルモノナリト論スルモノアラン然レトモ切手拂下ト切手貯金トハ別個ノ行爲ニシテ而カモ政府ハ九十五圓ノ實收アル切手ニ對シ百圓ノ切手貯金ヲ認許シ居ルヲ以テ切手貯金本來ノ性質トシテ九十五圓ニテモ購ヒ得ル百圓ノ切手ヲ百圓トシテ貯金シ得ルモノナルヲ以テ被告ノ所爲カ切手貯金本來ノ性質以外ニ於テ別ニ實害ヲ與ヘタリト云フヲ得サルハ殆ント論ヲ俟タス然ルニ原審カ以上ノ事實ヲ以テ實害ヲ與フヘキモノナリト判定シタルハ理由ノ錯誤ナリト云ヒ」第三點官私文書僞造行使罪ノ成立ニ必要ナル條件トシテ僞造セラレタル文書ニヨリ實害ノ生スヘキモノナラサル可カラサルハ判例學說ノ一致スル所ナリ然ルニ原審ノ判示シタル事實ハ曩キニ云ヘル如ク何等ノ實害ナキモノナルニ不拘之ヲ官文書僞造及官印盜用ニ問擬シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判文ナリ又郵便貯金取扱規程第六十七條ニ管理所ニ於テ制限超過ノ切手預入ヲ發見シタル時又ハ虛構ノ名義ヲ以テ制限超過以上ノ切手預入ヲ爲スモノト認メタル時ハ直ニ其旨ヲ預入局所ヲ所轄スル監督局ニ通報ス可シ同第六十八條ニ監督局ニ於テ右等ノ事故ヲ發見シタルトキハ超過預入額ヲ無效トシテ受付局所ヨシテ預入額更訂ノ手續ヲ爲サシムヘシトアリ之等ノ規定ニヨルモ原審判示ノ事實カ官印盜用文書僞造罪ヲ構成セサルヤ一點ノ疑ナシ何トナレハ（一）貯金取扱規定ニ於テ虛構ノ名義ヲ以テ預入ヲ爲スモ直ニ取テ無效トナサス其制限額ヲ超過シタル時始メテ虛構ノ名義ナルト否トニ拘ハラス超過スル分ヲ無效トスルモノナリ（二）虛構ノ名義ニ依ル切手預金ヲ以テ文書ノ僞造ナリトセハ制限額ヲ超過シタル事實ハ曩キニ云ヘル如ク何等ノ實害ナキモノナルニ不拘ルニ郵便貯金取扱規定ニハ制限額ヲ超過セサルトキハ例令虛構ノ名義ヲ以テスルモ有效ナリト認メタリ若シ之ヲ原審判決ノ如ク文書ノ僞造罪ナリトセハ犯罪ニ係ル一部カ政府ニ對シテ有效ノ行爲ト認メラルル予盾ヲ見ル天下豈如此奇論アランヤト云ヒ」辯護人渡邊輝之助上告趣意辯明書第九點判決ノ示ス如ク上告人ハ自金ヲ貯金トシテ預入レタル七百圓ニ近シ而テ原正外二百六十一名ノ虛構名義ヲ用ヒタリトスルモ現實ノ預入ハ一人ナリ如斯ハ慣習事例共ニ之ヲ是認スル所ニシテ一人ノ貯金者カ偶々數多ノ名稱ヲ假用シタルニ外ナラス本名ヲ以テ預入ヲ爲シタル者更ニ雅號通稱ヲ以テ貯金ヲ爲スモ何等

支障アルコトナシ俗間兒ヲ擧クルヤ敎育費ノ爲メ其翌日ヨリ此意識ナキ生兒ノ爲メ父母ニ於テ兒名ヲ以テ貯金セルモノ勘カラス爾カモ出金者ノ父母タルニ拘ハラス其預入ハ襁褓ノ孩兒タリ孩兒ハ貯金者ニ非ス然レトモ公簿上ハ一個ノ預入タルニ相違ナシ當路者ハ貯金ヲ奬勵スルノ方針トシテ常ニ勸誘シ來リタル事實ナリ上告人本案ノ所爲タル毫モ之ト異ナル所ヲ見ス其成蹟ノ良好ヲ示ス虛榮心ノ爲メナルヤ否ヤノ如キ必スシモ之ヲ問フノ要ナシ即チ上告人ハ多數ノ名稱ニ依リ一人貯金ヲ爲シタルモノナレハ其結果簿冊ニ表面空名ノ記載セラルルモ事ニ害ナキハ勿論實狀既ニ然ル以上ハ法律ノ放任セル行爲ナレハ爲メニ文書僞造官印盜用罪ニ問擬セラルヘキ理由ヤナシ須ク無罪ヲ言渡スヘキニ、二審ノ措置茲ニ出テサルハ不法ニシテ擬律錯誤ノ瑕瑾アリトスト云フニ在レトモ〇郵便貯金法第十五條ニ郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞僞ヲ調査スヘキ職責ヲ有スル爲メ預ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得トアリテ郵便局長ハ貯金預ケ人ノ眞僞ヲ調査スヘキ職責ヲ有スルカ故ニ虛構ノ預ケ人名義ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲サントスル者アル場合ニ郵便局長ニ於テ其預ケ人名義ノ虛構ナルコトヲ知ルトキハ其預入ヲ拒ムヘキモノナルコト自ラ明ナレハ被告カ原判決ニ認定スル如ク被告自ラ數多ノ預ケ人名義ヲ虛構シテ以テ郵便切手ニ依ル貯金預入ノ事實ヲ自己ノ管掌ニ係ル貯金預簿及ヒ貯金預入報告書ニ記載シタルハ即チ其文書ノ內容ニ於テ虛僞ノ事實ヲ記載シタルモノニシテ其所爲ハ被告カ郵便局長トシテ貯金事務取扱上遵守スヘキ法規ニ違背スルヲ以テ官吏カ其管掌ニ係ル文書ニ不實ノ事項ヲ記載スルニ依リテ成立スル刑法第二百五條ノ犯罪ヲ構成ス被告ノ論旨ハ虛構ノ名義ヲ以テスルモ預入額カ制限額ニ超過セサル以上ハ無效ニ非サル規定アルニ依據シ之ヲ以テ實害ナキノ理由ト爲スト雖モ預入ノ有效無效ノ問題ハ文書ノ僞造ナリヤ否ヤノ問題トハ全ク別問題ニ屬スルノミナラス被告ハ文書僞造罪ニ要スル實害ヲ以テ財產上ノ損害ノ如ク論スルモ文書僞造罪ハ信用ヲ害スル罪トハ其法益ヲ異ニス既ニ述フル如ク被告ハ自己ノ管掌文書ニ不實ノ事項ヲ記載シ而シテ之ヲ眞正ナル官文書トシテ行使シタルモノナレハ其所爲ハ官文書トシテノ文書ノ信用ヲ毀損スヘキ有害ノ結果ヲ生スルコト多言ヲ要セサルヲ以テ被告カ該僞造文書ノ行使ニ依リテ達セントスル目的ノ那邊ニ在ルヲ問ハス文書僞造罪ノ成立ニ要スル實ノ要件ヲ具備スルモノトス從テ原判決ハ理由ノ齟齬又ハ擬律

ノ錯誤ニ非スシテ論旨ハ何レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

檢事棚橋愛七干與明治四十一年六月二十九日大審院第二刑事部

刑法第百五十條第百五十八條第百四十六條

○文書僞造行使詐欺取財ノ件（大審院明治四十三年(れ)第一八〇二號明治四十三年十一月八日宣告破毀）

【被告人】前田市太郎外一名

【第一審】京都地方裁判所

【第二審】大阪控訴院

○判決要旨

一裁判長カ數名ノ被告ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定シタル場合ニ於テ被告人等ヨリ何等ノ異議ヲ申立ツルコトナク辯論ヲ終了シタル以上ハ縱令公判下調ノ際受命判事カ共通ノ辯護人一名ニテ異議ナキヤ否ヤヲ訊問セサリシトスルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス（判旨第一點）

一辯護人ニ對シ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ法定ノ猶豫ヲ與ヘサルモ同人ニ於テ異議ナク出頭シテ辯論ヲ爲シタルトキハ其公判手續ハ不法ニ非ス（判旨第二點）

一公文書ノ變造ト其僞造トハ同一ノ罪名ニ非ス從テ郵便貯金通帳中郵便局長ノ作成ニ係ル貯金受入ノ記載事項ヲ增減變換シ且郵便貯金支局長作成名義ノ貯金現在高檢閱濟ノ記載事項ヲ僞造シタル所爲ヲ合セテ一ノ公文書僞造罪ニ問擬シタル判決ハ失當ナリ（判旨第三點）

○事實及判決

右文書僞造行使詐僞取財被告事件ニ付明治四十三年六月二十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

被告市太郎ノ上告ハ之ヲ棄却ス

原判決中被告時久ニ關スル部分ハ之ヲ破毀ス

被告時久ヲ懲役六年ニ處ス

押收物件中郵便貯金通帳ノ僞造變造ノ部分ハ之ヲ沒收シ其餘ノ物件ハ各所有者ニ還付ス

公訴裁判費用中伊藤貞三ノ分ハ被告時久ニ於テ相被告市太郎及ヒ近江美代太ト連帶負擔スヘク楠原ヨシノ分ヲ除キ其他ハ總テ被告時久ニ於テ相被告市太郎及ヒ森賀治太近江美代太ト連帶負擔スヘシ

○理由

被告時久上告趣意書ノ要旨ハ第一點本件ニ付相被告ト被告トハ利害得失相背馳スルヲ以テ兩人共通ノ辯護人ヲ選定セラルルトキハ被告ノ不利益ニ歸スヘキカ故ニ明治四十三年五月九日原院受命判事ノ下調ノ際辯護人ノ選定ニ付受命判事ヨリ訊問アリシナラハ被告ハ必スヤ單獨辯護人ノ官選ヲ請求スヘカリシニ受命判事ハ此點ニ付一言ノ訊問ヲモ爲サス之カ爲メ相被告ト共通ノ辯護人ヲ官選セラレ被告ニ不利益ナル判決ヲ見ルニ至リタルハ畢竟刑事訴訟法第二百三十七條ノ定式ヲ履行

第四號本件ノ證據物件中郵便貯金通帳ヘ既ニ第三點ニ於テ論ジタルカ如ク變造ニシテ公文書偽造罪ヲ以テ問擬シタル非サルモ本件ノ擬律ニ於テハ變造ニ非サルヲ以テ偽造ト擬律スヘキヤ

第四點ノ證據物件中郵便貯金通帳ヘ既ニ第三點ニ於テ論ジタルカ如ク變造ニシテ公文書偽造罪ヲ以テ問擬シタル非サルモ本件ノ擬律ニ於テハ偽造ト擬律スヘキヤ

同第二項ヲ適用セサリシ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス

同第二項ヲ適用セサリシ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス

一ノ公文書偽造罪ニ問擬シタル原判決ハ公文書偽造ノ點ニ於テ擬律錯誤アリ從テ其論旨ハ理由アリ

一ノ公文書偽造罪ニ問擬シタル原判決ハ公文書偽造ノ點ニ於テ擬律錯誤アリ從テ其論旨ハ理由アリ

更ニ被告市太郎等カ判示ノ如ク大阪郵便貯金支局長作成名義ノ貯金現在高檢閲濟ノ記載事項ノ偽造ニ係ル中執郵便局長又ハ宿院郵便局長ノ作成ニ係ル郵便貯金十錢受入記載事項ノ内容ヲ變換シタルハ結局原判決ノ認メサル事實ニ對シ刑法第百五十五條第一項ノ偽造ヲ認メタルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス

更ニ被告市太郎等カ判示ノ如ク大阪郵便貯金支局長作成名義ノ貯金現在高檢閲濟ノ記載事項ノ偽造ニ係ル中執郵便局長又ハ宿院郵便局長ノ作成ニ係ル郵便貯金十錢受入記載事項ノ内容ヲ變換シタルハ結局原判決ノ認メサル事實ニ對シ刑法第百五十五條第一項ノ偽造ヲ認メタルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス

セサルヲ以テ原判決ハ不法ニシテ破毀ヲ免レス

セサルヲ以テ原判決ハ不法ニシテ破毀ヲ免レス

ノ記載ニシテ原判決ハ其效ナシ

ノ記載ニシテ原判決ハ其效ナシ

原判決ハ被告市太郎ニ對シ公文書偽造ノ點ニ於テ擬律錯誤アリ從テ其論旨ハ理由アリ

モノト判示シタルハ不法ナリ（尤モ第一審ニ於テ一部ノ沒收ヲ言渡シタル故ニ原院ハ之ヲ被告ノ不利益ニ變更スルヲ得ス）又判示シタル利益ハ第一ニ理由ニ依リ一部ノ沒收ニ止メタルモ（假リニ偽造ノ部分ト分割シテ存在シ得ヘキモノナルヲ以テ全部沒收スヘキモノニ非ス）又判示ハ本案被告事件ニ付取調ヘタルモノノ外ナラサルヲ以テ原判決ハ正當ニシテ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告等ニ於テ負擔セサルヘカラサル費用ハ共犯トシテ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告等ニ於テ連帶負擔スヘキハ當然ナルヲ以テ原判決ハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第八點原院ハ相被告市太郎ノ本件公文書ヲ偽造スルニ當リ大阪郵便貯金局長ト刻セル長方形ノ印並ニ圓形ニテ同局長ト刻セル刑法第百五十一條ニ該當スル行爲ヲ認メタルハ法律ノ適用ニ於テ違法アリト雖モ右ハ單ニ法律ノ適用ヲ誤リタルニ過キス事實ニ於テハ相違ナキヲ以テ原判決ハ此點ニ於テモ亦破毀ヲ免レス論旨ハ理由アリ

第五點原判決ハ相被告市太郎ニ對シ明治四十二年十一月二十九日頃ヨリ同年十二月二日頃迄ノ間數回ニ亘リ判示三ノ郵便貯金通帳ヲ受取リ同日宿院郵便局ニ於テ各十錢宛ノ預金アルコトヲ認メ各通帳ヲ受取リ之ヲ偽造シタル旨ノ判示事實ハ原判決ノ擧示セル證據ニ依リ之ヲ認メ得ヘキモ右三ノ通帳ハ何レモ判示ノ如ク擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テモ亦破毀ヲ免レス論旨ハ理由アリ

第五點原判決ハ相被告市太郎ニ對シ明治四十二年十一月二十九日頃ヨリ同年十二月二日頃迄ノ間數回ニ亘リ判示三ノ郵便貯金通帳ヲ受取リ同日宿院郵便局ニ於テ各十錢宛ノ預金アルコトヲ認メ各通帳ヲ受取リ之ヲ偽造シタル旨ノ判示事實ハ原判決ノ擧示セル證據ニ依リ之ヲ認メ得ヘキモ右三ノ通帳ハ何レモ判示ノ如ク擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テモ亦破毀ヲ免レス論旨ハ理由アリ

第六點相被告市太郎ニ對シ判示二十八圓著ク二十五圓ノ中ヨリ十錢ヲ共受取リタル金額ヲ以テ騙取シタル旨ノ判示事實ハ原判決ノ擧示セル證據ニ依リ之ヲ認メ得ヘキモ右ハ二十八圓著ク二十五圓ノ中ヨリ十錢ヲ控除セスシテ共受取リタル金額ヲ以テ騙取シタル原判決ハ理由ニ齟齬ノ不法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ

第七點原判決ハ被告カ相被告市太郎等ノ公文書偽造ノ行爲ニ加功セシヨリハ之ヲ認メ從テ被告ニ對シテハ偽造罪ヲ以テ問擬セサルヘカラサルニ拘ラス被告カ相被告市太郎ニ對シ偽造ノ關係ナキ何等ノ關係ヲ有スルカ如ク說明シ被告ニ對シ偽造ノ關係アルカ如ク說明シ被告カ相被告市太郎ニ對シ偽造ノ關係アルカ如ク說明シ被告ニ對シ偽造ノ關係アルカ如ク說明シ被告ニ對シ偽造ノ關係アルカ如ク說明シ被告

使用シタル印顆ハ賀治太ノ所有ナリヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナク從テ原判決ハ被告ト賀治太等ノ犯情ヲ比較斷定スル一ノ材料ヲ缺ク失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○裁告カ賀治太ニ僞造ノ通帳ト共ニ貯金名義人ノ印顆ヲ交付シタルヤ否ヤハ本件犯罪ノ構成ニ消長ヲ來タスヘキ事項ニ非サルハ勿論由來判決ニハ犯罪構成ノ事實以外ニ共犯者間ニ於ケル犯情ノ輕重ヲ比較量定スヘキ事實關係ノ如キハ之ヲ判示スルヲ要セサルモ不法ニ非ス論旨ハ理由ナシ

第五點原院カ下調ヲ爲ス際一名ノ辯護人ニテ被告等數名ノ辯護ヲ爲サシムルモ差支ナキヤ否ヤ之ヲ被告ニ問ハサリシハ被告ノ權利ヲ蹂躙シタルモノナリ若シ下調書ニ之ヲ問ヒシ旨記載アリトセハ事實ニ反スル記載ニシテ採ルニ足ラスト云フニ在レトモ○其理由ナキコトハ被告時久上告趣意書第一點ニ對スル說明ニ就キ了解スヘシ

第六點刑法第十九條第一項第三號ハ賍物ヲ沒收スル場合ニ適用スヘキ正條ニ非ス然ルニ原院カ「證據物件中郵便貯金通帳ハ僞造ニ係ルヲ以テ刑法第十九條第一項第三號第二項ニ依リ沒收シ」トノ判示シタルハ擬律錯誤ノ不法ヲ免レス且ツ伏見警察署ニテ被告ノ所持金ヲ擅ニ沒收シ被害者ニ還付シタルコトハ一件記錄ニ明記スル所ナルニ原院カ之ヲ不問ニ付シ何等ノ言渡ヲ爲サリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第十九條第一項第三號ニハ犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物トアリテ僞造文書ハ文書僞造ノ犯罪行爲ヨリ生シタルモノナレハ原院カ論旨所揭ノ如ク判示シタルハ正當ニシテ論旨ノ前段ハ理由ナク其後段ニ付テハ前提事實ヲ認ムヘカラサルヲ以テ從テ論旨ハ理由ナシ

第七點原院カ第一審判決ヲ取消シナカラ被告ノ未決拘留日數ヲ刑期ニ算入セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○未決拘留日數ヲ刑期ニ算スルト否トハ專ラ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第八點被告及近江美代太小畠時久ノ豫審調書ハ何レモ不實ノ供述ヲ記載シタルモノナルニ原院カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ニ對スル非難ナルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

第九點原判決擬律ノ部ニ「被告市太郎ノ僞造ノ所爲ハ刑法第五十五條第百五十五條第一項被告兩名ニ於テ右僞造ノ郵便貯金通帳ヲ行使シタル所爲ニ對シ公文書僞造ノ本條タル刑法第百五十五條第一項ヲ適用シタルハ僞造公文書行使ノ刑ヲ定ムル爲メニ外ナラサルヲ以テ論旨ノ前段ハ理由ナク又原判決ハ受領證ノ僞造ヲ認メス從テ之ニ對シ何等ノ擬律ヲ爲ササルヲ以テ論旨ノ中段モ亦理由ナク而シテ其末段ノ理由ナキコトハ被告時久上告趣意書第八點ノ說明ニ就キ了解スヘシ右ノ理由ナルヲ以テ被告市太郎ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却シ被告時久ノ上告ニ付キテハ同第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スヘキモノナルヲ以テ原判決ニ認ムル事實ヲ法律ニ照スニ被告時久カ變造ノ郵便貯金通帳行使ノ所爲ハ刑法第五十五條第百五十五條第一項第百五十五條第二項ニ僞造ノ郵便貯金通帳行使ノ所爲ハ同第五十五條第百五十八條第一項ニ該リ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同第五十四條前段ヲ適用スヘク金圓騙取ノ所爲ハ同第五十五條第百四十六條第一項ニ該リ手段結果ノ關係アルヲ以テ同第五十四條後段ヲ適用シ僞造ノ郵便貯金通帳行使ノ刑ヲ以テ處斷スヘキノ處前科アルヲ以テ刑法施行法第十二條第一項第七條第一項第二號第二條ニ依リ刑法第五十六條第五十七條第五十九條ヲ準用シ法定ノ加重ヲ爲シタル範圍內ニ於テ被告ヲ懲役六年ニ處シ押收物件中郵便貯金通帳ノ僞造及變造ニ係ル部分ハ同第十九條第一項第三號第二項ニ依リ沒收シ其餘ノ物件ハ各所有者ニ還付シ公訴裁判費用ハ全部被告ニ於テ相被告等ト連帶負擔スヘキモノトス然レトモ被告ノ不利益ニ變更スヘカラサルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與

明治四十三年十一月八日大審院第一刑事部

金通帳ヲ行使セル所爲ハ各刑法第五十五條第百五十八條第一項第百五十五條第一項「トアリテ被告ハ單獨ニテ公文書ヲ僞造シタル外更ニ相被告ト共ニ公文書ヲ僞造シテ之ヲ行使シタルモノノ如クナルモ被告ハ二樣ニ公文書ヲ僞造シタルニ非サルヲ以テ原判決ノ擬律ハ錯誤ナリ且相被告等カ貯金ヲ引出ス爲メ郵便局ニ提出シタル受領證ハ公文書ニアラスシテ私文書ナルニ刑法第百五十五條ヲ適用シ加之公印僞造ノ事實ヲ認メ乍ラ其法律適用ヲ缺クハ何レモ擬律錯誤ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告兩名カ僞造ノ貯金通帳ヲ行使シタル所爲ニ對シ公文書僞造ノ本條タル刑法第百五十五條第一項ヲ適用シタルハ僞造公文書行使ノ刑ヲ定ムル爲メニ外ナラサルヲ以テ論旨ノ前段ハ理由ナク又原判決ハ受領證ノ僞造ヲ認メス從テ之ニ對シ何等ノ擬律ヲ爲ササルヲ以テ論旨ノ中段モ亦理由ナク而シテ其末段ノ理由ナキコトハ被告時久上告趣意書第八點ノ說明ニ就キ了解スヘシ右ノ理由ナルヲ以テ被告市太郎ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却シ被告時久ノ上告ニ付キテハ同第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スヘキモノナルヲ以テ原判決ニ認ムル事實ヲ法律ニ照スニ被告時久カ變造ノ郵便貯金通帳行使ノ所爲ハ刑法第五十五條第百五十五條第一項第百五十五條第二項ニ僞造ノ郵便貯金通帳行使ノ所爲ハ同第五十五條第百五十八條第一項ニ該リ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同第五十四條前段ヲ適用スヘク金圓騙取ノ所爲ハ同第五十五條第百四十六條第一項ニ該リ手段結果ノ關係アルヲ以テ同第五十四條後段ヲ適用シ僞造ノ郵便貯金通帳行使ノ刑ヲ以テ處斷スヘキノ處前科アルヲ以テ刑法施行法第十二條第一項第七條第一項第二號第二條ニ依リ刑法第五十六條第五十七條第五十九條ヲ準用シ法定ノ加重ヲ爲シタル範圍內ニ於テ被告ヲ懲役六年ニ處シ押收物件中郵便貯金通帳ノ僞造及變造ニ係ル部分ハ同第十九條第一項第三號第二項ニ依リ沒收シ其餘ノ物件ハ各所有者ニ還付シ公訴裁判費用ハ全部被告ニ於テ相被告等ト連帶負擔スヘキモノトス然レトモ被告ノ不利益ニ變更スヘカラサルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與

明治四十三年十一月八日大審院第一刑事部

○詐欺ノ件（大審院大正元年(れ)第二〇〇八號 大正元年十一月十九日宣告棄却）

【被告人】能見角憲（辯護人）三隅正　四方田保

【第一審】大阪地方裁判所【第二審】大阪控訴院

○判決要旨

一郵便貯金ニ付再度通帳ヲ發シタル場合ニハ原通帳ハ無效ニ歸スルモノトス而シテ詐欺ニ基キ再度下附ヲ受ケタル通帳ノ有效ナルト否トハ此結果ヲ左右スヘキモノニ非ス（判旨第二點）

一無效ニ歸シタル貯金通帳ヲ有效ノモノノ如ク裝ヒ郵便局ニ呈示シ局員ヲシテ該通帳ニ基キ被告ニ拂戻請求權アルモノト誤信セシメ拂戻ヲ爲サシムルニ於テハ被告ハ該拂戻金ニ付キ詐欺ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス（判旨第三點）

○事實及判決

右詐欺被告事件ニ付大正元年九月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人三隅正同四方田保上告趣意書第一點原判決ハ其理由中ニ於テ「…右再度下附ノ故ヲ以テ既ニ無效ニ歸シタル前顯原通帳ニ貯金拂戻金受領證ヲ添ヘ…之ヲ住吉郵便局ニ提出シテ金五十圓ノ拂戻ヲ請求シ同局員ヲ誤信セシメ…之ヲ騙取シタルモノナリ云々」トノ犯罪事實ヲ判示シ之ニ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シテ被告ヲ處斷セラレタリ然ルニ右刑法第二百四十六條第一項ノ罪ハ其構成要素トシテ人ヲ錯誤ニ陷ルル事ヲ要スルヤ勿論ナルニ拘ハラス原判決ハ此點ニ關シ單ニ「同局員ヲ誤信セシメ云々」ト判示說明スルニ止マリ其誤信即チ錯誤ノ內容ニ關シテハ何等之ヲ說明スルコトナシ果シテ然ラハ原判決ハ理由不備ノ違法アリ到底其破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○再度通帳ノ交付ニ因リ無效ニ歸シタル原通帳ヲ有效ノモノト誤信セシメタル結果郵便局員ヲシテ貯金ノ拂戻ヲ爲サシメタル事實ハ原判文上自ラ明カナレハ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ

第二點原判決ハ其理由中ニ於テ「被告ハ郵便局ニ金九十餘圓ヲ預ケ之ニ對スル貯金通帳ノ下附ヲ受ケ居ルヲ奇貨トシ當該局員ヲ欺キ同月二十六日同局ヨリ再度通帳ノ交付ヲ受ケ之ヲ騙取シタル後右再度下附ノ故ヲ以テ既ニ無效ニ歸シタル前顯原通帳ニ貯金拂戻受領證ヲ添ヘ…テ之ヲ住吉郵便局ニ提出シテ金五十圓ノ交付ヲ受ケ云々」ト犯罪事實ヲ判示セラレタリ然リト雖モ何人モ犯罪行爲ニヨリ一般法律行爲ノ效果ト等シキ法律上ノ效果ヲ發生セシムル事ヲ得サルモノナルカ故ニ被告前顯判示事實前段ノ犯罪行爲ニヨリテ騙取シタル通帳ハ法律上無效ニシテ本然ノ證明力ナク前キニ正當ニ受領セル原通帳ハ依然トシテ有效ニ其證明力ヲ保有シ何等之カ爲メ其效力ヲ陷害セラルル事ナキモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ被告カ原通帳ヲ以テ局員ヨリ內金五十圓ノ交付ヲ受ケタルハ何等ノ不法アル事ナキ適法ノ行爲ナリ然ルニ原判決カ前段ニ於テ貯金通帳再度ノ交付ヲ受ケタル行爲ヲ騙取ノ犯罪行爲ト斷シナカラ後段ニ於テ原通帳ヲ無效ト前提シテ其原通帳ニヨリテ金五十圓ノ交付ヲ受ケタル點ヲモ詐欺ノ罪ナリトシテ被告ヲ處斷シタルハ明カニ罪ト

ナラサル行爲ニ付犯罪行爲トシテ其罪ヲ斷シタルノ違法アリ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○郵便貯金ニ付再度通帳ヲ發行シタル場合ニ於テ原通帳ノ無効ニ歸スヘキモノナルコトハ郵便貯金規則第三十四條ノ明定スル所ニシテ詐欺ニ基キ再度下附ヲ受ケタル通帳ノ有効ナルト否トハ右ノ結果ヲ左右スヘキモノニアラス從テ原院カ本件原通帳ヲ無効ノモノトシ之ニ基キ貯金ノ拂戻ヲ受ケタル被告ノ行爲ヲ詐欺罪ニ問擬シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第三點假リニ前二點ノ上告論旨理由ナク前キニ交付ヲ受ケタル貯金通帳無効ニシテ騙取シタル再度下附ノ通帳有効ナリトスルモ貯金通帳ノ有効無効ハ畢竟其貯金關係存否ノ證明力ニ關スル問題ニ過キスシテ之カ爲メ貯金關係ノ存否自體ニ何等影響ヲ及ホスヘキモノニ非ラス而モ其有効無効ノ通帳ハ何レモ形式及實質ニ於テ共ニ當初預入レタル九十餘圓ノ同一預金ノ内容ヲ表彰セルモノニ外ナラサルカ故ニ縱令被告カ右無効ニ歸シタル原通帳即チ證明力ヲ失ヒタル通帳ヲ提出シテ内金五十圓ノ貯金拂戻ヲ受ケタリトスルモ其通帳ノ内容ニシテ眞實ニ適合シ且ツ其拂戻ヲ受クヘキ正當ノ貯金存在スル以上ハ之レ畢竟單ニ適法ナル證明書類即チ有効ナル通帳ヲ措テ證明力喪失セル無効ノ通帳ヲ證明ノ用ニ供シタリト謂フニ過キスシテ何等之ニヨリテ不正ノ財物ヲ得タルモノト謂フコトヲ得サルヤ論ヲ竢タス果シテ然ラハ原判決ハ此點ニ於テ罪トナラサル所爲ニ付キ之ヲ犯罪行爲トシテ其罪ヲ斷シタルノ違法アリ到底破毀ヲ免カレサルモノトスト云フニ在レトモ○郵便貯金通帳ハ貯金ノ權利ニ關スル唯一ノ證明文書ニシテ實質上ニ於テ權利ノ存スル場合ト雖モ通帳ヲ郵便局ニ呈示スルニ非スンハ貯金ノ拂戻ヲ受クル能ハサルモノナルコトハ郵便貯金規則ノ全趣旨ニ依リ之ヲ知ルヲ得ヘク從テ通帳カ無効ニ歸シタル場合ニ於テ拂戻請求權ヲ行使セントセハ更ニ有効ナル通帳ノ交付ヲ受ケサル可ラサルモノナレハ被告カ前顯無効ノ原通帳ニ基キテハ其權利ヲ行使スルヲ得サルモノタルニ拘ハラス恰モ有效ノモノノ如ク裝ヒ之ヲ郵便局ニ呈示シ局員ヲシテ該通帳ニ基キ被告ニ拂戻請求權アルモノト誤信セシメ拂戻ヲ爲スニ至ラシメタル本件ノ場合ニ於テ被告ハ該拂戻金ニ付詐欺ノ罪責ヲ免カルルコトヲ得サルハ當然ナリトス然ラハ原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

以上ノ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與大正元年十一月十九日大審院第一刑事部

○官文書僞造行使ノ件（大審院大正六年(れ)第一六五五號大正六年八月二十日宣告棄却）

【被告人】西部襄（辯護人）堀田馨一　高見之通

【第一審】安濃津地方裁判所　【第二審】名古屋控訴院

○判決要旨

一郵便振替貯金ノ拂込ヲ受ケタル郵便局カ監査票ニ押捺スヘキ日附印ハ受入日附印ニシテ拂込ヲ受入レタル日附ヲ證明スルモノトス（判旨第一點）

一郵便局長カ行使ノ目的ヲ以テ其職務上記入スヘキ振替貯金監査票等ニ故ラニ受入當日ヨリ後レテ拂込金額拂込者及ヒ加入者等ヲ記入シ之ニ記入當日ノ日附印ヲ押捺シ文書トシテ此日附ニ於テ拂込ヲ受入レタル旨ノ虚僞ノ事實ヲ證明スルニ至ラシメタル行爲ハ刑法第百五十六條ノ文書僞造罪ニ該當スルモノトス（同上）

（參照）公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚僞ノ文章若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書郵便局ノ監査票ニ押捺スル日附印

若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル（刑法第百五十六條）

○事實及主文

右官文書僞造行使被告事件ニ付大正六年五月七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人堀田馨一上告趣意書第一點原判決ハ賀田郵便局長タリシ被告カ振替貯金ノ拂込ヲ受ケ受領票ヲ拂込人ニ交付シタル日ヨリ一日乃至十數日後ニ至リ拂替貯金監査票振替貯金受入簿振替貯金受入報告書ニ前ニ拂込人ニ交付シタル受領票ニ相當スル拂込金額拂込人及ヒ加入者ノ氏名等ヲ記入シ且ツ其記入當日ノ同局日附印ヲ押捺シタル行爲ヲ以テ虚僞文書ノ作成ナリト判示セリ之ニ因リテ見ルトキハ被告ノ作成シタル振替貯金監査票同受入簿竝ニ同受入報告書ニ記載セラレタル內容ハ日附印ヲ除クノ外前ニ交付シタル受領票記載事項ト一致シ單ニ日附印ニ於テ相違アルモノタルニ過キス隨ツテ日附印ノ相違セル點カ虚僞文書ノ作成ナリトセラレタルナリ然レトモ右ハ全ク虚僞文書ノ意義ヲ誤解セル不法アルモノト信ス其理由左ノ如シ（一）先ツ受領票ト監査票トノ日附印カ必然的ニ一致セサルヘカラサルカヲ觀察スルニ振替貯金ノ拂込アリタル際郵便局ヨリ拂込人ニ交附スル受領票ハ拂込金額ヲ受領セル旨ヲ證明スヘキ獨立ノ文書ニシテ決シテ監査票ト必然的ニ全部カ一致スルコトヲ要求セラルヘキ文書ニ非ス而シテ監査票ハ拂込通知票拂込票ノ記載事項カ適當ナリヤ否ヤヲ調査スルコトヲ示スカ爲メニ作成セラルヘキモノニシテ假令受領票交付ノ當日直ニ之カ調査ヲ爲ササル事實アリトスルモ行政監督上事務澁滯ノ責任アルハ格別刑法上ノ責任ヲ負擔スヘキモノニアラス故ニ郵便局ニ於テ振替貯金事務ヲ處理スルモノカ一時ニ多數ノ振替貯金ノ拂込ヲ受理シ取敢ヘス拂込ヲ受ケタル金錢ニ對シ受領票ヲ交付シ置キ後ニ至リテ監査票ニ記入スヘキ事項ヲ調査シテ夫々該票ニ記入シタル日ニ於テ其調査ヲ爲シタルコトヲ證スルカ爲メ監査票ヲ作成スルハ正當ニシテ事實受領票交付ノ日ニ監査票ヲ作成セス後日ニ至リテ之ヲ作成シ乍ラ事實監査票ヲ作成シタル日ヨリ遡レル受領票記載ノ日附印ヲ押捺シ恰モ受領票作成ノ日ニ於テ右ノ監査票ヲ作成セルカ如ク裝フハ却テ虚僞ノ文書ヲ作成スルコトニ歸著スヘシ故ニ被告カ判示事實ニ在ルカ如ク受領票ヲ交付シタル後日ニ於テ監査票ノ記入ヲ爲シ且ツ其監査票作成ノ日ニ相當スル日附印ヲ押捺シタル所爲ハ作成方法トシテハ正當ニシテ監査票ヲ以テ郵便局長カ職務上作成スヘキ公文書ナリトスルモ監査票ノ內容ニ何等虚僞ノ分子ヲ包含セサルヲ以テ右被告ノ行爲ハ刑法上何等ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス然ルニ原判決ハ之ヲ以テ刑法第百五十六條同第百五十五條ニ該ルモノト爲シタルハ失當ナリ（二）振替貯金事務ニ關シテ作成セラルル監査票ハ振替貯金ノ拂込ヲ受ケタル郵便局長カ職務上作成スヘキ公文書ナリヤ否ヤニ付キ現行郵便振替貯金取扱規定ノ趣旨ヲ綜合考覈スルトキハ右ノ監査票ハ單ニ振替貯金ノ口座所管廳カ振替貯金ニ關スル行政事務ノ監督竝ニ調査上ノ便益ニ供セスカ爲振替貯金拂込ノ經過ヲ一見明瞭ナラシムル方法トシテ該票ノ各欄ニ各種ノ記入ヲ爲サシムルニ止マリ決シテ監査票夫レ自體カ一定ノ思想ヲ記載セル文書タル性質ヲ有セサルカ如シ隨テ監査票ハ所謂目的文書ニモ非ス又偶然文書トナルヘキ性質ノモノニモ非ス全ク法律事實ノ證據トナルコトヲキ單純ナル行政事務ノ便宜ニ供スルカ爲メ作ラルル所ノ經過票タルニ過キサルモノトス隨テ之ヲ以テ郵便局長カ法令ニ於テ職務上作成セラルヘキ公文書ナリト解スルハ違法ナリ若シ夫レ監査票カ郵便長カ法令ニ於テ職務上作成スヘキ公文書ナリトスルニ原判決ハ此點ニ關スル說明ヲ缺クヲ以テ假令郵便局長ノ職務上作成スヘキ文書ナルモ此點ニ於テ原判決ハ理由ノ不備タルヲ免レス（三）原判決ハ「振替貯金受入簿振替貯金受入報告書ニ各受領票ニ相當スル拂込金額拂込人及加入者ノ氏名等ヲ夫々記入シ且其記

入當日ノ日附ナル同局日附印ヲ夫々押捺シ恰モ其日附當日是レカ受入レ手續ヲ爲シテ其日附ヲ押捺シタルモノノ如ク虛僞ノ文書ヲ作成シ一ト云フモ本點上告趣旨ノ(一)ニ述ヘタルト同シク被告カ振替貯金受入簿振替貯金受入報告書等ナル文書ヲ作成セル日カ即チ日附印ヲ押捺セル日ニシテ事實當該ノ文書ヲ作成シタル日ノ日附印ヲ押捺シタルコトハ決シテ虛僞ノ文書ヲ作成セルモノト云フ得ス蓋シ公ノ文書ノ作成者カ當該ノ文書ハ本來ナラハ數日以前ニ作成スヘカリシモノナルニ故意又ハ怠慢ニ依リ其日時ヲ徒過シ相當ナル日時ニ作成スルヲ得サルニ至リ本來成作スヘカリシ日ヨリ數日ノ後ニ至リ漸ク其文書ヲ作成スルニ當リ事實上文書ノ內容ヲ記載シタル日ハ適當ナル日時ヨリ遲レタル數日後ナルニ拘ハラス日附ノミハ恰モ當該ノ文書ヲ作成スルニ相當ナリシ以前ノ日ヲ遡記スルコトカ正當ナルカ將又既ニ相當ナル日時ヲ經過シタル以上ハ寧ロ事實ヲ事實ト爲シ眞ニ當該ノ文書ヲ作成セル日ノ日附ヲ記載スルヲ以テ適當トスヘキカハ一箇ノ問題タルヘキモ斯ル場合ニ於テ寧ロ眞ニ當該文書ヲ作成セル日ノ日附ヲ以テスルヲ正當ナリト爲ササルヘカラス然ラサレハ却テ文書ノ公ノ信用ヲ毀損シ取引ノ安全ヲ害スルニ至レハナリ故ニ被告カ本來振替貯金受入簿振替貯金受入報告書ヲ作成スヘカリシ日カ現ニ押捺セラレタル日附印ヲ以テ表示スル日ノ以前ニ爲スヘキモノナルコトヲ知リ乍ラ其日時ヲ經過シタル後ノ日ニ到リ初メテ當該ノ文書ヲ作成シ且ツ其文書ノ作成アリタル日ノ日附印ヲ押捺シタル行爲ハ事務ノ處理上ヨリ云ヘハ頗ル怠慢ノ嫌アリト雖モ之ヲ文書自體ノ作成行爲ヨリ觀察スルトキハ何等當該ノ文書ニ客觀的ニ虛僞ナル點存セサルヲ以テ之ヲ虛僞文書ノ作成ナリト云フコトヲ得ス然ルニ原判決ハ文書ノ記載手續ヲ等閑ニ付シ適當ナル時期ヲ經過シタル後ノ日ニ文書ヲ作成シタル職務上ノ責任ト虛僞文書ノ作成トヲ混同シ如上被告ノ行爲ヲ刑法第百五十六條同第百五十五條ニ該當スルモノト判示シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇郵便振替貯金取扱規程第十四條ノ規定ニ依レハ郵便振替貯金ノ拂込ヲ受ケタル郵便局ニ於テハ拂込書等ヲ受取リタルトキハ拂込票及拂込通知票ノ金高其他ノ記載事項ニ相違ナキヤヲ確メタル上各相當欄ニ受入日附ヲ押捺シ之ニ對シ監査票及受領票並ニ受入簿及受入報告書ニ相當事項ヲ記載シ各相當欄ニ日附印ヲ押捺シ受領票ハ之ヲ拂込人ニ交付スヘク又監査票ノ相當欄ニ局番號印ヲ押

捺シ尙受入簿ノ受付番號ヲ轉寫シタル上拂込書ハ監査票接續ノママ之ヲ爲替封皮ニ納メ速達便ニ依リ受持口座所管廳ニ送付スヘキモノトス故ニ拂込ヲ受ケタル郵便局カ監査票ニ押捺スヘキ日附印ハ受入日附印ニシテ之レニ依レハ拂込ヲ受入レタル日附カ證明セラルルモノナルヲ以テ原判決ニ認ルカ如ク故意ニ報告書ニ其受領票ニ相當スル拂込者金額拂込及加入者ノ氏名等ノ記入ヲ爲シ之ニ記入當日ノ日附ナル郵便局日附印ヲ押捺スルトキハ監査票等所載ノ日附印及記入文字ト相俟テ恰モ記入當日其記載ノ拂込ヲ受入レタルカ如キ事實ヲ證明スルニ至ルモノトス故ニ原判決判示ニ依リ明ナルカ如ク被告カ郵便局長ニシテ且行使ノ目的ヲ以テ其職務上記入スヘキ監査票等ニ故ラニ受入當日ヨリ後レテ判示拂込金額拂込者及加入者ノ氏名等ヲ記入シ之ニ記入當日ノ日附印ヲ押捺シ文書トシテ此日附ニ於テ拂込ヲ受入レタル旨ノ虛僞ノ事實ヲ證明スルニ至ラシメタル行爲ハ刑法第百五十六條ノ文書僞造罪ニ該當スルモノトス故ニ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ノ判示事實ニ依レハ被告カ虛僞ノ文書ヲ作成セリトセラレタル振替貯金監査票振替貯金受入簿振替貯金受入報告書等ニ記載セラレタル內容即チ拂込金額拂込人及加入者ノ氏名ニハ何等虛僞ノ點ナク單ニ右ノ記載ヲ爲シタル當日ノ賀田郵便局ノ日附印ヲ之ニ押捺シタル點カ受入當日ト相違セルヲ以テ虛僞文書ノ作成ナリトスルモノノ如シ即チ當該文書ノ作成セル日ニ於ケル右郵便局ノ日附印押捺行爲カ虛僞文書ノ作成ナリトセラルルカ如シ然レトモ郵便局ニ於テ使用スル日附印ハ當該郵便局ナル公務所ヲ表示スル印章ニシテ之ヲ押捺スル行爲ハ單ニ當該公務所ノ印影ヲ或物體上ニ現出セシメ當該ノ文書カ印影ノ現出ニ依リテ表示セラレタル公務所名義ノ文書タルコトヲ明カニスルニ止マリ更ニ其公務所ノ印影ヲ現出スルコト自體カ他ノ思想ヲ表示スルモノトハ認ムルヲ得ス然ルニ原判決ハ「同局日附印ヲ夫々押捺シ恰モ其日附當日受入手續ヲ爲シテ其日附ヲ押捺シタルモノノ如ク虛僞ノ文書ヲ作成シ」ト云ヒテ郵便局ナル公務所ノ印章タル日附印ノ押捺行爲カ更ニ其日ニ受入手續ヲ爲シ其日附ヲ押捺シタルモノノ如ク行爲マテモ包含スルモノト解シタルハ郵便局ニ於ケル日附印ノ押捺行爲ノ意義ヲ不當ニ擴張シテ解釋シタル不法アリト云フニ在レトモ〇郵便局ノ日附印ハ其押捺ニ依リ所屬公

モノノ如ク受入手續ヲ爲シタルモノニシテ判決理由ニアルカ如ク相反スル事實ヲ認定シ得ルカ如キ違法アリ

原判決ハ證據ニ依リ押捺セラレタル外共犯事項ニ關スル證明ヲ缺キ又判示ノ如キ虚偽文書ノ作成行爲アリタリトセラレタル被告ノ

罪ヲ以テ問擬スルコトヲ得サルニ拘ハラス原判決ハ擬律ノ錯誤ニ陷入リ右ノ行爲ヲ刑法第五十六條ヲ以テ問擬シタルハ不法ナリト言ハサルヘカラスト云フニ在レトモ〇郵便局長カ所屬郵便局ノ名義ヲ以テ所論文書ヲ作成スルコトハ其職務ニ屬スル事項ナルヲ以テ其文書ハ刑法第百五十六條ニ所謂公務員其職務ニ關シテ作ル文書ニ該當スルモノトス論旨ハ理由ナシ

第五點本件ニ付キ若シ御院ニ於テ上告趣旨ヨリ解釋シ破毀自判ヲ爲サルル場合ニ於テハ被告ノ爲メニ執行猶豫ノ御裁判アラレコトヲ希望スルモノナリ一件記錄就中素行調査ニアルカ如ク被告ノ父母ニ對シ孝養厚ハ鄉閭ニ於テ何人モ感セサルモノナキ次第ニシテ輕佻浮薄ナル現代ニ於テ希ニ見ルノ善行者タリ加フルニ被告ハ過去二十年ニ近ク小學校教員トシテ育英ノ業ニ從ヒ其功績又右ノ罪科ヲ贖ヒテ剩リアルモノアリ殊ニ犯罪ノ結果ニ於テモ何等金錢上ノ損害ヲ與ヘタリト云フニモ非ス其動機亦甚憫察スヘキノアリ犯罪ノ態樣ニ於テモ亦反社會性ヲ現ハセル點鮮少ニシテ情狀甚タ憫諒ニ價スルモノノ如ク認メラルルヲ以テ切ニ執行猶豫ノ御裁判アランコトヲ希フモノ也ト云フニ在レトモ〇上告審ハ原判決破毀ノ原因ナキ場合ニハ刑ノ執行猶豫ノ許否ニ付キ自ラ裁判ヲ爲ス權利ヲ有セス故ニ上告ノ理由ナキ本件ノ場合ニ於テ本趣意ハ採用ノ限ニアラス

辯護人高見之通上告趣意書第一點原判決ハ其事實理由中被告ハ云々大正四年十一月二十七日ヨリ大正五年九月二十日迄ノ間ニ大川との外四十七名ヨリ振替貯金總計六十四口ノ拂込ヲ受ケ各拂込人ニ對シ夫レ夫レ各當日受領票ヲ交付シ置キナカラ故意ニ即日之レカ所定ノ受入手續ヲ爲サスシテ一日乃至十數日後ニ同郵便局內ニ於テ職務上作成スヘキ振替貯金監査票ニ相當スル拂込金額拂込人及加入者ノ氏名等ヲ夫レ夫レ記入シ且ツ其記入當日ノ日附ナル同局日附印ヲ夫レ夫レ押捺シ恰モ其日附當日之レカ受入手續ヲ爲シテ其日附印ヲ押捺シタルモノノ如ク虛僞ノ文書ヲ順次ニ作成シ」ト判示シ刑法第百五十六第一項ヲ適用シタリ然レトモ右判示スル所ニ依リテハ判示文書ニハ振替貯金ヲ現實受ケタル日ヨリ一日乃至十數日後ニ於テ受入ヲ爲シタルカ如キ記載ヲ爲シタルト云フニ止マリ現實受入ヲ爲シタルハ何年何月何日ニシテ之レヲ何年何月何日ニ受入レヲ爲シタルカ如キ記載ヲ爲シタル判示スル所ナカリシハ即チ上告人カ如何ナル虛僞記載ヲ爲シタルヤヲ具體的ニ判示セサル理由不備ノ違法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免カレサルモノナリトスト云フニ在レトモ〇原判決ハ現實受入手續ノ日附ト虛僞ノ同上日附トヲ具體的ニ判示セサルニ止マリ被告ノ行爲ニ依リ文書上虛僞ノ日附カ揭載セラレテ虛僞ノ事實ヲ證明スルニ至リタルコトハ自ラ明白ナルヲ以テ刑法第百五十六條虛僞ノ文書タル所以ヲ判示シテ毫モ其理由ニ缺クル所ナキモノト謂ハサルヘカラス故ニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ第二原判決ハ記錄第八十二丁乃至第八十四丁ノ記載ヲ罪證ニ供シタリ然レトモ右ハ檢事カ事實取調ノ便宜上作成シタル計算表ニシテ固ヨリ證據タルノ効力ヲ有セサルモノナリ然ラハ右表ノ記載ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背セルモノニシテ此點ニ於テ破毀ヲ免カレサルモノナリトスト云フニ在レトモ〇記錄第八十二丁以下ノ表ノ記載事項カ事實ニ適合スルモノナルコトハ原審公廷ニ於テ被告ノ供述スル所ニシテ原判決ハ被告ノ此供述ヲ採用シ被告カ眞實ナルコトヲ認メタル記錄第八十二丁以下ノ表（判示ニ第八十三丁乃至第八十四丁云々トアルハ第右八十二丁以下ノ表ノ一部ニ該當ス）ニ云云ノ記載アリト說示シ之ヲ罪證ニ供シタルニ外ナラス故ニ右記錄第八十二丁以下ノ表ノ記載事項ハ被告公廷供述ノ趣旨ノ一部ヲ形成スルモノト云フヘク此點ニ於テ右表ノ記載事項ヲ罪證ニ供スルコトハ右表ノ獨立ノ證明力ノ有無ト沒交涉ナリトス從テ之ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ毫モ違法ニアラス論旨ハ理由ナシ

第三點刑事訴訟法第二百十八條第二項ニ依レハ公判ニ於ケル審理ノ初メニ當リテハ必ス檢事カ被告事件ノ陳述ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ此規定ハ刑事訴訟法第二百五十八條ニ依リ控訴裁判所ノ審理ニ關シテモ亦其適用アルモノナリトス然ルニ原審公判始末書ヲ閱スルニ其審理ノ初メ際シ檢事カ被告事件ノ陳述ヲ爲シタル事跡ノ見ルヘキモノ之アルコトナシ然ラハ則チ原審ニ於ケル審理ハ違法ナルヲ以テ斯ル違法ノ審理ニ基キテ下サレタル原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノト云フニ在レトモ〇控訴審ハ控訴理由ノ有無ヲ審判スルモノナルヲ以テ口頭辯論開始ニ際シ控訴人ヲシテ控訴理由ヲ陳述セシムヘキモノニシテ刑事訴訟法第二百十八條ノ規定ハ控訴審ニハ其適用ナキモノトス是レ本院判例ニ於テ屢說示シ來リタル所ナリ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事法學博士板倉松太郎干與大正六年八月二十日大審院第二刑事部

○業務上横領ノ件（大審院大正八年(れ)第二七六三號 大正九年一月二十六日宣告棄却）

刑法二百五十三條

【被告人】稻田左藏 【辯護人】鵜澤總明 百崎保太郎

【第一審】長崎地方裁判所佐世保支部 【第二審】長崎控訴院

○判決要旨

一郵便局長ハ爲替貯金事務締切後ト雖モ其職務ヲ執ルヲ得ヘキモノナレハ該事務締切後職務上受取リタル集金郵便金ハ帳簿ノ記入等正規ノ手續ヲ經サルモ其性質公金ニシテ同局長カ業務上保管スヘキモノトス

○事實及判決

右業務上横領被告事件ニ付キ大正八年十一月十一日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人法學博士鵜澤總明上告趣意書第一點原判決ハ其事實理由ノ（一）ニ於テ「被告ハ大正七年十一月中同村豐村守雄カ其父宇藏ノ支拂フヘキ集金郵便金四百四十二圓ヲ局ニ持參シタルヲ受領シ職務上之レヲ保管スルコトトナリシニ其翌日頃右保管金ノ內百圓ヲ同村內ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シテ横領シ」ト判示シ之ヲ業務上横領罪ニ問擬處斷シタリ然ルニ其證據說明ノ部ニハ「原審公判始末書及中被告左藏ノ……大正七年十一月中豐村宇藏ニ對スル集金郵便金四百四十二圓ヲ其倅守雄カ爲替貯金事務締切後持チ來リシ故明日正規ノ手續ヲ爲ス筈ニテ預リシモ其際私方ノ生計費ニ差迫リタル必要アリタルヨリ其翌日頃該金員中百圓丈ケヲ流用費消シ云々ノ供述」ト說示シアリ此ノ供述ニ由レハ被告カ豐村守雄ヨリ集金郵便金トシテ拂込ムヘキ金四百四十二圓ヲ預リタルカ幷ハ爲替貯金事務締切後ナリシ故翌日正規ノ手續ヲ爲ス可ク一時之ヲ預リ居リタル中ニ該金百圓ヲ自己ノ用途ニ費消シタリト云フニ在リテ右判示ノ如ク集金郵便トシテ正規ニ受取リタル後而カモ職務上保管中之ヲ自己ノ用途ニ費消シタリトノ證據ト見ルヘキモノニアラス而シテ本件ノ場合被告ノ費消シタル判示金員ハ集金郵便トシテ正規ノ手續ヲ爲シ受領シ保管中ノモノナリヤ又ハ未タ其手續ヲ爲サス單ニ一個人トシテ之ヲ預リ居ルモノナリヤハ業務上横領罪トナルカ普通横領罪トナルカノ岐ルル重要ノ點ナリトス然ラハ原判決ハ此重要ノ點ニ付キ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○郵便局長ハ爲替貯金事務締切後ト雖モ其職務ヲ執ルヲ得ヘキモノナレハ上記事務締切後職務上受取リタル集金郵便金ハ帳簿ノ記入等正規ノ手續ヲ經サルモ其性質公金ニシテ同局長カ業務上保管スヘキモノニ係ルコト明カナリ故ニ原判決ニ於テ所論證據ヲ援用シ被告カ判示金員ヲ職務上保管シタル事實ヲ認定シタルハ正當ナリ論旨ハ畢竟原審ノ職權ニ屬スル證據解釋及取捨ヲ批難スルモノニ過サレハ上告ノ理由ナシ

第二點原判決ハ其事實理由ノ（四）ニ於テ「尙同年十一月自家計算ニ於テ局舍ノ增築ヲ企テ其工事ヲ大工職秋永銀三郎ニ請負ハシメシカ同人ニ對スル工賃其他ノ支出ヲ自己ノ職務上保管セル爲替資金中ヨリ一時立替ヘ置クヲ便宜ナリトシ當時同局爲替貯金係タリシ前顯梅雄ニ對シ直接又ハ銀三郎ヲ通シ右一時ノ立替ヲ爲スヘキ旨申向ケ以テ梅雄ヲシテ同月十一日同局ニ於テ該爲替資金中ヨリ工事小屋入祝トシテ（イ）金一圓ヲ擅ニ銀三郎ニ支拂ハシメタルヲ始メトシテ（ロ）同月二十日金二圓（ハ）十二月十九日金二十圓（ニ）同月二十一日金二十圓（ホ）大正八年一月二十二日金二十五圓（ヘ）同月二十七日金十圓（ト）同月三十一日金二十圓（チ）同年二月四日金二十圓ヲ何レモ工賃トシテ擅ニ同局ニ於テ該資金中ヨリ銀三郎若クハ其妻タツニ支拂ハシメテ其各金員ヲ橫領シタリ」ト判示シタリ然ルニ其證據理由ノ部ニハ「原審公判始末書中被告左藏ノ……尙ホ私ハ同年十一月中局舍ノ增築工事ヲ秋永銀三郎ニ請負ハシメタルカ同年十二月二十五日頃局ニテ梅雄ニ對シ今後銀三郎カ自分方ニ工賃ノ請求ニ來ル暇ナキ等ノ場合ニハ同人ノ要求ニ應シ爲替資金中ヨリ一時流用支出シ置ク樣申付ケタルコトアリ云云ノ供述」「秋山銀三郎豫審調書中私ハ大正七年十一月中稻田左藏ヨリ郵便局局舍ノ增築工事ヲ請負ヒ大工賃左官賃人夫賃ヲ爲替貯金係大宅梅雄ヨリ受取リタルコトアリ私ノ手帳ニ記入シアル最初ノ一圓ハ局長カ工事ニ著手スルニ付テ木屋入祝トシテ酒ヲ出スカラ局ニテ大宅ヨリ受取レト云ハレタル故其事ヲ局ニテ大宅ニ話シ同人ヨリ金一圓ヲ受取リタルナリ又同月二十日ノ二圓十二月十九日ノ二十圓同月二十一日ノ二十圓ヲ受取リタル際稻田ハ常ニ私ニ對シ金ハ局ニテ大宅ニ請求シテ取リ呉レト云ヒタル故大宅ヨリ受取リタリ云云ノ供述記載」ト說示シアルノミニシテ右判示ノ如ク被告ハ銀三郎ヲ通シテ大宅梅雄ニ對シ爲替資金中ヨリ判示金員ヲ支拂ヒ呉レト申付ケタリトノ證據ハ之ヲ擧示スル所ナシ尤モ原判決ハ其證據トシテ「原審公判始末書中被告梅雄ノ……同月十一日頃銀三郎カ局ニ來リ私ニ對シ左藏カ私ヨリ貰ヒト云ヒタリト申シ小屋入祝ノ酒代一圓ノ支拂ヲ求メタル故私ハ局長カ爲替資金ヨリ支拂ヒト云ヒタルモノト思ヒ金一圓ヲ其資金中ヨリ銀三郎ニ拂ヒタルカ云云ノ供述記載ト說明シアルモ右ハ當時ニ於ケル梅雄ノ想像ヲ供述シタルモノニ係リ是ヲ以テ右判示ノ被告ハ銀三郎ヲ通シテ梅雄ニ對シ爲替資金中ヨリ金圓ヲ支拂フヘキ旨ヲ命シタリトノ證據ト爲スニ足ラス而シテ此點ハ判示（イ）乃至（ニ）ノ金員ハ橫領トナルカ否ヤニ關スル重要ノ點ナルニ拘ラス原判決ハ此點ニ關シ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタルモノニシテ違法ノ裁判ト思料スト云フニ在レトモ○所論判示事實ハ原判決ノ援用セル第一審公判始末書中被告及ヒ大宅梅雄ノ各供述記載秋永銀三郎豫審調書記載ヲ綜合シテ之レヲ認定スルヲ得ヘシ而シテ論旨後段ニ揭クル大宅梅雄ノ供述記載ハ同人ノ實驗シタル實實ニ基ク意見ヲ記載シタルモノニシテ單純ナル想像ニ基ク供述ヲ記載シタルモノニ非サルヲ以テ之ヲ證據ニ供スルヲ得ヘシ論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ第一審公判始末書中被告左藏ノ供述ヲ援用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ仍テ記錄ニ就キ之ヲ調査スルニ第一審ニ於ケル被告左藏ニ對スル重罪下調調書（五六三丁）ニハ作成年月日ノ記載アルコトナク無效ナルヲ以テ結局第一審ニ於テハ被告左藏ニ對シ下調ヲ爲ササルコトトナリ從テ同審ニ於ケル同被告ノ供述ハ無效ナリトス然ルニ之ヲ採テ罪證ニ供シタル原判決ハ違法ニシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在レトモ○重罪事件下調調書ハ訊問ト同時ニ作成スルヲ通例トス而シテ所論下調調書ニ付テモ之ニ反スル事蹟ノ徵スヘキモノナキニ依リ同調書ハ之レニ記載スル訊問日即チ大正八年九月二十六日ニ作成セラレ同日ヲ以テ作成日トナシタルモノト解シ得ヘシ隨テ同調書ハ無效ニアラサルヲ以テ原判決ニ於テ之ヲ援用シタルハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ

第四點原判決ハ其證據理由ニ「證第十號名刺」ト說示シタリ然レトモ右說明ノミニテハ該名刺ノ記載ヲ罪證ニ供シタルモノナリヤ其存在ヲ罪證ニ供シタルモノナリヤヲ知ルニ由ナク結局原判決ハ其證據援用ノ趣旨ヲ明示セサル違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○原判決ハ所論證據ノ存在ヲ罪證ニ供シタルモノナルコト原判文ノ全趣旨ニ照シ明カナリ論旨ハ理由ナシ

辯護人百崎保太郎上告趣意第一點原判決ハ第一審公判始末書中ノ被告ノ供述記載ヲ罪證ニ供シ以テ被告ヲ業務上橫領罪ニ處斷セラレタリ然ルニ一件記錄ヲ精査スルニ第一審公判前ニ於ケル被告ニ對スル下調書（記錄第五六二乃至五六三丁）ニハ之カ作成ノ日附ナキカ故ニ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無效ノ調書ト謂ハサルヘカラス然ラハ第一審ニ於テハ被告ニ對シ

下調ヲ爲スコトナクシテ公判ヲ開キテ審問ヲ爲シ以テ被告ニ供述セシメタルモノニシテ固ヨリ被告ノ該供述ハ違法ノ手續ニ於テ爲サレタルモノナルヲ以テ無效ナリト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ原判決ハ無效ノ供述記載ヲ罪證ニ供シ以テ罪ヲ斷シタルハ不法アリト思料スト云フニ在レトモ○論旨ノ理由ナキコトハ前揭鵜澤辯護人提出ノ上告趣意書第三點ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ

第二點原判決ハ豐村宇藏豫審調書中「（前略）大正七年末頃戶次ヨリ四五百圓ノ反物ヲ買ヒ其代金ハ貨物引換證附集金郵便ニテ支拂ヒタリト記憶ス云云」トノ供述記載アリト爲シ該記載ヲ罪證ニ供シ以テ被告ヲ有罪ニ處斷セラレタリ依ツテ右調書（記錄第四三二丁乃至四三七丁）ヲ精査スルニ原判決摘示ノ如キ供述記載ナシ果シテ然ラハ原判決ハ虛無ノ證據ニヨリ罪ヲ斷シタルハ不法アリト思料スト云フニ在レトモ○所論豫審調書（記錄四三三丁裏ヨリ四三四丁裏ニ亘リ）ニ論旨所揭ト同趣旨ノ供述記載アリ論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ其證據說明ノ部ニ於テ「證第十號名刺」ト摘示シ以テ被告ヲ有罪ニ處斷セラレタリ然レトモ右「證第十號名刺」トノ摘示ハ單ニ該名刺ノ實在ヲ意味スルノミニシテ該名刺カ如何ナル內容ヲ有スルモノナリヤ不明ナル結果該摘示ニヨリテハ被告カ判示ノ如キ所爲ヲ爲シタルコトヲ確認スルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ原判決ハ內容不明ノ證據ニヨリテ罪ヲ斷シタルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ從ヒ罪トナルヘキ事實ニ付キ證據ヲ明示シタルモノト謂フヲ得サル不法アリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ハ所論證據ノ存在ヲ罪證ニ供シタルモノナレハ其內容ノ記載ナキハ當然ナリ論旨ハ理由ナシ

第四點原判決ハ「被告左藏ハ（中略）（一）大正七年十一月中同村豐村守雄カ其父宇藏ノ支拂フヘキ集金郵便金四百十二圓ヲ持參シタルヲ受領シ職務上之ヲ保管スルコトトナリシニ其翌日頃保管金ノ內百圓ヲ同村內ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シテ橫領シ」ト判示シ被告ノ所爲ヲ刑法第二百五十三條ニ該當スルモノト爲シ有罪ニ處斷セラレタリ依ツテ原判決摘示ノ證據ノ部ヲ精査スルニ第一審公判始末書中ノ被告ノ供述トシテ「（前略）大正七年十一月中豐村宇藏ニ對スル集金郵便金四百四十二圓ヲ其倅守雄カ爲替貯金義務締切後持參リシ故明日正規ノ手續ヲ爲ス筈ニテ預リシモ其際私方ノ生計費ニ差迫リタル必要アリタルヨリ其翌日頃該金員中百圓丈ケヲ流用費消シ云云」トノ記載摘示アリテ該證據ニヨレハ右金四百四十二圓ハ爲替貯金義務締切後ニ於テ翌日受入ヲ爲スヘク豐村守雄ヨリ預リタルモノニシテ郵便局ノ公金トシテ受入レタルモノニアラサルヲ以テ被告ニ於テ未タ職務上保管セルモノト謂フヲ得ス何トナレハ未タ正規ノ受入手續之レナキ限リハ郵便局ノ公金ニアラス該金ハ依然トシテ豐村守雄ノ所有ニシテ該金ノ所有權ハ未タ郵便局ニ移轉シタルモノト謂フヲ得ス而シテ原判決摘示ノ證據中被告カ右金員中百圓ヲ流用費消シタル當時該金ニツキ正規ノ受入手續ヲ爲シ因テ郵便局ノ公金トシテ保管シタル旨ノ說示ナキヲ以テ被告ノ右保管ハ猶ホ豐村守雄ノ爲メニスルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ果シテ然ラハ原判決ハ重要ナル事實ニツキ證據ヲ示ササル理由不備且ツ齟齬ノ不法アリト思料スト云フニ在レトモ○郵便局長カ爲替貯金事務締切後ニ職務上受取リタル集金郵便金ハ同局長ノ業務上保管スヘキモノニ係リ公金ノ性質ヲ具有スヘキコトハ鵜澤辯護人提出上告論旨第一點ニ對シ說明シタルカ如シ隨テ原判決カ所論證據ヲ援用シ之ヲ他ノ判示證據ト綜合シ所揭判示事實ヲ認定シタルハ正當ニシテ毫モ所論ノ如キ違法ナシ論旨ハ理由ナシ

第五點原判決ハ「被告ハ（中略）（四）尙ホ同年十一月自家計算ニ於テ局舍ノ增築ヲ企テ其工事ヲ大工職秋永銀三郎ニ請負ハシメシカ同人ニ對スル工賃其他ノ支出ヲ自己ノ職務上保管セル爲替資金中ヨリ一時ノ立替ヲ爲シ前顯梅雄ニ對シ直接又ハ銀三郎ヲ通シ爲替資金中ヨリ一時ノ立替ヲ爲シ右一時ノ立替ヲ以テ梅雄ニ對シ工賃其他ノ支出ヲ自己ノ職務上保管セル爲替資金中ヨリ工事小屋入祝トシテ（イ）金一圓ヲ擅ニ銀三郎ニ支拂ハシメ云云」ト判示シ被告ヲ有罪ニ處斷セラレタリ依ツテ原判決判示ノ如ク被告カ梅雄ニ對シ右一圓ニツキ直接又ハ銀三郎ヲ通シ爲替資金中ヨリ一時ノ立替ヲ爲スヘキ旨申向ケタル旨ノ證據說明存スルヤヲ精査スルニ大正七年十一月十一日梅雄ニ於テ爲替資金中ヨリ金一圓ヲ銀三郎ニ支拂ヒタル旨ノ證據說明ハ存スレトモ該支拂ヒカ被告ノ申向ケニ因ル旨ノ證據說明之レナシ尤モ梅雄ノ第一審公判始末書中ノ供述トシテ「同月十一日頃銀三郎カ局ニ來リ私ニ對シ左藏カ私ヨリ貰ヘト云ヒタリト申シ小屋入祝ノ酒代一圓ノ

支拂ヒヲ求メタル故私ハ局長カ爲替資金ヨリ支拂ヘト云ヒタルモノト思ヒ金一圓ヲ其資金中ヨリ銀三郎ニ拂ヒ云云」ノ記載ヲ摘示シアレトモ該供述ハ梅雄ノ感想ニシテ事實ノ供述ニアラス從ツテ被告ニ於テ爲替資金中ヨリ支拂ヒヲ爲スヘキ旨申向ケタリトノ證據トナルヘキモノアラス果シテ然ラハ原判決ハ證據ニ依ラスシテ罪ヲ斷シタル理由不備ノ不法アリト思料スト云フニ在レトモ○論旨ノ理由ナキコトハ鵜澤辯護人ノ提出セル上告趣意書第二點ニ對スル說明ニ依リ之ヲ了解スヘシ第六點相辯護人提出ノ趣意ハ之ヲ援用スト云フニ在レトモ○援用セル論旨理由ナキコトハ之ニ對スル說明ニヨリ了解スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢追秀作干與

大正九年一月二十六日大審院第二刑事部

○公文書僞造行使公文書變造行使業務上橫領被告事件

（大審院大正十一年（れ）第一三五七號同年十二月十一日第二刑事部判決棄却）

【上告人】被告人

【第一審】山口地方裁判所【第二審】廣島控訴院

刑法第百五十條第百五十六條第六十五條

○判決要旨

一三等郵便局ニ於ケル通信事務員ノ任務ハ局長ノ命ヲ受ケ其ノ權限ニ屬スル文書ノ作成又ハ帳簿ノ記入ヲ爲スニ過キサルヲ以テ擅ニ局長名義ニテ虛僞ノ文書ヲ作成シ又ハ備付ノ帳簿ニ虛僞ノ記入ヲ爲スニハ刑法第百五十五條第一項ノ罪ヲ構成スルモ同法第百五十六條ニ該當セス

【參照】刑法第百五十五條第一項　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第百五十六條　公務員其ノ職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

○事實

第二審判決ハ被告人ハ（原判決第一事實ノ一）大正二年二月ヨリ山口縣大津郡深川村湯本郵便局ニ通信事務員トシテ勤務中大正八年八月九日同村柏木某ヨリ郵便貯金トシテ金百圓ヲ預リ新規のろ弐四壹弐四壹弐番郵便貯金通帳ヲ同人ニ交付シテ金員ハ自己ニ保管中不正領得ノ意思ヲ以テ之ヲ局外ニ持出シ橫領シタル所（以下原判決第二事實ノ二）右柏木某ヨリ貯金預入ノ事實ヲ廣島遞信局ヲ經テ下關貯金支局ニ報告ヲ爲ササリシ結果大正九年五月二十三日右貯金中ヨリ金二十圓ノ即時拂ヲ爲シタル事實ヲモ報告セサリシ爲犯行ノ發覺ヲ惧レ之ヲ防止スル爲メ同局通信事務員ノ職ヲ罷メタル後大正十年六月二十一日前記湯本局ニ於テ前記柏木某ノ郵便貯金通帳中同局長ノ捺印アリテ大正九年十一月二十二日金三十圓ノ即時

拂ヲ爲シタル旨同局長ニ於テ正當ニ記載セル部分ヲ毛筆ヲ以テ右年月日ヲ「大正十年六月二十一日」金額ヲ「金二十圓」ト擅ニ改竄シ之ニ同局日附印ヲ不正ニ押捺シ以テ變造ヲ完成シ其頃之ヲ前記柏木某ノ住所ニ郵送到達セシメテ行使シ更ニ其ノ犯跡ヲ蔽ハンカ爲同局通信事務員深田某ト同局文書ヲ僞造行使センコトヲ共謀シ其ノ結果深田某ニ於テ同日同局ニ於テ公務所又ハ公務員ノ署名捺印ナキ同局貯金拂渡簿ニ同日右通帳ニ依リ金二十圓拂渡シタルカ如ク擅ニ虚僞ノ記載ヲ爲シ以テ僞造ヲ完成シ即時之ヲ同局ニ備付ケテ行使シタルモノナリ

○上告理由

辯護人江木衷、小賀泰富、重長直次上告趣意書第四點原判決ハ理由第二ノ（二）ノ後段ニ於テ「同局通信事務員雅介ト同局文書ヲ僞造行使センコトヲ共謀シ其ノ結果雅介ニ於テ同日同局ニ於テ同日右通帳ニ因リ金二十圓ヲ拂渡シタルカ如ク擅ニ虚僞ノ記入ヲ爲シ」云云ト判示シ之ヲ直ニ刑法第百五十五條第三項ニ右僞造拂渡簿行使ノ點ハ刑法第百五十八條第一項、第百五十五條第三項ニ問擬シタルモ右貯金拂渡簿ニ虚僞ノ記入ヲナシタル者ハ雅介ニシテ被告人靖ハ右虚僞記入ヲナサンコトヲ共謀シタルモノナルコトハ判文自體ニ徴シ明ニシテ且被告人靖ハ右行爲當時ニ於テハ通信事務員ヲ懲戒免職セラレタルコトモ原判決理由第二ノ冒頭ニ「被告人ハ大正九年十二月十五日前記通信事務員ヲ懲戒免職セラレタルニ拘ラス」トノ判示ニ徴シ明白ナリ果シテ然ラハ公務員タル雅介カ右貯金拂渡簿ニ虚僞ノ記載ヲナシタルハ其ノ職務執行中ノ行爲ニシテ雅介ノ右行爲ハ刑法第百五十六條ニ問擬スヘク之ト共謀ノ關係アル被告人靖ハ通信事務員タル資格ナク從テ刑法第六十五條第一項ヲ適用シ同第百五十六條ニ問擬スヘキモノナルニ事玆ニ出テスシテ直ニ刑法第五十五條第三項ニ問擬シタルハ擬律ニ錯誤アル失當ノ判決ナリ假リニ右貯金拂渡簿ニ虚僞記入ヲ爲シタルハ雅介ナルモ財金拂渡簿ニ拂渡金額ヲ記入スルコトカ通信事務員タル雅介ノ權限外ノ行爲ニシテ之ト共謀ノ關係アル被告人靖モ亦當然直ニ刑法第百五十五條第三項ヲ適用スルヲ正當ナリトスルモ右雅介カ貯金拂渡簿ニ拂渡金額ヲ記入シタル行爲カ通信事務員タル雅介ノ權限外ノ行爲ナリヤ否ハ原審判文自體ニ徴シテハ之ヲ知ルニ由ナク原判決ハ少クトモ理由不備ノ失當ナル判決ナリ

○判決理由

三等郵便局ニ於ケル通信事務員ハ局長カ其ノ擔任セル通信其他ノ事務ヲ執行スル單純ナル助者トシテ使用セラレ局長ノ權限ニ屬スル諸多ノ文書ヲ作成シ又ハ同局備考ノ帳簿ニ記入ヲ爲スニ過キスシテ自己ノ職務上ノ權限ニ基キ該文書ノ作成及記入ヲ爲スモノニ非サルヲ以テ同事務員カ擅ニ局長名義ニテ虚僞ノ文書ヲ作成シ又ハ同局備付ノ帳簿ニ虚僞ノ記入ヲ爲スカ如キハ何等ノ資格ナキ者カ公文書ヲ僞造シタルト等シク其ノ所爲ハ刑法第百五十五條ノ罪ヲ構成スヘキモ同法第百五十六條ニ該當セス原判決第一ノ（一）（二）ニ依レハ被告人ハ判示湯本郵便局ニ通信事務員トシテ勤務中其ノ犯シタル横領罪ニ付犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ同局現金出納簿ニ虚僞ノ記入ヲ爲シ同第二ノ（二）ニ依レハ被告人ハ通常事務員退職後柏木某ノ郵便貯金通帳ヲ變造行使シ其ノ犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ前示郵便局通信事務員雅介ト共謀シ同人ニ於テ同局貯金拂渡簿ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタルモノニシテ斯ル虚僞ノ記載ハ被告人及雅介ノ權限外ノ行爲ナルコト判文上自ラ明ナル所ナリ而シテ判示湯本郵便局カ三等郵便局ナルコトハ公知ノ事實ナレハ被告人ノ判示行爲孰レモ刑法第百十五條第一項（原判示第二ノ（二）ニ付テハ刑法第六十五條一項）ニ該當スルモノトス然レハ原判決ニ於テ右法條ヲ適用シ被告人ヲ處斷シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ

刑法第二百五十三條

○業務上横領私文書僞造行使被告事件（大審院大正十三年(れ)第五六九號同年六月二十日第六刑事部判決棄却）

【上告人】被告人

【第一審】松江地方裁判所　【第二審】廣島控訴院

○判示事項

郵便物カ宛名外ノ郵便局ニ到達シタル場合ト業務上ノ横領

○判決要旨

一甲郵便局ニ宛タル貯金通帳在中ノ郵便物カ誤テ乙郵便局到達シタル場合ニ乙郵便局長カ不正ニ之ヲ領得シタルトキハ刑法第二百五十三條ノ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス

【參照】刑法第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審判決ノ認定セル事實ハ左ノ如シ

被告人ハ鳥取縣日野郡根雨町板井原郵便局長勤務中大正十年十二月七日下關貯金支局ヨリ京都聖護院郵便局ニ宛テタル篠田某ノ貯金額二百八十六圓七十八錢ノ貯金通帳（證第二號清字〇一二四〇番）在中ノ郵便物カ自局宛郵便物ト密着シテ到達シ右自己宛郵便物ヲ開封シタル際前記郵便物ヲモ過テ開披シタルヨリ職務トシテ該貯金通帳ヲ右聖護院郵便局ニ廻送スヘク而シテ其ノ手續ヲ爲スニ至ル迄ノ間被告人ハ其ノ職務上該貯金通帳ヲ占有シタルモノナル處右廻送ノ手續ヲ爲サスシテ同日自局ニ於テ恣ニ之ヲ着服横領シ自宅内ノ手提金庫内ニ藏匿シタリ

○上告理由

辯護人中村了詮上告趣意書第三點原判決事實理由ノ第二ニ於テ「被告人ハ板井原郵便局長勤務中大正十年十二月七日下關貯金支局ヨリ京都聖護院郵便局ニ宛テタル篠田某ノ貯金通帳在中ノ郵便物カ自己宛郵便物ト密着シテ到達シ右自己宛郵便物ヲ開封シタル際前記郵便物ヲモ過テ開披シタルヨリ職務トシテ該貯金通帳ヲ右聖護院郵便局ニ廻送スヘク而シテ其ノ手續ヲ爲スニ至ル迄ノ間被告人ハ其ノ職務上該貯金通帳ヲ占有シタルモノナル處右廻送ノ手續ヲ爲サスシテ同日自己ニ於テ擅ニ之ヲ着服横領シ自宅内ノ手提金庫内ニ藏匿シタリ」ト判示シタルモ其ノ證據理由ニ援用シタル被告人ノ供述竝笠田某道野某ノ各豫審調書ヲ査スルニ判示ノ如ク過誤ニヨリ開披セラレタル郵便物在中ノ貯金通帳ハ果シテ被告人ノ職務トシテ之ヲ聖護院郵便局ニ廻送スヘキ責任アリヤ否ヤヲ認ムルニ足ルヘキモノ絶テ存在セサルノミナラス被告人ノ供述ニ依レハ右郵便物ヲ過誤ニヨリ開披シ在中ノ貯金通帳ヲ發見スルト同時ニ忽チ惡意ヲ生シ他日之ヲ利用シテ自己ノ用途ニ引出シ費消セント決意シ其ノ儘自宅ニ持歸リ手提金庫ノ内ニ隱匿シタリト云フニ在ルヲ以テ觀レハ被告人ニ於テ素ヨリ職務上之ヲ占有スル意思ナクシテ單ニ郵便物送達手續上ノ過誤ニ因リ偶然被告人ノ手ニ到達シタル他人ノ物ヲ横領シタルモノニ外ナラサルコト明カナリ然ルニ原判決ニ於テ證據ヲ明示セスシテ漫然被告人カ其ノ職務上該貯金通帳ヲ占有シタル旨ヲ判示シ以テ業務上横領罪ヲ以テ問擬シタルハ證據ニ憑ラスシテ不當ニ事實ヲ認定シタル違法アリト信ス

○判決理由

原審公判調書ニ依レハ被告人ハ三等郵便局長トシテ所論判示貯金通帳ヲ業務上占有中横領シタル旨原審公廷ニ於テ供述シタルコト豫審終結決定書ノ記載ト相俟テ明ニシテ其ノ供述ニ依リ所論判示事實ヲ認ムルコトヲ得ルノミナラス郵便官署ハ郵便物ノ遞送配達等郵便ニ關スル事務ヲ管掌スヘキモノナレハ判示第二事實ノ如キ場合ニ在テハ其ノ貯金通帳ヲ聖護院郵便局ニ廻送ノ手續ヲ爲スニ至ル間保管スヘキハ郵便局長タル被告人ノ職務ノ範圍内ニ屬スルコト論ヲ俟ヲサル所ナレハ論旨ハ其ノ理由ナシ

刑法第百五十五條

○公文書僞造行使詐欺未遂被告事件（大審院大正十五年(れ)第四五六號同年五月十三日第二刑事部判決棄却）

【上告人】被告人

【第一審】福岡地方裁判所【第二審】長崎控訴院

○判決要旨

一郵便貯金通帳ノ記號番號及貯金者名義並ニ預入拂戻金額欄ノ記載ヲ抹消シテ各之ニ別異ノ記載ヲ爲シタルトキハ既存ノ郵便貯金通帳ト全然異リタル法律關係ヲ表示スル別個ノ通帳ヲ作成シタルモノニシテ其ノ行爲ハ公文書ノ僞造ナリトス

【參照】刑法第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ僞造シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事　實

第二審判決所揭ノ事實ハ左ノ如シ

被告人ハ犯意ヲ繼續シテ

第一大正十四年九月末頃被告人肩書住居ニ於テ荒卷某名義貯金金現在高三、四圓ノ郵便貯金通帳ノ記號番號預入人及金額欄ニ關スル各記載文字ヲインキ消液（證第二號）ヲ使用シテ抹消シタル上行使ノ目的ヲ以テ各其ノ相當部分ニ「ていす一九八一」「粕屋群久原村上久原中西要」ト記入シ尙預入拂戻ノ金額トシテ相當文字ヲ記入シ以テ右記號番號預入金現在高百五圓ノ郵便貯金通帳一通ヲ僞造シ同年十月二日事情ヲ知ラサル姓不詳實ヲシテ同郡篠栗郵便局ニ於テ右通帳ヲ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ同局員ニ提出行使シ因テ金百圓ノ拂戻ヲ受ケシメテ之ヲ於テ荒卷某女名義貯金現在高約五拾錢餘ノ郵便貯金通帳ノ記號番號預入人及金額欄ニ關スル記載文字ヲ前同樣ノ方法ニヨリ抹消シタル上行使ノ目的ヲ以テ各相當部分ニ「ていす一五七一」「粕屋郡久原村上久原二〇三池田榮」ト記入シ尙預入拂戻ノ金額トシテ相當文字ヲ記入シ以テ右記號番號預入人及貯金現在高約百參拾圓ノ郵便貯金通帳一通ヲ僞造シ同月十二日前示實ヲ使トシテ篠栗郵便局ニ於テ前同樣右通請ヲ同局員ニ提示行使シ因テ金百貳拾參圓ノ拂戻ヲ受ケシメテ之ヲ騙取シ

第三同月二十二三日頃其ノ肩書住所ニ於テ粟山某女名義ノ貯金現在高約五拾錢餘ノ郵便貯金通帳ノ番號番號預入人及金額欄ニ關スル記載文存ヲ前同樣ノ方法ニ依リ抹消シタル上行使ノ目的ヲ以テ右各部分ニ相當文字ヲ記入シテ記號番號ていす一〇五一三預入同同郡勢門村乙犬七五六中牟田久治預入金高百八拾七圓七拾錢ノ郵便貯金通帳一通（證第一號）ヲ僞造

シ同月二十八日情ヲ知ラサル井上某ヲ使トシテ金拾九圓五拾錢ノ拂戻請求ノ爲前同樣該通帳ヲ篠栗郵便局ニ提出行使シタルモ同局員ニ覺知セラレ金員騙取ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

○上告理由

辯護人金井康上告趣意書第一點前審判決ハ被告カ莞巻某名義郵便貯金通帳同莞巻某女名義郵便貯金通帳及葉山某女名義郵便貯金通帳ノ各記號番號預入人及金額欄ノ各記載ノ文言ヲインキ消液ヲ以テ抹消シ行使ノ目的ヲ以テ各相當部分ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル事實ヲ認メ之ニ刑法第百五十五條第一項ヲ適用シ公文書僞造ヲ以テ之ヲ論シタレトモ被告ノ所爲ハ公務所又ハ公務員ノ印章若ハ署名ヲ使用シタルモノト云ハムヨリハ寧ロ公務所又ハ公務員ノ捺印若ハ署名シタル文書ヲ變造シタリト看ルヲ妥當トシ刑法第百五十五條第二項ヲ適用スヘキモノナリト信ス

○判決理由

公文書ノ變造トハ既存公文書ノ記載ヲ增減シテ其ノ證據力ヲ變更スルコトヲ謂フモノニシテ從テ既存公文書中ノ公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ヲ冒用シ新ナル公文書ヲ作成スルカ如キハ公文書ノ變造ニ非スシテ其ノ僞造ナルコト言ヲ俟タサル所ナリ而シテ原判決ノ認定シタル所ニ依レハ被告人ハ擅ニ貯金者莞巻某名義貯金通帳ノ記號番號及貯金者名義竝預入及拂戻金額欄ノ記載ヲ抹消シ各其ノ相當部分ニ元ノ記載ト異リタル「ていす一九八一」「粕屋郡久原村上久原中西要ナル記號番號及貯金名義ヲ記入シ尙元ノ記載ト異リタル預入及拂戻金額ヲ表示スル文字ヲ記入シ其ノ貯金現在高百五圓ナルモノノ如ク仕做シ貯金者莞巻某女名義貯金現在高約五十錢ナル同上通帳ノ前同樣記載ヲ抹消シ各其ノ相當部分ニ前同樣「ていす一五七」「粕屋郡久原村上久原二〇三池田榮二」ナル記號番號及貯金者名義ヲ記入シ尙前同樣預入及拂戻金額表示ノ文字ヲ記入シテ貯金現在高約百三十圓アルモノノ如ク仕做シ貯金者葉山某女名義現在高約五十錢ナル同上通帳ノ前同樣記載ヲ抹消シ各其ノ相當部分ニ前同樣「ていす一〇五一三二」「粕屋郡勢門村乙犬七五六中牟田久治」ナル記號番號及貯金者名義ヲ記入シ尙前同樣預入及拂戻金額表示ノ文字ヲ記入シテ貯金現在高百八十七圓七十錢ナルカ如ク仕做シタリト謂フニ在リテ即チ被告人ハ既存ノ郵便貯金通帳ノ記載ヲ增減シ其ノ證據力ヲ變更シタルモノニ非スシテ擅ニ既存ノ郵便貯金通帳ニ於ケル郵便局長ノ印章ヲ冒用シ既存ノ郵便貯金通帳ト全然異ナリタル權利關係ヲ表示セル別個ノ同通帳ヲ作成シタルモノニ外ナラサレハ其ノ所爲ハ公文書ノ變造ニアラスシテ其ノ僞造ナルコト明カナリ左レハ原判告カ之ニ對シ刑法第百五十五條第一項ヲ適用シタルハ固ヨリ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

○業務上横領被告事件（大審院大正十五年（れ）第一九四六號昭和二年二月十六日第四刑事部判決棄却）

地方遞信官署雇員規程第一條　郵便貯金ト業務上占有

【上告人】被告人

【第一審】東京區裁判所【第二審】東京地方裁判所

○判決要旨

一三等郵便局通信事務員カ自己ノ職務トシテ貯金事務ヲ執ル以上ハ其ノ貯金者ヨリ受領シタル郵便貯金ハ之ヲ分任出納官タル局長ニ交付スル迄ハ其ノ業務上ノ占有ニ屬スルモノトス

【參照】地方遞信官署雇員規程第一條　郵便電信及電話局所ニ左ノ雇員ヲ置ク

二　通信事務員

通信事務員ノ受領シタル郵便貯金ト業務上占有

同規則第十一條　雇員ノ職務ハ別ニ規定スルモノノ外左ノ區別ニ依ル

二、通信事務員ハ郵便電信電話郵便爲替郵便貯金年金恩給各廳歲入歲出金及簡易生命保險ニ關スル諸般ノ事務

同規定第十二條　雇員ノ服務心得服務時間及休養方法ハ別ニ規定スルモノノ外當該局所長適宜之ヲ定ムヘシ

刑法第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

會計法第三十五條　出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

同法第三十七條　國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

會計規則第百二十七條　所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ揭クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一、鐵道官署

二、遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

同規則第百二十八條　前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

○事　實

第二審判決ノ認定セル事實ハ左ノ如シ

被告人ハ東京市芝區三田四國町郵便局ニ通信事務員トシテ雇ハレ爲替貯金事務ニ從事中犯意繼續シテ大正十四年十二月中旬頃ヨリ大正十五年六月一日迄ノ間ニ各貯金者ヨリ受領シタル郵便貯金合計金九千九十七圓九十五錢ヲ約八十回ニ同市內ニ於テ擅ニ遊興其他自己ノ用途ニ費消橫領シタルモノナリ

○上告理由

被告人上告趣意書第一點原判決ハ被告ノ行爲ヲ業務上橫領罪ヲ構成スルモノトシテ處罰シ被告カ芝區三田四國町郵便局ニ通信事務員トシテ事務取扱中各貯金者ヨリ受領シタル郵便貯金ヲ橫領シタル事實ヲ以テ業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタルモノト判定シタルモ原判決ノ認定ハ事實ニ相違セルモノナリ被告ハ業務上右ノ金錢ヲ占有スルモノニ非ス會計法（大正十年四月八日法律第四十二號）第三十五條第三十七條會計規則第百二十七條第百二十八條ニ規定セルカ如ク現金又ハ物品ヲ出納保管占有スルコトヲ得ル者ハ出納官吏又ハ分任出納官吏及附屬ノ現金出納員（勅令ノ定ムル所ニ依ル事務員）ニ限リ他ノ者ハ絕對ニ現金又ハ物品ヲ出納保管占有スルコトヲ得ス其ノ責任モ亦前記ノ出納官吏分任出納官吏及附屬ノ出納員ニ限定セラレ居ルモノナリ從テ二等郵便局以上ニ於テハ局長ハ分任出納官吏局長代理タル主事（通信書記）ハ現金出納員及爲替貯金掛ニシテ現金ノ出納保管占有ヲ取扱フ者ト窓口ニ於テ一般公衆ニ切手端書印紙ヲ賣捌キ現金ノ出納保管占有ヲ取扱フ者ハ其ノ局分任出納官吏（局長）附屬ノ現金出納員トシテ現金出納保管占有ノ事務ニ從事シ他ノ局員ハ現金出納事務ニ對シテハ少シモ取扱フ事ヲ得サルモノニシテ前記ノ現金出納員ハ現金出納員トシテノ任命辭令ヲ受ケテ現金

出納保管占有ノ事務ニ從事シ日々事務終了後其ノ受拂狀態ヲ會計規則第五十八條ニ規定スルカ如ク現金出納簿ニ記入ノ上殘餘ニ係ル現金ハ分任出納官吏即チ一二等郵便局長又ハ其ノ代理者タル現金出納員（一二等郵便局ノ主事）ニ拂込ミ分任出納官吏又ハ其ノ代理出納員ハ之ヲ受領シ保管占有スルコトトナリ居リ三等郵便局ニ於テハ其局長カ分任出納官吏トシテ現金ノ出納保管占有ヲ爲スコトト爲リ居リ爲替貯金受拂ニ對スル現金全部及凡テノ物品保管ニ對スル全責任ハ三等郵便局長ニ歸スルコトト爲リ其ノ局ノ事務員ハ局長責任ノ下ニ使用セラルルモノナリ被告ハ三等郵便局ノ事務員即チ局長ノ使用人（三等郵便局ハ受負制度ナルヲ以テ事務員ノ名稱アルモ局長ノ使用人ニ外ナラス）トシテ局ノ事務ヲ取扱フ者ニシテ現金出納員トシテノ任命辭令ヲ受ケ居ラス現金ノ出納ヲ取扱ヒ保管スルコトハ法規上絕對ニ爲シ能ハサルコトトナリ斯ノ如ク出納保管シ得サル處ニ占有ナルモノ存スル謂ハレナキカ故ニ刑法第二百五十三條ニ所謂業務上自己ノ占有スルトノ條件ヲ具備スルコトナク從テ業務上ノ横領罪ハ成立セサルモノトス或ハ普通三等郵便局ニ於テ當該局長ハ一般慣習上局長ノ全責任ヲ以テ其局事務員ニ現金出納事務ヲ取扱ハシメ居ルトノ事實アリト云ハンモ是レ公然監督官廳ヨリ許可セラレタル責任代理ニハアラス但三等郵便局長ハ普通局務ノ傍他ニ營業ヲ兼ヌルモノ多キカ故ニ便宜上暗默ニ一部ノ取扱ヲ爲サシメタル傾向アルモ是レ法規ニ依據スルモノニ非ス故ニ責任ハ局長ニ於テ之ヲ負擔スルモノニシテ此ノ場合ハ無權代理ニテ單ニ局長ノ事務ヲ處理スルニ過キス又局事務員カ全般ニ渉リテ代理スルカ如キコトハ事實アリ得ヘカラサル所ナリ故ニ事務員ノ之カ局務ヲ取扱フハ一部代理又ハ臨時事務代理ニテ單ニ局長ノ責任ヲ處理スルニ過キス且局長ノ責任ノ下ニ事務代理ヲ爲スモノナレハ法規上金錢ノ出納保管占有ヲ爲スモノニ該當セス之ヲ稱シテ業務上ノ占有ト云フヲ得ス故ニ業務上ノ横領罪ヲ構成スル理由ナシ且被告人ハ自己ノ取扱フ職務上通信事務員ノ辭令ハ受ケ居リタルモ二等郵便局以上ノ一般ノ通信事務員ト同一ノ待遇ヲ受ケス給料ノ支給方昇給ノ方法ヲ同シクセス三等郵便局カ事業ノ性質上受負制度ナルニ因リ被告人ハ局ニ附屬スル一ノ使用人ニ過キス通信事務員トシテハ現金出納員トシテノ事務ハ取扱フ事ヲ得ス現金出納ヲ取扱フコトハ法ノ禁スル所ナリ從テ業務上保管占有ノ責任ナシ故ニ業務上横領罪ハ成立スルヲ得サルナリ

○判決理由

地方遞信官署雇員規程第一條ニ依レハ郵便局ニ雇員トシテ通信事務員ヲ置キ其ノ服務ニ關シ同第十一條ヲ以テ通信事務員ハ郵便貯金其ノ他ニ關スル諸般ノ事務ニ從事スヘキヲ明ニシ更ニ同第十二條ニ於テ雇員ノ服務心得等ハ別ニ規定スルモノノ外當該局長適宜之ヲ定ムヘシト規定セルヲ以テ三等郵便局ニ於ケル通信事務員ハ局長ノ命ヲ受ケ局長ノ權限ニ屬スル諸般ノ事務ニ從事スルモノナルハ疑ヲ容レサルトコロナリ然レハ斯ル通信事務員カ自己ノ職務トシテ貯金事務ヲ執ル以上其ノ所爲ハ刑法第二百五十三條ニ所謂業務上ノ行爲ニ該當スルコト勿論ナルノミナラス局長カ郵便貯金ヲ保管スヘキ權限ヲ有スルコト明ナルヲ以テ其ノ補助機關タル通信事務員ニ於テモ右業務ニ關シ取扱ヒタル郵便貯金ハ之ヲ局長ニ交付スル迄ハ自ラ之ヲ保有スヘキモノト謂ハサルヘカラス蓋シ三等郵便局長ハ分任出納官吏ニシテ金錢ノ出納ニ付全責任ヲ負ヒ通信事務員ハ其ノ命ニ從ヒ事實現金ノ出納ヲ爲スモノナルコトハ所論ノ如シト雖通信事務員カ叙上ノ規定ニ基キ局長ノ權限ニ屬スル諸般ノ事務ヲ擔當シ其ノ職務トシテ郵便貯金ヲ取扱フ以上ハ其ノ取扱中ノ貯金ハ即チ業務上ノ占有ニ屬スルコト當然ニシテ單ニ會計法規上郵便局長カ叙上現金保管ノ責任ヲ負フノ故ヲ以テ通信事務員ノ前記業務上ノ占有ヲ否認スルニ足ラサレハナリ而シテ原判決認定事實ハ被告人ハ東京市芝區三田四國町郵便局ニ通信事務員トシテ雇ハレ爲替貯金事務ニ從事中判示期間各貯金者ヨリ受領シタル郵便貯金合計九千九十七圓九十五錢ヲ横領シタリト云フニ在ルヲ以テ以上ノ理由ニヨリ其ノ所爲カ業務上ノ横領罪ニ該當スルコト明白ニシテ記錄ヲ査スルニ右認定ニハ重大ナル事實ノ誤認アリト思料スヘキ顯著ナル理由存セサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

○詐欺被告事件（大審院大正十五年（れ）第九〇五號　昭和二年三月十五日第一刑事部判決　破毀自判）

郵便振替貯金規則第三十五條　刑法第二百四十六條

【上告人】　被告人

【第一審】　東京區裁判所　【第二審】　東京地方裁判所

○判決要旨

一　他人ヲ欺罔シテ犯人名義ノ郵便振替貯金口座ニ金員ヲ拂込マシメ當該貯金局ニ於テ登記ヲ了リタルトキハ其ノ金員ハ犯人ノ自由ニ處分シ得ヘキ狀態ニ置カレタルモノニシテ詐欺罪ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノトス

【參照】　刑法第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

郵便振替貯金規則第三十五條　拂込人ハ拂込金ノ口座登記前ニ限リ其ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

拂込人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ拂込先加入者ノ口座番號氏名拂込金額拂込局名拂込人ノ氏名及取消ノ旨ヲ郵便又ハ電報ニ依リ當該郵便口座所管廳ニ通報スヘシ

○事實

上告審ニ於テ事實審理ヲ遂ケ左記ノ事實ヲ認定シタリ

被告人ハ大正十四年八月中東京市神田區三崎町三丁目百三十二番地ニ於テ「帝國無線電話普及會宣傳部」ナル名義ヲ以テ前同樣朝日新聞外數種ノ新聞紙ニ「懸賞クロスワードパヅル」ト題シ極メテ簡易ナルクロスワードヲ載セ其ノ第一等正解者ニハラヂオ器械一臺ト無線電話ノ原理ナル書籍ヲ進呈スル旨ノ廣告ヲ爲シ應募者約十一萬人ニ對シテハ悉ク「本日嚴正ナル代理抽籤ノ結果貴下ハ一等當選者ト決定シ大賞品ラヂオ器械及簡易受信裝置ノ製法一冊（正價二圓五十錢）ヲ提供シテイコクホーンラヂオ器械一式付一臺ヲ進呈ス本機ハ材料ノ優秀構造ノ堅牢感度ノ銳敏機能ノ正確ナルコト類似品中ノ白眉タリ愈々本機カ到着セハ即日ヨリ內地ハ勿論海外ニ至ルマテ東京大阪名古屋各地ノ放送ヲ明瞭ニ聞クコトヲ得ヘシ就テハラヂオ器械一式ノ運賃荷造費用等ヲ合セ實費二圓九十八錢ヲ本書到達後十日內ニ折返シ送金セラレ度然ラサレハ右當籤ヲ無效トスル旨ノ通知書ニ一等當選券ト題スル引換券ヲ添附シ順次各別ニ送附シ以テ實用ニ適セス價格僅カニ一圓六十錢ノ空中線及受話器ノ附屬セサル礦石式無線電話受信器一個及實價四十錢ノ無線電話ノ原理ト簡易ナル受信裝置ノ製法ト題スル書籍一冊ヲ送付スル見込ナルニ拘ラス眞實高價ナルラヂオ受信機及書籍ヲ送付スルカ如ク申詐リテ同日中ヨリ同年九月ニ亘リ大阪市港通市岡町五百五十七番地ノ五中西某外約二百三十名ヲシテ送料名義ノ下ニ各金二圓九十八錢（合計約六百八十五圓四十錢餘）ヲ被告人名義ノ郵便振替貯金口座ニ拂込ミ之カ登記ヲ爲サシメ以テ騙取シタルモノナリ

辯護人ハ被告人ニ詐欺罪ノ責アリトスルモ被告人ノ行爲ハ他人ヲ欺罔シテ被告人名載ノ振替貯金口座ニ對シテ金員ノ拂込ヲ爲サシメタルニ過キス其ノ口座臺帳ニ記入セラルル以前ニ於テハ拂込人ヨリ何時ニテモ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ該金員ニ付テハ詐欺ノ既遂トナラサル旨ヲ主張セリ

○判決ノ理由

郵便振替貯金規則第三十五條ヲ東京振替貯金課長ノ回答（記錄三〇丁）ト對照シテ案スルニ拂込人ハ拂込金ノ口座登記以前ニ於テハ其ノ取消ヲ請求スルコトヲ得レトモ該口座登記カ拂込當日後少クモ一兩日ヲ經テ行ハルルコトハ執務ノ實情ヨリ推知スルヲ得ヘク更ニ記錄ニ徵スルニ本件振替口座振替金中判示揭記ノ部分ハ悉ク被告人ノ口座ニ登記セラレ此ノ時ニ於テ被告人ノ自由ニ處理シ得ヘキ狀態ニ置カレタルモノト認ムルヲ妥當トスルヲ以テ判示被告人ノ行爲ハ詐欺ノ既遂ヲ以

テ論スヘキコト疑ヲ容レス

郵便貯金法第一條第二條第三條帝國鐵道會計事務規定第八條

○賣買代金請求事件

（大審院大正十五年(オ)第一二二六號破毀差戻）
昭和二年四月十二日第二民事部判決

【上告人】被控訴人　被告　國　右代表者　鐵道大臣　指定代表者　藤本秀雄外一名

【被上告人】控訴人　原告　末永三一郎　訴訟代理人　山根義道

【第一審】福岡地方裁判所小倉支店　【第二審】長崎控訴院

○判示事項

繰替拂命令官ニ依ル支出ト債主ノ確認

○判決要旨

一、帝國鐵道會計法規ニ基ク繰替拂命令官ニ依リ國ノ支出ニ付テハ同命令官ニ於テ正當債主ノ確認ヲ爲スヘキモノトス

【參照】帝國鐵道會計事務規定第八條　繰替拂命令官ハ支出官ノ例ニ準シ繰替拂執行ノ責ニ任スヘシ

○事實

被上告人（控訴人、原告）ノ請求原因ハ大正十二年五月十七日訴外トモエ商會前田助太郎ハ門司鐵道局ニ對シ鑄物用骸炭八萬斤（百分ノ二以内ノ數量ノ增減ヲ許ス）ヲ代金百斤ニ付三圓十錢ノ割合ニテ賣渡ノ契約ヲ爲シ四月末日迄ニ門司鐵道局小倉倉庫ニ於テ納入引渡ヲ了シ代金ハ引渡濟ノ上請求ヲ爲シタル日ヨリ七日以内ニ支拂フヘキコトヲ定メ其ノ約旨ニ從ヒ同月末日八萬千六百斤ヲ引渡シ其ノ翌六月中旬其ノ代金二千五百二十九圓六十錢ノ支拂ヲ請求シタルモ之ニ應セス而シテ被上告人ハ右前田助太郎ヨリ大正十二年十月十八日賣買代金債權ノ讓渡ヲ受ケ同日前田ヨリ上告人（被控訴人被告）ニ對シ讓渡ノ通知ヲ爲シタルヲ以テ本訴ニ及ヒタリト陳述シ尙門司鐵道局經理課出納係員牧野轉カ大正十二年六月九日前田助太郎ノ受取證ナルモノヲ持參シタル訴外角島茂一ニ對シテ本件代金ヲ交付シタルコトハ爭ハサルモ該受取證ハ僞造證書ナルヲ以テ右交付ハ前田ニ對シ辨濟ノ效ナシ又右角島ハ前田助太郎ノ店員ニシテ單ニ本件賣買契約締結ノ準備行爲及物品納入ノ事實行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ居リタルニ過キスシテ代金受領ノ權限ヲ有シ居リタルモノニアラス假ニ同人ニ於テ代金受領ノ權限ヲ有シ居リタルモノトスルモ大正十二年六月八日前田ヨリ解雇セラレ即日一切ノ代理權限消滅シタルモノナレハ同人ニ對スル代金交付ハ本人タル前田ニ對シ辨濟ノ效力ヲ生セス又門司鐵道局出納官吏ハ右支拂ヲ爲シタル際其ノ受領者カ本人ナルカノ認識ヲ缺キ寧ロ角島ヲ以テ前田本人ナリト信シテ其ノ支拂ヲ爲シタルモノナレハ表見代理ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ該當セスト云フニ在リ上告人（被控訴人、被告）ノ答辯ハ上告人カ前田助太郎ト被上告人主張ノ如キ賣買契約ヲ受ケタルコトハ之ヲ認ム然レトモ右代金ハ大正十二年六月九日前田ノ代理人トシテ同人ノ受取證書ヲ持參セル訴外角島茂一ニ之ヲ支拂ヒタリ假ニ同人ニ代金受領ノ權限ナカリシモノトスルモ門司鐵道局ハ其ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有ス即同局ハ大正十二年一月以降ニ於テ訴外前田助太郎トノ間ニ前後三回骸炭ノ取引ヲ爲シ本件取引ハ其ノ第三回目ノ取引ニ該當スルモノナル處前田助太郎ハ其第一回ノ取引ニ際シ角島ヲ同局ニ紹介シタル上爾後角島ヲ前田ノ代理人トシテ諸般ノ交涉ノ任ニ當ラシムル旨申出テ其ノ後角島ハ屢々同局ニ出頭シテ其ノ間ノ交涉ヲ遂ケタルノミナラス角島ハ前田名義ノ領收證ヲ持參シテ第二回目迄ノ代金ノ支拂ヲ受ケタル事實アルヲ以テ同局ハ之ニ因リ角島ニ前田ノ代理權アリト信

シ居リタルモノナリト云フニ在リ

第一審ハ門司鐵道局ハ角島ヲ以テ前田ノ代理人ト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スルモノト爲シ被上告人ノ請求ヲ排斥シタルモ原院ハ門司鐵道局出納係員牧野轉カ角島ヲ以テ前田本人ナリト誤信シ僞造ノ領收書ト引換ニ代金ヲ支拂ヒタル事實ヲ確定シ被上告人ノ請求ヲ認容シタルモノナリ

○上告理由

上告論旨第二點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノト信ス原判決ノ判示スル所ニヨレハ「假ニ上告人ニ於テ角島茂一ニ代理權アリト信スヘキ正當事由アリトスルモ現實ニ現金交付ノ衝ニ當リタル門司鐵道局經理課出納掛牧野轉カ角島茂一ヲ前田助太郎本人ナリト誤信シタルモノナレハ所詮表見代理ノ原則ヲ適用スヘキ餘地ナキモノ」トシテ上告人カ民法所定ノ表見代理ノ原則ニ基キ前田助太郎カ角島茂一ノ代金受領行爲ニ付キ責任アル旨ノ抗辯ヲ排斥セラレタリ然レトモ上告人ハ左ノ理由ニ依リ角島茂一ヲ前田助太郎ノ代理人ト信スヘキ正當ノ事由アリ表見代理ノ原則ヲ適用スヘキモノト信ス今第一審證人沖田松介ノ證言及第一審並原審證人前田助太郎ノ證言及乙第二號證角島茂一ノ供述トヲ綜合シテ考覈スレハ(1)前田助太郎ハ既ニ本件契約以前門司鐵道局ト骸炭ノ取引ヲ開始スルニ際シ角島茂一ヲ爾後自己ノ代理人トシテ萬事交涉ノ任ニ當ラシムル旨申出(2)其ノ後角島ニ於テ契約ノ締結物品ノ納入等諸般ノ交涉ヲ逐ケタルモノニシテ且又前田助太郎名義ノ領收書ヲ持參シ前後二回マテ門司鐵道局ニ對スル骸炭代金ノ支拂ヲ受ケ角島ヨリ前田ニ於テ右金員ヲ受領シタル事實ヲ窺フニ足ルヘシ(3)本件代金受領書ニ押捺シタル印章ハ第二回本人名義ノ領收書ニ押捺シタル印章ト同一(乙第三號證及第一審證人竹內健吉證言御參照)ニシテ而カモ第二回目コークス代金ハ本人ニ於テ角島ヨリ受領シ完全ニ其ノ效果ヲ生シタル事實ニ徵シ(第一審前田助太郎證言)本件ニ於テモ角島ニ代金受領權限アリト信スヘキハ當然ナリトス況ンヤ本人前田ヨリ解雇ニ關スル何等ノ通知ナキニ於テヲヤ然リ而シテ前二回ノ取引ハ品質ノ試驗用ニ購入シ本件ハ其ノ試驗ノ結果ニ鑑ミ次テ購入シタルモノニシテ而カモ前二回同樣角島ニ於テ本人名義ヲ用ヒ契約締結現品ノ納入等取引ニ關

スル一切ノ行爲ヲナナシタルモノニシテ勿論本件契約ニアリテハ前二回ノ契約トハ別個ノモノニシテ其ノ契約ヲ締結スルニ當リ正式ノ契約書ヲ作成セルモノナリト雖モ既ニ訴外前田助太郎ハ大正十二年二月以降引續キ門司鐵道局ト取引ヲ繼續セルモノニシテ其ノ取引開始ニ際シ爾後ノ取引ニ關シテ訴外角島茂一ヲ自己ノ代理人トシ諸般ノ交涉ニ當ラシムル旨表示シタルモノトナレハ本件契約ニ於テモ其ノ代理權限ヲ有スルモノト謂フヘク假令角島ニ於テ前田助太郎ノ代理權限ナカリシトスルモ尙上告人ニ於テ右角島ニ代金受領ノ權限アリト信スヘキハ當然ナリトス(第一審證人前田助太郎證言同沖田松介證言及乙第二號證第三號證御參照)(4)尙本件ノ如ク特定ノ營業ノ爲特ニ其ノ商業使用人トシテ他人ヲ雇傭シ以テ自己ト第三者トノ取引ノ助成ヲナサシメタル場合ニ於テハ其ノ助成者ハ反證ナキ限リ其ノ本人ノ意思傳達ノ機關ニアラスシテ其ノ本人ノ代理人ナリト認ムヘキハ實際上ノ通則ニシテ又取引ノ通念ニモ適合スルモノト云フヘシ(田中次郎證言四十四年東京控訴院判決第七百四十五號二十一頁參照)然ラハ上告人ニ於テ角島ニ前田ノ代理權限アリト信シ以テ右角島ニ賣買代金ヲ交付スルニ至リシハ誠ニ正當ニシテ何等欠缺アルコトナシ次ニ國ノ支出ノ現情ヲ考察スルニ凡ソ支出ノ方法トシテ次ノ三個ノ場合ヲ認ムルコトヲ得即支出官ニ依ル場合(會計法第十五條會計規則第四十一條及第四十二條御參照)資金前渡官吏ニ依ル場合(會計法第十七條)繰替拂命令官ニ依ル場合(會計法第十九條會計法第十六條會計規則第四十五條及支出官事務規程第二條第九條第十三條ニヨリテ明示セラルル所ニシテ資金前渡官吏ニ在リテモ其ノ支出ニ際シ自ラ正當債主ヲ確認スルコトヲ要スルハ又明ニシテ出納官吏事務規程第三十一條ニ規定スル所ナリ而シテ會計法第十九條ノ繰替拂命令官ニヨル支出ノ場合ニ於テハ其ノ根本ノ精神ニ於テハ同一ナリトスルモ其ノ實際ノ取扱ニ於テハ前二者ト稍其ノ趣ヲ異ニシ其ノ手續ニ於テ複雜ヲ加ヘタルモノニシテ其ノ實際ノ支出ニ當リテハ鐵道會計事務取扱細則第六十六條ニヨリ支拂要求書ヲ調製シテ之ヲ同細則第六十四條指定ノ繰替拂命令官ニ送付シ同命令官ハ右細則第七十八條所定ノ手續ヲナシテ之ヲ所屬主任出納官吏ニ交付シ更ニ出納官吏ハ右細則第八十三條所定ノ手續ヲ

履行シテ現實ニ現金ノ交付ヲナシテ支拂ヲ完了スルニ至ルモノナリ然リ而シテ繰替拂命令官ニヨリ支拂ノ場合ニ於テハ右詳說セルカ如ク支出ノ機關ヲ異ニスルモノニアラスシテ一個ノ支出事務カ內部關係ニ於テ其ノ取扱上數個ノ有機的段階ニ分レ數人ノ出納掛ノ手ヲ經テ愼重審査セラルルモノニシテ斯ノ如キ段階ヲ踏ムコトニヨリ支出ノ完了ヲ見ルニ至ルモノナリ而シテ前述セル支出官及資金前渡官吏ニヨル支出ノ場合トハ其ノ手續複雜ナルノ差異アルニ過キサルモノトス而シテ繰替拂命令官ニヨル支出ノ場合ニ於ケル債主確認ハ何人ニ於テ爲スヘキカ是本件ニ於ケル重要ナル爭點ナリトス今帝國鐵道會計事務規程第八條ニヨレハ繰替拂命令官ハ支出官ノ例ニ準シ繰替拂執行ノ責ニ任スヘキコトヲ規定セラレタルモノナレハ其ノ支出ニ際シテハ支出官ノ場合ニ於ケルカ如ク正當債主ヲ確認スルノ必要アルモノト云フヘク更ニ又出納官吏事務規程第三十一條ニヨル資金前渡官吏ニ於テモ右同樣正當債主ノ確認ヲ必要トスルモノナレトモ同規程第五十三條ニヨル繰替拂出納官吏ニアツテハ同規程第五十七條ニ於テ前記資金前渡官吏ノ責任ヲ定メタル同規程第三十一條ノ準用ナキ點ヨリシテ正當債主ヲ確認スヘキ責任ナキ旨ヲ窺フニ足ルヘク結局繰替拂命令官ニ對シテノミ斯クノ如キ確認ヲ要求セルモノト云フヘシ然ルニ本件ニ於テハ大正十二年六月九日角島義一ハ門司鐵道局經理課出納掛武內健六郎支拂要求ノ主務ノ官吏及繰替拂命令官ノ補助者ニ對シテ前田助太郎ノ代理人トシテ代金ノ請求ニ來レル旨ヲ告ケ助太郎名義ノ請求書ヲ提出シタルコト及右武內健吉ニ於テ角島ヲ前田ノ代理人ナリト確認シ該請求書ニヨリテ正規ノ手續ヲ履行シ繰替拂命令官タル門司鐵道局經理課長深浦龍雄ハ之カ支出ヲ命シタル結果繰替拂出納官吏成田常雄ノ配下ニ屬シ之ヲ補助スル牧野轉ニヨリ現實ニ代金ヲ角島ニ交付シタルモノナリ然ラハ出納掛武內健吉ニ於テ既ニ角島ヲ以テ前田助太郎ノ代理人タルコトノ確認アリタルノミナラス繰替拂命令官タル深浦龍雄ニ於テモ亦反證ナキ限リ右同樣ノ確認アリタルモノト認ムヘキコトハ當然ニシテ結局上告人ニ於テ角島ヲ前田ノ代理人ナリト認メタルモノニシテ相手方ノ確認ニ何等ノ欠缺アルコトナク且事實ニ於テ代金受領ニ付權限アリト信スヘキ正當事由アル角島茂一ニ現金ヲ交付セルモノナリ而シテ是ノ點ニ關スル上告人ノ主張ハ銀行又ハ郵便局等ニ於テ日常吾人ノ經驗スル所ニシテタトヘハ銀行預金ノ窓口ニ於テ預金者カ預金拂出請求書ヲ提出シタル場合ニ銀行員ニ於テ正當權利者ナルコトヲ確認シテ所定ノ手續ヲ履行シ他ノ行員ヲシテ現金ヲ支拂ハシムルト何等異ナル所ナク此ノ場合ニ於テ現實ニ現金ヲ交付シタルモノニ於テ正當權利者ナルコトノ認識アリタルモノト認ムルヲ以テ妥當ナリトス殊ニ鐵道局又ハ銀行郵便局等ノ如ク日常絕ヘス面識ナキ多數人ニ對シ僅少ノ時間ニ於テ複雜ナル手續ニヨリ現金支出ヲナス所ニ於テ現實ニ現金交付ノ衝ニ當ル掛員ニ於テ一々相手方ノ確認ヲ必要ナリトナスニ於テハ複雜ナル近代的組織ノ下ニナス大衆取引ハ全ク實ヲ失フモノニシテ法ハ斷シテ斯ノ如キ不能ヲ豫定スルモノニアラサルモノト信ス果シテ然ラハ本件ニ於テ假令前記支出事務ノ一部即右細則第八十三條所定ノ事務ヲ取扱フ牧野轉ニ於テ右角島義一ヲ前田助太郎本人ナリト誤信シタリトスルモ表見代理ノ原則ノ適用ヲ排除スルニ足ラサルモノト信ス然ラハ本件ノ事實ヲ認メ右所詮表見代理ノ原則ヲ適用スヘキ餘地ナキモノトシテ上告人ノ抗辯ヲ排斥セラレタルハ明ニ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ原判決ハ是ノ點ニ於テ維持スルコトヲ得ス結局破毀ヲ免レサルモノト思料ス

○判決理由

帝國鐵道會計法ニ基ク繰替拂命令官ニ依ル國ノ支出ノ場合ニ於ケル債主ハ何人ニ於テ之ヲ爲スヘキカニ付テハ帝國鐵道會計事務規程第八條ニ依レハ繰替拂命令官ハ支出官ノ例ニ準シ繰替拂執行ノ責ニ任スヘキコトヲ規定スルヲ以テ繰替拂命令官ニ於テ訴外角島義一ハ本件ニ於テ門司鐵道局ノ繰替拂命令官ニ於テ訴外前田助太郎ノ代理人ナリト信シ又其ノ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スル場合ニ於テ之カ支出ヲ命シタル結果繰替拂出納官吏ニ於テ本件代金ヲ右角島茂一ニ交付シタルモノナルニ於テハ訴外前田助太郎ハ民法第百十條ノ規定ニ依リ訴外角島茂一ノ右行爲ニ付其ノ責ニ任スヘキ筋合ニシテ單ニ現金交付ノ衝ニ當リタル同鐵道局經理課出納係員タル牧野轉カ訴外角島茂一ヲ訴外前田助太郎本人ナリト誤信シタル一事ヲ以テ民法第百十條ノ規定ヲ適用スヘキ餘地ナシト云フヲ得ス果シテ然ラハ原判決カ論旨摘錄ノ如ク判示シテ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ失當ニシテ論旨ハ理由アリ

刑法第百五十五條

○公文書變造行使詐欺被告事件（大審院 昭和二年(れ)第九三二號 同年九月九日第一刑事部判決 破毀自判）

【上告人】被告人

【第一審】仙臺地方裁判所 【第二審】宮城控訴院

○判決要旨

一 適法ニ作成セラレタル郵便貯金通帳ノ記號番號預人ノ住所氏名及預入金額ヲ抹消シテ新ニ右通帳ニ他ノ記號番號預人ノ住所氏名及預入金額ヲ記載シタル行爲ハ郵便貯金通帳ノ僞造ニシテ變造ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

【參照】刑法第百五十五條第一項 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

判示關係事實ハ上告理由及判決理由說示ノ如シ

○上告理由

辯護人井上彌太郎上告趣意書第二點原審判決ニ因レハ被告ハ自宅ニ於テ仙臺貯金支局ノ署名アル通帳ノ記號番號「い九二七三九」及預人ノ住所氏名ヲ仙臺市新寺小路一三〇鐵心會中村十三ト記載シ云云」ト判示セリ如斯通帳ノ主要ナル部分即チ記號番號並ニ貯金名義ヲ抹消シテ各之ト別異ノ記載ヲ爲シタルトキハ既存ノ郵便貯金通帳ト全然異ナリタル法律關係ヲ表示スル別個ノ通帳ヲ作成シタルモノニシテ其ノ行爲ハ公文書ノ僞造ナリトス從テ刑法第百五十五條第一項ニ問擬ス可キ筋合ナラサルヘカラス蓋シ文書僞造罪ハ他人ノ作成名義ヲ詐リ新ニ文書ヲ作成シタル場合ニノミ成立スルモノニアラスシテ假令正當ニ成立シタル既存ノ文書ヲ變更スル場合ト雖モ作成名義若クハ其ノ他重要ナル點ヲ變更シ爲メニ既存文書ト同一性ヲ失ハシムル行爲ハ明ニ僞造罪ヲ構成ス可キモノナレハナリ然ルニ原審ハ前記ノ所爲ニ對シ公文書ノ變造罪ナリトシ刑法第百五十五條第二項ヲ適用シタルハ犯罪ノ認定ヲ誤リ擬律ノ錯誤ニ陷リタル失當ノ判決ナリト信ス

○判決理由

被告人ハ適法ニ作成セラレタル郵便貯金通帳ノ記號番號預人ノ住所氏名及預入金額ヲ抹消シテ新ニ右通帳ニ他ノ記號番號預人ノ住所氏名及預入金額ヲ記載シタル者ニシテ其ノ所爲ハ現存ノ郵便貯金通帳ニ於ケル貯金支局ノ署名ヲ利用シテ別個ノ貯金ニ關スル法律關係ヲ證明スル公務署ノ文書ヲ僞造シタルモノニ外ナラサレハ刑法第百五十五條第一項ヲ以テ論スヘキモノトス原判決ニ於テ上叙被告人ノ所爲ヲ以テ郵便貯金通帳ノ變造ナリト判斷シ刑法第百五十五條第二項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス本論旨ハ理由アリ

七三九及預人ノ住所氏名仙臺市蓮坊小路一三〇可藤方奥山某ノ記載部分ヲ護謨ニテ擦消シ其ノ跡ニしい三〇三二九號預人ノ住所氏名ヲ仙臺市新寺小路一三〇鐵心會中村十三ト記載シ云云」ト判示セリ如斯通帳ノ主要ナル部分即チ記號番號並ニ貯金名義ヲ抹消シテ各之ト別異ノ記載ヲ爲シタルトキハ既存ノ郵便貯金通帳ト全然異ナリタル法律關係ヲ表示スル別個ノ通帳ヲ作成シタルモノニシテ其ノ行爲ハ公文書ノ僞造ナリトス從テ刑法第百五十五條第一項ニ問擬ス可キ筋合ナラサルヘカラス蓋シ文書僞造罪ハ他人ノ作成名義ヲ詐リ新ニ文書ヲ作成シタル場合ニノミ成立スルモノニアラスシテ假令正當ニ成立シタル既存ノ文書ヲ變更スル場合ト雖モ作成名義若クハ其ノ他重要ナル點ヲ變更シ爲メニ既存文書ト同一性ヲ失ハシムル行爲ハ明ニ僞造罪ヲ構成ス可キモノナレハナリ然ルニ原審ハ前記ノ所爲ニ對シ公文書ノ變造罪ナリトシ刑法第百五十五條第二項ヲ適用シタルハ犯罪ノ認定ヲ誤リ擬律ノ錯誤ニ陷リタル失當ノ判決ナリト信ス

○判決理由

被告人ハ適法ニ作成セラレタル郵便貯金通帳ノ記號番號預人ノ住所氏名及預入金額ヲ抹消シテ新ニ右通帳ニ他ノ記號番號預人ノ住所氏名及預入金額ヲ記載シタル者ニシテ其ノ所爲ハ現存ノ郵便貯金通帳ニ於ケル貯金支局ノ署名ヲ利用シテ別個ノ貯金ニ關スル法律關係ヲ證明スル公務署ノ文書ヲ僞造シタルモノニ外ナラサレハ刑法第百五十五條第一項ヲ以テ論スヘキモノトス原判決ニ於テ上叙被告人ノ所爲ヲ以テ郵便貯金通帳ノ變造ナリト判斷シ刑法第百五十五條第二項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス本論旨ハ理由アリ

郵便切手類及収入印紙

収入印紙 賣捌規則第二條第三十七條 郵便切手類賣捌規則第四條 刑法第三十五條 第三十七條 第二十六條

○収入印紙賣捌規則違反ノ件（大審院大正四年(れ)第二四一六號 大正四年十一月五日宣告棄却）

【被告人】高柳寛次外三名

【辯護人】土屋倫啓　山野龜五郎　石川磐吉　吉田新太郎　藤谷久六　金澤鬼三郎

【第一審】東京區裁判所　【第二審】東京地方裁判所

○判決要旨

一収入印紙賣捌規則第二條ハ郵便局吏員又ハ郵便切手若クハ収入印紙ノ賣捌人ト雖モ郵便局又ハ郵便切手若クハ収入印紙ノ賣捌所以外ニ於テハ収入印紙ノ賣捌ヲ爲スヘカラサル旨ヲ定ムルト同時ニ前示吏員又ハ賣捌人以外ノ者ハ絕對ニ収入印紙ノ賣捌ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノトス（判旨第十六點）

【參照】収入印紙ハ郵便局郵便切手賣捌所及収入印紙賣捌所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス（収入印紙賣捌規則第二條）

一郵便切手賣捌規則第四條ニ所謂賣捌トハ何人ヲ問ハス不定多衆ニ郵便切手類ヲ賣渡ス行爲ヲ汎稱スルモノニシテ賣捌人ノ賣渡行爲ノミニ限定スルコトヲ得サルモノトス（判旨第十七點）

【參照】郵便切手類ハ定價ヲ以テ賣捌クヘシ（郵便切手類賣捌規則第四條）

○事實及判決

右収入印紙賣捌規則違反被告事件ニ付大正四年七月二十八日東京地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人ハ上告

ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人寬次辯護人土屋倫啓上告趣意書第一點原判決ハ冒頭ニ被告寬次ハ云云大正三年十一月初旬ヨリ同年十二月迄ノ間意思繼續シテ十數回ニ各所ニ於テ收入印紙凡七千圓程ヲ定價以下ニテ淸水秀次郎ニ賣渡シト云ヒ證據ノ部ニ一、被告寬次ノ當公廷ニ於ケル云云ト四、檢事ノ高柳寬次ニ對スル聽取書ニ自分ハ郵便切手賣捌人ナルカ大正三年十一月初旬ヨリ同年十二月末迄疋田利吉ニ對シ十回以上收入印紙凡七千圓ヲ二分六厘引ニテ賣捌キタリ云云ノ記載ト司法警察官ノ寬次ニ對スル聽取書ニ自分ハ右期間內ニ疋田ニ收入印紙總數六七千圓也ヲ二分六厘引ニテ交付シタル旨ノ供述記載アルト說明シ公判外ノ被告ノ陳述シタル書證ノミヲ斷罪ノ資料ト爲セリ是訴訟法ノ法則ニ違反シ日證據ヲ猥リニ限定シテ被告ノ辯護ヲ過當ニ制限シタルモノナリ被告ノ公判廷ニ於ケル自白ト雖モ檢事ノ同意ナキトキハ之ニ依リ直ニ判決ヲ爲ス能ハサルハ刑事訴訟法第二百十條ノ規定スル所ナリ然ルニ公判以外ニ於ケル陳述ノミヲ以テ他ノ證據ノ取調ヲ爲サスシテ直ニ判斷ヲ與ヘタルハ猥リニ判官ノ自由心證權ヲ擴張シテ不法ニ眞實發見主義ノ原則ヲ侵犯シタル訴訟原則上ノ違法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○原判決ノ摘示ニ係ル被告人寬次ノ原審公廷ニ於ケル供述ハ之ヲ書證ト云フコトヲ得サルハ勿論ナルノミナラス苟モ裁判所ニ於テ證據ニ依リ罪ト爲ル可キ事實ノ心證ヲ得タル以上ハ其證據ノ全部カ公廷外ニ於テ蒐集シタル證據ナリトスルモ何等違法アリト解ス可キニ非サルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ第二點原審ニ於ケル第一回公判始末書ニ依レハ（記錄三三五）問大正三年十一月初旬ヨリ同年十二月末迄ノ間ニ收入印紙七千圓許リヲ淸水秀次郎ニ賣渡セシヤ答私ハ淸水秀次郎雇人疋田利吉カ印紙ヲ買ツテ吳レト云フカラ取次ヲシテ買ツテ遣ツタノテス云々問結局淸水ニ渡ス時ハ幾位ニ渡シタノカ答郵便局テ下ケテ貰ツタ値段即チ二分六厘引ニテ代金ヲ渡シタノテス又問收入印紙仕入ノ時ハ自分カ行ツタカ（記錄三二五、三三六）答總代ニ電話ヲ掛ケルト持チ來ルノテス金カ多イ時ハ店員カ取リニ來テ渡スノテス中略問淸水ニ渡シタルトキハ如何答淸水ノ店員ト總代方ノ店員カ來テ店員同志カヤルノテス併シ私ハ全ク無關係テハアリマセン中略問總代ノ店員ハ誰カ答石渡武テス問計算ハトウスルカ答五百圓ノトキモ千圓ノトキモアリマスカ私ハ澤山金ヲ持タヌカラ淸水カ千圓仕入レレハ三百圓使フコトアリマス問金ハ誰カ渡スカ答淸水カ賣捌人ノ店員ニ渡シタルコトアリ又私カ取次キタルコトアリマス云云又土屋辯護人ハ淸水秀次郎疋田利吉石渡武中塚彌曾次ヲ證人トシテ喚問アリタシト述ベタリ（記錄三三六）本件ハ被告自ラ收入印紙ノ賣却ヲ爲シタルニ非スシテ免許ナキ淸水秀次郎ノ爲不正買入ノ幇助ヲ爲シタルニ過キス從ツテ控訴審タル原審ニ於テハ無罪タルヘキモノナリ而シテ之レカ唯一ノ證據ハ當時收入印紙元賣捌人枝吉態彥ノ店員石渡武ノ喚問取調アリ是ヲ以テ辯護人ハ熱誠ニ同證人ノ喚問アリタキヲ申請シ併セテ無罪タルヘキ唯一ノ證據ナルコトヲ開陳シタリ然ルニ原審ハ之ヲ却下シタリ是レ彈劾主義ノ根本義ヲ爲ス眞實發見ノ法則ヲ無視シ著シク被告人ノ辯護權ヲ制限シタル違法アルモノトス前項ノ論點ト相俟ツテ訴訟法上ノ一大缺欠ヲ爲スモノニシテ旣ニ御院ノ判例ニモ認メラルル如ク破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在リト雖モ○被告人寬次カ淸水秀次郎ノ爲メ收入印紙購買ノ幇助ヲ爲シタリトノ事實ハ原判決ノ全然認メサルトコロニ屬スルノミナラス刑事訴訟法ニ在リテハ或事實ヲ立證ス可キ唯一ノ證據ト雖モ裁判所ニ於テ其證據ノ調ノ必要ヲ調メサル限リハ其申請ヲ許容スルコトヲ要セサルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ第三點原判決ハ被告ノ行爲ヲ收入印紙ノ定價以下賣却ト認定シナカラ其證據トシテハ單ニ司法警察官ノ被告聽取書「自分ハ疋田ニ收入印紙總額六七千圓ヲ二分六厘引ニテ交付シタル旨」檢事聽取書「大正三年十一月初ヨリ同年十二月末迄疋田利吉ニ對シ十回以上收入印紙額面凡七千圓ヲ二分六厘引ニテ賣捌キタリ云云」ヲ綜合シテ之ヲ認ムト說明シタルモノニシテ他ニ何等ノ理由ヲ付セス抑モ收入印紙ハ元賣捌人カ三分引ニテ小賣捌人ニ賣渡スモノナルコトハ收入印紙賣捌規則及被告ノ公廷ニテ陳述セル如ク裁判上顯著ナル事實ナリ而シテ被告カ原審ノ公廷ニ於ケル陳述及檢事ノ聽取書司法警察官ノ聽取書等ニ依ルモ本件ノ被告カ收入印紙ヲ二分六厘即チ買受値段ニテ淸水秀次郎ニ交付シタルコトハ明瞭ナル事實ナリトス且ツ被告ハ元來商人ナリ收入印紙ノ賣買ヲ爲シテ其間ニ利益ヲ得之レニ依リテ生活

ノ資料ヲ得ヘキモノナリ然ルニ買入レタル値段ヲ以テ他ヘ賣却シ其間何等ノ得ル所ナク反ツテ帳簿ニ於テ計數上ノ利益勘定ヲ洩シ他日稅務署ヨリ所得稅ノ附加ヲ受クルノ不利益ヲ來スアリ之等各種ノ事情ヨリシテ被告ノ行爲ヲ贈與ニモ非ス又他人ノ收入印紙定價以下買入ノ幇助ヲ爲シタルニモ非ス純然タル賣買行爲ナリト斷定スルニハ尙ホ一段ノ說明セサルヘカラス否ラサレハ判斷ト證據トノ理由ノ聯絡ヲ缺キ從ツテ判斷ニ理由ヲ付セサルコトトナル殊ニ檢事ノ聽取書ハ被告ハ六七千圓也ノ收入印紙ヲ二厘六厘引ニテ疋田ニ賣捌キ云云ト記載シ其主要點ニ於テ明瞭ヲ缺キ證據トナス爲メニ足ラサルヲ以テ事更ニ明瞭ナル說明ヲ要スヘキナリ然ルニ事玆ニ出テス漫然綜合シテ認ムト斷定シタルハ判決ニ理由ヲ付セサル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト云フニ在リト雖モ○賣買行爲ハ必スシモ利得ヲ獲テ之ヲ爲スコトヲ要セサルハ勿論ナリ而シテ檢事ノ被告人寬次ニ對スル聽取書ヲ查閱スルニ現ニ二分六厘引ト記載シアルヲ以テ右ハ二分六厘引ノ誤記ナルコト明白ナリト雖モ原判決ノ摘示ニハ何等違法ノ廉アルコトナシ本論旨亦其理由ナシ

第四點原判決ハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリ被告ノ控訴ト檢事ノ附帶控訴ト兩ナカラ存在シ而シテ原審カ法則ノ適用ヲ誤リ科刑輕キニ失スト爲シテ第一審判決ヲ取消シ之レヨリ重キ刑ヲ科スル場合ニ於テハ刑事訴訟法第二百六十一條及第二百六十五條第二項ヲ適用スヘキモノナリ然ルニ單ニ同第二百六十一條第二項ヲ適用シタルハ法則ノ適用遺脫シタルモノニシテ結局法則ヲ適用セサル違法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○控訴裁判所ニ於テ被告人ノ控訴及ヒ檢事ノ附帶控訴ハ共ニ其理由アルモノト認メタル以上ハ毫モ所揭刑事訴訟法第二百六十五條ト關聯スルトコロナキヲ以テ新ニ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲ス場合ニ於テモ前示法條ヲ適用スヘキニ非ス本論旨示其理由ナシ被告人寬次ヲ辯護人山野井龜五郎上告趣意書第一點原判決ハ其主文ニ於テ「被告人寬次ヲ罰金四十圓ニ處ス……右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各被告人ヲ夫レ夫レ二圓一日ノ割合ニ依ル期間勞役場ニ留置ス」ト言渡シ其理由トシテ「尙各被告人ニ對シ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ノ勞役場留置ニ於テハ刑法第十八條第一項第四項ヲ……適用スヘキモノトス」ト判示シタリ然ルニ刑法第十八條ニハ「罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス……罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡スヘシ云云」ト規定シアリテ勞役場ニ留置ノ言渡ハ明ニ何日ト期間ヲ定メテ言渡スヘキモノニシテ假令本件ノ如ク計算ノ結果何日間勞役場ニ留置セラルヘキコトヲ知リ得ヘキ場合ト雖モ前記法條ノ規定通リ明ニ何日ト期間ヲ指定シテ言渡スヘキモノトス然ルニ原判決ハ漫然二圓一日ノ割合ニ依ル期間勞役場ニ留置スト言渡シ計算ノ結果ニアラサレハ其期間ヲ知リ得サルカ如キ言渡ヲ爲シタルハ明ニ違法ナリ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ○因テ按スルニ原判決カ罰金二圓一日ノ割合ニ依リ留置期間ヲ定メタルハ稍穩當ヲ缺ク觀ナキニ非スト雖モ留置ノ期間ハ必スシモ何日間ト明示シテ之ヲ定ムルコトヲ要セサルヲ以テ何等法律ニ違背シタル廉アリト云フコトヲ得ス本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ其事實理由ニ「被告人寬次ハ肩書住所ニ於テ收入印紙賣捌人タルノ免許ヲ得居ルモノナルカ大正三年十一月初旬ヨリ同年十二月迄ノ間意思繼續シテ十數回ニ同所ニ於テ收入印紙凡七千圓程ヲ定價以下ニテ清水秀次郎ニ賣渡シ」ト判示シタリ然ルニ其證據理由ノ部ヲ觀ルニ「檢事ノ高柳寬次ニ對スル聽取書ニ……大正三年十一月初メヨリ同年十二月末迄疋田利吉ニ對シ十回以上收入印紙額面凡七千圓ヲ二分六厘引キテ賣捌キタリ」「司法警察官ノ寬次ニ對スル聽取書ニ自分ハ右ノ期間內ニ疋田ニ收入印紙總額六七千圓ヲ二分六厘引キニテ交付シタル旨ノ供述記載アリ」ト說示シアリテ是レニ由レハ上告人寬次ハ疋田利吉ニ收入印紙ヲ定價以下ニ割引キ賣捌キタリト云フニ在リテ淸水秀次郎ニ賣捌キタリトノ證據ハ一モ之ヲ擧示スルコトナシ果シテ然リトセハ原判決ハ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノナリト云フニ在リト雖モ○原判決ノ摘示ニ係ル所揭檢事ノ被告人寬次ニ對スル聽取書ノ供述記載中ニハ疋田利吉ハ淸水方ノ雇人ナレハ疋田カ受取リニ來テモ結局淸水カ買ツタコトトナル旨記載アルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第三點原審(第二審)第二回公判ハ部員ニ變更アリテ審理ヲ更新シタルモノナリ然ルニ同公判始末書ニハ「被告人及代人ハ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出頭シタリ……被告人及代人ハ第一回公判始末書ニ記載ノ通リ答ヘタリ……被告人及被告代人ハ別ニ意見又ハ反證ナシト答ヘタリ……被告人及被告代人ハ別ニ最終ニ供述スルコトナシト申立タ

リ」ト記載シアリテ被告何々誰何之誰ハ出廷シ何之誰ハ代人ヲシテ出廷セシメタルヤ右記載ノミニ依リテハ之ヲ知ルニ由ナク結局右公判始末書ハ無效ナリト謂ハサルヘカラス果シテ然リトセハ原判決ハ斯ル無效ノ公判始末書ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ從テ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス云フニ在リ○因テ所論原審第二回公判始末書ヲ査閲スルニ被告人及代人ハ第一回公判始末書ノ通リ陳述シタル旨ノ記載アリテ該第一回公判始末書ノ記載ニ依リ明白ナル如ク第二回公判ニ於テモ被告人寛次菊次郎及ヒ仲藏ハ各自身出頭シ被告人市郎左衛門及ヒ佐藤常三郎ハ各代人ヲ出頭セシメタルモノト解シ得ヘキヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第四點原判決ハ其事實理由ニ「被告人寛次ハ肩書住所ニ於テ收入印紙賣捌人タルノ免許ヲ得居レルモノナルカ大正三年十一月初旬ヨリ同年十二月迄ノ間ニ意思繼續シテ十數回ニ同所ニ於テ收入印紙凡七千圓程ヲ定價以下ニテ清水秀次郎ニ賣渡シ」ト判示シアリテ被告寛次ノ本件行爲ハ連續犯ナリト認定シタルモノナリ然ルニ其法律適用ノ部ヲ觀ルニ右連續犯ニ關スル法條刑法第五十五條ヲ適用シアルナシ然ラハ原判決ハ自ラ認定シタル事實ニ對シ法律ヲ適用セサル違法アルモノ也ト云フニ在リト雖モ○刑法第五十五條ノ規定ノ如キハ現實ニ其適用ヲ爲スヲ以テ足レリトシ必スシモ判決擬律ノ部ニ於テ該法條ヲ明示スル要アルコトナキヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第五點本件記錄一七八丁ノ起訴狀ヲ査閲スルニ（一）同起訴狀ハ如何ナル犯罪ヲ起訴シタルモノナルヤ起訴事實ノ記載アルナク（二）尙同起訴狀ハ何處ニ於テ作成シタルモノナルヤ作成場所ノ記載アルナシ尤モ同起訴狀ニハ「東京區裁判所檢事」ト云フカ如ク單ニ官職ヲ表ハシタルニ過キサルモ事淸水行恕」ト記載シアルモ「東京府知事」トハ「東京區裁判所檢事」トハ結局作成場所ヲ缺如セル無效ノ起訴狀ト謂ハサル可カラノニシテ右ハ起訴狀ノ作成場所ト見ル能ハサルヲ以テ同起訴狀ハ結局作成場所ヲ缺如セル無效ノ起訴狀ト謂ハサル可カラス以上ノ如ク本件起訴狀ハ孰レノ點ヨリ觀ルモ無效ノモノナルヲ以テ原審ニ於テ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ事玆ニ出テサリシハ違法ナリト云フニ在リト雖モ○（一）所論起訴狀ニハ收入印紙賣捌規則違反ト其罪名ヲ擧示シ在リテ之ヲ添附ニ係ル關係書類ト對照スレハ裕ニ起訴事實ヲ了知シ得ヘク又（二）起訴狀ニ東京區裁判所檢事ト記載シアリテ特ニ作成場所ノ記載ナキトキハ同裁判所檢事局ニ於テ作成シタルモノナルコト明カナルヲ以テ作成場所ノ記載ナシト云フコトヲ得ス本論旨亦其理由ナシ

第六點原判決ハ被告寛次ニ對スル司法警察官ノ聽取書ヲ援用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ刑事訴訟法上證據トナルハ刑事訴訟法其他ノ法令ニ基キ作成セラレタルモノニアラサレハ其效ナキコトハ夙ニ御院判例ノ示ス所ナリ然ルニ右司法警察官ノ聽取書ハ刑事訴訟法其他ノ法令ニ基キ作成セラレタルモノニアラサルヲ以テ證據トシテ效力アルモノニアラス然ルニ原判決ハ斯ル無效ノ證據ヲ本件ノ罪證ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背スルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ司法警察官ノ作成ニ係ル聽取書ト雖モ刑事訴訟法上之ヲ證據書類トシテ罪證ニ供シ得ヘキコトハ屢本院ノ判示シタルトコロニ屬スルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

被告人仲藏及ヒ市郎左衛門辯護人石川磐吉同吉田新太郎同藤谷久六上告趣意書第一點原判決事實摘示ノ部ニ於テ「被告仲藏ハ（中略）法定ノ賣捌所ヲ有セサルモノナルカ」ト判示シ以テ被告仲藏ニ法定ノ賣捌所ヲ有セサルモノナルヲ以テ被告仲藏ハ（中略）同人（市郎左衛門）ヨリ其賣捌人タル資格ヲ利用スルコトノ承諾ヲ得タル上云々」トノ判示ハ或ハ被告仲藏カ同市郎左衛門ノ

シテ從テ原判決カ法定ノ賣捌所ヲ有セス又法定以外ノ場所ニ以テ賣渡ヲ爲シタリト判示シタルハ毫モ其間矛盾ノ廉アリト云フコトヲ得ス本論旨ハ其理由ナシ

第二點原判決事實摘示ノ部ニ於テ「被告仲藏ハ（中略）數回ニ法定以外ノ場所ナル東京府荏原郡蒲田登記所構内其他ニ於テ（中略）賣渡シ」ト判示スト雖モ前示ノ如ク法定ノ場所外ニ於テ賣渡シタル事實ヲ確定スルニ付キテハ先ツ以テ法定ノ賣捌所ノ何レナルカヲ具體的ニ且ツ積極的ニ指示シテ其以外ニテ賣渡シタル事實ヲ指摘セサルヘカラサルニ拘ラス原判決ノ措置玆ニ出テサルハ結局理由不備タルヲ免レス加之前判示事實ノ認定ニ付援用シタル被告仲藏ノ原審公廷ニ於ケル供述ヲ檢スルニ被告仲藏カ前示ノ蒲田登記所構内及ヒ自宅ニ於テ收入印紙ヲ賣捌キタルノ事實ハ之ヲ知ルコトヲ得ルト雖モ右場所ハ果シテ法定ノ場所外ナルコトニ付テハ何等證據ノ見ルヘキモノナク原判決ハ結局虛無ノ證據ニヨリ事實ヲ認定シタルト不法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○收入印紙賣捌人タル免許ヲ有セサル者ハ固ヨリ法定ノ賣捌所ノ所在ヲ確定スルコトヲ得サルハ勿論ナルノミナラス原判決カ被告人仲藏ハ前示ノ免許ヲ有セサル者ナリトノ事實ヲ認メ得ヘキ證據ヲ擧示シタル以上ハ第一點ノ論旨ニ對シ說明シタル如ク賣捌地ノ何地ナルヤヲ區別セス總テ之ヲ法定以外ノ場所ナリト認定シ得ヘキヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第三點原判決事實摘示ノ部ニ於テ「被告仲藏ハ（中略）波多野菊次郎等ニ定價以下ニテ收入印紙ヲ賣渡シタル旨判示シ以テ菊次郎以外ノ者ニモ定價以下ニテ賣渡シタル事實ヲ認定シタルモ之レカ證據トシテ援用セラレタル檢事聽取書ヲ檢スルニ被告仲藏カ右菊次郎ニ對シ定價以下ヲ以テ收入印紙ヲ賣渡シタルコトハ明白ニスルト雖モ菊次郎以外ノ者ニ付テハ何等ノ證據ナク原判決ハ虛無ノ證據ニヨリ事實ヲ認定シタル不法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○原判決ノ摘示シタル被告人仲藏ノ原審公廷ニ於ケル供述中ニハ現ニ波多野菊次郎其他ノ者ニ收入印紙ヲ賣リタル旨ノ記載アルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第四點原判決事實摘示ノ部ニ於テ「被告市郎左衛門（中略）仲藏ヨリ名義料ヲ得ツツ其賣捌人タル資格ヲ利用セシメ因テ同人ノ上示ノ如ク法廷ノ場所外ニ於テ收入印紙ヲ賣渡ヲ爲スノ便宜ヲ與ヘ其犯罪ヲ幇助シタリ」ト判示スト雖モ前示ノ如ク法定ノ場所外ニ於テ賣渡シタル事實ヲ確定スルニ付キテハ先ツ以テ法定ノ賣捌所ノ何レナルカヲ具體的ニ且ツ積極的ニ指示シテ其以外ニテ賣渡シタル事實ヲ指摘セサルヘカラサルニ拘ラス原判決ノ措置玆ニ出テサルハ結局理由不備タルヲ免レス加之前判示事實ノ認定ニ付援用シタル被告仲藏ノ原審公廷ニ於ケル供述ヲ檢スルニ被告仲藏カ前示ノ蒲田登記所構内及ヒ自宅ニ於テ收入印紙ヲ賣捌キタルノ事實ハ之ヲ知ルコトヲ得ルト雖モ右場所ハ果シテ法定ノ場所外ナルコトニ付テハ何等證據ノ見ルヘキモノナク原判決ハ結局虛無ノ證據ニヨリ事實ヲ認定シタルト不法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○收入印紙賣捌人タル免許ヲ有セサル者ハ固ヨリ法定ノ賣捌所ノ所在ヲ確定スルコトヲ得サルハ勿論ナルノミナラス原判決カ被告人仲藏ハ前示ノ免許ヲ有セサル者ナリトノ事實ヲ認メ得ヘキ證據ヲ擧示シタル以上ハ第一點ノ論旨ニ對シ說明シタル如ク賣捌地ノ何地ナルヤヲ區別セス總テ之ヲ法定以外ノ場所ナリト認定シ得ヘキヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

同人ノ上示ノ如ク法廷ノ場所外ニ於テ收入印紙ノ賣捌ヲ爲スノ便宜ヲ與ヘ其犯罪ヲ幇助シタル旨ヲ判示シ以テ單ニ名義貸與ノ事實ニ因リ仲藏ノ前示犯行ヲ幇助シタルモノト認定シタルモノノ如シト雖モ收入印紙賣捌規則ハ賣捌人カ其賣捌人名義ヲ他人ニ使用セシムルコトヲ禁止セサルノミナラス其他人モ亦其名義ヲ利用シ正當ノ賣捌ヲ爲スコト通例ニシテ不法ノ賣捌ヲ爲スカ如キハ名義貸與必然ノ結果ニアラサルヲ以テ名義貸與以外別ニ市郎左衛門カ前示仲藏ノ不法ノ印紙賣捌ニ付其情ヲ知レル事實ヲ認定セサル限リハ市郎左衛門ノ前示名義貸與ノ所爲ヲ以テ刑法ニ所謂幇助犯ナリト斷定スルコトヲ得サルニ拘ハラス原判決ハ直チニ之ヲ同法第六十二條第一項ニ問擬シタルハ同條ヲ誤解シタルモノニアラサレハ知情ノ點ニ付其事實ヲ確定セサルノ不法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○原判決ノ判示事實ハ被告人市郎左衛門ハ被告人仲藏カ收入印紙賣捌規則ニ違反ノ行爲ヲ爲ス情ヲ知リテ之ヲ幇助シタルモノト認定シタル趣旨ナリト解シ得ヘキヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第五點原判決ハ其法律適用ノ部ニ於テ「被告仲藏ノ法定場所外ニ於テ收入印紙ヲ賣捌キタル點ニ付收入印紙賣捌規則第三十七條ヲ適用セラレタル」モ同規則ニハ第三十七條ナク又此點ニ付何等法規ノ照示ナキハ擬律錯誤ノ不法アルモノトスト云フニ在リ○因テ原判決ノ所論部分ヲ査閱スルニ現ニ收入印紙賣捌規則第二條第八條郵便切手類賣捌規則第三十七條ト明記シアルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第六點原判決ハ其事實摘示ノ部ニ於テ「被告人市郎左衛門ハ收入印紙賣捌人ナル所前記ノ如ク仲藏ヨリ名義料ヲ得ツツ其賣捌人タル資格ヲ仲藏ニ利用セシメ因テ同人ノ上示ノ如ク法定外ノ場所ニ於テ收入印紙ノ賣捌ヲ爲スノ便宜ヲ與ヘ以テ其犯罪ヲ幇助シタリ」ト又同法律適用ノ部ニ於テ「被告人市郎左衛門ノ所爲ハ收入印紙賣捌規則第二條（中略）刑法第六十二條第一項（中略）ニ該當スル所」ト判示シ以テ收入印紙賣捌規則第二條ハ賣捌人タルト否トヲ問ハス凡テ法定外ノ場所ニ於テ收入印紙ヲ賣捌クコトヲ禁止スルモノナルカ如ク解スルモ同條ハ單ニ賣捌人カ法定場所外ニ於ケル賣捌行爲ノミヲ禁止スルノ法意ナルコト（卽チ同條ハ賣捌人タル資格アル者ニ付テノミ適用スヘキコト）ハ賣捌所ハ各賣捌人ニ付特ニ定

メラレタル法定場所ナレハ賣捌人以外ノ者ニ賣捌所ナルモノアルヘキ筋合ナキノミナラス現ニ收入印紙賣捌規則第十五條ニヨルモ賣捌所ハ賣捌人ノ前提トスルコト明カナルノミナラス又賣捌所ヲ特設スル所以ノモノハ專ラ各賣捌人間ノ不正ノ競業ヲ防止セントスルノ法意ニ徵スルモ瞭ナルニ拘ハラス前示ノ如ク收入印紙賣捌規則第二條ノ解釋玆ニ出テサル原判決ハ法則ヲ誤解シタルノ不法アルモノトスト云フニ在リ○按スルニ收入印紙賣捌所及收入印紙賣捌所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得スト規定シタル其字句ノ使用方稍當ヲ缺ク廉ナキニ非スト雖モ同規則全班ノ精神ヨリ推理スレハ結局郵便局吏員又ハ郵便切手若クハ收入印紙ノ賣捌人ト雖モ各郵便局又ハ郵便切手若クハ收入印紙ノ賣捌所以外ニ於テ收入印紙ノ賣捌ヲ爲スコトヲ禁止セラルルハ勿論前示吏員又ハ賣捌人ニ非サル者ハ絕對ニ收入印紙ノ賣捌ヲ爲スコトヲ禁止セラルル法意ナルコト明白ナルヲ以テ本論旨亦理由ナシ而シテ論旨ハ郵便切手類賣捌規則第十五條ヲ援引シテ云爲スルトコロアリト雖モ其理路判明セサルヲ以テ特ニ其說明ヲ與フルニ詮ナシ

第七點原判決ハ其事實摘示ノ部ニ於テ「被告人仲藏ハ收入印紙賣捌人タル免許ヲ有セス（中略）收入印紙ヲ波多野菊次郎等ニ定價以下ニテ賣渡シ」ト判示シ又其法律適用ノ部ニ於テ仲藏ノ右收入印紙賣捌規則第八條郵便切手類賣捌規則第四條第三十七條（中略）ニ該當スル所」ト判示シ郵便切手類賣捌規則第四條ノ定價ヲ以テ賣捌クヘシトアルハ非賣捌人カ定價以下ニ賣渡ス場合ヲモ取締ルカ如ク解スト雖モ同條ハ免許ヲ得タル賣捌人間ノ不正ノ競業ヲ防止スルノ法意ニ出ツルノミナラス「賣捌」ト云フ同條ノ文詞ニヨルモ賣捌人ヲ前提トスルコト明瞭ナルニ拘ハラス同條ノ解釋玆ニ出テサル原判決ハ法則ヲ誤解シタル不法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○郵便切手類賣捌規則第四條ニ賣捌ク可シトアルハ何人ヲ問ハス不定多衆ニ郵便切手類ヲ賣渡ス行爲ヲ爲スコトヲ汎稱スルモノニシテ之ヲ賣捌人ノ賣渡行爲ノミニ限定スルコトヲ得サルハ勿論ナルノミナラス同條ノ法意ハ總テ郵便切手類ハ法令所定ノ例外ノ場合ヲ除ク外ハ必ス劃一ナル價格即チ定價ヲ以テ賣渡ヲ爲サシメントスルニ在リテ必スシモ所論ノ如ク賣捌人間ノ不正競業ノ妨止ノミニ在リト論斷スルコトヲ得サルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

被告人菊次郎辯護人金澤鬼三郎上告趣意書第一點原判決理由ニハ被告人菊次郎ハ東京市下谷區二長町登記所構內ニテ收入印紙賣捌人タルノ免許ヲ得居ルモノナルカ大正元年八月ヨリ大正四年一月マテノ間意思ヲ繼續シテ數回ニ同登記所構內ニ於テ一ケ月三四千圓程ツツノ收入印紙ヲ定價以下ニテ曾根直道等ニ賣渡シト判示シ其證據トシテ被告ノ第一回公判廷ノ供述ト檢事ノ曾根直道保土田鈴之助ニ對スル聽取書トヲ引用シタルヲ以テ其公判廷ノ供述ト其聽取書トヲ準次對照スルニ其第一回公判始末書ニハ裁判長ハ被告菊次郎ニ對シ前略答明治四十二年ヨリ引續キ賣捌人ヲシテ居リマス問大正元年八月ヨリ大正四年一月迄ノ間ニ曾根直道大澤代理店佐藤常三郎保土田鈴之助木暮用六郎清水秀次郎等ニ收入印紙一ケ月三、四千圓程宛賣渡シタルヤ答左樣テス賣渡シタルニ相違ナシ問是等ノモノニ賣ルトキハ一歩乃至一歩五厘宛割引ニテ賣リタルヤ答割引ニテ賣渡シタルコトナシトアリテ一ケ月金三四千圓宛賣捌キタルモ定價以下ニ之ヲ賣捌キタルコトナシト明ニ申立テアリ又檢事ノ曾根直道ニ對スル聽取書ニハ大正二年十一月ヨリ云云私カ買取リタル總額ハ一ケ月金百五十圓位ノモノテアリマス一日ノ買入總額金百圓未滿ナレハ一分割引百圓以上ナレハ一歩五厘割引ノ約束ニテ買取リタル旨ノ記載アリ保土田鈴之助ノ聽取書ニハ自分ハ明治四十四年以來大正三年十月末迄塚田菊次郎ヨリ收入印紙ヲ一歩五厘ニテ每月平均百圓位宛買受ケタル旨ノ記載アルノミニテ原判決カ定價以下ノ賣捌ト認メタル月日即大正元年八月ヨリ大正四年一月迄トアル點ニ付テハ單ニ被告ノ供述中ニ自分ノ賣捌キタル年月ハ明治四十二年ヨリ引續キ大正四年一月迄數人ニ定價以下ニアラス定價通リニ賣捌キタリトアル供述ヲ引用シタリト曾根直道ノ聽取書ニ大正二年十一月ヨリ保土田鈴之助ノ聽取書ニ明治四十四年以來大正三年十月末迄トアルヲ引用シタル迄ニテ是等ノ引用ニテハ毫モ前記判決ニ所謂大正元年八月ヨリ大正四年一月迄定價以下ニ賣捌キタリトノ理由ヲ明示シタルモノトスルヲ得ス更ニ之ヲ詳言スレハ被告ノ賣捌ハ大正元年八月ヨリ大正四年一月迄ナシタリトスルモ被告ハ絕對ニ定價以下ニ賣捌キタルコトナシト申立テ曾根直道ノ聽取書ニハ大正二年十一月ヨリトアリ保土田鈴之助ノ聽取書ニハ明治四十四年以來大年三年十月末迄トアルノミニテ孰レノ點ヨリ見ルモ定價以下ノ賣捌キカ大正元年八月ヨリ大正四年一月迄ニ涉リタリトノ證據ハ全ク

之ヲ引用セサルヲ以テ漫然其年月ヲ認定シタル理由ニ齟齬アル若クハ不備アル判決ナリト信スト云ヒ」第二點原判決ハ收入印紙ノ定價以下ノ賣捌額ハ一ケ月金三、四千圓程ナリトシアルモ第一點ニ記載シタル公判始末書ノ供述證據ニ引用セラレタル記載ハ一ケ月金三、四千圓位之レヲ賣捌キタルモ何レモ定價通リナリト供述シタルニ過キス又檢事ノ聽取書即チ證據ニ引用セラレタル曾根直道ノ聽取書ニハ一ケ月定價以下ノ買受ヲナシタル金百五十圓位保土田鈴之助ハ百圓位トアルノミナルヲ以テ被告ノ定價以下ノ賣捌ハ金二百五十圓ニ過キサルニモ不拘定價以下ノ賣捌額ヲ一ケ月三、四千圓程宛ナリトシタルハ理由ニ不備アルモノト信ス何トナレハ定價以下ノ賣捌高カ一ケ月金三、四千圓位宛ナリトノ證據ハ一モ之ヲ引用シアラサルカ故ニ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ノ明示ヲ缺キタル若シクハ理由ニ齟齬アル不法ノ判決ナリト信スト云フニ在リト雖モ○所揭被告人菊次郎ノ原審公廷ニ於ケル「大正元年八月ヨリ大正四年一月迄曾根直道等ニ收入印紙一ケ月三、四千圓程ツヽヲ賣渡シタル」旨ノ供述記載其他原判決ノ摘示ニ係ル各證據ヲ綜合スレハ裕ニ所論各事實ヲ認メ得ヘキヲ以テ本論旨ハ何レモ其理由ナシ

被告人寬次辯護人山野井龜五郎追加上告趣意書第七點原判決ハ其事實理由ニ於テ「被告人寬次ハ肩書住所ニ於テ收入印紙賣捌人タルノ免許ヲ得居レルモノナルカ大正三年十一月初旬ヨリ……收入印紙凡七千圓程ヲ定價以下ニテ清水秀次郎ニ賣渡シ云々」ト判示シ之ニ對シ收入印紙賣捌規則第四條第三十七條ヲ適用處斷シタリ仍テ按スルニ郵便切手類賣捌規則第四條ニハ單ニ定價ヲ以テ賣捌クヘシトアルモ政府ヨリ印紙賣捌人總代ニ對シ又賣捌人總代ヨリ各賣捌人ニ對シテ夫夫相當ノ割引ヲナシテ賣捌カシムルハ之ヲ公許スル所ニシテ現ニ東京市ニ於テハ賣捌人總代ハ三分ノ割引ヲ得テ更ニ各賣捌人ニ二分六厘引ニテ賣渡スコトヲ公許サレ大阪ニテハ總代ニ於テ四分臺灣ニテハ同五分ノ割引ヲ許サレ居レルカ故ニ原判決ノ如ク單ニ「定價以下ニテ賣渡シタリ」トノミ說示シ定價以下幾何ヲ割引キタルモノナリヤヲ明示セサルニ於テハ上告人ノ所爲カ果シテ違法行爲ナリヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナシ況ヤ被告ノ所爲ハ二分六厘引ニテ總代ヨリ買受ケタルモノヲ二分六厘引ニテ他ニ交付シタルニ過キサルニ於テオヤ既ニ然リトセハ原判決カ上告人ノ所爲ヲ以テ本件犯罪ナリトナスニハ其事實理由ニ於テ此點ヲ明示スルヲ要スルニ拘ハラス單ニ「定價云云」トノミ判示シタルハ明ニ理由不備ノ違法アルモノトスト云フニ在リト雖モ○郵便切手類賣捌規則第四條ノ法意ハ一般公衆ニ對スル郵便切手類ノ賣捌價格ハ必ス定價ニ依ラシムルニ在ルコト辯護人石川磐吉外二人上告趣意書第七點ノ論旨ニ對スル說明ニ依リテ明白ナルヲ以テ原判決カ被告人寬次ハ清水秀次郎ニ對シ定價以下ニテ收入印紙ヲ賣渡シタリト認メタル以上ハ更ニ進ンテ定價ニ幾千ノ割引ヲ爲シタルヤヲ判示スル要アルコトナシ本論亦其理由ナシ

第八點原判決ハ上告人寬次ノ所爲ニ對シ收入印紙賣捌規則第八條郵便切手類賣捌規則第四條第三十七條ヲ適用處斷シタリ仍テ按スルニ收入印紙賣捌規則及郵便切手類賣捌規則ナルモノハ一規則タルニ過キスシテ法律ニアラサルカ故ニ之ヲ適用シテ以テ罪ヲ處斷シタル原判決ハ明カニ憲法ノ精神ニ反シ擬律錯誤ノ違法アルヲ免レス蓋シ法律ニ依ルニ非スシテ處罰ヲ受クルコトナシトハ憲法第二十三條ノ明定セラルル所ナルカ故ニ法律ニアラサル一規則ヲ以テ罪ヲ斷スルハ違法タレハナリ若シ夫レ一步ヲ讓リテ法律委任ニ依ル命令ハ法律事項ヲ內容トスルモノナルカ故ニ之ヲ適用シテ以テ罪ヲ斷スルハ違憲ニアラストノ御院判例ヲ是認スト假定スルモ該命令タルヤ其因テ發セラレタル關係即チ何何勅令若クハ省令第何號等ヲ明示スルニアラサレハ以テ法律委任ノ關係ヲ知ルヲ得ス然ルニ原判決ハ單ニ印紙賣捌規則及郵便切手類賣捌規則第何條ト判示スルニ止マリ其省令ノ如何ハ之ヲ擧示スル所ナキヲ以テ理由不備ノ違法アルヲ免レス以上何レノ點ヨリ見ルモ原判決ハ不法ニシテ破毀スヘキモノトスト云フニ在リ○按スルニ收入印紙賣捌規則ハ明治四十二年遞信省令第十一號又郵便切手類賣捌規則ハ明治三十三年遞信省令第七十五號ニ依リ公布セラレタリト雖モ同規則中罰則ヲ設ケタルハ明治二十三年法律第八十四號命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件及ヒ同年勅令第二百八條閣令省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件ニ依據スルモノニシテ同罰則ハ結局憲法第二十三條ニ依ル臣民ノ權利ノ保障ニ關シテハ所謂法律ト同一ノ効用ヲ有スルモノナルノミナラス此種ノ命令ニ依リ處罰ヲ爲ス場合ニ於テモ特ニ前示命令ヲ以テ罰則ヲ設定スルコトヲ許容シタル法律ヲ明示スル必要ナキハ論ヲ俟タサルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第九點相被告相辯護人ノ論旨ハ之ヲ援用スト云フニ在リト雖モ○相辯護人ノ上告論旨總テ其理由ナキコト前叙ノ如クナルヲ以テ本論旨亦結局其理由ナキニ歸ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條（第三號）ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與大正四年十一月五日大審院第一刑事部

○衆議院議員當選異議ノ件

（大審院大正九年（オ）第八百五十三號　大正十年二月二十五日第一民事部判決）

郵便切手類賣捌規則第二條第十二條第二項第九條　衆議院議員選舉法第十三條第二項

【上告人】江草時太郎　【訴訟代理人】伊勢勝藏

【被上告人】河相三郎　【訴訟代理人】岡崎正也　澁川讜喜智　永屋茂

山口重明

【原審】廣島控訴院

右當事者間ノ衆議院議員當選異議事件ニ付廣島控訴院カ大正九年九月十四日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

立會檢事矢追秀作ハ意見ヲ陳述シタリ

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告費用ハ上告人ノ負擔トス

○判決要旨

一郵便切手賣捌人ナルモノハ單ニ政府ヨリ郵便切手類ヲ法定ノ割引價格ニ依リ買受ケ之ヲ定價ヲ以テ公衆ニ賣捌クモノニ過キスシテ其賣捌ハ政府ノ委託ヲ受ケテ之ヲ爲スモノニ非ス從テ又割引價格ニ依リ郵便切手類ヲ買受クルハ政府ヨリ報酬ヲ受クル旨趣ノモノニ非サルヲ以テ衆議院議員選舉法第十三條第二項ニ所謂請負ニ該當セサルモノトス（判旨第二點）

【參照】政府ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス（衆議院議員選舉法第十三條第二項）

一郵便切手類買受組合總代人ナルモノハ郵便切手賣捌人中ヨリ互選セラルヽ者ニシテ郵便切手類ヲ政府ヨリ買受ケ之ヲ各賣捌人ニ賣渡ス職責アル者ナルモ此職責タルヤ郵便切手類賣捌規則ニ依リ生スルモノニシテ特ニ政府ヨリ委託ヲ受ケ其結果右職責ヲ負擔スルモノニ非ス又郵便切手賣捌人ト郵便切手類買受組合總代人トノ間ニ於ケル郵便切手類及其代金ノ授受ニ關スル條件等ハ所轄郵便局長ノ認可ヲ受ケ組合ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノニシテ之カ爲メ總代人カ代金割引ノ割合如何ニ依リ多少ノ利益ヲ得ルコトアリトスルモ政府ヨリ報酬ヲ受クルモノトス（判旨第三點）

一收入印紙賣捌ニ關シテハ郵便切手類賣捌規則ヲ準用スヘキモノニシテ收入印紙賣捌人及ヒ收入印紙買受組合總代人ノ政府ニ對スル關係ハ郵便切手賣捌人及ヒ郵便切手類買受組合總代人ノ政府ニ對スル關係ト全然同一ナルヲ以テ衆

議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニ非スト解スルヲ相當トス（判旨第四點）

○理　由

上告論旨第一點ハ原判決ハ其理由中「（上略）本訴ノ爭點ハ第一被告カ右選擧當時歩兵第四十一聯隊ニ對シ醬油供給ノ契約ヲ爲シ居リシヤ若シ該契約存在セハ被告ハ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者ニ該當スルヤ第二牧入印紙及郵便切手類賣捌人及其總代人ハ同規定ニ該當スルモノナルヤニ在リ依テ（中略）立法ノ精神ヨリシテ同規定ノ請負ハ啻ニ民法ニ於ケル請負契約ノミナラス政府ヨリ報酬ヲ受ケテ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル者ヲモ包含スルモノト解スルヲ妥當トス」ト判示セラレタリ選擧法ニ所謂請負ノ文字ハ之ヲ廣義ニ解スヘシト爲スハ因ヨリ論ナシト雖モ上告人ハ啻ニ政府ヨリ一定ノ報酬ヲ得テ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル場合ノミナラス政府ノ專賣ニ屬スル物品ノ一般販賣ノコトヲ引受ケ一定ノ報酬ヲ得テ物品ノ供給ヲ受ケ販賣スルコトヲ業トスル者モ亦其供給需用ノ關係カ政府ノ請負ヲ爲スモノニ該當スル者ナルコトヲ主張（訴狀一定原因中第五項）セルモノナルニ拘ハラス原判決カ此點ニ付キ其法律上ノ關係カ政府ノ請負ヲ爲スモノニ該當スルヤ否ヤニ關シ何等ノ說明ヲ爲サヽルハ重要ナル爭點ヲ遺脫シ理由ヲ附セサルノ缺點アルヲ免レスト謂フニ在リ然レトモ上告人カ原審ニ於テ請求ノ原因トシテ陳述シタル事實ハ被上告人ハ政府發行ノ收入印紙及ヒ郵便切手賣捌人並ニ收入印紙及郵便切手類賣受組合總代人トシテ該品ノ賣買ヲ爲シ政府ヨリ收入印紙賣捌規則及ヒ郵便切手類賣捌規則ニ基キ代價ノ割引ニ依リ一定ノ報酬ヲ受クルモノナレハ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニ該當シ被選擧權ヲ有セサル者ナリト謂フニ在ルモノニシテ原院ハ之ニ對シ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂請負ノ意義ヲ說示シ收入印紙及ヒ郵便切手賣捌人並ニ該品買受組合總代人ハ右請負ヲ爲ス者ノ中ニ包含セス從テ被上告人ハ政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニアラスト說明シタルモノナレハ之ヲ以テ原判決ノ主文ヲ維持スル理由トシテ十分ナルモノト認ムヘク假令所論ノ如キ點マテ判斷ヲ爲サヽルモ敢テ不法ニアラス

上告論旨第二點ハ原判決ハ其理由中「（上略）郵便切手類賣捌規則ニ依リ政府ノ許可ニヨリテ授與セラルヽモノナレトモ政府カ其發行スル郵便切手類ヲ賣買スルハ私法關係ニ於テスルモノニシテ賣捌人ハ唯之ヲ政府ヨリ買受ケ公衆ニ賣渡スニ過キス政府ノ委託ニヨリ政府ノ爲メニ公衆ニ賣捌クモノニ非サルコトハ同規則ニヨリテ之ヲ推知シ得ヘク殊ニ同規則第十二條第二項ニ於テ郵便切手類賣捌所廢止ノ際ニ請求ニヨリ殘存セル郵便切手類ヲ政府ノ自由裁量ヲ以テ買戻シ得ヘキコトヲ規定セルヨリ考察スレハ政府及賣捌人間ニ於ケル切手類ノ授與ニ純然タル賣買ト斷定スルヲ相當トス從テ同規則第九條所定ノ賣捌人カ政府ヨリ切手類ヲ買受クル代價ノ割引ハ報酬ト謂フヲ得ス」ト說示セラレタリ然レトモ元來選擧法ニ所謂請負ナルモノハ政府ヨリ一定ノ報酬ヲ得テ其需要ヲ供給スルコトヲ業トスルヲ云フモノニシテ其政府トノ契約ノ性質ハ民法上ノ請負ナルト賣買ナルト又ハ其他ノ契約ナルト又商行爲ナルト否トヲ問ハサルモノナリ（御院大正四年（オ）第八七七號判決）然レハ前揭原判決理由末文ノ如ク切手類ノ授與ハ純然タル賣買ナルカ故ニ同法第九條ニ依ル代價ノ割引ハ報酬ニアラスト速斷シ郵便切手類ノ賣捌ハ選擧法ニ所謂請負ニ該當セストスルハ全ク立法ノ精神ヲ誤解セルモノナリト信ス蓋或行爲カ選擧法上ノ意義ニ於テ政府ノ爲メニスル請負ニ該當スルヤ否ヤハ專ラ其行爲カ有償ナリヤ及政府ノ需用ヲ供給スルモノナリヤノ點ニ於テ決セラルヘキモノニシテ其行爲ノ民法上ノ性質カ賣買ナルト請負ナルトヲ問ハス政府ノ需用ヲ充タスモノナランカ其對償カ報酬代金補助手當委任ナルト將タ其他ノモノナルトハ之ヲ問フ所ニアラス苟モ政府ノ需用ヲ充タスモノナル以テ與ヘラルヽヲ問ハス政府ノ需用ノ爲メニスル或ル供給行爲ニ對シ一定ノ財產的利益ヲ享受シ且兩者ノ間ニ因果關係ノ存スル以上ハ其財產的利益カ政府ヨリ積極的ニ與ヘラルルト否トヲ問ハス常ニ之ヲ報酬ナリト謂ハサルヘカラス從テ切手類賣捌ナル行爲カ賣買ナルト否トヲ問ハス又之ニ依リ賣捌人ノ受クル利益カ其代金ノ割引ノ形式ニ依ルモ若シ切手類賣捌ナル行爲カ政府ノ需用ヲ充タスノ性質ヲ有スルモノナランニハ之ヲ請負ト解セサルヘカラサルハ勿論ナリ果シテ然ラハ先ツ切手類賣捌ハ政府ノ需用ヲ供給スル行爲ナリヤ否ヲ考察スルニ抑々郵便切手類ナルモノハ政府カ獨占的ニ管掌スル（郵便法第一條第二條第一項）郵便ニ關スル料金納付ノ證トシテ使用スルコトヲ目的トスル一種ノ證券ニシ

テ（郵便法第二十九條）政府ノミ獨リ其發行權ヲ有ス（郵便法第三十條）ルモノニシテ其行政的意義ヨリスレハ政府ノ獨占的事業タル郵便（營造物）利用ニ對スル手數料徵收ノ方法トシテ發行セラルヽ證券ナリ從テ之カ發賣ハ郵便事業ヲ利用スル者ニ對シ直接其都度政府カ賣捌クヘキ筋合ノモノナルモ（郵便切手類賣捌規則第二條）政府ノ手數ノ煩雜ヲ省キ且公衆ノ便宜ヲ圖ル爲メ郵便切手類賣捌所ヲ設ケ（同規則第二條第二項）私人ニ其賣捌ヲ免許シタルニ過キサルモノナレハ其賣捌行爲タルヤ畢竟政府ノ本來爲スヘキコトヲ其便宜ノ爲メニ代リテ爲シ若クハ政府ノ收入ノ爲メニ爲スモノニシテ所謂政府ノ需用ヲ供給スルモノタルヤ疑ヲ容レス而シテ該賣捌人ニ對シテハ政府ハ其賣捌所ノ賣捌クヘキ切手類ニ付キ買受高千分ノ三十五ノ割合ヲ以テ賣渡ス旨ヲ定ム（同規則第九條）而シテ元來郵便切手類ハ定價ヲ以テ賣捌クヘキモノニシテ之ニ違反シタルトキハ罰金ニ處セラルルモノトス（同規則第四條及第三十九條）即チ規則第九條ニ依リ割引ヲ受クルコトハ賣捌人タルカ爲メニ享受スル財産的特權ニシテ又其買受ノ際受ケタル割引額ト其賣捌定價トノ差額ハ賣捌人カ賣捌人タル資格ニ依リテ買受ト同時ニ現實ニ取得スル財産的利益ニシテ是明カニ政府ヨリ受クル報酬ナリト云ハサルヘカラス蓋本來定價ニアラサレハ賣捌カレサル切手類ヲ賣捌人タルカ爲メニ定價ヨリ千分ノ三十五ヲ割引シタル金額ヲ以テ買受ケ得ルコトハ畢竟賣捌所トシテ政府ノ爲メニ切手類ノ賣捌ヲ爲スコトニ對スル報酬トシテ換言スレハ政府ノ需用ヲ充タスノ對價トシテ與ヘラレタル報酬ナレハナリ如此切手類ノ賣捌ト割引名義ニ依ル利益トカ不可分離的因果關係ニ於テ交換セラルヽニ拘ラス原判決カ尚且之ヲ以テ報酬ニ非スト爲セルハ全ク法規ノ文字ニ拘泥シテ其性質ヲ誤解シタルモノナリト云ハサルヘカラス又原判決ハ同規則第十二條第二項ニ於テ郵便切手類賣捌所廢止ノ際ニ請求ニ依リ殘存セル郵便切手類ヲ政府ノ自由裁量ヲ以テ買戻シ得ヘキコトヲ定メタル旨ヲ以テ賣捌人及政府間ノ關係ノ性質ヲ云爲スレトモ如此ハ畢竟切手類カ政府ノ專賣ニ屬シ其許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ賣買ヲ爲スコトヲ得サルヨリシテ生スル當然ノ結果ニシテ之アルヲ以テ叙上ノ法理ヲ左右スヘキモノニ非ス而シテ規則第三十條ハ賣捌人ヲ不適當ト認メタルトキハ郵便局長ハ何時ニテモ廢業ヲ命シ得ヘキコトヲ定メタルヲ以テ賣捌人ハ其廢業ヲ命セラレンコトヲ虞ルルノ結果ハ遂ニ政府ノ意ヲ迎合スルノ傾キヲ生スヘク從テ選擧法カ公平ヲ尊重センカ爲ニ被選擧資格ヲ制限シタル旨趣ニ徵シ賣捌人モ亦政府ノ請負ヲ爲ス者ノ範疇ニ屬セシムヘキ法律上ノ理由及必要ノ存スルヤ明ナリ然レハ原判決カ郵便切手類賣捌人ヲ以テ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者ニ該當セスト判定シタルハ法則違背ノ缺點アルヲ免レスト信スト謂フニ在リ按スルニ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂請負トハ單ニ民法上ノ請負ノミニ限ラス廣ク政府ヨリ一定ノ報酬ヲ得テ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル場合モ包含スルモノト解スヘキモノナルコトハ從來本院判例ノ示ス所ナリ然レトモ郵便切手賣捌人ナルモノハ單ニ政府ヨリ郵便切手類ヲ法定ノ割引價格ニ依リ買受ケシテ定價ヲ以テ公衆ニ賣捌クモノニ過キスシテ其賣捌ハ政府ノ委託ヲ受ケテ之ヲ爲スモノニアラス從テ又割引價格ニ依リ郵便切手類ヲ買受クルハ政府ヨリ報酬ヲ受クル旨趣ノモノニアラス然レハ原院カ郵便切手賣捌人ハ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニ該當セスト判示シタルハ洵ニ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナキモノト謂ハサルヲ得ス

上告論旨第三點ハ原判決理由中「（上略）郵便切手類賣受組合總代人ハ郵便切手類賣捌規則ニ依レハ賣捌人ノ互選ニヨリテ選出セラレ政府ヨリ郵便切手類ヲ買受クルコトナキヲ以テ其政府ニ對スル關係ハ賣捌人ト賣買スルモノニ非ス且總代人タルカ爲メニ何等特別ノ利益ヲ政府ヨリ受ケ更ニ之ヲ組合內ノ他ノ賣捌人ニ賣渡スヘキ職責アルモ是亦政府ノ委託ヲ受ケテ賣異ナル所ナシ」ト判示シタルハ法則ニ違背セルノ缺點アリ蓋假リニ判示ノ如ク總代人ノ政府ニ對スル關係カ賣捌人ト異ナル所ナシトスルモ前論旨ノ如ク政府ノ請負ヲ爲スモノニ屬スヘク況ンヤ總代人ハ一般賣捌人ト別異ノ地位ニ立チ規則第十六條以下數條ノ規定ニ依リ特別ノ監督ヲ受ケ其職責トシテハ一般賣捌人ノ元受人タルノ關係ニ在リテ自ラ政府ヨリ切手類ヲ買受ケ之ヲ組合內ノ各賣捌人ニ賣渡スヘキモノニシテ同規則第二十條ノ規定ニ依リ所轄郵便局長ノ認可ヲ受ケタル條件ニ依リ切手類及代金ノ授受ニ關シ一定ノ利益ヲ受ク而シテ現在ニ於テハ總代人ハ規則第九條ニ依リ千分ノ三十五ノ割合ヲ受ケ組合內ノ賣捌人ニ對シテハ千分ノ三十ノ割引ヲ以テ之ヲ授受スルモノニシテ其間ニ生スル千分ノ五ハ總代人カ政府ノ認可ヲ受ケテ取得スル利益ニシテ是亦政府ノ一般賣捌人各個ニ對スル切手類授受ノ煩雜ヲ省略スル爲メニスル換言スレハ

其需用ヲ供給スル爲メニスル行爲ニ對シテ與ヘラルル報酬ナリト云ハサルヘカラス而シテ規則第十七條及第十九條ハ總代人ヲ不適當ト認メタルトキハ郵便局長ハ之カ改選ヲ命スルコトヲ得ルモノトセルカ故ニ公平ノ觀念ヨリ規定セラレタル被選擧資格制限ノ旨趣ニ照シ政府ノ請負ヲ爲スモノニ屬スト解スヘキコト明カナリト謂フニ在リ

然レトモ郵便切手類買受組合總代人ナルモノハ郵便切手賣捌人中ヨリ互選セラルル者ニシテ郵便切手類ヲ政府ヨリ買受ケ之ヲ各賣捌人ニ賣渡スヘキ職責アル者ナルモ此職責タルヤ郵便切手類賣捌規則ニ依リ生スルモノニシテ特ニ政府ヨリ委託ヲ受ケ其結果右職責ヲ負擔スルモノニアラス又郵便切手賣捌人ト郵便切手類買受組合總代人トノ間ニ於ケル郵便切手類及ヒ其代金ノ授受ニ關スル條件等ハ所轄郵便局長ノ許可ヲ受ケ組合ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノニシテ之カ爲メ總代人カ代金割引ノ割合如何ニ依リ多少ノ利益ヲ得ルコトアリトスルモ政府ヨリ報酬ヲ受クルモノト謂フヘカラス然レハ原院カ郵便切手類買受組合總代人ハ賣捌人ト同シク衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニ該當セスト解シタルハ結局相當ニシテ本論旨ハ其理由ナキモノトス

上告論旨第四點ハ原判決カ其理由中「(上略)收入印紙賣捌人ハ收入印紙賣捌規則ニヨリ政府ノ許可ニ基キ其資格ヲ得ルモノナレトモ收入印紙ノ賣買關係ニ付テハ同規則ニ依リ總テ郵便切手類賣捌規則ヲ準用セルニヨリ收入印紙賣捌人ノ政府ニ對スル關係モ前示郵便切手類賣捌人ニ付テ說明セルト同一ニ論斷スヘキモノトス」ト說示セラレタルハ正當ナリ然レトモ收入印紙ナルモノハ政府カ印紙稅法賣藥稅法登錄稅等ノ稅法ニ依ル租稅及手數料罰金科料過料刑事追徵金訴訟費用非訟事件費用等ヲ徵收スル方法トシテ其獨占的發行權ニ基キ發賣スルモノナレハ之カ賣捌人トノ間ニ於ケル關係ハ郵便切手類ノ場合ニ比シ更ニ一層明白ニ政府ノ需用ヲ供給スルモルタルコトヲ確認シ得ヘシ從テ原判決ヤ收入印紙ノ賣捌人及買受組合總代人ヲ以テ選擧法ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者ニ該當セスト論斷セルノ違法ナルコトモ亦一層顯著ナルモノナリト謂フニ在リ

然レトモ收入印紙賣捌ニ關シテハ郵便切手類賣捌規則ヲ準用スヘキモノニシテ收入印紙賣捌人及ヒ收入印紙買受組合總代人ノ政府ニ對スル關係ハ郵便切手賣捌人及ヒ郵便切手類買受組合總代人ノ政府ニ對スル關係ト全然同一ナリ故ニ收入印紙賣捌人及ヒ收入印紙買受組合總代人ハ上告論旨第二點及ヒ第三點ニ於テ郵便切手賣捌人及ヒ郵便切手類買受組合總代人ニ關シ說示シタルト同一ノ理由ニ依リ衆議院議員選擧法第十三條第二項ニ所謂政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニアラスト解スルヲ相當トス故ニ本論旨モ亦其理由ナシ

仍テ衆議院議員選擧法第百八條民事訴訟法第四百五十二條第七十七條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

郵便切手類賣捌規則第二條　刑法第二百五十三條

○郵便法違反業務上橫領被告事件

(大正十一年(れ)第三四二號　同年四月七日第一刑事部判決棄却)

【上告人】　被告人

【第一審】　西條區裁判所　【第二審】　松山地方裁判所

○判決要旨

一郵便局ノ通信事務員カ業務上郵便切手ヲ賣捌キ受領シタル代金ハ其ノ業務上ノ占有ニ屬ス

【參照】　刑法第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

業務上橫領ト通信事務員ノ職務

業務上横領ト通信事務員ノ職務

郵便切手類賣捌規則第二條第一項郵便切手類ハ郵便電信及電話局所ニ於テ之ヲ賣捌ク但シ特ニ告示シタル局所ニ於テハ此ノ限ニアラス

○事實

第二審判決ハ被告人カ愛媛縣周桑郡丹原郵便局ニ通信事務員トシテ勤務中大正九年十二月ヨリ同十年五月ニ至ル迄ノ間犯意ヲ繼續シテ數回ニ同局ニ於テ其ノ職務上保管スル郵便切手代金三十六圓ヲ擅ニ取込ミ横領シタル事實ヲ認定シ之ニ刑法第二百五十三條第五十五條ヲ適用シタリ

○上告理由

辯護人高野金重上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由第二ニ於テ被告ハ職務上其ノ保管ニ係ル郵便切手代金三十六圓ヲ横領セル事實ヲ認定セルモ被告カ郵便切手代金保管ノ職務ヲ有セシコトニ付テハ何等證據ノ說明ヲ爲サス原判決ノ證據ノ說明ニ依レハ被告ハ通信事務員トシテ郵便事務竝ニ小包郵便ノ事務ヲ取扱ヒタルコトハ之ヲ知リ得ヘキモ是等ノ事務ヲ取扱ヒタレハトテ當然郵便切手代金保管ノ職責ヲモ有シタルモノト斷スルヲ得ス從テ業務上横領ノ事實ヲ認定シ刑法第二百五十三條ノ刑ヲ科セントセハ被告カ法律上竝ニ事實上共ニ切手代金保管ノ職務ニ當リ居リタルコトヲ判示セサルヘカラス此點ニ於テ原判決ハ理由不備ノ不法アルモノト信ス

○判決理由

原判決ノ決示事實ニ依レハ被告ハ愛媛縣周桑郡丹原郵便局ニ通信事務員トシテ勤務中職務上保管セル郵便切手代金三十六圓ヲ擅ニ取込ミ横領シタルモノニ係リ又郵便局ニ於テ郵便切手ヲ賣捌クコトハ郵便局ノ事務ノ一部ニ屬スルヲ以テ通信事務員ハ職務上郵便切手ヲ賣捌キテ代金ヲ受領スル場合アルハ勿論ニシテ此ノ場合ニ之ヲ郵便局長ニ引渡ス迄ハ通信事務員ノ職務上ノ保管ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス又原判決判示ノ證據ハ優ニ其ノ判示ノ事實ヲ證明スルニ足ルモノトス故ニ論旨ハ理由ナシ

○背任敎唆贈賄等被告事件ニ附帶スル私訴事件

（大審院大正十一年（れ）第一八九三號大正十二年三月二十三日第一刑事部判決破毀自判）

【私訴上告人】國

【第一審】横濱地方裁判所【第二審】東京控訴院

○判示事項

郵便切手類及收入印紙賣捌規則第七條第十二條收入印紙賣捌規則第二條第三條

收入印紙賣捌規則ニ依ル收入印紙ノ割引賣渡ヲ受ケ得ル場合

○判決要旨

一三等郵便局又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ收入印紙賣捌規則第二條及第三條ニ依リテ郵便官署ヨリ收入印紙ノ賣渡ヲ受クルニ當リ成規ノ割引ヲ受ケ得ルハ正當ノ手續ニ依リ賣渡ノ請求ヲ爲ス場合ニ限リ三等郵便局長若ハ收入印紙賣捌人カ不正ノ手段ヲ用ヰ收入印紙ノ拂下ヲ受ケ因テ國庫ニ損害ヲ被ラシメタル場合ハ右規定ノ利益ヲ受クルヲ得サルモノトス

【參照】明治四十二年遞信省令第十一號收入印紙賣捌規則第二條　收入印紙ハ郵便局郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

同第三條　三等郵便局郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ニ賣渡ス收入印紙ハ定價ニ對シ左ノ割引ヲ爲スヘシ

一郵便集配事務ヲ取扱フ三等郵便局ニ對シテハ百分ノ四

二郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局郵便切手賣捌所ニ對シテハ百分ノ三

賣捌規則ニヨリ割引賣渡ヲ受ケ得ル場合

大正十二年遞信省令第四十一號郵便切手類及收入印紙賣捌規則第七條　郵便切手類及收入印紙賣捌規則第十二條ニ定ムル場合ヲ除クノ外定價ヲ以テ賣捌クヘシ

同第十二條　三等郵便局三等電信局又ハ賣捌人ニ賣渡ス郵便切手類及收入印紙ハ定價ニ對シ左ノ割引ヲ爲スヘシ

一集配三等郵便局ニ對シテハ郵便切手類ハ千分ノ五十、收入印紙ハ千分ノ四十

二無集配三等郵便局三等電信局及賣捌人ニ對シテハ郵便切手類ハ千分ノ三十五、收入印紙ハ千分ノ三十但シ無集配三等郵便局ヨリ買受ヲ爲ス賣捌人ニ對シテハ郵便切手類ハ千分ノ三十、收入印紙ハ千分ノ二十五トス

○事實

第二審私訴判決ノ認メタル事實及民事原告人ノ請求額中其ノ四分ニ相當スル部分ヲ失當ナリトセル理由左ノ如シ

俊芳、近藏共謀ノ上橫濱郵便局ニテ印紙切手類取扱主任タル鶴之助並ニ同樣事務ヲ取扱ヒ居タル淸水某ヲ敎唆シ鶴之助ハ之ニ應シ印紙類拂下ニハ現金又ハ郵便爲替證書ヲ納付シ其ノ納付ヲ證スル出納官吏ノ押印アルニ非サレハ印紙類ヲ交付スルヲ得サル規程ニ違背シ鶴之助單獨ニ又ハ淸水某ト共謀シ俊芳等ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ現金又ハ郵便爲替證書ノ納付無ク從テ該領收ノ印無キ拂下請求書ニ對シ額面合計二十三萬三千圓ノ收入印紙ヲ交付シ俊芳近藏ハ之ヲ他ニ賣却費消シナカラ右印紙代ヲ納付セス爲ニ國ニ對シ損害ヲ蒙ラシメタル事實ハ公訴判決援用ノ各證憑ニ依リ之ヲ認ムルヲ得ヘク從テ鶴之助近藏俊芳ハ共同不法行爲者トシテ連帶シテ之カ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス更ニ其ノ損害額ヲ案スルニ收入印紙ハ之ヲ一般ニ賣捌クトキハ額面全額ノ代金ナリト雖俊芳ハ郵便局長トシテ四分引ニテ拂下ヲ受ケ居タリシコトハ公訴判決援用ノ證憑ニ依リ之ヲ認ムルヲ得ヘク從テ若シ該四分引代金ヲ納付シアリタルトキハ其ノ始メニ於テ拂下手續ニ違法アリ其ノ點ニ於テ刑事上ノ制裁ヲ受ルコトアルモ夫レ以上民事上ノ責任ヲ負擔スヘキモノニ非サルト同シク本件國ノ得ヘカリシ金額ハ印紙額面全額ニ非スシテ拂下金額ナルヲ以テ其ノ損害額ハ額面ノ四分引即チ金二十二萬二千七百二十圓ナリト謂ハサルヲ得ス從テ國ノ請求額中此ノ分ノ請求ヲ正當トシ其ノ餘ハ之ヲ棄却スヘキモノトス

○上告理由

私訴上告人國ノ指定代表者宮本淸一上告趣意書一、原審ノ判決ニヨレハ被告俊芳ハ三等郵便局長タル資格ニ於テ收入印紙ノ拂下ヲ受ケタルモノノ如ク認定シ收入印紙賣捌規則第二條及同第三條ヲ適用シテ四分引ノ價格即二十二萬二千七百二十圓ヲ民事原告人ノ損害ナリト判示シアリ惟フニ三等郵便局長タルモノハ法令ノ規定ニ從ヒ國ノ機關トシテ國ノ目的タル業務ノ執行ニ關シテノミ特定ノ資格ヲ附與セラレタルニ過キス本件被告俊芳ノ如ク被告近藏ト共謀シテ他ノ營利事業經營ノ資金ニ供センカ爲メ不法ニ領得スル目的ヲ以テ收入印紙ノ拂下事務取扱官吏タル被告鶴之助背任行爲ヲ敎唆シ以テ不法ニ領得シタル場合ニ於テハ明ニ三等郵便局長タル資格ヲ離レタル行爲ニシテ同第二條ノ所謂郵便局及同第三條ノ三等郵便局ナルモノニ該當セス

二、原判決ニヨレハ恰モ有效ニ收入印紙ノ賣買行爲カ成立シタルモノノ如ク認定シアルモ本件ハ被告カ共謀シテ國ノ所有ニ係ル收入印紙ヲ詐取セルモノニシテ收入印紙賣捌規則第二條及第三條ヲ適用シテ其ノ損害ヲ四分引ノ金額ナリトセルハ不當ナルヲ以テ原判決ノ一部ニ對シ上告ヲ申立ツル所以ナリ

○判決理由

收入印紙賣捌規則第二條及第三條ニ依リテ當該郵便官署ニ於テ三等郵便局又ハ收入印紙賣捌所ニ收入印紙ヲ規定ノ割引ヲ以テ賣渡スハ正當ノ手續ニ依リ賣渡ノ請求アリタル場合ニ限リ犯罪行爲ニ因リ三等郵便局長又ハ收入印紙賣捌人ノ名義ヲ藉リ拂下ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ前揭各條ノ規定ヲ適用スヘキニ非ス惟フニ收入印紙ノ割引賣渡ノ規定ハ個人ノ經營スル三等郵便局ニ對シ保護其ノ他ノ意義ニ於テ特殊ノ利益ヲ給付スルカ爲又ハ法定ノ資格者ノ取扱フ收入印紙賣捌所ニ

對シ恩惠的利益ヲ附與スルカ爲ニ存スルモノニ外ナラスシテ三等郵便局長又ハ收入印紙賣捌人カ此ノ恩典ニ浴スルカ爲ニ
ハ收入印紙賣捌規則ノ定ムル所ニ從ヒ現金又ハ郵便爲替ヲ以テ其ノ拂下代金ヲ前納スルコトヲ要スルモノナレハ收入印紙
拂下人カ不正ノ手段ヲ以テ此ノ手續ヲ回避シ因テ以テ收入印紙ノ交付ヲ受ケ國ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニ於テハ拂下人
ハ其ノ賠償スヘキ損害額ヲ計算スルニ當リ該規定ヲ援用シテ割引ノ恩典アリト主張スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ國ニ
對シ不正ニ交付ヲ受ケタル印紙ノ全部ノ價格ヲ賠償スルノ義務アルハ固ヨリ論ヲ竢タス今原私訴判決ノ確定セル事實ヲ按
スルニ原公訴判決ト同シク私訴被上告人(民事被告人)俊芳及近藏ハ共同シテ横濱郵便局ニ於テ印紙切手類ノ取扱主任通信
書記補タル私訴被上告人鶴之助及其ノ補助者ニシテ通信書記補タル清水某ヲ教唆シ右兩人ハ之ニ應シ其ノ任務ニ背反シ俊
芳近藏ノ利益ヲ圖リ俊芳ノ鶴見郵便局長トシテ提出セル收入印紙賣渡請求書ニ對シ規定ノ現金又ハ郵便爲替證書ノ納付ナ
ク從テ該請求書ニ出納官吏ノ右納付ヲ證スル捺印ナクシテ不法ニ額面合計二十三萬二千圓ノ收入印紙ヲ俊芳及近藏ニ交付
シ右兩人ハ之ヲ他ニ賣却費消シテ印紙代金ヲ納付セサルニ因リ私訴上告人タル國(民事原告人)ニ對シテ損害ヲ生セシメ
タリト云フニ在レハ被上告人俊芳ハ單ニ收入印紙賣渡請求書ニ三等局タル鶴見郵便局長トシテ其ノ氏名ヲ表示シタルニ過
キス固ヨリ正規ノ手續ニ依リ賣渡ヲ得ントシタルニ非ス被上告人近藤ト共謀シ不法ノ利益ヲ圖リ被上告人鶴之助等ヲ教唆
シ判示ノ如キ背任罪ヲ實行セシメ因リテ判示額面ノ收入印紙ヲ領得シタル事實ナリト解スヘク從テ叙上ノ場合ニ於テ被上
告人等ノ共同犯罪行爲ニ因リ國ニ生セシメタル損害ノ賠償額ハ國ノ喪失シタル收入印紙ノ額面額ヲ以テ算定スヘク其ノ中
ヨリ收入印紙拂下規則第三條處定ノ割引ヲ爲スヘキニ非ス然ルニ原私訴判決ニ於テハ被上告人俊芳カ三等郵便局長タル資
格ニ於テ收入印紙賣渡ノ請求ヲ爲シタルノ故ヲ以テ其ノ背任罪教唆ノ事實ヲ認定セルニ拘ラス仍ホ正當手續ニ依リ請求ヲ
爲シタルモノノ如ク誤解シ不法ニ賣渡ヲ受ケタル收入印紙ノ代金ニ付規定ノ割引ヲ爲スヘキモノト判斷シ被上告人俊芳近
藏鶴之助ノ共同犯罪ニ因リ私訴上告人國ニ對シ生セシメタル損害ノ賠償額ハ右割引ヲ爲シタル印紙代金ニ相當スル額ヲ以
テ足レリト判示シ右割引ニ該當スル金額ニ對スル私訴上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ違法ナリ本論旨ハ多少妥當ヲ缺ケル見

解ナキニ非サルモ結局理由アリ原私訴判決中私訴上告人ノ請求ヲ排斥シタル部分ハ破毀ヲ免レス

通信日附印

舊刑法第百九十五條

○官印僞造行使ノ件（大審院明治三十三年（れ）第一一〇三號明治三十三年十一月廿日宣告棄却）

【被告人】岩田勘太郎

【第一審】京都地方裁判所【第二審】大阪控訴院

○判決要旨

一郵便局ノ日附印ハ官印ナリ

（參照）各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス（刑法第百九十五條）

○事實

右官印僞造行使被告事件ニ付明治三十三年八月十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

○理由

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本件ヲ構成スヘキ處爲ノ目的ハ官印ニ關スル場合ナラサルヘカラス卽チ官署ニ於テ使用スル印章ハ總テ之ヲ官印ナリト云フヲ得スシテ官署ノ印タルニハ必ス印形自體ノ性質上官署ヲ表明シ是カ使用ノ目的ハ國家爲政機關トシテ必須缺クヘカラサル事實ヲ表彰スルモノタラサルヘカラス若シ印形其者ニ於テ官署タル資格ヲ表彰セス單ニ地名日附又ハ事實（卽行爲不行爲ノ結果）又ハ官署ヲ明示セサル他物ノ名稱ヲ以テ印章トシ官署ニ於テ常用ニ供スル場合ニ於テモ之ヲ僞造シタリトテ之ヲ以テ直チニ官印僞造ト稱スヘカラサルナリ其ノ印形使用者ノ官署タルト私人タルトニヨリ官印私印ヲ區別スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ一ニ其ノ實質如何ニ依リ決セラルヘキコトハ言ヲ俟タス官印ハ官署ノ人民ニ對スル或ル事實ヲ證明スルモノニシテ文書ニ押捺セハ其ノ結果トシテ官文書ノ效力ヲ生スルモ皆官署タル資格ヲ表明スルカ故ナリ刑法通信日附印ハ官印ナリ

ノ官印僞造ノ處爲ニ對シ嚴刑ヲ科スル理由一ニ玆ニ存ス而シテ郵便局日附印ハ官署ヲ代表スヘキモノナルヤ官印タル資格ヲ具有スル哉否哉ヲ見ルニ單ニ其名稱ノ如ク地名日附ヲ記載シタル表彰ニ過キスシテ之ヲ文書ニ押捺シタレハトテ官文書タル性質ヲ有セス人民ニ對シテ何等ノ拘束力ヲ生セサルハ勿論ニシテ郵便局ニ於テ之ヲ使用スル所以ノモノ一ニ切手及端書ヲ汚損シ以テ其效力ヲ消滅セシムルニアリ地名及日附ノ記載ハ一ノ便宜ヲ慮リタルニ過サルモノニシテ官署ノ表明其モノハ何等ノ關係ヲ生セサルヤ明カナリ然ルニ之ヲ官署ノ印ナリトシテ刑法第百九十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○官署ノ用ニ供スル印顆ナル以上ハ假令官署ヲ表示シタルモノニアラサルモ卽チ官印ナリトス仍チ本件丹後舞鶴三十三年二月十八日ハ便トシタル舞鶴郵便電信局ノ日附印ハ官印ナルヲ以テ原判決カ被告ノ行爲ニ對シ刑法百九十五條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ所論ノ如キ不法ナシ』同擴張第一點ノ要旨ハ原判決ハ「右前科ニ付テハ被告ノ自認ニヨリ之ヲ認ム」トアレトモ原公判始末書ヲ閱スルニ其第三問ニ問前科アリヤ答御座リマセン」トアリテ明ニ前科ノ事實ヲ否認スルニ拘ハラス自認アリトシテ之カ事實ヲ確定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ所謂前記ノ前科トハ其前文ニ記載アル「被告勘太郎ハ云々同年二月二十一日宮津區裁判所ニ於テ重禁錮十五日罰金三圓ニ處スト」ノ闕席判決ヲ受ケタリトノ罪科ヲ指シタルヤ明カナリ而シテ其判決ノ確定シタルコトト前科トハ前發ノ刑ノ謂ナルコトハ同判決中被告ハ右故障ヲ申立テタル賭博事件ニ付キ明治三十三年五月三十一日重禁錮十五日罰金三圓ニ處セラレタリ云々但シ前發罪ノ刑重禁錮十五日罰金三圓ヲ通算スト雖モ其第四問ニハ「答被告人ハ賭博ヲ爲シ逃走シ云々缺席判決ヲ見ルニ其ノ第三問ニハ上告所論ノ如キ答辯アルニ相違ナキモ其第四問ニハ「答被告人ハ賭博ヲ爲シ逃走シ云々缺席判決ヲ受ケ故障ヲ致シタルニハ相違御座リマセン云々」トアリ卽チ前發ノ賭博罪アルコトヲ供述シタルモノナルヲ以テ原判決カ前記前發ノ罪科アルコトノ自認アリトシテ之ヲ援用シタルハ敢テ不法ニアラス要スルニ論告ハ前科ノ文字ヲ執リ來リ原判文ヲ批難スルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス』同第二點ノ要旨ハ原判決ハ其ノ實ニ於テ「被告ハ自宅ニ有合セタル郵便信書中ヨリ丹後三十二年二月十八日ハ便ノ日附印押捺アル郵便端書ヲ取出シ丹後舞鶴云々郵便電信局ノ日附印ヲ僞造シ云々」ト認定シ其理由トシテ「被告第二回ノ豫審調書ニ於テ自白スル所ニシテ云々」ト說明シ如何ニ豫審調書ニ記載セラレタルカヲ明示セサル不法アルノミナラス該調書ニハ單ニ三十二年二月十三日ハ便云々トアルノミニテ丹後ノ二字ハ其記載ナキ所ナルニ右ノ如ク說示シタルハ不法ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ「前記被告カ舞鶴郵便電信局ノ日附印ヲ僞造シ之ヲ宮津區裁判所ニ提出シタル顚末ハ被告第二回豫審調書ニ云々豫審ニ於テ自白スル所」トアリ卽チ前記ト指示シ又自白ノ事項カ日附印僞造宮津區裁判所ニ提出ノ顚末ニアルコトヲ示サレタルモノナルヲ以テ調書ノ內容ヲ明示セスト云フヲ得ス又舞鶴郵便電信局ノ所在カ丹後ノ國ナルコト著明ナル事實ナルヲ以テ被告ノ豫審調書中丹後ナル二字ノ記載ナシトスルモ原判決カ丹後云々ト記シタリトテ不法ニ事實ヲ確定セリト云フヲ得ス」同第三點ノ要旨ハ本件僞造ニアラサル事實ヲ證スル爲メ鑑定ノ申請ヲ爲シタルニ原院ハ之ヲ却下シ被告カ豫審ノ供述ハ眞實ニアラストテ爭ヒタル其調書ニ依リテ僞造ヲ認定セラレシハ爭ヒアルモノヲ證據ト爲シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○證據調ヘノ申請ヲ許否スルハ事實承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ之ニ對スル不服ハ上告ノ理由トナラス他ハ畢竟原承審官ノ職權ニ存スル證據ノ取捨判斷ニ對シ批難ヲ試ムルニ外ナラスシテ上告適法ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年十一月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事奧宮正治立會宣告ス

舊刑法第百九十五條第百九十八條

○官印僞造行使印紙知情行使等ノ件（大審院明治三十七年(れ)第七九一號明治三十七年五月五日宣告有罪）

【被告人】清水平藏　外一名
（辯護人）南茂平　松本豐　花井卓藏　牧野充安　武田良吾
【第一審】東京地方裁判所　【第二審】東京控訴院

○判決要旨

一甲乙及ヒ丙郵便電信局ノ消印ヲ僞造行使シタル所爲ハ縱令其僞造印ヲ同一ノ文書ニ押用セル場合ト雖モ三箇ノ官印僞造行使罪ヲ構成ス故ニ其或モノニ對シテ起訴スルモ爾餘ノモノハ之ニ包含セラルルコトナシ（判旨第十八點）

一判決ハ裁判所カ事件ニ對スル終局ノ斷定ニ付キ評決ヲ爲シ此評決ヲ表明スヘキ判決書ヲ作成スルト同時ニ成立ス而シテ判決言渡ハ判決以外ニ於ケル一ノ手續ニシテ判決ノ實體ヲ形成スルモノニ非サレハ必スシモ事件ノ審理評決ニ關與シタル判事ノ立會ヲ要セス（判旨第二十一點）

（參照）各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス（刑法第百九十五條）

官ヨリ發行スル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス（刑法第百九十八條）

○事　實

右官印僞造行使印紙知情行使等被告事件ニ付明治三十七年三月十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理　由

被告平藏上告趣意書ハ原院ハ被告人ハ官印僞造行使竝印紙僞造行使ノ二罪ヲ犯シタルモノト認定シタルモ其犯罪中官印僞造行使罪ノ事實ハ原院ノ認ムルカ如ク郵便局或ハ郵便電信局ノ消印ヲ僞造行使シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ同法第百九十五條ヲ適用スヘキ限ニアラス然ルニ原院ハ同條ヲ以テ問擬スルハ格別普通官印僞造罪ニ適用スヘキ同法第百九十五條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○刑法第百九十五條ニハ「各官署ノ印ヲ僞造シ又ハ其僞印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス」トアリテ各官廳カ其事務ノ取扱上ニ於テ押用スル印章ノ僞造竝其僞印ノ使用ハ總テ刑法第百九十五條ノ官印僞造行使罪ヲ構成スヘク從テ郵便電信局カ其郵便電信ノ事務ノ取扱上ニ於テ使用スル消印ヲ僞造行使シタル者ハ官印ヲ僞造行使シタルモノトシテ第百九十五條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス而シテ所論ノ刑法第百九十六條ハ產物商品書籍什物類ニ押用スル官ノ記號印章ニ關スル特別規定ナルヲ以テ官廳ニ於テ使用スル印章ニシテ第百九十六條ニ揭クル印章ノ部類ニ入ラサルモノハ總テ第百九十五條ノ一般ノ規定ヲ適用スルコトヲ要スルヤ明カナリ然ルニ郵便電信局ノ消印ハ商品產物又ハ書籍什物類ニ押印スル印章ニアラサルヲ以テ第百九十六條ノ規定ニ該當セス故ニ原院カ刑法第百九十五條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

被告市太郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ擬律ノ錯誤アル不法アルモノナリ原判決ノ認メタル事實ニ據レハ被告ハ僞造印紙ヲ質ニシテ金員ヲ借受ケタルノミ之レ法律ノ所謂行使ニアラス使用トハ目的ニ適ヒタル方法ニ使用セサルヘカラス而シテ印紙ハ貼用スヘキモノニ貼用スルヲ以テ使用トス然ルニ他人ニ交付シタルヲ以テ使用ナリト判斷シタルハ使用ノ意義ヲ不當ニ解シテ適用シタルモノナリト云フニ在リ○右論旨ニ對スル說明ハ辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一點ニ對スル說明ニ讓リタルヲ以テ該說明ニ付キ其理由ナキコトヲ了知スヘシ

其第二點ハ原判決ハ犯罪構成ノ要件タル事實ヲ明示セサル不法アルモノナリ原判決ハ被告カ知情ノ事實及其日時ヲ示サス

之レ犯罪事實ヲ確定セサルモノナリト云フニ在レトモ〇被告市太郎カ情ヲ知リテ本件ノ僞造印紙ヲ收受シタルコトハ原判文事實摘示ノ部ニ其旨ノ記載アルノミナラス犯罪事實ノ明示トシテ情ヲ知リテ僞造印紙ヲ使用シタル旨ヲ揭クルヲ以テ足レリトシ知情ノ日時如何ハ犯罪ノ構成ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ特ニ之ヲ揭クルノ必要ナシ故ニ本論旨ハ理由ナシ

被告平藏第一上告趣意擴張書ノ第一ハ原院ハ第一審ノ採證（手紙六通）ヲ否認シ之カ取捨ヲ爲シ更ニ採用シタル證據（手紙二通）ヲ斷罪ノ證據ニ供シナカラ之ニ對シ沒收スヘキモノナルカ將タ還付スヘキモノナルカ何等ノ明示ヲ爲サヽルハ刑法ノ正條ヲ無視シ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ニ所謂法則ヲ援用セサル法律ニ違背シタル裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ〇原判文ヲ見ルニ押收ノ僞造印紙ハ之ヲ沒收シ其他ノ押收物件ハ各差出人ニ還付ストアリ印紙以外ノ物件ハ總テ還付ノ言渡ヲ爲シタルコト明カナレハ上告論旨ハ謂ハレナシ

其第二ハ原院ニ於テ辯論ニ際シ檢事ノ論告ニ所犯情狀原諒スヘキモノアルニヨリ減輕アリタシトノ論告アリ原院モ之ニ同意シ第一審判決ハ取消サレ其ノ判文中ニモ所犯情狀原諒スヘキモノナリ云々ト說明シ相被告高橋詠而ヲ輕懲役六年ニ處シタルハ事實苛酷ノ判決ニシテ頗ル平衡ヲ得サル偏頗ノ裁判ナリト思料ス且自分ト相被告詠而ニ對シ更ニ刑ノ輕重ヲ（第一審ハ詠而及自分モ共ニ重懲役九年ニ處セラレタリ）付シナカラ之ニ對シ何等ノ說明ヲモ與ヘサルハ理由ヲ付セサル不當ノ裁判ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條ニ違背シタル裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ〇刑期ノ量定ハ事實裁判所タル原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院ハ當該法條ノ範圍內ニ於テ自由ナル心證ヲ以テ刑期ヲ定ムルコトヲ得ヘク又刑期ノ量定ニ付キ其心證判斷ノ由テ生シタル理由ヲ說明スルノ職責ナシ要スルニ上告論旨ハ原院ノ職權ニ屬シ當院ノ審査ヲ經ヘキモノニアラサル事項ニ對シテ徒ラニ不服ヲ申立ツルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

其第三ハ原院ニ於テ第一項記載ノ證據ヲ取捨爲シタルハ自分ヨリ去ル三月七日原院ニ提出ノ上申書ニヨリ取捨セラレタルハ裁判宣告ノ際（三月十八日）裁判長ノ理由口演ニヨリ明カナリ果シテ然ラハ此證據（手紙）ハ六通ヲ通シテ始メテ意思ヲ表示スルモノナリ然ルヲ原院ハ不法ニモ單ニ六通ノ內（第一審ニテハ此六通ヲ斷罪ノ證據ニ供シ原院ニテハ其內四通ヲ廢棄シ此點ヲ無罪トシタリ）二通ヲ採用シ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不法アル裁判ナリト思料ス其故ハ原院カ否認シタル他ノ同一趣意ノ證據（手紙四通）ニ依ルモ明ナリト云フニアレトモ〇證據ノ取捨ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ其當否ヲ論難シ上告ノ理由トナスコトヲ得ス

同第二擴張書ノ第一ハ原判文ヲ閱スルニ松下常三郎豫審調書ニ「淸水平藏ヨリ印紙代請求ノ爲メ手紙ヲ受取リタリ杯ノ同人申立ハ更ニ無之然ルヲ原院トアレトモ一件記錄中此援用ノ如ク淸水平藏ヨリ印紙代請求ノ爲メ手紙ヲ受取リタリト思料スト云フニ在レトモ〇松下常三郎ノハ申立ナキ事柄ヲトリ斷罪ノ證據ニ供シタルハ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ〇松下常三郎ノ豫審調書ヲ見ルニ「問、淸水平藏カ其方宅ヘ端書又ハ封書ヲ持ツテ印紙代ヲ請求ニ來タコトカアルカ、答、アリマス」トアリ又原判文ニハ「松下常三郎ノ豫審調書ニ被告平藏ハ印紙代請求ノ爲メ端書又ハ封書ヲ持參シタルコトアル旨記載アリ」トアリテ二者全然符合シ毫モ相違ノ點ナケレハ上告論旨ハ理由ナシ

其ノ第二ハ一件記錄中河島豫審判事ノ訊問調書中ニ契印無之分アリ是レ刑事訴訟法第二十條ニ違背シタル不法ノ調書ナリ然ルヲ原院ハ右不法ノ調書ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ〇一件記錄ヲ調査スルニ斯ル事跡ハ一モ之レナキヲ以テ上告論旨ハ謂ハレナシ

平藏辯護人南茂平上告趣意擴張書ハ被告人ハ伊豆國熱海郵便電信局ノ消印ヲ僞造シタルコトヲ認メタリ然レトモ同郵便局ノ差立便ハ一日ニ三度ニ止マルナリ故ニ其印顆ナシトセンカ被告人カ作成シタル消印ハ以テ右郵便局ノ消印ヲ僞造シタリト云フコトヲ得ス蓋シ僞造ノ原體タル印顆ノ存在ナクシテ僞造ノ印顆アルヘキノ理由ナケレハナリ故ニ此點ニ於ケル被告人ノ官印僞造ハ不成立ナリ然ルニ原院カ之レヲ以テ官印僞造罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤アル違法ノ判決ナリト云フニ在リ〇依テ審按スルニ官印僞造ノ所爲アリトスルニハ現ニ官廳ニ於テ使用スル眞印アリテ其眞印ニ擬シテ印章ヲ作成スルコトヲ必要トセス苟クモ人ヲシテ官廳ノ印章ナルコトヲ信セシムルニ足ルノ形式ヲ具備スル

印章ヲ作成スルニ於テハ官印僞造罪ハ完全ニ成立スヘク官廳ノ使用スル印章中ニ同一ノ形式ヲ有スル印章アルヤ否ヤハ之ヲ問フコトヲ要セス尤モ官ノ印章ハ其形式自カラ一定シ其眞僞ヲ判別スルコトハ私印ニ於ケルヨリモ容易ナルヲ以テ官印ヲ僞造スルニ當リ人ヲシテ官印ナリトノ信念ヲ生セシムルカ爲メニハ眞印ニ擬シテ印章ヲ作成スルノ必要アルヘキハ勿論ナリト雖モ是レ只タ人ヲシテ官印ナリト信セシムルニ足ルヤ否ヤノ事實上ノ問題ヲ決スルノ上ニ於テ重要ナル關係ヲ有スルニ止マリ犯人ノ僞造シタルモノト同形式ナル官印カ現實ニ存在スルニアラサレハ官印僞造罪ハ法律上成立シ得ヘカラサルヤ否ヤノ問題ト何等ノ關係ヲ有セサルモノトス何トナレハ何レノ場合ニ於テモ官印ノ僞造ニ伴フ害惡ハ人ヲシテ僞造ノ官印ヲ眞印ナリト信セシメ不測ノ損害ヲ被ラシムルニ因テ生セシムルニ足ルヤ否ヤハ官印僞造ノ所爲ヲ罰スヘキヤ否ヤヲ定ムルノ唯一ノ標準タラサルヘカラサルヲ以テナリ故ニ本件ノ場合ニ於テ假リニ伊豆國熱海郵便電信局ニハチ便ノ消印ナキコトハ所論ノ如クナリトスルモ郵便電信局ニハ各固有ノ消印アリテ被告ノ作成シタルチ便ノ消印ハ人ヲシテ同郵便電信局ノ消印ナルコトヲ信セシムルニ足ルモノナル以上ハ官印僞造罪ハ完全ニ成立スヘク同郵便局ニ僞造消印ト同一形式ヲ有スルチ便消印ノ印顆ナク隨テ斯ル印章ハ從來之レヲ使用シタルコトナシトスルモ此事實ハ毫モ官印僞造罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスコトナシ故ニ上告論旨ハ其理由ナシ

被告兩名辯護人松本豐上告辯明書ノ第一點ハ原院ハ平藏ノ犯罪第一ヲ斷スル資料トシテ其相被告高橋詠而ノ自認ヲ採用シ市太郎ノ問罪資料トシテ市太郎ノ自認ヲ罪證ニ供シタリ依テ公判始末書ヲ閱スルニ詠而市太郎カ犯罪事實ヲ自認シタル具體的ノ錄載アルコトナク詠而ノ供述トシテハ「云々總テ原判決ニアル通リ相違アリマセン」（記錄四五九）トノ記載アリ市太郎ノ供述トシテハ「云々其他ノ點ハ原判決ニ在ル如ク總テ認メマス」（記錄四六六）ト錄取セルノミニシテ如何ナル自認ヲ爲シタルヤハ原判決即チ第一審判決ノ事實理由ノ部ト相俟テ之ヲ知ルヲ得ルノミ果シテ然ラハ單ニ公廷自認アリトノ措置茲ニ出テサルハ不法ニシテ破毀ヲ免レスト云フニ在レトモ○原判文ヲ見ルニ原院ハ相被告高橋詠而及被告市太郎ニ

於テ犯罪事實ノ幾部ヲ自認シタリトシ其自認ヲ採テ本件斷罪ノ證ニ供シタルモノニシテ其自認ノ內容モ亦原判文上明白ナレハ證據ノ明示ニ於テ毫モ欠クル所ナシ尤モ原院ハ「原判決ニ在ル通リ相違アリマセン」トアル公判始末書中ノ被告等供述ノ趣旨ヲ採テ犯罪事實ノ幾部ヲ自認シタルモノトシ之ヲ證據ニ援用シタルモノナルコトハ明カニシテ被告等供述ノ趣旨ハ原院ノ說示セル如ク犯罪ヲ自認シタルモノトナルヤ否ヤハ證據ノ判斷ニ關スル問題ニシテ證據ノ明示ニ關スル問題ニアラス若シ夫レ原院ニシテ其證據說明ノ部ニ於テ單ニ「原判決ニ認メアル如ク總テ認メマス云々」トアル被告等ノ供述ヲ其儘援用シ原判決ニ認メタル事實ノ何タルヲ明示セサリシモノトセハ被告等供述ノ內容ヲ知ルニ由ナキヲ以テ證據ノ明示ヲ欠クモノトナルヘシト雖モ本件ニ在テハ原院カ被告等供述ノ趣旨ヲ判示シ犯罪事實ノ幾部ヲ自認シタルモノトシテ其自認ノ內容ヲ明確ニ指示シタルコトハ前段說明ノ如クナルヲ以テ證據明示ノ法則ニ違背シタルモノト謂フコトヲ得ス故ニ本論旨ハ理由ナシ

第二點ハ原判決ハ市太郎知情ノ證據トシテ司法警察官樋口貞橘ノ市太郎ニ對スル聽取書ヲ罪證ニ供シタリ依テ其聽取書ヲ仔細ニ閱スルニ原院ノ援用シタル市太郎カ常三郎ヨリ受取リタル收入印紙カ僞造ナルコトヲ知リタルハ明治三十六年六月六日ナルコトハ其記載タル「只今申上ケマシタ通リノ次第デアリマス」云々「本年六月頃鈴木カ申スニハ井上ヨリハ印紙ヲ返却サレタルノミナラス金員ヲ要スルコトアルニヨリ該印紙ヲ遣スニ付之ヲ流用シテ金員ヲ調達ナシ呉レト申サレ」云々「然ル所其後一週間許リ過キマスト私主人方ノ書生ノ某カ裁判所ヨリ歸リマシテ其話ニ近頃一圓ノ印紙ハ僞造カ多イトノ事ヲ談シタル者アリシ由申マシタ故私モ不圖心附キ先キニ鈴木範亮ヨリ請取リ所持スル所ノ收入印紙五六十圓ヲ改メマスト實物トハ其周圍ト形ノ「スミ」トカ異ナレルノミナラス之ヲヌラシテ試ミマスト色カ付キマスカラ僞造ト云フコトヲ認メマシタ」云々トノ錄取ニ懲シテ明ナリ故ニ同聽取書ヲ以テ被手ニ入置キタルニ都合上私ニ依賴シ金員調達ヲ託サレタル次第故差支ナキコト、思ヒ只今申上タ通リ他ニ流用致シタ譯デハ思ヒマシタカ別ニ私カ僞造シタトカ云フ譯デモナク松下カ他ヨリマスモ斯樣ニ收入印紙ヲ所持致居ルハ訝カシキコトトハ思ヒマシタカ云々トノ錄取ニ徵シテ明ナリ故ニ同聽取書ヲ以テ被

告市太郎カ明治三十四年六月六日以後ニ於ケル知情ノ事實ヲ推斷スルノ證據ニ供スルハ違法ニ非スト雖モ本件ハ其大部分明治三十四年六月六日以前ノ事實ナルニ原裁判所カ之ヲ以テ其以前ノ知情事實ヲ認ムル罪證ニ供シタルハ採證ノ法則ニ反スル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○原院ハ其判文ニ揭クル諸般ノ證據ヲ綜合考覈シテ本件ノ事實ヲ認定シタルモノニシテ上告論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス其第三點ハ原院ハ司法警察官樋口貞橘ノ市太郎ニ對スル聽取書ヲ罪證ニ供シタリ依テ記錄ヲ精査スルニ本件ハ準現行犯トシテ同人ヲ種々取調ヘヲ爲シタルモノナルカ故ニ其ノ書類ノ形式カ聽取書ナルト錄取書ナルト將タ又訊問調書ナルトニ論ナク刑事訴訟法第二十條ノ要件ヲ具備セサル以上ハ無效ニシテ何等證據力ヲ有スヘキモノニアラス然ルニ同聽取書ニハ警視廳第一部ナル官署印ヲ押捺シ警視廳ノ署印ヲ押捺シタル事跡ナク恰モ決判書ニ何々裁判所ノ署印ヲ用ヒス何々裁判所刑事第何部トアル署印ヲ用ヒタル場合ト同シク結局官署印ヲ押捺セサルト同一ニ歸シ無效ノ書類ナリ而モ原院カ之ヲ罪證ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ一件記錄ヲ査スルニ明治三十四年八月十四日警部樋口貞橘ヨリ檢事正川淵龍起ニ宛テタル書面ニハ現行犯トシテ被告人ニ對シ令狀ノ發布ヲ求ムル旨記載アルモ同日附送致書ニハ非現行ナル旨明記シアリ且ツ本件ノ聽取書モ亦被告人ノ任意ノ供述ヲ錄取シタルモノニシテ假豫審トシテ訊問ヲ爲シタルモノニアラサルコトハ聽取書ノ記載ニ徵シテ明白ナレハ本件ハ結局非現行事件トシテ搜査ノ處分ヲ爲シタルモノナルコトヲ知ルニ充分ナリ左スレハ本件ノ聽取書ハ普通ノ搜査處分トシテ作成シタルモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依リタルモノニアラサルヲ以テ其作成ニ付キ刑事訴訟法ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要セス故ニ本論旨ハ理由ナシ

其第四點ハ原判決ハ被告市太郎カ五圓登記印紙五百圓分ヲ小石川區江戸川町豐溢石油株式會社設立登記用トシテ市太郎住宅ニ於テ賣却シタリトノ事實ヲ認メ其證據トシテ篠原九二七ノ豫審調書ニ錄取セル豐溢石油株式會社設立登記ノ件ヲ芹澤辯護士ニ登記ノ印紙代五百圓ヲ支拂ヒタリトノ供述ヲ罪證ニ供スレトモ篠原九二七カ芹澤辯護士ニ登記印紙代ヲ支拂ヒタリトノ事實ハ以テ市太郎カ篠原ニ賣却シタリトノ事實ト何等因果ノ關係ナク隨テ證據理由ニ不備アル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ所論ノ豫審調書ノミヲ斷罪ノ證ニ供シ印紙賣却ノ事實ヲ認定シタルニアラズ他ノ證據就中被告市太郎ノ豫審調書中巴石油會社及豐溢石油株式會社ニ印紙ヲ賣リタル旨ノ供述ヲ綜合シテ此點ニ關スル事實ヲ認定シアルモノニシテ理由ニ於テ缺クル所ナキヲ以テ上告論旨ハ理由ナシ

其第五點ハ原公判始末書ヲ見ルニ被告市太郎ノ辯護人武内良吾カ證人ノ申請ヲ爲シタルニ對シ裁判所ハ單ニ其申請ヲ却下シタルノミニシテ其申請ノ不適式ナルカ故ナルヤ或ハ審判上必要ナキカ故ナルヤ更ニ之レヲ知ルニ由ナク結局違法ノ手續ニ依リテ審判ヲ終了シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○證據調ノ申請ヲ許否スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬シ其當否ハ之ヲ論爭スルニ由ナキヲ以テ證據調ノ申請ニ對シテハ許否ノ決定ヲ與フルノミヲ以テ足レリトシ之ヲ許否スル所以ノ理由ヲ明示スルノ要ナシ故ニ本論旨ハ理由ナシ

其第六點ハ原院ハ被告平藏カ相被告詠而ト共謀シ五圓登記印紙凡ソ一萬六百四十圓分五圓收入印紙凡ソ三千三百九十圓分一圓收入印紙凡ソ百三十六圓分ヲ僞造シタリト云フニ在リテ其證據ヲ援用シテ犯罪事實ヲ說明スレトモ其數額ノ點ニ付テハ何等證據ニ依リテ之ヲ認メタル形跡ナシ是レ卽チ刑事訴訟法第二百三條ニ違背セル失當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ見ルニ印紙ノ僞造ニ關スル原判決第一ノ事實ハ「被告詠而カ當公廷ニ於テ前示ノ時日場所ニ於テ前示ノ印紙ヲ僞造シタルコトヲ自認シ」トアリ數額ノ點モ亦此自認ニ依リテ認メタルコト明ナカレハ上告論旨ハ理由ナシ

其第七點ハ原判決ハ前點所論ノ如ク被告ノ僞造シタル印紙ノ數額ヲ定メス凡ソ幾何ト說明セリ然レトモ裁判所ハ證據ニヨリテ認定ヲ下シ得ヘキ範圍ニ於テノミ刑ヲ言渡スヲ得ヘク其明瞭ナラサル部分ニ向テ刑ヲ言渡スノ權限ヲ有セサルコト明ナリ然ルニ原院カ被告ノ僞造印紙ヲ明瞭ニ幾何ナリト明示セス漫然凡ソ幾何ト認定シタルハ刑ヲ言渡スヘカラサル事實ニ對シテ罪責ヲ科シタルモノニシテ不法タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原院ノ認ムル所ニ依レハ本件ノ犯罪ハ同一意思ノ發動ニ基ク單一ノ犯罪ニシテ僞造ニ係ル印紙ノ數ハ犯罪ノ內容範圍ニ多少ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキモ犯罪ノ成立不成立ニ毫モ影響ヲ及ホササルノミナラス僞造印紙ノ大數ヲ擧ケテ犯罪ノ內容ヲ示シアル以上ハ假令精確ニ其數ヲ揭ケサ

サルモ尚ホ犯罪構成ノ要件タル事實關係ヲ具體的ニ明示シタルモノナルコトヲ失ハサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

其第八點ハ抑モ官印僞造罪ノ成立ニハ眞正ノ官印ニ酷似スルヲ要スト雖學說ノ一定スル所ニシテ殆ント疑ヲ容ルルノ餘地ナシ例ヘハ郵便局ノ消印カ圓形ナルコトハ公知ノ事實ナルニ楕圓形ノ郵便局消印ヲ僞造シタリトテ罪ヲ構成セサルコト論ヲ俟タス又大阪郵便局ノ消印ヲ僞造スルニ「蓬阪三十七年一月一日」トノ文字ヲ刻セル消印ヲ僞造シタレハトテ素ヨリ罪ヲ以テ論スヘキモノニアラス飜テ本件事實ヲ按スルニ箱舘郵便電信局ノ消印ニ擬シタル「箱舘三十四年二月九日ニ便」ト刻シタル印顆ヲ僞造シテ使用シタリト云フニ在レトモ箱舘ハ函舘ニシテ又函舘郵便電信局ノ消印ニ「渡島函舘」ト刻シアリテ單ニ函舘ト刻セル郵便消印アルコトナキハ公知ノ事實ナリ而モ前陳官印ニ酷似セサル「箱舘三十四年二月九日二便」ト刻シテ僞造行使シタル所以ヲ以テ刑法第百九十五條ニ問擬シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免カレスト云フニ在レトモ○官印ノ僞造アリトスルニハ人ヲシテ官印ナルコトヲ信セシムルニ足ルヘキ形式ヲ有スル印章ヲ作成スルヲ以テ充分ナリトスルコトハ辯護人南茂平ノ上告趣意擴張書ニ對シテ說明スル所ニシテ當該官廳ニ於テ現ニ使用スル所ノ印顆ト被告ノ僞造シタル印顆トノ間ニ其形狀大小文字等ニ付キ多少ノ相違アリトスルモ僞造印ニシテ苟モ人ヲシテ當該官廳ノ印章ナリトノ信念ヲ生セシムルコトヲ得ル以上ハ完全ニ成立スヘキ筋合ナリ故ニ「渡島函館」ノ文字ヲ刻スヘキヲ單ニ「箱館」ト刻シ眞印ト多少其形式ヲ異ニスルモ尚ホ人ヲシテ函館郵便電信局ノ消印ナリトノ信念ヲ生セシムルコトヲ得ヘキヲ以テ官印僞造罪ノ成立ニ毫モ影響ヲ及ホスコトナシ故ニ本論旨モ亦理由ナシ

其第九點ハ原院ハ被告平藏カ東京郵便電信局ノ消印ニ擬シタル「東京三十四年二月十二日前12/2」ト刻シタル印顆一箇ヲ僞造シテ之ヲ使用シタリトノ事實ニ刑ヲ科スレトモ本件起訴狀（記錄一三）ヲ見ルニ明治三十四年八月十五日巡査利根川芳溪外一名告發狀記載ノ本件ニ關スル起訴狀ヲ見ルニ其事實ト本件ノ官印僞造行使シタル「明治三十四年八月十五日巡査利根川芳溪外一名告發狀記載ノ件」ト記載シアリ依テ告發書ヲ査スルニ被告平藏及詠藏及詠而ノ犯罪事實トシテ函館及熱海郵便電信局ノ消印ヲ僞造行使シタル旨ノ記載アルモ東京郵便電信局ノ消印ヲ僞造行使シタルコトハ一モ記載セル所ナキヲ以テ本件檢事ノ起訴ハ右二ケノ官印僞造行使ノ訴追ヲ目的トシタルモノニシテ被告等カ東京郵便電信局ノ消印ヲ僞造行使シタル事件ハ起訴ノ目的中ニ包含セラレサルモノト斷定セサルヲ得ス果シテ然ラハ豫審判事カ豫審終結決定ヲ以テ該事件ヲ公判ニ付シタルハ失當ナルヲ以テ原院ハ宜シク公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキニ却テ其點ニ對シテ審理判決ヲ爲シタルハ不當ニ公訴ヲ受理シ審判ヲ遂ケタル違法アリテ上告論旨ハ理由アリ原判決中被告平藏ニ關スル部分ハ破毀ヲ免カレサルモノトス

市太郎辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一點ハ刑法第百九十八條ニ所謂使用ハ僞造印紙タルノ情ヲ知リ之ヲ印紙ノ用法ニ從ヒ貼用行使スルヲ謂ヒ賣却其他債務ノ擔保トシテ他人ニ交付シタル場合ノ如キハ手段ノ如何ニ因リ或ハ詐欺取財著ク其他ノ關係トナルハ格別決シテ僞造印紙知情使用罪ヲ構成スルコトナシ原判決認定ノ事實ニ依レハ被告市太郎ハ僞造タルノ情ヲ知リテ松下常三郎ヨリ五圓登記印紙九千七百四十圓分五圓收入印紙二千八百四十圓分一圓收入印紙百十五圓分ヲ受取リ之レヲ奧宮健吉、鈴木範亮、寺田寬、柳下圭三郎、佃善兵衞、河田幾太郎、星清、篠原九二七等ニ或ハ金圓貸借ノ擔保トシテ交付シ或ハ賣却シタリト謂フニ在レハ印紙ノ用法ニ從ヒ使用シタルモノニアラサルコト明カナレハ縱令被告市

太郎ニ於テ僞造印紙タルノ情ヲ知リタリトスルモ決シテ僞造印紙知情行使罪ヲ構成スルコトナシ然ルニ刑法第百九十八條ヲ適用シテ處斷シタル原判決ハ此點ニ於テ法則ニ背戻スル不法アルモノト信ス ト云フニ在リ○依テ刑法第百九十八條ノ規定ヲ按スルニ「官ヨリ發行スル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知リ之ヲ使用シ云々」トアリテ法律ハ後段ノ場合ニ付キ「使用」ナル文詞ヲ用キ別ニ其使用ノ方法ヲ限定セサルヲ以テ同條ノ文理解釋トシテハ僞造ノ印紙郵便切手トシテ之ヲ使用スルニ於テハ刑法第百九十八條ノ犯罪ハ完全ニ成立スヘク其使用ノ方法如何ハ之ヲ問ハサルモノトナスヲ正當ナリトスヘク隨テ本件ノ如ク印紙ヲ僞造シタル場合ニ其印紙本來ノ效用ニ從ヒ租稅手數料等ヲ支拂フカ爲メ書類又ハ其他ノ物體ニ貼附シテ之ヲ使用スル場合ハ勿論賣買贈與交換擔保等ノ目的トシテ之ヲ他人ニ交付スルコトモ亦タ刑法第百九十八條ニ所謂使用ノ範圍内ニ入ルモノト解釋セサルヘカラス何トナレハ印紙ハ納稅上金錢ニ代用セラレ印紙面ニ記載スル所ノ金錢價格ヲ代表スルカ故ニ實際ノ取引上ニ於テ有價ノ動產物トシテ賣買其他ノ法律行爲ノ目的トナルコトヲ得ヘキヲ以テ印紙ヲ此種ノ用途ニ供スルハ印紙其モノノ性質ニ從ヒテ其效力ヲ爲サシムルモノニ外ナラサルヲ以テナリ又印紙ヲ僞造ノ印紙ヲ眞正ノ印紙ナリトシテ流通セシムルニ於テハ其印紙ニ信ヲ置キテ取引ヲ爲シタル人ヲシテ不測ノ損害ヲ被ラシメ取引ノ安全ヲ害スルノ結果ヲ生スルノミナラス僞造印紙ヲ流通セシメテ取引上ノ安全ヲ害スルヨリ生スル害惡ハ僞造印紙ヲ貼用シテ國庫ニ損害ヲ與フルノ害惡ト毫モ軒輊スル所ナキヲ以テ其間ニ區別ヲ設クルノ理由ナシ且ツ印紙類ノ僞造ハ他ノ僞造罪ト均シク信用ヲ害スル罪ニ關スル第四章中ニ規定シアルヲ以テ法律ノ目的トスル所ハ僞造印紙ノ使用ハ取引ノ安全ヲ害スルノ點ヨリ之ニ對シテ刑罰ノ制裁ヲ付シ信用ヲ維持スルニ存スルコトヲ窺知スルコトヲ得ヘク納稅上ノ見地ヨリ第百九十八條ノ規定ヲ設ケ嚴ニ僞造印紙ノ貼用ヲ禁壓シテ國庫ノ利益ヲ保護スルヲ以テ唯一ノ目的トナシタルモノトスルヲ得ス故ニ何レノ點ヨリ見ルモ刑法第百九十八條ノ「使用」ハ廣義ニ解スヘク貼用其他本來ノ用法ニ制限セラレタル狹義ニ解スルハ不可ナリトス是レ當院從來ノ判例ニ依リ確認セラルヽ所ナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ

第二點ハ第一審判決ハ馬場新八ノ聽取書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルニ拘ハラス公判廷ニ於テハ該聽取書ヲ被告人ニ讀聞カセ辯解ヲ求メタル事跡ナケレハ刑事訴訟法第百九十八條ニ違背スル不法アルモノトス然レハ則チ被告ノ控訴ハ理由アルモノトシテ第一審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ裁判ヲ爲スヘキニ原院ノ措置爰ニ出テサルハ第一審判決ト同シク法則ニ背戻スル不法アルモノト信スト云フニアレトモ○證據ハ判決ノ基本タル犯罪事實ヲ確定スルノ資料タルニ過キサルヲ以テ第一審判決ニ採證上ノ違法アルモ判決ノ基本タル事實ノ確定カ第二審ニ於テ確定セラレタル事實ニ符合スルニ於テハ第一審ニ於ケル事實ノ認定ハ結局正當ナルヲ以テ第一審判決ハ相當ニシテ被告ノ控訴ハ理由ナキニ歸スヘク採證上ニ違法アリタル一事ノミヲ理由トシテ一審判決ヲ取消スコトヲ得サルモノトス故ニ本論旨ハ理由ナシ

第三點ハ判決ハ其言渡前ニアリテハ單ニ判決ノ案文タルニ止マリ言渡ニヨリ始メテ判決トシテ現ハルヽモノナレハ言渡ハ審理評決ニ參與シタル判事ニ於テ之ヲ爲サヽルヘカラス原院公判始末書ヲ閱スルニ審理ニ參與シタル判事（宮島、瀨端、辻、森井、島村ノ五判事）ト異ナルコト明カナレハ原院ノ措置ハ爰點ニ於テ法則ニ背戻スル不法アルモノト信スト云フニアレトモ○判決ハ言渡ニ依リテ外部ニ發表スルハ所論ノ如シト雖モ判決言渡ヲ爲スニハ先ツ以テ事件ニ對スル裁判所終局ノ斷定アルコトヲ必要トスヘク此斷定ハ實ニ判決ノ實質ヲ組成スルモノナレハ判決ハ裁決所カ此斷定ノ因テ生スル評決ヲ爲シ此評決ヲ表明スヘキ判決書ヲ作成スルト共ニ成立スルモノナリ而シテ判決言渡ハ判決ノ成立ヲ前提要件トシ判決以外ニ於テ爲ス一ノ手續ニシテ判決ノ實體ヲ形成スルモノニアレサルヲ以テ事件ノ審理評決ニ關與シタル判事ノ立會ヲ必要トセス他ノ判事ニ於テ有效ニ此手續ヲ充タスコトヲ得ヘシ故ニ本論旨ハ理由ナシ

被告市太郎辯護人牧野充安上告辯明書第一點ハ原判決ハ被告ノ犯罪事實中特ニ被告カ僞造印紙タルノ情ヲ知リテ使用シタル事實（知情事實）ヲ認メタル證憑（理由ノ如キモ暫ク原判決ノ記載ニ從フ）トシテ被告カ曩ニ常三郎ヨリ受取リタル多額ノ收入印紙ヲ全然僞造ナルコトヲ知得シナカラ其僞造印紙ヲ取得シタル常三郎ヨリ再ヒ多額ノ登記印紙ヲ受取リタルコト司法警察官樋口貞橘ノ被告市太郎ニ對スル聽取書ニ其旨ノ記載アルニ徵シ明カナル事實ヲ指摘セリ右ニ據レハ犯罪事實（未

定事實）ヲ認ムル方法トシテ一ノ既定事實ヲ證據（理由歟）トシ其既定事實ナル事ヲ示ス爲メ司法警察官ノ聽取書ヲ資料トセリ公判ノ法則トシテ其判決ノ資料タル證據ハ公判ニ現ハレ（第一）被告ニ示サレ又ハ（第二）訊問サレタル事實ナラサル可ラス然ルニ前揭原判決ノ既定事實トセルモノハ原判決ノ示ス所ニ據レハ被告ニ示サレタル證憑（卽チ聽取書）ニ徵シ明カナリトスルモ被告ニ對シ示サレタル證憑其モノニアラス故ニ前記ノ法則ニ違背セル判決タルヲ免レス若シ原判決ニシテ聽取書其ノモノヲ直ニ犯罪事實ノ證憑トセハ瑕瑾ナカリシナラン然レトモ原判決ハ然ラスシテ聽取書ニヨリ或ル事實ヲ認定シ其事實ヲ既定事實トシテ犯罪事實ヲ認定シタルヨリ其既定事實カ法廷ニ現ハレサリシ結果ヲ生シ不法ニ陷リタルモノナリト云フニ在リ〇依テ按スルニ事實裁判所ハ既知ノ事實ヨリ推測シテ未知ノ事實ヲ確定スルコトヲ得ルハ證據法ノ原則ニシテ此原則ハ當院ノ判例ニ依テ認メラルル所ナリ而シテ事實裁判所カ此方法ニ依リテ事實ヲ確定スル場合ニ裁判所カ證據ニ依リテ先ツ一ノ事實ヲ確定シ之ヲ基本トシテ他ノ未知ノ事實ヲ確定シタルトキハ證據ト認定事實トノ關係ハ間接ナルモ其事實認定ハ證據ヨリ推理判斷シタル結果ナレハ裁判所ハ證據ニ因リテ事實ヲ認メタルモノナルコトヲ失ハサルモノトス而シテ裁判所カ基本ノ事實ヲ確定スルニ付キテ依據シタル證據ニ付キ刑事訴訟法第百九十八條ノ手續竝ニ採證ノ法則ニ適合シ事實認定ハ完全ニ有效ナリトス而シテ證據ニ因リテ確定シタル既知ノ事實ヨリ推理シテ未知ノ事實ヲ判定スル裁判所ノ推理判斷ノ作用ハ裁判官ノ心裡ニ存スルモノニシテ之ヲ公廷ニ顯出セシメテ被告ノ意見ヲ問フヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ之ヲ法廷ニ顯ササレハトテ刑事訴訟法第百九十八條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フコト能ハサルハ勿論同條ノ規定ハ既知事實ヲ認メタル所以ノ證憑ヲ被告ニ讀聞ケ又ハ之ヲ示シテ其辯解ヲ求ムルニヨリテ遵守セラルヘキモノトス故ニ本件ニ在テ原院カ被告ニ讀聞ケ且ツ辯解ヲ爲サシメタル聽取書ニ依リテ被告カ曩キニ常三郎ヨリ受取リタル收入印紙ノ全然僞造ナルコトヲ知得シナカラ本件僞造印紙ヲ更ニ常三郎ヨリ受取リタル事實ヲ確定シ此事實ヨリ推理シテ被告ニ知情使用ノ所爲アリト斷定シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ被告ノ犯罪事實中特ニ知情事實ヲ認メタル證憑（理由）トシテ被告カ當時辯護士ノ事務所ニ在リテ會計ノ任ニ當リ收入印紙登記印紙ヲ取扱フ機會多キ地位ニアリタルコトヲ指摘シタリ其所謂當時トハ被告ノ犯罪時日タル明治三十二年ヨリ三十四年ニ至ル間指示セルモノト解スヘキモ同上年月ハ登記印紙ノ廢止後滿二年以上二年ヲ經過シ民間該印紙ヲ使用スルモノ實ニ寥々タリ況ンヤ被告カ登記印紙ヲ收受シタルハ明治三十二年十二月ニシテ當時果シテ該登記印紙ヲ取扱フ事多キヤ否ハ常識ニ照シ實際ニ徵シ其少許ナルコトヲ知ルヘキヲヤ然ルニ原判決登記印紙ノ數年前既ニ廢止サレタル明治三十一年勅令第百四十四條ヲ看過シテ當時登記印紙カ一般ニ使用サレタルモノト推定シタルハ不法ナリト云ヒ」第三點ハ殊ニ被告カ登記印紙ヲ取扱フコトノ少キヲ以テ其眞僞ヲ確ムル爲メ奥宮公證役場ノ舊公正證書原本ニ就キ貼用印紙ノ僞跡ヲ乞ヒ比較シタル事實ノ如キハ被告カ特ニ利益ノ事實トシテ第一審以來主張セル所ニシテ證人奥宮健吉ノ訊問ヲ求メタルモ之カ爲メナリ其ハ第一審公判始末書ニ明ニシテ證人ハ右被告ノ爲メ利益ナル事實ヲ陳述セリ然ルニ原判決ハ是等被告カ抗辯及立證ヲ看過シ普通ニ反セル事實（廢止サレタルモノカ普ク使用セリトノ）ヲ確定シタルハ不法ナリト云ヒ」第四點ハ原判決ハ被告カ奥宮健吉寺田寬ニ對シ僞言ヲ用ヒタリトノ事ヲ以テ知情ノ證據トシタルモ原裁判所ハ被告ニ對シ何故斯ル僞言ヲ用ヒタルヤニ付キテ辯解ヲ求メサルヲ以テ被告ハ辯解スルヲ得サリシ豫審調書ニ記載サレアルコトカ僞言ナリヤ將タ其僞言カ知情ノ證憑タルヤ否ハ別問題ナルヲ以テ僞言カ直接犯罪事實タルトキノ外被告ニ對シ特ニ僞言ヲ用ヒタル理由ヲ訊問スルニアラサレハ直ニ僞言ナリ而シテ知情ノ證據ナリトスルヲ得サルモノトス卽チ第一點ノ理由ト參照シテ原判決ノ不法ナルコトヲ知ルヘシト云フニ在レトモ〇本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

第五點ハ原判決ハ本件收入印紙ト登記印紙トノ僞造及使用ニ付意思ノ繼續アルモノトセルモ收入印紙カ僞造ナリトノ疑アリシヨリ被告ハ其收受セシモノヲ返還シ更ニ登記印紙ヲ收受セシ事實ナレハ意思繼續ト認ムヘキ點ナシ是レ亦被告カ證人奥宮健吉ノ陳述（登記印紙ニ就キテ眞僞ヲ鑑査セシ事實）ニ據リ登記印紙ハ眞正ノモノナリト信セシコトヲ主張セシ次第ナリ而シテ其意思繼續

如何ハ被告カ知情ノ日時ヲ鑑別スルニ必要ナル點ナルニ漫然意思繼續ナリト判定シ被告ノ抗辯ニ就キ判決ヲ與ヘサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實裁判所ハ犯罪事實ヲ認メタル所以ノ證據ヲ明示スルノミヲ以テ足レリトシ被告ノ抗辯ニ對シテ辯解ヲ爲スコトヲ要セサルヲ以テ本論旨モ亦タ理由ナシ

第六點ハ原判決ハ其事實ニ於テ「被告市太郎ハ明治三十二年五六月頃ヨリ同三十四年八月頃迄ノ間ニ僞造印紙タルノ情ヲ知リテ」ト示シ知情ノ日時ヲ明示セス或ル期間ニ知リシトスルモ其知リシ前後ニヨリ犯罪行爲ト然ラサルモノト生スルヲ以テ畫一サレタル日時ヲ定ムルハ犯罪事實認定ノ必要事實ナルニ之ヲ明示セサリシハ不法ナリト云フニアレトモ○原院カ被告ニ情ヲ知リテ僞造印紙ヲ使用シタル事實ヲ明示シタル以上ハ其犯罪事實ノ明示ニ於テ缺クル所ナク其日時如何ハ犯罪構成ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ判文ニ揭ケテ事實上ノ理由ヲ明示スルノ要ナシ故ニ本論旨モ亦タ理由ナシ

第七點ハ本件裁判言渡ノ日タル明治三十七年三月十八日午後一時ニ辯護人ハ總テ出頭セス而シテ他ノ辯護人ニハ期日ノ呼出狀ヲ發セラレタルモ辯護人武田良吾ニ對シテハ呼出狀ヲ發セラレタル形跡ナク公判始末書ニハ同人ニ出頭ヲ命シタル旨ヲ記載シタル部分ハ挿入ニ係リ曾テ挿入ニ關スル刑事訴訟法第二十一條ノ規定ヲ遵守セサルヲ以テ其效ナシ卽チ辯護人ヲ呼出スコトナクシテ判決シタル不法ヲ免レスト云フニアレトモ○公判ノ審理ニハ辯護人ノ在廷ヲ必要トスルモ公判言渡ニハ必ラスシモ辯議人ノ立會ヲ必要トセサルヲ以テ辯護人武田良吾ニ對シテ呼出狀ヲ發セサリシコト所論ノ如クナリトスルモ是レカ爲メ公判手續ニ違法アリト謂フコトヲ得ス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

第八點ハ原判決ハ被告カ使用ノ事實トシテ具體的ニ示セル事實ハ（第一）金圓融通ノ爲メ交付（第二）金圓ノ貸借ノ擔保トシテ交付（第三）登記用ニ賣却セリ右ハ總テ印紙ヲ使用シタルモノニアラス少クトモ金圓融通ノ爲メ又ハ金圓貸借ノ擔保トシテ交付スル如キハ或ハ詐欺取財タルモ決シテ使用ニアラス其理由一、使用ハ其モノ使用ノ目的ニ適ハサル可カラス二、行使ト異ルモ他人ニ交付シタルヲ以テ使用ナリト云フヘカラス三、金圓融通又ハ貸借ノ擔保ノ如キハ其物ヲ債權者ノ手ニ保存セシムルモノニシテ使用セシムルモノニアラス卽チ原判決ハ擬律ノ錯誤アルモノナリト云フニ在レトモ○本論旨ノ理由ナキコトハ辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一點ニ對シテ說明セル所ニ依リ明カナルヲ以テ重ネテ說明スルノ要ナシ

第九點ハ第二審判決ハ裁判所ノ表示ヲ欠ク違法アリ第二審判決ノ末尾ニ「於東京控訴院第二部公廷檢事津久井利行立會宣告ス」トノ記載アルモ之レ宣告ノ場所ヲ記載シタルモノニシテ裁判所ノ表示ニアラス換言セハ刑事第二部公廷ニ於テ宣告シタル判事ハ刑事第二部ノ判事ナリヤ否ヤヲ知ルヲ得ス殊ニ東京控訴院刑事第二部ハ部長常松英吉外四名ヲ以テ組織セラレアリテ原判決ニ署名サレタル判事ハ東京控訴院刑事第二部ノ職員ニアラス若シ刑事第二部カ二箇アリトセハ卽チ其孰レナルカヲ示ス爲メ甲ノ第二部乙ノ第二部ト符合スルカ其他何等カノ名ヲ以テ二者ヲ區別スルニ非サレハ其部ヲ表示シタルモノト云フヲ得ス而シテ合議裁判所ノ判決ハ必スヤ部ニ於テ審理判決セサルヘカラサルモノナレハ其部ヲ他ト區別シテ表示セサルハ裁判所ヲ表示セサル不法アリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ其末尾ニ「於東京控訴院刑事第二部公廷」ナル記載アルヲ以テ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ東京控訴院第二部ナルコトハ判文上明白ナレハ判決原本作成ノ法式ニ於テ欠クル所ナク上告論旨ハ理由ナシ

第十點ハ本件控訴事實ハ檢事起訴狀ニ示ス如ク明治三十四年八月七日附警部樋口貞橘ノ意見書ニ記載セラレタル事實ニ劃定セラル然ルニ原判決ニ示シタル事實中ニハ鈴木範亮、伊、柳下、星清、馬場新八等ニ交付シタル幾多ノ事實ヲ加ヘタルハ起訴以外ノ事實ヲ判斷シタル不法ヲ免レサルモノトス若シ意見書記載ノ事實卽チ起訴事實タル寺田寬、奥宮健吉、藤井藤左衞門外一名ニ交付シタル事實ヲ犯罪ナリトシ他ハ情狀ニ關スルニ過キサルモノトセンカ寺田、奥宮、藤井等ニ對スル交付カ使用ノ意義ニ適セスシテ犯罪トナラサル以上ハ星清等ニ賣却シタル行爲ノミヲ以テ罰スルヲ得サルヘシ而シテ寺田奥宮等ニ對スル交付ハ使用ニアラサルヲ以テ星等ニ關スル事實ヲ判斷シタルハ猶ホ不法ヲ免レサルヘシト云フニアレトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ本件被告等カ僞造印紙使用ノ所爲ハ同一意思ノ發動ニ基ク單一ノ犯罪ヲ構成スルモノナレハ其一部ニ付キ起訴アリタル以上ハ他ノ部分モ亦タ當然本起訴中ニ包含セラルルヲ以テ原院カ其全部ニ付キ判決ヲ爲シタ

ルハ相當ニシテ上告前段ノ論旨ハ理由ナク其後段ノ論旨ニ付キテハ意見書ニ所謂寺田寛ニ交付シテ他ヘ融通セシメタリ奥宮健吉ヘ四百圓新井藤左衛門外一名ヘ同シク一千圓ヲ流用シタリトアル僞造印紙ノ流通使用ヲ意味シ僞造印紙使用罪ヲ構成スルコト明カニシテ僞造印紙ノ使用中ニハ流通使用ヲ包含スルコトハ既ニ說明スル所ノ如クナルヲ以テ後段ノ論旨モ亦タ理由ナシ

被告市太郎辯護人武田良吾上告趣意辯明書ハ第一點第二審裁判所ハ被告市太郎ハ明治三十二年五六月頃ヨリ同三十四年八月頃迄ノ間ニ僞造印紙タルノ情ヲ知リテ松下常三郎ヨリ詠而平藏カ僞造シタル印紙ヲ受取リ明治三十二年十一月頃ヨリ同三十四年八月頃迄ノ間ニ意思繼續シテ金圓融通ノ爲メ使用シタリト認定シ而シテ被告市太郎カ第二審公廷ニ於ケル自認トノ奥宮健吉以下ノ豫審調書等ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタリ然レトモ被告市太郎ハ第二審公廷ニ於テ僞造印紙タルコトヲ知情シタリトノ事實ヲ除クノ外第一審判決記載ノ事實ヲ認メタルモ明治三十二年五六月頃ヨリ僞造印紙タルノ情ヲ知リテ受取リタルトノ事實ヲ認メタルコトナシ又第二審裁判所ノ援用シタル奥宮健吉以下ノ豫審調書ニヨルモ被告カ明治三十二年五六月頃ヨリ僞造印紙タルコトノ情ヲ知リテ之ヲ受取リタルト認ムヘキ證憑ナシ然ルニ第二審裁判所カ漫然三十二年五六月頃ヨリ僞造印紙タルコトノ情ヲ知リテ之ヲ受取リ而シテ使用シタルモノノ如ク認定シタルハ事實ヲ不當ニ確定シタルモノナリト云ヒ」第其第二點ハ第二審裁判所ハ被告市太郎ハ僞造印紙タルノ情ヲ知リテ三十二年十一月頃ヨリ三十四年八月頃マテノ間ニ於テ金圓融通ノ爲メ使用シタリト認定シ證人奥宮健吉以下ノ豫審調書ヲ引用シテ知情使用ノ始期ヲ說明セラレタルモ其豫審調書中使用ノ始期ニ就キテハ證人等ノ陳述シタルモノト一致セス是レ事實ヲ不當ニ確定シタル違法アルモノトスト云ヒ」第三點ハ第二審裁判所ハ被告市太郎ノ使用ノ印紙ハ總テ僞造ニ係ルモノナルカ如ク說明シ詠而平藏等ノ自認等ヲ證據トセラレタルモ裁判所ニ押收セラレタル印紙中眞正ノ印紙二枚アリタルコトハ第二審公廷ニ於テ被告詠而ノ說明セルトコロニシテ押收ノ印紙全部ニ付テ詠而平藏等ハ總テ其僞造シタルモノナルコトヲ自認シタルモノニ非ス從テ被告市太郎ノ使用シタル印紙中其何レカ眞正ノモノ存在シタルニモ拘ラス第二審裁判所カ被告市太郎ノ使用シタル印紙ヲ全然僞造ニ係ルモノノ如ク說示セラレタルハ是レ亦事實ヲ不當ニ確定シタル違法アルモノトス云フニ在レトモ○本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ被告市太郎ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リテ之ヲ棄却シ被告平藏ノ上告ニ付キテハ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ當院ニ於テ判決スル左ノ如シ

右

清水平藏

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告平藏ノ印紙僞造ノ所爲ハ刑法第百九十八條前段第二百一條熱海郵便電信局及ヒ函館郵便電信局ノ消印ヲ僞造使用シタル所爲ハ何レモ刑法第百九十五條ニ官印僞造使用ノ點ハ所犯情狀原諒スヘキ廉アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ依リ各本刑ニ一等ヲ減シ數罪俱發ニ付一ノ重キ熱海郵便電信局ノ消印ヲ僞造使用シタル罪ニ從ヒ處斷スヘク被告ハ前キニ私印僞造行使罪ニ依リ東京地方裁判所ニ於テ重禁錮六月罰金五圓監視六月ノ處斷ヲ受ケ本件ノ犯罪ハ其餘罪ニシテ且ツ重キヲ以テ刑法第百二條第一項ニ依リテ之ヲ論シ前記法條ノ範圍內ニ於テ被告ヲ輕懲役八年ニ處シ前發ノ刑ヲ通算シ押收ノ僞造印紙ハ刑法第四十三條第一號同第四十四條ニ依リ之ヲ沒收シ其他ノ物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リテ差出人ニ還付シ公訴裁判費用中金三圓ハ刑法第四十五條第四十七條ニ依リ被告ヲシテ第一審ノ相被告詠而ト連帶負擔セシム

被告カ東京郵便電信局ノ消印ヲ僞造使用シタリトノ公訴ハ受理セサルモノトス

檢事小宮三保松關與

明治三十七年五月五日　大審院第二刑事部

○株金拂込請求ノ件（大審院明治三十九年(オ)第五百四十九號　明治四十年二月二十六日第一民事部判決）

郵便取扱規程第三十三條　商法第百五十三條第二項

【上告人】株式會社豐橋銀行

右清算人　西村源三郎　訴訟代理人　山田豐　淺野三秋

【被上告人】永井仙十　訴訟代理人　上原鹿造

【第一審】名古屋地方裁判所　【第二審】名古屋控訴院

○判決要旨

一郵便局ハ其郵便物ニ押捺シタル消印日附ニ關シ一私人ノ爲メニ證明ヲ爲スヘキ職務權限ヲ有セス從テ其證明ハ之ヲ適法ノ證據ト爲スヘキモノニ非ス

右當事者間ノ株金拂込請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十九年七月九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

○判決

原判決ヲ破棄シ更ニ辯論及裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ差戻ス

○理由

上告理由第一點ハ上告人カ被上告人ニ對シ株式拂込ノ請求ヲ爲シタルニ付被上告人ハ商法第百五十二條同第百五十三條第一項ニ基キ株主タル權利ヲ失ヒタレハ株金拂込ノ義務ナシト抗辯シ上告人ハ被上告人ニ對シナシタル失權ノ通知カ商法第百五十二條ニ規定スル二週間ノ期間ヲ存セサリシモノナルヲ以テ會社及株主ノ双方ヲ保護スル精神ニ出テタル前記商法ノ規定ニ違背シタル失權通知ハ絕對的無效ナリ從テ被上告人ハ株主トシテ株金拂込ノ義務アリト論爭シタルコトハ原判決事實ノ部ノ記載ニ依リ明瞭ナリ而シテ上告人カ被上告人ニ對シ株金拂込及失權ノ通知ヲ發シタルハ乙第四號證ノ一ノ如ク明治三十六年六月十二日ニシテ其拂込期間ヲ同年同月二十六日限ト定メタリ右通知ハ六月十二日豐橋郵便局（ヘ）便ニ依リ發送セラレタルニ依リ該通知ハ同日中ニ被上告人ニ到達セス其到達ハ早クモ其翌十三日ナルヘキ旨及假リニ六月十二日ニ於テ到達シタリトスルモ翌十三日ヨリ起算シ拂込期間ノ末日即チ同月二十六日ノ終了迄ニ拂込ヲ爲サヽレハ株主タル權利ヲ失フヘシト爲シタル前記失權ノ通知ハ法定ノ期間ヲ存セサル絕對無效ノモノナリ何トナレハ二十六日ノ完全ニ終了スル迄ハ尙二週間ノ拂込期間內ニ屬スルヲ以テ若シ二十六日ノ終了ノ瞬間ト共ニ失權ノ効ヲ生スルモノトセハ實際上株主ハ拂込ノ手續行爲ノタメ二十六日ノ終了ノ瞬間ヨリ數時間若クハ數分間以前ニ於テ拂込ヲ爲サヽルヘカラス果シテ然ラハ商法ニ於テ拂込ノ爲メ滿全ニ二週間ノ期間ヲ存セサルヘカラスト爲シタルニ拘ラス事實上滿二週間ニ至ラサル以前ニ拂込ヲ爲サヽレハ遂ニ失權者タルヲ甘ンセサルヘカラサルノ不理ニ陷ルヲ免レサレハナリ此理由ニヨリ上告人ハ前論ノ如ク乙第四號證ノ一ニ於テ被上告人ニ失權ノ効ヲ生スヘキ時期ハ六月二十六日ノ終了スル瞬間ニ存シ同號證ノ被上告人ニ到達シタル翌日即チ六月十三日ヨリ起算シ同月二十六日ノ終了スル瞬間迄ニハ二週間ノ期間存スルヲ以テ毫モ違法ノ失權通知ニアラス從テ被上告人ハ既ニ株主タル權利ヲ失ヒタルモノナリト判定シタルハ實際ヲ顧ミスシテ法律ヲ誤解シタル不法ノ判決ナリト信ス又原判決ニ所謂二週間ノ期間終了ノ瞬間トハ必ス六月二十六日午後十二點鐘ノ瞬間ノ謂ナルヘシ果シテ然ラハ拂込ニ付キ完全ニ二週間ヲ存セサリシコト益明カナリ何トナレハ斯ノ如キ夜間ニ於テ拂込ノ實際行ハレサルハ勿論商法第二百八十三條ニ法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定メアルトキハ其取引時間內ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得ト規定セラレ上告銀行ノ如キハ夜間取引ヲ爲サヽルノ定メナルコトハ一般銀行ト異ル所ナキヲ以テ乙第四號證ノ一ニ

所謂拂込期間ノ末日即チ六月二十六日限リトアルハ同日ニ於ケル上告銀行ノ晝間取引時間内ノ謂ナルコト素ヨリ論ヲ俟タス故ニ二十六日ニ於ケル取引時間ノ終了スル瞬間迄ハ滿二週間ノ期間ヲ存セサルコト一層明白ナレハナリト云ヒ」其第六點ハ原院ハ乙第四號證ノ一ナル郵便葉書ニ附記セラレタル豐橋郵便局ノ證明ヲ有効ノ證據トセラレタルモ其日附ハ明治三十九年五月二十四日ニシテ畢竟被上告人カ本件控訴提起後訴訟準備ノ爲メ故ラニ作成セシメタルモノナリ又其證明文言ハ「消印日附ハ豐橋三十六年六月十二日ハ便ト被認候」トアリテ純然タル鑑定ナリ假シ鑑定ニアラスシテ一ノ證明ナリトスルモ法令上郵便局カ如此事項ニ付私人ノ依頼ニ應シ鑑定又ハ證明ヲ與フヘキ職權ナキコト洵ニ明白ナル所ナレハ畢竟一私人ノ爲シタル訴訟準備ノ鑑定又ハ證明ニ過キス左スレハ原院ニ於テ上告人ハ之レカ全部ノ立證趣旨ヲ否認シタルヲ以テ隨テ全然其證據力ヲ失フヘキモノナルコト證據法上當然ナルニ原院ニ於テ之ヲ證據トシテ上告人敗訴ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリトスト云フニ在リ

依テ按スルニ商法第百五十三條第二項ニハ「前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間ヲ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ニ應シテ拂込ヲ爲サントスル者ハ催告ニ指定シタル期間内ニ於テ拂込ヲ爲スヘク而シテ其期間ハ少クモ二週間ノ日時ヲ存スルコトヲ要ストノ趣旨ニシテ拂込ヲ爲ス爲メニ要スル日時モ其期間ニ包含スルモノナルコトハ法文ニ「期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告」トアルニ依テ之ヲ知ルヘシ原院ハ本件ノ催告ハ明治三十六年六月二十六日迄ニ拂込ムヘキ旨ノ催告ヲ同年同月十二日ニ發シ同日被上告人ニ到達シタルモノトシテ其間十四日即チ二週間ヲ下サル期間ヲ存スルカ故ニ之ヲ法定ノ期間ヲ遵守シタル適法ノ催告ナリト判示シタルハ商法第百五十三條第二項ノ解釋上相當ナルヲ以テ右第一點ノ論旨ハ適法上告ノ理由ナシト雖モ其催告狀ノ發送カ果シテ六月十二日ノ（ハ）便ナリシカ又ハ（ヘ）便ナリシカノ爭點ニ對シ乙第四號證ノ一ナル郵便端書ニ附記セラレタル豐橋郵便局ノ證明ヲ認定ノ資料トシテ（ハ）便ナリト判定シタルハ第六點ノ上告論旨所論ノ如ク不法ナリト云ハサルヘカラス何トナレハ右郵便局ノ附記ハ明治三十六年六月中取扱ヒタル端書ニ押捺シタル消印ヲ同三十九年五月ニ至リ郵便局員カ單ニ之ヲ

（ハ）便ノ消印ナリト認メラルル旨ヲ證明シタルニ過キス郵便局員カ斯ノ如キ證明ヲ爲スヘキ職務上ノ權義ナキコト明カニシテ如斯證明ノ適法ノ證據ト爲スヘキモノニアラサルコトハ本院ノ屢々判示スル所ナレハナリ而シテ其（ハ）便ナルトハ本件催告カ法定期間ヲ遵守シタル有効ノモノナルヤ否ヤニ緊切ノ關係ヲ有シ判決ニ影響スヘキコト論ヲ俟タサルヲ以テ原判決ハ全部破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於テ其全部ヲ破毀スヘキモノト認ムル以上ハ爾餘ノ上告論旨ハ一々說明スルノ必要ナシ

右ノ理由ニヨリ民事訴訟法第四百四十七條第一項第四百四十八條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス可キモノトス

○窃盜委託金費消郵便切手再貼用竝官印盜用ノ件（大審院明治四十二年（れ）第五六八號明治四十二年六月二十四日宣告棄却）

【被告人】辻谷喜三

【第一審】安濃津地方裁判所　【第二審】名古屋控訴院

○判決要旨

一郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ且郵便物ノ發着日時、印紙ノ消印等ヲ證明スルモノナレハ舊刑法ニ在テハ官署ノ印章ニ該當シ刑法ニ在テハ公務所ノ印章ニ該當ス

郵便日附印ノ效力ニ關スル件

○事實及判決

右窃盜委託金費消郵便切手再貼用竝ニ官印盜用被告事件ニ付明治四十二年三月二十四日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

上告趣意書ハ原判決ハ第一ノ犯罪事實ニ對シ其窃取金額ヲ合計三圓八十三錢ト認定シ第二犯罪事實ニ對シ合計八十五錢ト認定シタルモ其援用セル各證據ト對照計算スレハ右ノ如キ算出ヲ見ル能ハス故ニ此點ニ對シテハ事實ヲ不當ニ認定セル違法アリ又原判決ハ寄託金費消ノ罪アリト認定セルモ被告カ用ヒタルヤリシ相當印紙ヲ貼用シタル事實ナルヲ以テ寄託金費消罪アルコトナシ且日附印ヲ押捺セシハ官印ニアラスシテ記號ナリ然ルヲ官印盜用罪ニ問擬セラレタルハ何レモ違法ノ裁判タルヲ免カレスト云フニ在リ○因テ原判決ヲ見ルニ第一審公判始末書中被告ノ自白シタル事項ノ記載ヲ引用シアリテ同公判始末書ヲ查スルニ被告ハ所論ノ金額ヲ窃取シ又ハ費消シタル事實ヲ自白シタル旨ヲ記載セリ而シテ原院ハ其自白シタル事項ノ記載ニ因テ所論ノ金額ヲ認メタルモノナレハ前段ノ論旨ハ謂ハレナシ中段ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由ト爲ラス又郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ郵便物ノ發着日時印紙ノ消印等ヲ證明スルモノニシテ舊刑法ニ在テハ官署ノ印ニ該當シ刑法ニ在テハ公務所ノ印章ニ該當スルヲ以テ後段論旨モ亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

事檢矢野茂關與明治四十二年六月二十四日大審院第二刑事部

○公印盜用公文書變造行使ノ件

（大審院明治四十三年(れ)第四六六號破毀明治四十三年五月十三日宣告）

【被告人】森崎元記　【辯護人】横山勝太郎

【第一審】松山地方裁判所　【第二審】廣島控訴院

○判決要旨

一郵便局ニ備付アル受付時刻記入用ノ日附印ヲ不正ニ使用シ其影蹟ノ空間ニ年月日ノ數字ヲ記入シタル所爲ハ郵便局ノ公印ヲ不正ニ使用シタルモノニ非スシテ郵便局ノ署名ヲ僞造シ其受付時刻證明書ヲ僞造シタルモノナリトス

○事實及判決

右公印盜用公文書變造行使被告事件ニ付明治四十二年十二月二十八日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原判決ヲ破毀ス

被告ヲ懲役一年六月ニ處ス

押收ノ物件中僞造ノ受付時刻證明書及ヒ郵便受領證中ノ變造ノ部分ハ沒收シ其他ノ部分及ヒ其他ノ物件ハ何レモ差出人ニ還付ス

公訴裁判費用ハ被告ヲシテ第一審共同被告廣市、豐及賢ト連帶負擔セシム

日附印ノ變造使用ハ僞造トナル

刑法第百五十條第百五十六條第百六十六條

○理　由

上告趣意書第一點原判決ハ「卯之町郵便局ニ於テ右受領證ニ同局備付ノ局名及年月日時ヲ刻シタル受付時間記入用日附印ヲ押捺シ之ニ明治四十二年五月十四日午前四時三十分ト記入シ云々」ト記載シタリト雖モ上告人カ受領證ニ押捺シタル日附印ハ單ニ明治十年月日午時分ノ九字ヲ刻シアルモノニシテ何等ノ局名ヲモ刻シアルモノニ非ス故ニ原判決ハ上告人カ使用セサル印ヲ使用シタリトナスモノニシテ不當ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

第二點原判決ハ上告人カ受領證ニ明治十年月日午時分ノ文字ヲ刻シタル所爲ニ對シ刑法第百六十五條第二項第一項ヲ適用シ公印ヲ不正ニ使用シタルモノト爲シタルハ不當ナリ凡ソ印トハ或物件ノ一面ニ存在スル一定ノ形狀ヲ他物ニ押捺シテ常ニ一定ノ影蹟ヲ永久ニ現出セシメ此ノ影蹟ヲ以テ或ル事實ヲ證スルノ用ニ供セラルルモノナリ故ニ印ハ少クトモ其影蹟カ或ル事實ヲ證明スル目的ニ使用セラルルモノナラサル可カラス然ルニ上告人ノ使用シタル明治十年午時分ノ九字ヲ刻シアルモノハ年月日時間ヲ記載スルニ當リ記載者ノ手數ヲ略スル爲メ常用文字ヲ刻シアルノミニシテ其影蹟自體ハ郵便物ノ受付時間又ハ到着時間其他何等ノ事實ヲモ證シ得ルモノニアラス刑法ニ所謂印章ト稱ス可キモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ之ヲ印章ナリトシテ刑法第百六十五條第二項第一項ヲ適用シタルハ不當ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ原院カ事實トシテ認メタル所ニ依レハ被告ノ使用シタル印影ハ郵便物受領ノ時刻ヲ證スルノ用ニ供セラレ單ニ局名ト明治、年、月、日、時ノ文字ヲ刻シアリテ被告ハ其影蹟ノ定間ニ年、月、日、時ノ數字ヲ記入シテ本件ノ文書ヲ作成シタルモノナリトス右ノ事實ニ依リ該印影ノ性質ヲ按スルニ右ハ郵便規則第四節ノ一第四十條ノ二ノ郵便受付時刻證明ニ該當スルモノニシテ同條ノ規定ニ依レハ右ノ受付時刻ハ其明文ノ示ス如ク當該吏員ヨリ其證明書ヲ交付スヘキモノナルヲ以テ本件卯之町郵便局ニ於テ使用スル前記ノ印影ハ證明ノ都度年月日時ヲ記載スルノ勞ヲ省略スル爲メニ作製セラレタルモノニシテ受付時刻ノ證明ヲ爲スノ用ニ供セラレタル公印タルノ性質ヲ有スルモノニアラス左レハ被告ノ所爲ハ原院判定ノ如ク卯之町局ノ公印ヲ不正ニ使用シタルモノトシテ刑法第百六十五條ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス　シテ卯之町郵便局ノ署名ヲ僞造シテ其受付時刻證明書ヲ僞造シタルモノトシテ刑法第百五十五條一項ニ該當シ同條ノ刑ニ擬スヘキモノトス故ニ上告論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノトス

辯護人横山勝太郎上告趣意書第一點原院ハ參考人宇都宮猪佐美ノ豫審調書ノ記載ヲ有罪ノ資ニ供シタルヲ以テ今同人調書ヲ閱スルニ「此時判事ハ被告人一同ノ氏名ヲ擧示シ刑事訴訟法第百二十三條及第百二十四條第四以下ノ各事項ヲ解示シ關係ノ有無ヲ訊問シタル處何等關係ナキ旨ヲ答ヘタリ」「於玆判事ハ前記被告事件ノ參考人トシテ訊問スヘキ旨ヲ告知ス」トアリ即チ右宇都宮猪佐美ノ證人タルヘク何等ノ支障ナキモノトナルニ之レニ宣誓ヲ命セサリシハ不法ナリ或ハ同調書ニ「二十七年四月生」トアル（一六六丁裏初行）ヲ目シテ明治二十七年四月生ト解シ當時十六歲未滿ナルカ故ニ宣誓ヲ爲サシタルモノナリトス右ノ事實ニ依リ該印影ノ性質ヲ按スルニ右ハ郵便規則第四節ノ一第四十條ノ二ノ郵便受付時刻證明ニ該當スルモノニシテ同條ノ規定ニ依レハ右ノ受付時刻ハ其明文ノ示ス如ク當該吏員ヨリ其證明書ヲ交付スヘキモノナルヲ以テ本件卯之町郵便局ニ於テ使用スル前記ノ印影ハ證明ノ都度年月日時ヲ記載スルノ勞ヲ省略スル爲メニ作製セラレタルモノニシテ受付時刻ノ證明ヲ爲スノ用ニ供セラレタル公印タルノ性質ヲ有スルモノニアラス左レハ被告ノ所爲ハ原院判定ノ如ク卯之町局ノ公印ヲ不正ニ使用シタルモノトシテ刑法第百六十五條ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス　シテ卯之町郵便局ノ署名ヲ僞造シテ其受付時刻證明書ヲ僞造シタルモノトシテ刑法第百五十五條一項ニ該當シ同條ノ刑ニ擬スヘキモノトス

辯護人横山勝太郎上告趣意書第一點原院ハ參考人宇都宮猪佐美ノ豫審調書ノ記載ヲ有罪ノ資ニ供シタルヲ以テ今同人調書ヲ閱スルニ「此時判事ハ被告人一同ノ氏名ヲ擧示シ刑事訴訟法第百二十三條及第百二十四條第四以下ノ各事項ヲ解示シ關係ノ有無ヲ訊問シタル處何等關係ナキ旨ヲ答ヘタリ」「於玆判事ハ前記被告事件ノ參考人トシテ訊問スヘキ旨ヲ告知ス」トアリ即チ右宇都宮猪佐美ノ證人タルヘク何等ノ支障ナキモノナルニ之レニ宣誓ヲ命セサリシハ不法ナリ或ハ同調書ニ「二十七年四月生」トアル（一六六丁裏初行）ヲ目シテ明治二十七年四月生ト解シ當時十六歲未滿ナルカ故ニ宣誓ヲ爲サシタルモノナリトス論スルモノアラン然レトモ普通ノ用例「二十七年四月生」トハ數ヘ年二十七歲ニシテ四月生ノ意味タルハ疑ナキ所ナルノミナラス本件記錄ノ用例ニ徵スルモ證人田中德男ノ調書中「二十二年」トアル（一七二丁）ハ二十二歲ノコトナル可ク又證人溝脇ワキ調書中（一七七丁）「三十七年」トアルハ之レ亦三十七歲ノコトナル可ク又證人田村春三郎調書（二六二丁）ニ「三十九年」トアルハ之レ亦三十九歲ノ意義ナルコト勿論ニシテ結局宇都宮猪佐美ノ調書ハ不法ノモノニシテ證據ノ力ヲ有セサル原院カ之レヲ採用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○裁判所カ被告事件ノ審理上ニ於テ關係人ノ訊問ヲ爲スニ當リ其人カ證人タルノ資格ヲ完備スル場合ト雖モ其事件ノ性質上證人トシテ訊問スルヲ不可ナリト認メタルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ單ニ參考ノ爲メニ之ヲ訊問スルコトヲ得ルコトハ當院從來ノ判例ニ依リテ認メラルル所ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

第三點原判文ヲ閱スルニ「……同年六月九日頃右豫之町郵便局ニ於テ右受領證ニ同局備付ノ局名及年月日時ヲ刻シタル受付時間記入用日附印ヲ押捺シ……」ト判示シ之レニ刑法第百六十五條第二項第一項ヲ適用シタレトモ該印タル判示自體ニテ明瞭ナルカ如ク該印自體ヲ濫用シタルノミニテハ直ニ使用ノ目的ヲ達シ得ルモノニアラス押捺後相當ナル年月日時間ノ

日附印ノ變造使用ハ僞造トナル

記入ヲ爲シテ始メテ不正ナル使用タルモノニシテ之レ寧ロ刑法第百六十六條ニ所謂「記號」ニ該當スルモノトス此點ニ於テ原判決ハ不法ナリト云フニ在リテ○本論旨ハ結局理由アリ原判決ハ破毀ヲ免カレサルコトハ被告ノ上告趣意書第二點ニ付テ說明スル所ノ如クナルヲ以テ重ネテ說明ヲ爲スノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同第二百八十七條ニ依リ更ニ本院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノトス依テ原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告カ卯之町郵便局受付時刻證明書ヲ僞造シタル所爲ハ刑法第百五十五條第一項ニ郵便物受領證變造ノ所爲ハ同法第百五十五條第二項第一項ニ變造郵便物受領證行使ノ所爲ハ同法第百五十八條第一項第百五十五條第一項ニ變造郵便物受領證行使ノ所爲ハ刑法第百五十四條第一項第十條ニ依リ最モ重キ受付時刻證明書僞造行使ノ罪ニ對スル刑ニ從ヒ處斷スヘク而シテ本件ハ被告ノ上訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ニ從ヒ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更セサルモノトス依テ前揭法條ノ範圍內ニ於テ被告ヲ懲役一年六月ニ處シ押收物件中受付時刻證明書及郵便受領證中變造ノ部分ハ刑法第十九條ニ依リ之ヲ沒收シ其他ノ物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ刑法施行法第六十七條刑事訴訟法第二百一條ニ依リ被告ヲシテ共同被告タリシ廣市、豐及賢ト連帶負擔セシム依テ主文ノ如ク判決スルモノナリ

檢事鈴木宗言關與明治四十三年五月十三日大審院第一刑事部

○公文書僞造行使敎唆詐欺被告事件（大審院昭和三年（れ）第一二一九號同年十月九日第四刑事部判決棄却）

刑法第百五十五條便規程第三十二條第三十四條

【上告人】被告人　橋本安太郎

（辯護人）秋山高三郎　高橋禎一

【第一審】札幌地方裁判所【第二審】札幌控訴院

○判示事項

郵便局ノ日附印

○判決要旨

一郵便局ノ郵便物ニ押捺スル日附印ヲ僞造シテ郵便物ニ押捺スルハ郵便局ニ於テ郵便物ヲ引受ケタルコトヲ證スル郵便局ノ作ルヘキ文書ヲ僞造シタルモノトス

【參照】刑法第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作ル使用シテ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者亦同シ前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ一年以上三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便取扱規程第三十二條第一項　郵便物ヲ引受ケタル時ハ其ノ餘白ニ引受ノ證トシテ日附印ヲ明瞭ニ押捺スヘシ

郵便局日附印ノコト

同規程第三十三條　郵便ニ關スル料金納付ニ用キタル郵便切手類及郵便物ニ貼付シタル郵便切手ハ日附印ヲ以テ其ノ料額印面ヲ明瞭ニ消印スヘシ

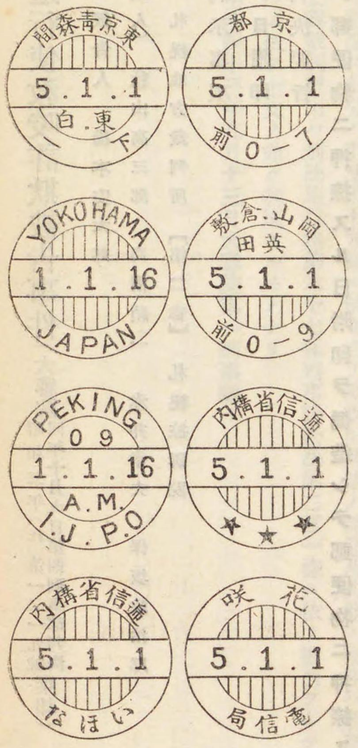
同規程第三十四條　前條ニ依リ引受局ニ於テ郵便切手類ニ消印シタルトキハ第三十二條ニ依ル日附印ノ押捺ヲ省略スルコトヲ得

明治四十二年遞信省告示第千三百八十六號通信日附印形式

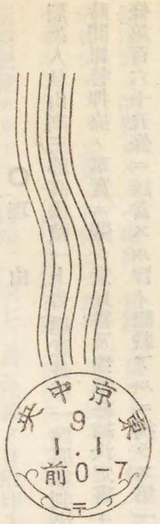
郵便、電信、電話官署ニ於テ通信事務ニ使用スル日附印ハ通信日附印ト稱シ特ニ紀念ノ爲ニ使用スルモノノ外其ノ形式左ノ通相定ム但シ紀念ノ爲ニ使用スル特殊通信日附印ノ形式ハ別ニ定メ臨時之ヲ告示ス

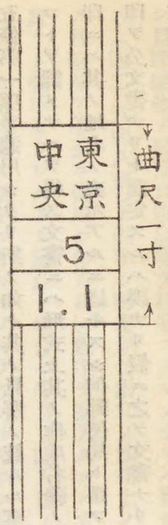
局名及記號ハ其ノ局ニ依リ年月日及時刻ハ其ノ使用日時ニ依リ孰モ變更スルモノトス

寸法（以下之ニ同シ）直徑曲尺八分トス



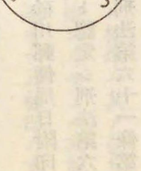
寸法（以下之ニ同シ）直徑曲尺六分六厘トス

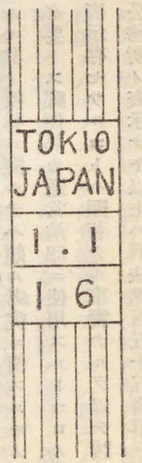




曲尺一寸

曲尺五分





○事　實

第二審判決ハ左記第一審判決ノ認定セル事實ヲ採用シ被告人ノ行爲中公文書僞造敎唆ノ點ニ付刑法第六十一條第一項第五十五條第一項僞造公文書行使敎唆ノ點ニ付同法第六十一條第一項第五百五十八條第一項第百五十五條第一項詐欺ノ點ニ付同法第二百四十六第第一項ヲ適用シ尙同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ僞造公文書行使罪ノ敎唆ノ刑ニ從ヒ被告人ヲ懲役一年六月ニ處シ同法第二十一條ヲ適用シテ未決勾留日數中五十日ヲ本刑ニ算入スヘキ旨言渡シタリ

被告人ハ肩書住所ニ於テ大北火災海上運送保險株式會社砂川代理店ヲ經營シ居ル處豫テ實兄岩見澤町一條一丁目居住三谷榮次郎ヨリ其ノ父所有ノ同所所在建物十棟ニ付同代理店トノ間ニ火災保險契約締結方ヲ依頼セラレ其ノ準備ヲ爲シ居リタルモ未タ確的ニ其ノ間ニ該保險契約ヲ締結スル運ヒニ至ラサリシ折柄大正十四年六月五日午後二時過頃岩見澤町ニ大火アリテ父八兵衛方モ危險ノ虞アルヲ聞知スルヤ周章狼狽シ爰ニ俄ニ同日以前ニ於テ其ノ間ニ完全ニ火災保險ヲ契約締結セ

ルモノノ如ク裝ヒ右保險株式會社係員ヲ欺罔シ火災保險金ヲ騙取セムコトヲ企テ同日午後四時頃前記代理店ニ於テ同店ト實父八兵衛ト間ニ其ノ所有ノ同所所在ノ住宅其ノ他建物合計十棟ニ付同日以前既ニ保險金額三萬八千二百圓ノ火災保險契約成立セル旨ノ契約締結報告書其ノ他附屬書類ノ作成ヲ完成シ偶居合セタル松島松藏ヲ介シ電話ヲ以テ當時砂川郵便局執務中ノ同局事務員鳥飼すみニ對シ同局日附印ノ時刻ヲ午前ニ組替ヘテ封筒ニ押捺發送セラレ度旨依頼シ以テ同局郵便物發送時刻證明公文書ノ僞造並其ノ行使ヲ敎唆シすみヲシテ其ノ敎唆ニ基キ同日午後四時三、四十分頃同局ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同日ノ日附印ノ時刻ヲ午前九時乃至十二時ニ組替ヘテ前記書類在中ノ封筒（押收第四號）ニ之ヲ押捺シ以テ其ノ發送時刻證明文書ノ僞造ヲ完成セシメ且之ヲ前記株式會社小樽支店ニ送付行使セシメ因テ前揭會社係員ヲシテ右火災以前既ニ業ニ八兵衛ト間ニ保險契約カ眞正ニ成立シ前記大火ニ因リ右建物ノ一部類燒ノ結果アリタルモノト誤信セシメ同月二十日三谷八兵衛ヲシテ同會社ヨリ火災保險金名義ノ下ニ銀行口座ノ振替ノ方法ニ依リ金二萬八千七十二圓二十四錢ノ支拂ヲ受ケシメ以テ被告人ハ其ノ騙取ヲ遂ケタルモノナリ

○理　由

辯護人秋山高三郎高橋禎一上告趣意書第一點原審判決ニハ擬律ノ錯誤存ス原審判決事實認定中ノ砂川郵便局日附印中ノ時間組替押捺ノ事實ニ關シ意見書及豫審終結決定書ニハ之ヲ公務所ノ印章ト解シ之ヲ公印僞造ナリト認定シ刑法第六十一條第百六十五條ニ該當スル旨ノ記載アルニ拘ラス第一審及原審判決ハ之ヲ公文書僞造ナリト認定シ刑法第六十一條第五條第一項ヲ適用シタリ斯ノ如ク其ノ見解ノ岐ルル事實ノミヲ以テスルモ其ノ擬律ニ關シテハ頗ル考究ニ價スルモノアルコトヲ認メサルヲ得ス文書ニハ形式上其ノ作成名義ノ表示アルコトヲ必要トス郵便局カ通常消印ニ使用スルトコロノ日附印ニハ其ノ地名ノ表示アルニ過キスシ何郵便局ト謂フカ如キ公務所ノ表示存セサルコトハ顯著ナル事實ナルヲ以テ該日附印ヲ公文書ナリト認定スルハ誤ナリ假ニ之ヲ文書ナリトスルモ形式上公務所ノ表示ナキ以上ハ刑法第百五十五條第三項ノ文書ニシテ同條第一項ニ該當スル文書ニアラスト思料ス之ヲ判例ニ徵スルニ御院ニ於テハ郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ且郵便物ノ發着日附印等ヲ證明スルモノナレハ舊刑法ニアツテハ官署ノ印ニ該當シ刑法ニアツテハ公務所ノ印章ニ該當ス（四二、八四八頁）ト判示シ郵便局日附印ノ法律上ノ性質ヲ確定セラレタリ加之郵便局ニ備付アル受付時刻年月日記入用ノ日附印ヲ不正ニ使用シ年月日ノ數字ヲ記入スルハ官公文書僞造罪ヲ構成スルモノニシテ印章僞造ニアラス（四三、八六〇頁）ト判示セラレタリト雖此ノ場合ハ年月日記入用ノ日附印ヲ不正ノ記入ヲ爲シタルモノニシテ全然前記ノ場合ト異ナリ決シテ前記判例ヲ變更シタルモノニアラスト思料ス從テ御院判例ニ依ルモ原審判決通常ノ郵便局日附印不正使用ヲ公文書僞造罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ト爲ササルヲ得ス加之御院判例ノ公務所ノ印章ト記號トヲ區別スル標準ハ其ノ使用ノ目的如何ニアリ文書ニ押捺シテ證明ノ用ニ供スルモノハ公務所ノ印章ニシテ產物商品書籍什器等ニ押捺スルモノハ其記號ナリトス（三、二〇〇八頁）當該官廳ノ表示スル文字ナク單ニ或ル處分ヲ爲シタル符號ヲ印スルモノニ過キサル極印ハ本條ニ所謂記號ナリトス（四四、一四七〇頁）稅關ノ日附印ト雖印形ノ輪廓內ニ年月日ノ數字ヲ西洋文字ニテ表ハシタルノミニ止リ該官廳ヲ表示スル文字ナキモノハ印章ニアラスシテ記號（四二、一一五五頁）等ノ御院判例及公務所ノ印章トハ公務所ノ名ヲ以テスル文書等ニ押用セラルヘキ程度ノ相當ニ嚴格ナル形式ノモノヲ指シ公務所ノ記號トハ產物商品書籍什物等ニ押用セラルヘキ程度ノ手輕ナル形式ノモノヲ指スモノニシテ印章タルカ爲ニハ少クトモ印面ニ公務所ノ表示ノ存スルコトヲ要スルモノトス（宮本學士法律評論第十二卷刑法二三四頁）ト主張セル學說等ニ徵スレハ本件日附印ノ如ク印面ニ公務所ノ表示ナキモノノ如キハ寧ロ之ヲ公務所ノ記號ト認ムルノ相當ナルヲ信スト雖モ原審判決ノ此ノ點ニ對スル法律適用ハ失當ニシテ原審判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在レトモ○郵便取扱規程第三十二條第一項ハ「郵便物ヲ引受ケタル時ハ其ノ餘白ニ引受ノ證トシテ日附印ヲ明瞭ニ捺押スヘシ」ト規定シ同第三十三條ニハ郵便ニ關スル料金納付ニ用ヒタル郵便切手類及郵便物ニ貼付シタル郵便切手ハ日附印ヲ以テ其ノ料額印面ヲ明瞭ニ消印スヘシトアリ同第三十四條ニハ前條ニ依リ引受ニ於テ郵便切手類ニ消印シタルトキハ第三十二條ニ依ル日附印ノ捺押ヲ省略スルコトヲ得トアリ又通信日附印形式ト題スル遞信省告示（明治四十二年十二月二十八日遞信省告示第一三八號）ハ日

附印ノ形式トシテ局名ト年月日時ヲ示スヘキ數字等トヲ表示スヘキコトヲ定ムルヲ以テ日附印ニ於ケル局名ハ其ノ郵便局ヲ表示シ又配列セラレタル數字等ハ年月日時ヲ表示スルモノト謂フヘク郵便局カ郵便物ヲ引受ケタルトキ日附印ヲ郵便物ニ押捺スルハ卽チ其ノ日附印ニ表示シアル郵便局カ之ニ表示スル年月日時ニ其ノ郵便物ヲ引受ケタルコトヲ證スル趣旨ニシテ之ニ依レハ該日附印ノ押捺ハ郵便物ノ引受ヲ證スル該郵便局ノ署名アル文書ト解スルヲ相當ト認ムヘキカ故ニ之ヲ以テ公務所タル郵便局ノ印章若ハ記號ヲ押捺シタルモノトス爲スヘキニアラス是レハ當院判例（明治四十三年(れ)第四六六號同年五月十三日宣告）ノ趣旨トスル所ナリ原判決ノ引用スル第一審判決ノ判示スル所ニ依レハ被告人ハ大正十四年六月五日午後四時頃實父三谷八兵衛ト當時被告人カ經營セル大北火災海上運送保險株式會社砂川代理店トノ間ニ八兵衛所有ノ判示建物ニ付既ニ火災保險契約セル旨ノ契約締結報告書其ノ他附屬書類ヲ作成シ松島松藏ヲ介シテ當時砂川郵便局事務員タリシ鳥飼すみニ對シ同局日附印ノ時刻ヲ午前ニ組替ヘテ封筒ニ押捺發送セラレタキ旨依頼シすみハ右被告人ノ依頼ニ從ヒ同日午後四時三四十分頃同局ニ於テ同日ノ日附印ノ時刻ヲ午前九時乃至十二時ニ組替ヘ同郵便局ニ於テ引受ケタル前記書類在中ノ封筒（押第四號）ニ之ヲ押捺シタルモノニシテ右押收ノ封筒ヲ檢スルニ同封筒貼付ノ參錢郵便切手ト封筒トニ跨リ圓形ノ輪廓ヲ施シ其ノ內側上方ニ石狩砂川、中央ニ14 6 5、下方ニ前9－12ト顯出セラレタルモノ押捺セラレテ存在スルヲ認ムル之レ卽チ前記通信日附印形式ヲ具備シ砂川郵便局カ大正十四年六月五日午前九時ヨリ十二時迄ノ間ニ郵便物ヲ引受ケタルコトヲ證スル日附印ニ外ナラスシテ該日附印ハ前揭郵便取扱規程第三十三條ニ從ヒ押捺セラレタルモノト謂フヘク之ニ依リ郵便切手ノ消印ノ效ヲ生スルト共ニ判示郵便物ヲ引受ケタル事實ヲ證明スルモノナルコトハ前示郵便取扱規程第三十四條ニ照シテ明ナリ然ラハ原判決カ被告人ノ判示行爲ヲ刑法第百五十五條第一項ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ

辯護人保坂政治郎赤井幸夫上告趣意書第一點原判決カ引用シタル第一審判決ハ同日（大正十四年六月五日）午後四時頃前記代理店ニ於テ同店實父八兵衛トノ間ニ其ノ所有ノ同所所在ノ住宅其ノ他建物合計十棟ニ付

同日以前既ニ保險金額三萬八千二百圓ノ火災保險契約成立セル旨ノ契約締結報告書其ノ他附屬書類ノ作成ヲ完成シ偶居合セタル松島松藏ヲ介シ電話ヲ以テ當時砂川郵便局執務中ノ同局事務員鳥飼すみニ對シ同局日附印ノ時刻ヲ午前ニ組替ヘテ封筒ニ捺押發送セラレ度旨依頼シ以テ同局郵便物發送時刻證明文書ノ僞造並其行使ヲ敎唆シすみハ右敎唆ニ基キ同日午前四時三四十分頃同局ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同日ノ日附印ノ時刻ヲ午前九時乃至十二時ニ組替ヘテ前記書類在中ノ封筒ニ之ヲ押捺シ以テ其ノ發送時刻證明文書ノ僞造ヲ完成セシメ且之ヲ前記株式會社小樽支店ニ送付行使セシメ」ト判示シアリテ原判決ハ此ノ點ニ關シ刑法第六十一條第一項第百五十五條第一項等ヲ適用處斷シタリ然レトモ郵便局ニ於テ郵便物ニ押捺スル日附印ハ一ノ印章ニシテ文書ニアラス（郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ且郵便物ノ發著日時印紙ノ消印等ヲ證明スルモノナレハ舊刑法ニ在ツテハ官署ノ印章ニ該當ス（大審院判決錄四十二年第八四八頁（參照）最モ御院判例中（一）「郵便局ニ備付ケ受付時刻記入用ノ日附印ヲ不正ニ使用シ其ノ影跡ノ空間ニ年月日ノ數字ヲ記入シタル行爲ハ郵便局ノ署名ヲ僞造シ其ノ受付時刻證明書ヲ僞造シタルモノトス」（同上明治四十三年第八六〇頁）（二）郵便局長カ行使ノ目的ヲ以テ其ノ職務上記入スヘキ振替貯金監査表等ニ故意ニ受入當日ヨリ後レテ拂込金額拂込者及加入者等ヲ記入シ之ニ記入當日ノ日附印ヲ押捺シ文書トシテ此ノ日附ニ於テ拂込ヲ受入レタル旨ノ虛僞ノ事實ヲ證明スルニ至ラシメタル行爲ハ刑法第百五十六條ノ文書僞造罪ニ該當スルモノトス」（大正六年大審院判決錄第九四一頁）等ト說示セラレタルモノアリ雖右（一）ハ郵便法第四十一條ノ一、二ニ基キテ使用セラルル印章ニシテ又右（二）ハ虛僞文書ヲ作成シ之ニ日附印ヲ押捺シタル場合ニ係ルモノニシテ本件ノ日附印トハ全ク其ノ場合ヲ異ニスル本件ノ場合ハ郵便取扱規程第三十三條（郵便ニ關スル料金納付ニ用ヰタル郵便切手類及郵便物ニ貼付シタル郵便切手ハ日附印ヲ以テ其ノ料額印面ヲ明瞭ニ消印スヘシ）ニ基キ押捺セラレタルモノニシテ右消印ハ他ノ郵便ニ關スル諸規定（例ヘハ右郵便取扱規程ノ他ノ各條項）ト相俟テ郵便物差出ノ時刻ヲ證明スルノ用ヲ爲スヘシト雖直接ニ右郵便物發送時刻證明文書タルモノニアラサルナリ果シテ然ラハ原判決ハ不當ニ法則ヲ

適用シタル違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信ス（御院判決大正八年(れ)第一三七七號判決理由案スルニ明治三十三年九月七日遞信省公達第四三二號郵便物取扱規定第二百八十四條第一項ニハ書留通常郵便物配達ノ證トシテ特別通常郵便物配達帳及配達證ニ定式ノ記入ヲ爲シ配達證ハ之ヲ其ノ郵便物ト共ニ集配人ニ引渡シ受取人ヲシテ之ニ捺印セシムヘシ若シ代人之ヲ受取ルトキハ其ノ代人ヲシテ代人タルコトヲ肩書シ記名捺印セシムヘシト規定シ其ノ他第二項以下ニ受取リクルモノニシテ氏名ヲ記載シ捺印セシムル場合ニ付規定スル所アルヲ以テ之ニ依レハ同條第一項前段ノ場合ノ如ク單ニ受取人ヲシテ捺印セシムルトキハ其受取人ハ自ラ住所氏名ヲ記入スルモノニアラス又郵便官署ニ於テ受取人ニ代リ之ヲ記入スルモノニアラス郵便物取扱規程附屬様式第三十二號ニ示スカ如ク配達證書ノ受取人住所氏名ノ欄ニ之カ記入スルハ前記條項ニ所謂定式ノ記入ヲ爲スモノニ該當シ其ノ下部ノ受取人證印欄ニ受取人カ捺印スル單純ナル捺印ニ外ナラス此ノ捺印ヲ爲ス紙面自體ハ原來配達證書ニシテ配達證書ノ一部分タル受取人證印欄ニ受取人カ捺印ヲ爲ストモ其ノ行爲ハ受取人名義ノ受取證ヲ作成シタルモノト云フヘカラス云々參照）ト云フニ在レトモ○其ノ理由ナキコトハ秋山辯護人外一名ノ上告論旨第一點ニ付爲シタル說明ノ趣旨ニ依リ了解スヘシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○遞信省徽章通信日附印及郵便切手類模造取締規則違反被告事件

（大審院大正十五年(れ)第一三九三號同年十月十三日第三刑事部判決棄却）

【上告人】被告人

【第一審】吳區裁判所【第二審】廣島地方裁判所

○判決要旨

一遞信省徽章遞信日附印及郵便切手類模造取締規則第二條ニ所謂郵便官署ニ於テ使用スル遞信日附印ニ紛ハシキ印影トハ該官署ニ於テ使用スル遞信日附印ト外觀上混同誤認セラルル虞アル印影ヲ指スモノトス

【參照】明治四十二年遞信省令第六十五號遞信省徽章通信日附印及郵便切手類模造取締規則第二條　郵便、電信及電話官署ニ於テ使用スル通信日附印ニ紛ハシキ印影ヲ有スルモノハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

同規則第四條第二項　第二條及第三條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

明治四十二年十二月二十九日遞信省告示第千三百八十六號　郵便、電信、電話官署ニ於テ通信事務ニ使用スル日附印ハ通信日附印ト稱シ特ニ紀念ノ爲ニ使用スルモノ及試驗ノ爲ニ使用スルモノノ外其ノ形式ハ通信日附印ノ形式ハ別ニ定メ隨時之ヲ告示ス

寸法（以下之ニ同シ）

直徑曲尺八分トス

通信日附印ニ紛シキ印影ノコト